

平成31年度入学生

授業計画書

- SYLLABUS -

【地域文化学科】



島根県立大学
松江キャンパス



目 次

学修の心得	1
人間文化学部地域文化学科での履修に際して	9
開講科目一覧 地域文化学科	13
カリキュラム・マップ	16

学部共通基礎科目

哲学	19
心理学	19
音楽	20
文学	20
読書と豊かな人間性	21
市民社会と図書館	22
社会学	22
現代経済学	23
生涯学習概論	23
日本国憲法	24
人間と自然	24
脳科学と心	25
生物と栄養	25
環境の科学	26
しまね地域共生学入門	27
しまね文化論	28
しまねボランティア研修	29
健康スポーツ概論	29
健康スポーツⅠ	30
健康スポーツⅡ	30
健康スポーツⅢ	31
基礎中国語	31
中国語	32
基礎韓国語	32
韓国語	33
基礎タイ語	33
タイ語	34
基礎インドネシア語	34
インドネシア語	35

学科基礎科目

スタートアップセミナーⅠ	37
スタートアップセミナーⅡ	37
キャリアデザインⅠ	38
キャリアデザインⅡ	38
キャリアデザインⅢ	39
インターンシップ	39
総合英語Ⅰ (多読)	40
総合英語Ⅱ (リスニング)	40
総合英語Ⅲ (リーディング)	41
総合英語Ⅳ (英会話)	43

実践英語Ⅰ (TOEIC 対策)	44
実践英語Ⅱ (TOEIC 対策)	44
実践英語Ⅲ (観光英検英語)	45
コンピュータ・リテラシーⅠ	45
コンピュータ・リテラシーⅡ	46
情報サービス論	46
情報サービス演習	47
情報検索	47
情報技術論	48
情報メディアの活用	48

専門基幹科目

地域文化入門	51
地域文化論Ⅰ (小泉八雲)	51
地域文化論Ⅱ (出雲)	52
地域文化論Ⅲ (山陰)	52
地域文化論Ⅳ (地域資源)	53
しまね文学探訪	54
しまね歴史探訪	54
しまね民俗探訪	55
しまねのまちづくり	55
しまね図書館学	56
読み聞かせの実践	56
Kid's English 入門	57
Kid's English	57
観光と文化	58
観光と地域資源	58
まちづくりと協働	59
観光まちづくり論	60
観光まちづくり演習	60
人と地域の調査法	61
観光フィールドトリップ	61
地域文化プロジェクトⅠ	62
地域文化プロジェクトⅡ	62

専門科目

日本文化概論	65
日本文化論Ⅰ (居住文化)	66
日本文化論Ⅱ (祭礼文化)	67
日本文化論Ⅲ (妖怪文化)	67
日本文化論Ⅳ (表象文化)	68
日本の歴史Ⅰ (文化史)	68
日本の歴史Ⅱ (観光史)	69
日本の歴史Ⅲ (近世)	69
日本の歴史Ⅳ (現代史)	70
古文書を読む	70
日本文化演習Ⅰ (茶道)	71
日本文化演習Ⅱ (華道)	71
書道Ⅰ (基礎)	72
書道Ⅱ (発展)	72

日本文化特殊講義	73
日本語学概論Ⅰ	73
日本語学概論Ⅱ	74
日本語文法論	74
日本語史	75
地域とことば	75
対照文法	76
日本語学演習Ⅰ	76
日本語学演習Ⅱ	77
日本語学特殊講義	77
日本文学史Ⅰ(古典)	78
日本文学史Ⅱ(近代)	78
古典文学Ⅰ(神話と伝説)	79
古典文学Ⅱ(歌謡と和歌)	79
古典文学Ⅲ(物語と説話)	80
近代文学Ⅰ(郷土文学)	81
近代文学Ⅱ(小説)	81
近代文学Ⅲ(評論)	82
近代文学Ⅳ(絵本と童話)	82
近代文学Ⅴ(詩の鑑賞と創作)	83
古典文学演習Ⅰ	83
古典文学演習Ⅱ	84
近代文学演習Ⅰ	84
近代文学演習Ⅱ	85
日本文学特殊講義	85
文化人類学	86
ジェンダーと文化	86
多文化共生論	87
アメリカ文化論	87
イギリス文化論	88
異文化コミュニケーション論	89
ヨーロッパ文化論Ⅰ(フランス)	89
ヨーロッパ文化論Ⅱ(ドイツ)	90
アジア文化論Ⅰ(東南アジア)	90
アジア文化論Ⅱ(東アジア)	91
アジアの歴史(東南アジア)	91
アジア文化研修計画	92
アジア文化研修	92
国際文化特殊講義	93
英語学概論Ⅰ	93
英語学概論Ⅱ	94
英語学演習Ⅰ	94
英語学演習Ⅱ	95
英語音声学	95
英文法Ⅰ	96
英文法Ⅱ	96
英語学特殊講義	97
英語コミュニケーション実践演習Ⅰ(中級)	97
英語コミュニケーション実践演習Ⅱ(上級)	98
パラグラフ・ライティング	99
エッセイ・ライティング	100
英語プレゼンテーション演習Ⅰ(基礎)	101

英語プレゼンテーション演習Ⅱ（発展）	101
メディア英語Ⅰ（基礎）	102
メディア英語Ⅱ（発展）	102
メディア英語リスニング	103
アメリカ語学研修計画	103
アメリカ語学研修	104
イギリス文学史	104
アメリカ文学史	105
イギリスの文学と文化Ⅰ	105
イギリスの文学と文化Ⅱ	106
アメリカの文学と文化Ⅰ	106
アメリカの文学と文化Ⅱ	107
中国古典Ⅰ（基礎）	107
中国古典Ⅱ（発展）	108
英米文学特殊講義	109

資格・免許科目

国語科教育法Ⅰ	111
国語科教育法Ⅱ	112
国語科教育法Ⅲ	113
国語科教育法Ⅳ	114
英語科教育法Ⅰ	114
英語科教育法Ⅱ	115
英語科教育法Ⅲ	115
英語科教育法Ⅳ	116
現代教職論	116
教育原理	117
教育心理学	118
教育経営論	118
教育課程論	119
特別支援教育論	119
道徳の理論と指導法	120
特別活動及び総合的な学習の時間の指導法	120
教育方法学	121
生徒・進路指導の理論と方法	122
教育相談	122
教育実習事前事後指導	123
教育実習Ⅰ	124
教育実習Ⅱ	124
教職実践演習（中・高）	125
図書館サービス概論	125
図書館制度・経営論	126
情報サービス特論	126
図書館実習	127
情報資源概論	127
情報資源組織論	128
情報資源組織演習Ⅰ	128
情報資源組織演習Ⅱ	129
学校図書館論	129
学校図書館メディアの構成	130
学修指導と学校図書館	130

学修の心得

1. 大学での学修

大学に入学して最初にすべきこと。それは、入学から卒業までの大学生活全体を見通して、学びのイメージを自分なりに描いてみることです。

大学での学修は、高校までの学習スタイルとは大きく異なります。高校までの時間割は各学年、各クラスで定められていますが、大学では学生一人一人が自分の時間割を作成します。科目数も、高校までと比べて格段に多くなります。学びの関心や取得する資格、卒業後の進路などに基づいて科目を選択し、学期（春学期・秋学期）ごとに週間の時間割を作成し、それに従って大学生活を送ります。つまり、大学では、これまで以上にみずから主体的に学ぶ姿勢が必要となるのです。

各学部・学科においては、それぞれの学びの目的に従ってカリキュラム（教育課程）が編成されています。卒業や資格取得に必要な科目と履修単位数など、履修の仕方にも一定のルールがありますので、そのことをよく理解して計画を立ててください。

松江キャンパスにおける学修の大まかな流れは、学期ごとに以下の1～5のとおりとなります。以下、この順に従って、学修の流れについてポイントを説明します。

1 学修計画 → 2 履修登録 → 3 受講 → 4 期末試験 → 5 成績評価
--

2. 学修計画

(1) ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）とカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）

各学部・学科は、大学での学修の到達目標として、ディプロマ・ポリシー（学位授与方針）を定めています。その目標に向けて学修の道筋を示したものがカリキュラム・ポリシー（教育課程の編成方針）です。この2つのポリシーは学修計画の基本となるものですので、よく確認しておいてください。さらに、カリキュラム・ポリシーに基づいた授業科目の編成をわかりやすく示した「カリキュラムマップ」もありますので、参考にしてください。

※ディプロマ・ポリシー、カリキュラム・ポリシー、カリキュラムマップは授業計画書を参照してください。

(2) 学期と授業

1年間を春学期・秋学期の2つの学期に分けています。

授業の実施方法は、時間割により毎週開講される「通常授業」と、時間割によらず、休業期間などを利用して特定の期間に集中して開講される「集中講義」や各種「学外実習」に区分されます。

春 学 期	秋 学 期
4月1日 ～ 9月30日	10月1日 ～ 3月31日

(3) 授業時間

授業は、通常 1 時限 90 分を基準として行います。本学の基本的な授業時間は次のとおりですが、授業科目によっては集中講義や演習、実習などで授業時間が変動する場合があります。

時限	1 時限	2 時限	3 時限	4 時限	5 時限
時間	9:00～10:30	10:40～12:10	13:10～14:40	14:50～16:20	16:30～18:00

(4) 単位制

単位制とは、授業科目を履修することで定められた単位数を取得し、卒業、あるいは免許・資格の取得ができる制度のことです。

通常の講義形式の授業（90 分×15 回）を履修することによって、1 科目あたり 2 単位取得できます。

ただし、講義や演習、実技などの授業の形式や授業の時間数によって、取得できる単位数は科目ごとに異なりますので、授業計画書でよく確認してください。

また、単位制の考え方の前提には、授業以外の自主学習（予習・復習）を確実に行うことが求められています。

【単位数と学修時間について】

単位数は、1 単位の授業科目を 45 時間の学修を必要とする内容で構成することを原則とし、科目ごとに定められています。

本学では 1 コマ（1 回）90 分の授業を 2 時間の授業とみなしており、多くの科目において 15 コマ（15 回）30 時間の授業をしています（科目によっては 7.5 コマ 15 時間等もあります）。

1 単位の授業科目においては 45 時間の学修が必要ですから、すなわち 15 時間の授業外での自主学習（予習や復習等）が必要となります（2 単位の科目であれば、30 時間（1 回の授業につき 2 時間）の自主学習が必要ということになります）。

単位が認められるには授業時間だけでなく、自主学習を行う時間が前提としてあることに留意してください。

（参考）卒業に必要な単位数

学 部	学 科	卒業に必要な単位数
人間文化学部	保育教育学科	1 2 4 単位以上
	地域文化学科	1 2 4 単位以上
短期大学部	保育学科	6 2 単位以上
	総合文化学科	6 2 単位以上

(5) 授業科目の区分

本学の授業科目には、必修科目と選択科目があります。

①必修科目：必ず履修しなければならない科目であって、履修して単位を修得しないと卒業できません。

②選択科目：自主的に適宜選択して履修する科目です。

*免許や資格取得のためのカリキュラムも用意していますが、これらの免許・資格取得や受験資格取得のためには、各種免許・資格ごとに履修しなければならない必修科目と選択科目がありますので、必ず、各自で確認してください。

(※各学部・学科の履修規程別表を参照してください。)

3. 履修登録

(1) 授業科目の履修登録・変更

授業科目を履修するにあたっては、「履修登録」が必要です。履修登録・変更の時期は、各学期始めの「履修登録期間」に行います。各学年始めには学科別履修ガイダンスで説明を受けますが、履修登録・詳細については、「情報ネットワークシステム利用の手引き」等を確認してください。不明な点は、担任または教務学生課に相談してください。

履修登録は、学生の自己責任で行うものです。入力ミスや履修登録漏れ等があった場合は、その学期での履修ができず、単位の修得も認められません。入力の際に十分確認を行ってください。

(2) 履修登録上の留意事項

① 必修科目は、翌年度以降、他の必修科目と開講時限が重なり履修できない場合がありますので、指定された年次に、必ず履修しましょう。

② 次の授業科目は履修することができません。

- ・既に単位を修得した授業科目
- ・授業時間が重複する授業科目（集中講義、実習などは除きます）

(3) 履修登録の変更

登録した科目を受講した際、「自分の受講目的と合致しない」などの理由により履修登録を変更したい場合は、履修登録変更期間内に教務学生課に「履修登録変更依頼書」を提出してください。未提出のまま履修を取りやめた場合（放棄）は、「不可」評価となり、不合格となります。

履修変更期間は学期開始後の3週目を目安とし、具体的な期日は教務日程に記載します。

(※人間文化学部履修規程第2条、短期大学部履修規程第3条を確認してください)

(4) 再履修

当該年次で単位の修得ができなかった場合は、翌年次以降、再度、当該科目を履修することができます。なお、必修科目は、卒業要件となりますので、必ず、再履修の登録を行ってください。

4. 受講

(1) 時間割

時間割は、春学期、秋学期の始めに教務学生課から開示します。教室等も表示されていますので確認してください。また変更がある場合がありますので、学生情報システム等で最新版を確認してください。

(2) 出席

履修登録をしている授業には出席しなければなりません。原則として、その授業科目の授業実施時間数の3分の2以上の出席を満たしていなければ試験を受けることができず、単位を修得することもできません。

(3) 欠席

やむを得ず病気等の理由により1週間以上欠席する場合は欠席届を提出してください。次のいずれかに該当する欠席は、願い出によって公欠として扱うことができます。

- ① 法令の規定による出席停止
- ② 本学が定める限度日数の範囲内の忌引
- ③ 風水震火災その他の非常火災及び交通機関の事故等の不可抗力による欠席
- ④ その他学長が認める欠席

(※詳しくは、学生通則第15条を確認してください)

なお、次の①～⑥のいずれかに該当する欠席は公欠とはなりませんが、届け出によって教員による措置が講じられます。

- ① 教職課程の履修登録を行っている学生が教育実習を行う場合（人間文化学部のみ）
- ② 海外渡航を伴う授業の受講者が査証手続きを行う場合
- ③ 学則の規定に基づき留学を許可した学生が査証手続きを行う場合
- ④ 就職活動を行う場合
- ⑤ 進学のために受験する場合
- ⑥ 上記に掲げるもののほか、担当教員が必要と認めた場合

(※詳しくは、授業運営細則第4条を確認してください)

(4) 休講

授業担当教員がやむを得ない理由により授業を休講する場合があります。その場合は担当教員からの連絡または学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認をしてください。

なお、授業開始時間10分を過ぎても授業が開始されない場合は教務学生課まで連絡してください。

また、非常変災（異常気象）その他急迫の事情があるときは授業を休講することがあります。

(5) 補講

休講等の理由で、授業時間が不足する場合に補講が行われます。その場合は学生情報システム等に掲示しますので、各自で確認してください。

(6) 集中講義

授業科目によっては、短期的に集中して授業を行う場合があります。土・日、あるいは休業期間を利用して開講するケースが多いので、スケジュール確認をしっかりとってください。

5. 成績評価及び単位認定

登録した授業科目を履修し、試験その他の審査に合格した学生には、所定の単位が与えられます。

(1) 試験等の受験資格

- ① 履修登録を行っていること。
- ② 当該授業科目の授業時間数の3分の2以上出席していること。

(2) 試験等の時期

試験等は、学期末に期間を定めて行うことを基本としますが、授業科目によっては随時行う場合もあります。

(※教務日程を確認してください)

(3) 試験等の方法

試験等は、筆記、実技その他の方法により行われます。また、レポート提出や作品提出などによる方法もありますので、担当教員の指示に従ってください。

(4) 試験等の種類と手続き

① 定期試験

原則として各学期末の指定期間に行います。

なお、病気その他やむを得ない理由で受験できないときは、事前に教務学生課に連絡してください。

② 追試験

病気その他やむを得ない理由で定期試験を受験できず、追試験を希望する者は「追試験願」に診断書など欠席理由を証明する書面を添えて、教務学生課に提出しなければなりません。提出された願に対し、大学が追試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。試験方法などは授業の担当教員の指示に従ってください。

③ 再試験

試験等の結果が不合格となったときは、再試験は行いません。ただし、やむを得ず再試験を実施する場合があります。再試験を受けようとする者は、「再試験願」を教務学生課に提出しな

ければなりません。提出された願に対し、大学が再試験を実施するか否かを決定し結果を通知します。

(5) 不正行為

試験の代理受験や試験実施中のカンニング、監督者の注意等に従わない等の不正行為が認められた場合、受験を継続することができず、次の措置がとられます。

- ・当該学期の授業科目の履修が全て無効になります。
- ・学則（人間文化学部 49 条、短期大学部 44 条）の規定に基づき懲戒の対象となります。

また、論文、レポートにおける剽窃行為（他人の作品や論文の成果を、自分のものとして発表すること）についても不正行為となり、同様の措置がとられます。

（※試験を受験する際の注意点については p 11 を確認してください。）

(6) 成績評価及び単位認定

授業科目ごとに、学修の成果を「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」に区分して評価し、「秀」、「優」、「良」、および「可」を合格として所定の単位を認定します。

「秀」、「優」、「良」、「可」および「不可」の評価基準は、100 点満点とする点数で、次のとおりとします。

- ①「秀」 90 点以上
- ②「優」 80 点以上 90 点未満
- ③「良」 70 点以上 80 点未満
- ④「可」 60 点以上 70 点未満
- ⑤「不可」 60 点未満

GPA (Grade Point Average) について

学生の学修意欲を高めるとともに、適切な修学指導に資することを目的とし GPA によるスコアを算出します。GPA は下記に利用します。

- ・成績通知書
- ・編入する大学へ開示する成績情報
- ・成績優秀者奨学金の選定指標
- ・保育教育学科の免許状・資格の追加履修可否基準
- ・地域文化学科の免許状・資格の履修可否基準
- ・その他各種推薦に関する資料として

成績評価	秀	優	良	可	不可
判定基準	90 点以上	80 点以上 90 点未満	70 点以上 80 点未満	60 点以上 70 点未満	60 点未満
G P	4 . 0	3 . 0	2 . 0	1 . 0	0 . 0

(1) 学期GPAの計算式

$$\frac{\text{当該学期の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{当該学期の総履修登録単位数}}$$

(2) 累積GPAの計算式

$$\frac{\text{全期間の「秀」の単位数} \times 4 + \text{「優」の単位数} \times 3 + \text{「良」の単位数} \times 2 + \text{「可」の単位数} \times 1}{\text{全期間の総履修登録単位数}}$$

なお、GPAの対象となる科目については以下のような留意事項があります。

- ・「履修登録の取消」により取り消された科目はGPAの対象外となります。
- ・放棄された科目は、GPAに算定に含めるものとし、当該科目の成績は「不可」とみなします。
- ・累積GPAの算定に当たり再履修科目が含まれている場合は、当初の履修登録による修得単位数及び取得GPを算定から除外します。

この他、認定科目についても対象外となります。

不明な点がある場合は、教務学生課まで確認してください。

●詳しい内容は下記の諸規程で確認してください。

【島根県立大学人間文化学部】

- ・島根県立大学学則
- ・島根県立大学人間文化学部学生通則
- ・島根県立大学人間文化学部履修規程
- ・島根県立大学人間文化学部他の大学等における履修等に関する規程
- ・島根県立大学人間文化学部入学前既修得単位数の認定に関する規程
- ・島根県立大学学位規程

※その他、各種資格取得に関する諸規程

【島根県立大学短期大学部】

- ・島根県立大学短期大学部学則
- ・島根県立大学短期大学部学生通則
- ・島根県立大学短期大学部履修規程
- ・島根県立大学短期大学部学修・修得単位等の単位認定に関する規程
- ・島根県立大学短期大学部学位規程

定期試験受験に際しての注意事項

以下の注意事項をよく読んで試験を受験しましょう。

1. 学生証を机の上に提示すること。
※忘れた場合は教務学生課で仮学生証の発行を申し出ること。
2. 筆記用具、学生証及び教員が認めたもの以外は机の上に置かないこと。
3. 机の中には物を入れないこと。
4. 携帯電話、時計のアラーム等の音を発するものは、スイッチを切って鞆の中に入れること。
5. 授業開始時間に遅れないこと。遅刻した場合の入室については、監督者の指示に従うこと。遅刻時間によっては、受験できない場合もあるので注意すること。
6. 不正行為があったと判断された場合は、その時点で当該科目の受験資格を失い、当該学期の授業科目の履修がすべて無効となるほか、学則の規定に基づいて懲戒されるので不正行為は絶対行わないこと。
7. 試験途中の退室は、監督者の指示に従うこと。
8. 追試験の取り扱いについては次のとおりとする。

次の理由により、定期試験を受けることができなかった場合には、欠席の理由を明らかにした証明書等を添付の上、試験終了後1週間以内に「追試験願」を教務学生課に提出してください。学長の許可を得て、指定された日に追試験を受けることができます。

1. 疾病（⇒医師の診断書が必要）
2. 交通機関の突発事故その他の自然災害（⇒遅延証明書や事故証明書等が必要）
3. 忌引（⇒会葬礼状の写し等が必要）
4. 就職活動、進学のための受験（ただし、就職活動については以下に該当する場合のみ）

- ① 企業等の指定する日時に選考試験（面接を含む）を受ける場合
 - ② 企業等の指定する日時に当該企業等を訪問又は当該企業が開催する説明会に参加する場合
 - ③ 内定企業から呼び出しを受けた場合は、①②に準じて取り扱うものとする
- ※学期末試験と重複しない日時を選択できる余地がある場合は、選考試験や説明会等の日時調整をすること。調整可能であるにも関わらず、選考や説明会等に参加して試験を欠席した場合は、追試験を認めない。

5. その他学長が特に認める欠席

※追試験受験が必要となることが判明した時点で、教務学生課までメールや電話等で事前に連絡をすること。

人間文化学部地域文化学科の履修ガイド

1. 人間文化学部の目的

人間文化学部は、人間形成及び人間によって歴史的に創出・形成されてきた文化について探究し、地域社会と連携した実践的で学術的な教育研究を推進します。

地域における文化の発見と継承、再生に取り組み、地域で活躍できる実践力を兼ね備えた人材を育成することを通して、関連する学術分野の進展と地域社会の発展に寄与することを目的とします。

2. 地域文化学科の教育研究上の目的

地域文化学科は、島根の文化をはじめ、日本及び海外の諸文化について、歴史や語学、文学などの様々な観点から教育研究を推進します。

地域の文化を基盤としてグローバルな視点で文化の諸相を捉えることのできる広い視野と寛容の精神を備え、人々と協働しながら文化の活性化に取り組む態度を身に付けた人材を育成することを通して、地域文化の継承と発展に寄与することを教育研究上の目的とします。

3. 地域文化学科の学位授与方針 (Diploma Policy)

地域文化学科では、学生のみなさんが卒業する時に以下のような力を身に付けていることを目標として、4年間の学びを組み立てています。

[知識・技能]

- 地域や時代の異なる様々な文化に関する専門的な知識を身に付けている。
- 国際化に対応した語学力を身に付けている。
- 地域において実践活動を行う方法・技能を身に付けている。

[思考力・判断力・表現力]

- 人間の生き方や文化について主体的に考えを深め、課題を見出すことができる。
- 情報を取捨選択しながら論理的に課題に取り組むことができる。
- 言語を通して正確に意思の疎通を図ることができる。

[関心・意欲・態度]

- 異なる文化、異なる地域で暮らす人々に対する寛容の精神と態度を身に付けている。
- 地域の暮らしと文化に誇りを持ち、地域の文化を支えていく意欲がある。
- 地域社会において人々と協調・協働しながら課題に取り組む態度を身に付けている。

4. 地域文化学科の教育課程編成方針 (Curriculum Policy)

(1) 「日本文化コース」「国際文化コース」の設定

地域文化学科では、地域文化、日本文化、国際文化をバランスよく体系的に学ぶことを重視しています。

1年次は、地域文化の基礎を学びながら自分の適性や関心を見定めます。

2年次に進む段階で、自分の適性や関心に応じて、日本文化（日本の文化・歴史、日本語、日本文学）を主として学ぶ「日本文化コース」、国際文化（世界の文化・歴史、英語、英米文学）を主として学ぶ「国際文化コース」のどちらかのコースを選択します。

2年次以降は、選択したコースの専門科目を主として履修しますが、それと同時に、他方のコースの専門科目についてもある程度は学ぶことを忘れないでください。具体的には、
[地域文化] から 25 単位以上、自らが選択した主として学ぶコースから 42 単位以上、もう一方のコースから 18 単位以上を取得します。

(2) 教育課程の編成

地域文化学科では、4年間の体系的な教育課程を編成するため、科目の大きな区分として①学部共通基礎科目、②学科基礎科目、③専門基幹科目、④専門科目の4つの科目区分を設けています。

①学部共通基礎科目

学部共通基礎科目には、[教養科目][しまねの文化][体育][外国語]の科目群を設けています。

[教養科目]では、人間が創り出した文化に関する人文科学領域、人間が創り出した社会の基本的な仕組みに関する社会科学領域、自然の事物・事象について科学的に理解する自然科学領域について、幅広く学ぶことにより、大学教育の基礎となる知識を修得します。

[しまねの文化]では、島根をフィールドに、地域が抱える課題や特色ある地域文化・地域資源について基礎的な知識を修得するとともに、地域での活動を通して誇りを持って未来に継承していく意義を理解します。

[体育]では、体を鍛え、人の身体の発達の仕組みを理解するとともに健康問題について学修します。

[外国語]では、英語に次ぐ第2外国語としてアジア地域の言語を修得します。東アジアの「中国語」「韓国語」、東南アジアの「タイ語」「インドネシア語」から選択して学びます。

②学科基礎科目

学科基礎科目には、[ライフデザイン][言語リテラシー][情報リテラシー]の科目群を設けています。

[ライフデザイン]では、学生から社会人への円滑な移行を目指し、社会人として必要な知識・技能・態度を学ぶとともに、自己と職業への理解を深めます。

[言語リテラシー]では、地域文化学科における異文化理解の基礎となる英語力を高めます。

[情報リテラシー]では、基本的なコンピュータの知識と技能、情報技術を安全に利用するための知識を身に付けます。

③専門基幹科目

専門基幹科目は、[地域文化]及び[卒業研究]の科目区分で構成し、そのうち[地域文化]には、[入門][文化の発見][文化の体験][文化の活用]の科目群を置きます。

[入門]では、地域文化学科の学びの意義について理解し、4年間の指針を立てます。

[文化の発見]では、地域文化に対する理解を深め、文化の魅力を発見する力を養います。

[文化の体験]では、島根県内の文化を五感で感じ、体験的に理解を深めます。

[文化の活用]では、地域文化の活用について、観光まちづくりを手掛かりに学び、実践的な思考力・行動力を養います。

[卒業研究]では、指導教員の専門分野をベースとした演習(ゼミ)「地域文化プロジェクトⅠ」(3年次)、「地域文化プロジェクトⅡ」(4年次)を各々通年必修科目として学びます。

「地域文化プロジェクトⅠ」では、ゼミごとに地域文化に関わる共通テーマを設定し、学内演習(文献講読、プレゼンテーション、ディスカッション)、フィールドワークを通して、卒業研究に必要な知識と調査方法を修得し、地域文化に主体的に関わる姿勢を身に付けます。

「地域文化プロジェクトⅡ」では、大学4年間の学びの集大成として、これまで学修した知見、「地域文化プロジェクトⅠ」において学修した専門分野の理論、研究アプローチ方法を用いて、地域文化に関わる卒業研究に取り組みます。

④専門科目

専門科目は、[日本文化]及び[国際文化]の科目区分で構成し、[日本文化]には、[日本の文化と歴史][日本語][日本の文学]の科目群を置き、[国際文化]には、[異文化の理解][英語とコミュニケーション][海外の文学]の科目群を置きます。

[日本の文化と歴史]では、自文化である日本の文化を見つめ直し、日本の歴史について専門的に学修することで、現代の日本と日本文化を相対化して考える能力を養います。

[日本語]では、日本語を様々な観点から学び、母語である日本語に対する理解を深めます。

[日本の文学]では、古代から現在に至る日本の文学及びそこに描かれた日本人の多様な生き方に対する理解を深めます。

[異文化の理解]では、欧米(アメリカ、イギリス、フランス、ドイツ)とアジア(東南アジア、東アジア)の社会、文化、歴史に関する基礎知識を身に付け、多面的に考える能力を養います。

[英語とコミュニケーション]では、英語の仕組みや規則を理解するための英語学の科目と、英語の4技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）を高度化するための実践的な英語科目を配置し、英語の運用能力を高めます。

[海外の文学]では、イギリス、アメリカ、中国の文学を通じて、多様な生き方の理解につなげます。

5. 資格・免許

地域文化学科では、専門科目に付随して、資格・免許科目を設けています。

希望する学生は、中学校教諭一種免許（国語・英語）及び高等学校教諭一種免許（国語・英語）、司書・司書教諭資格を取得することができます。

国語の免許取得を目指す学生は2年次より日本文化コースに進み、英語の免許取得を目指す学生は同じく2年次より国際文化コースに進むことがルールとして定められています。

したがって、国語と英語の免許を同時に取得することはできません。

司書・司書教諭資格は、日本文化コース・国際文化コースのいずれに進んでも取得は可能です。ただし、国語・英語の免許と司書資格を同時に取得することは、履修過多になりますので、原則として認めていません。一方、国語・英語の免許と司書教諭資格の両方を取得することは、教員になるうえでとても役に立ちますので、ぜひチャレンジしてください。

6. 卒業要件

地域文化学科の学生は、4年間で次の表に掲げる単位数を修得してください。

分 野	卒業要件単位数		
	必修	選択	計
学部共通基礎科目	4単位	15単位	19単位
学科基礎科目	6単位	4単位	10単位
専門基幹科目	11単位	14単位	25単位
専門科目	4単位	56単位	60単位
自由選択科目単位 (上記科目群の中から選択)	—	10単位	10単位
合 計	25単位	99単位	124単位

地域文化学科 学びの概念図

1年次

2年次

3年次

4年次

基礎科目

学部共通基礎科目

教養科目
体育
外国語
しまねの文化

【基礎教養・地域への愛着】

学科基礎科目

ライフデザイン
言語リテラシー
情報リテラシー

【人間力・基礎技能】

専門科目

基幹科目

文化の
発見

【学びの基礎】

文化の
体験

【体験的な学び】

文化の
活用

【実践的な学び】

【文化の専門的学び】

日本文化

日本の文化と歴史
日本語
日本の文学

【日本および海外諸 地域の文化の理解】

国際文化

異文化の理解
英語とコミュニケーション
海外の文学

地域文化プロジェクトⅠ
【地域文化に主体的に関わる姿勢】

地域文化プロジェクトⅡ
【学びの集大成】

ディプロマポリシー

知識・技能

- 地域や時代の異なる様々な文化に関する専門的な知識を身に付けている。
- 国際化に対応した語学力を身に付けている。
- 地域において実践活動を行う方法・技能を身に付けている。

思考力・判断力・表現力

- 人間の生き方や文化について主体的に考えを深め、課題を見出すことができる。
- 情報を取捨選択しながら論理的に課題に取り組むことができる。
- 言語を通して正確に意思の疎通を図ることができる。

関心・意欲・態度

- 異なる文化、異なる地域で暮らす人々に対する寛容の精神と態度を身に付けている。
- 地域の暮らしと文化に誇りを持ち、地域の文化を支えていく意欲がある。
- 地域社会において人々と協調・協働しながら課題に取り組む態度を身に付けている。

免許・資格

- ・ 中学校 高等学校教諭 一種免許（国語）
- ・ 中学校 高等学校教諭 一種免許（英語）
- ・ 司書 ・ 司書教諭

【地域文化学科】 学部共通基礎科目

授業科目	哲学						
担当教員	倉田隆						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 人間と世界との関わり方という問題を、「私が世界について知る」とはどういうことか、そもそも世界について知ることは可能なのか、という問題として探究することによって、哲学的に思索する姿勢を養う。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 「知るとはどういうことか」という問題を検討することにより、当たり前だと思っていることに疑問の眼差しを向けるという哲学の原点にある姿勢を養うことを目標とする。講義では、この「知る」ということの本質について、日常的な出来事を例に取り上げながらできるだけ平明に解説し、ある知識が「正しい」と言えるための基準を検討する。知識に関する哲学史上の理論もいくつか簡単に紹介しながら、なるべく身近な具体例に関連させて「知る」ということの意味を学生一人ひとりに考えさせる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 「知る」という極めて日常的な営みを、哲学的な問題として論理的に分析することができる。 2. 身近な事柄を哲学的に論じることの意味を理解できる。 3. 当然のことと見なされてきた事柄に、疑問の目を向ける姿勢を身につける。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 知識とは何か 1 : 知識と世界 第3回 知識とは何か 2 : 像と記憶 第4回 知識とは何か 3 : 信念(1) 第5回 知識とは何か 4 : 信念(2) 第6回 知識の2つのあり方 1 : 知識の標準的な定義 第7回 知識の2つの在り方 2 : ア・プリオリとア・ポステリオリ(1) 第8回 知識の2つの在り方 3 : ア・プリオリとア・ポステリオリ(2) 第9回 ア・プリオリな知識の「正しさ」 1 : プラトニズム 第10回 ア・プリオリな知識の「正しさ」 2 : 心理主義 第11回 ア・プリオリな知識の「正しさ」 3 : 規約主義 第12回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」 1 : 素朴实在論 第13回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」 2 : 表象主義的实在論 第14回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」 3 : 観念論 第15回 ア・ポステリオリな知識の「正しさ」 4 : 科学的实在論</p>
テキスト	テキストは使用しない。
参考文献	『現代哲学』 門脇俊介(著) 産業図書 『哲学の謎』 野矢茂樹(著) 講談社
評価方法	定期試験 (100%)
自己学習に関する指針	講義内容を要約したプリントを配付して、それに沿って講義を進めていきますが、プリントには何箇所か空白があります。講義を聴きながら空白を埋め、授業後に通読するなどの復習をしてください。
履修上の指導・留意点	受講者は前から詰めて着席してください。なお、参考文献の欄で紹介した文献は、必読図書というものではありません。授業で学んだことをさらに深めたい人のために紹介しました。

授業科目	心理学						
担当教員	飯塚由美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010020
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 「心理学」について学び、人の心理や行動の実証的研究の基礎を理解し、人間や日常社会についての洞察力や考える姿勢を養うことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 個人の心の特性と社会における人間行動を理解し、その基本理論や知識の修得を目標とする。(1)多様な心理学の分野とその歴史や基本理念の理解(2)感覚・知覚、学習、記憶、感情・動機づけ、発達、臨床などの分野(3)性格・パーソナリティ、社会と人間行動・心理、また、地域や社会との関わりなど応用的な心理学の分野についての基礎理論を修得する。自分たちが日常的に考え、行ったりしていることを、こころの科学として実証的に考察した主要な研究や実験を紹介し、人間への理解を深める。</p>
授業の到達目標	(1)「心理学」に関する基本的な理論・方法について理解し、わかりやすく説明することができる。(2)心理学の基礎知識(専門的な用語や概念等)を習得した上で、自ら考え、人間理解や社会での応用実践の方法を探る視点を持つことができる。
授業計画	<p>第1回 心理学とは(オリエンテーション)</p> <p>第2回 感覚・知覚(1) 感覚器官、図と地、反転図形</p> <p>第3回 感覚・知覚(2) 錯視、奥行き知覚など</p> <p>第4回 学習 古典的学習、オペラント学習、社会的学習</p> <p>第5回 記憶 感覚記憶、短期記憶、長期記憶、自伝的記憶</p> <p>第6回 感情・動機づけ 感情、帰属、欲求</p> <p>第7回 発達 ピアジェの理論、認知発達、分離不安など</p> <p>第8回 臨床 フロイトとユングの理論、心理療法など</p> <p>第9回 性格・パーソナリティ(1) 基礎理論</p> <p>第10回 性格・パーソナリティ(2) 評価と検査法</p> <p>第11回 社会と応用 社会問題と人間行動</p> <p>第12回 自己と対人の心理(1) 社会的認知、対人魅力、対人関係</p> <p>第13回 自己と対人の心理(2) コミュニケーション、社会的スキル、援助</p> <p>第14回 社会と集団・組織の心理 集団の特性、社会的影響過程</p> <p>第15回 応用の心理学と最新の心理学動向</p>
テキスト	必要に応じ、資料やプリントを配布する。
参考文献	『心理学概論ー基礎から臨床心理学までー』 第4版 宇津木成介・橋本由里(編) ふうろう出版
評価方法	成績は、授業内で実施する小テスト(70%)や課題(20%)、質問やコメントなどの授業への参加姿勢(10%)で評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	音楽						
担当教員	新倉健						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010030
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 授業の目的・ねらい：音楽芸術の受容に関する主体的な思考力を培う</p> <p>[授業全体の内容の概要] 音楽を聴く、音楽を楽しむことは日常的な行為であり、音楽は、身近な存在として位置づけられているが、私たちは音楽の何に気持ちが揺さぶられ、音楽の何に魅力を感じているのかを問い直す必要がある。この科目では、音楽と情動の関係性に触れながら、自身の音楽の聴き方について考えていくことを目標とする。また様々なジャンルやスタイルの音楽鑑賞をし、音楽の新しい魅力の発見につなげることを目的とする。音楽を聞き流すのではなく、改めて「聴く」ことの重要性を考える。</p>
授業の到達目標	<p>(1) さまざまな音楽の魅力を発見し、その音楽の芸術的な価値と社会的な意味について、主体的に思考できる</p> <p>(2) 文学と音楽、美術と音楽、さらには人間の営みと音楽といった、他の分野と音楽がどのように融合され表現されるのかについて、音楽的要素を意識しながら聴くことができる</p> <p>(3) 作曲者の視点を通して、音楽の可能性や音楽の新しい表現について知る</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス：物語から聴こえてくる音たち～作曲家の仕事について考える</p> <p>第2回 音楽の起源：呪術と音楽～ケチャ、春の祭典</p> <p>第3回 神話と音楽：ギリシア神話、古事記、ホピ族（アメリカインディアン）～シュリンクス、HOPI</p> <p>第4回 物語と音楽1：宮沢賢治と音楽①音の絵本～よだかの星、注文の多い料理店</p> <p>第5回 物語と音楽2：宮沢賢治と音楽②鳥の劇場との出会い～セロ弾きのゴーシュ</p> <p>第6回 物語と音楽3：宮沢賢治と音楽③～農民芸術概論の理想と現実、宮沢賢治の作曲と音楽活動</p> <p>第7回 物語と音楽4：音楽と舞踊～バレエ・リュス、火の鳥、兵士の物語、歌の祭り</p> <p>第8回 物語と音楽5：オペラ①オペラの誕生～バロック音楽、インテルメディオ、オルフェオ</p> <p>第9回 物語と音楽6：オペラ②モーツァルト「フィガロの結婚」第1幕</p> <p>第10回 物語と音楽7：オペラ③モーツァルト「フィガロの結婚」第2幕</p> <p>第11回 物語と音楽8：オペラ④モーツァルト「フィガロの結婚」第3幕、第4幕</p> <p>第12回 物語と音楽9：オペラ⑤総合芸術としてのオペラ～演出、美術、衣装、照明、合唱、オーケストラ</p> <p>第13回 物語と音楽10：オペラ⑥オリジナルオペラの夢～ポラーノの広場、窓、魔法のカクテル</p> <p>第14回 音楽と現代：戦争と音楽、平和と音楽～海ゆかば、ワルシャワの生き残り、広島が言わせる言葉</p> <p>第15回 まとめ：これまでの授業をふりかえり、音楽を主体的に聴くことの重要性について考える 定期試験</p>
テキスト	作曲家のお仕事～新倉健 2008-2016 (新倉健 2016)
参考文献	
評価方法	論理的思考力（40%）、感性に裏打ちされた独自の視点・問題意識（40%）、文章力（20%）
自己学習に関する指針	授業中に鑑賞した作品や配布した資料の内容に関連する事項について、興味・関心を持って自主的に学習すること
履修上の指導・留意点	

授業科目	文学						
担当教員	武田信明						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010040
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国文学(国文学史を含む。) <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・国文学(国文学史を含む。) 						

授業の概要	<p>小説作品を読解するための考え方を基礎から教授する授業である。授業は、小説作品を具体的に読み進めていくことを中心とする。小説のあらすじや一部を読むのではなく、作品全体を通読することで初めて理解できることがたくさんあるからである。さらに、時代やジャンルも異なる多様な小説作品を選んでいるので、文学作品に対する幅広い知識と読み方が習得できるはずである。また2回の記述試験(レポート)によって、その力の修得の程度を問う。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1) 文学作品についてさまざまな観点から読み解くことができる。 2) 対象とする作品について、作家や文学史的知識を理解している。 3) 作品について読み取った内容を、論理的な文書で記述することができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(授業の進め方・授業の目的と評価方法)</p> <p>第2回 ジブリから文学へ1 -二項関係と反復</p> <p>第3回 ジブリから文学へ2 -空間を読む</p> <p>第4回 江戸川乱歩概説</p> <p>第5回 「屋根裏の散歩者」-空間という観点</p> <p>第6回 「屋根裏の散歩者」-近代的都市の形成</p> <p>第7回 吉本ばなな概説</p> <p>第8回 「キッチン」-台所の文化史</p> <p>第9回 「キッチン」-モチーフという概念</p> <p>第10回 「キッチン」-死と再生</p> <p>第11回 宮沢賢治概説</p> <p>第12回 「風の又三郎」-異稿問題</p> <p>第13回 「風の又三郎」-子どもと異人</p> <p>第14回 「風の又三郎」-四大元素の空間</p> <p>第15回 「キッチン」「風の又三郎」総括</p>
テキスト	・「風の又三郎」「キッチン」(角川文庫)を基本テキストとする。
参考文献	・授業時に作品読解のための参考プリントを毎回配布する。
評価方法	中間レポート(配点40)と「授業終了後のまとめ試験(60点)」の合計で評価する。
自己学習に関する指針	・該当の小説作品をあらかじめ読んでおく必要がある。
履修上の指導・留意点	・特になし

授業科目	読書と豊かな人間性						
担当教員	天野佳代子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010050
免許資格	○司書資格						
関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>児童・生徒にとって読書とは本を楽しく読むばかりではなく、情報社会の中で必要な情報を取捨選択するための情報を読みとるための手段でもある。司書教諭は読書センター、情報センターの機能を持つ学校図書館の読書活動を理解し、教育課程の展開に寄与するための読書活動も考えていかなければならない。本講座では、学校図書館を活用したさまざまな読書活動をおこない、児童・生徒の読書への関心や読む力を高めるためのさまざまなスキルを習得する。また、豊かな人間性の育成とはどのようなことなのかディスカッションを通して学びを深める。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・読書の意義と発達段階に応じた読書のあり方や指導方法の重要性を理解する。 ・豊かな人間性を育成するための読書材を知り、読書指導、教育課程の展開に導くための読書指導についても考える。 ・学校教育の中での読書指導のあり方を考え、司書教諭としての役割を考察する。 ・読書活動における司書教諭と学校図書館司書の協働について考える。
授業計画	<p>第1回 読書の意義と目的 第2回 読書指導と読書教育 第3回 子どもの読書推進に関する法と施策 第4回 子どもの読書と現状 第5回 子どもの成長と読書 第6回 学校図書館の読書材 第7回 学校図書館の読書環境の整備と利用 第8回 教科、特別活動における読書 第9回 特別支援の必要な児童・生徒の読書 第10回 学校図書館における司書と司書教諭の役割と協働 第11回 読書へ導く方法① 読みきかせ 第12回 読書へ導く方法② ブックトーク 第13回 読書へ導く方法③ 読書へのアニメーション 第14回 読書へ導く方法④ リテラチャーサークル 第15回 家庭、地域、公共図書館との連携と協力 まとめ 講義のまとめとテスト 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・配布資料
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・新版 『読書と豊かな人間性』 朝比奈大作 著、米谷茂則 著 放送大学教育振興会 2015年 ・JLA 学校図書館実践シリーズ『学校図書館の教育力を生かす 学校を変える可能性』 塩見昇 2016年 ・『鍛えよう！読むチカラ 学校図書館で育てる25の方法』 桑田てるみ監修 「読むチカラ」プロジェクト編著 明治書院 2012年 ・『読書へのアニメーション-75の作戦』 サルト, マリア・モンセラット【著】/宇野和美【訳】/新田恵子【監修】 柏書房 2001年 ・シリーズ・ワークショップで学ぶ『読書家の時間:自立した読み手を育てる教え方・学び方』【実践編】プロジェクト・ワークショップ(編) 新評論 2014年 ・シリーズ学校図書館学第4巻 『読書と豊かな人間性』 全校学校図書館協議会 2011年 ・『読むチカラは生きる力』 脇明子 岩崎書店 2006年
評価方法	<p>授業への積極的な参加姿勢を評価する(出席状況、授業態度、グループワーク、本の紹介、レポートの提出など) 平常点(80)・試験(20%)</p>

自己学習に 関する指針	・公共図書館の児童室や書店の児童書コーナーの読書材や配架の工夫などを観察して下さい。
履修上の 指導・留意点	・『夏の庭—The Friends』湯本香樹実(著)徳間書店 2001 年を読んでおいてください。

授業科目	市民社会と図書館						
担当教員	石井大輔						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010060
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	市民社会における知識情報の蓄積、保存、流通の観点から、民主主義を下支えする社会的なシステムとしての図書館の機能や社会における意義や役割について理解することを目的とする。「図書館の歴史と現状」「図書館の構成要素」「民主主義と図書館」「知識基盤社会と図書館」「生涯学習社会と図書館」「公共図書館の成立と発展」「館種別図書館と利用者のニーズ」「図書館職員の役割と資格」「類縁機関との関係」「知的自由と図書館」「今後の課題と展望」等について解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> 市民社会における図書館の機能や役割について基礎的な知識を習得する。 「図書館とは何か」という問いに対して、自分なりの解を導き出す。 他人に「図書館とは何か」について説明できるようになる。
授業計画	<p>第1回 「図書館」を学ぶとは</p> <p>第2回 図書館の基礎①：図書館の構成要素と機能</p> <p>第3回 図書館の基礎②：図書館の制度（憲法、教育基本法、社会教育法、図書館法）</p> <p>第4回 図書館の社会的意義①：民主主義と図書館</p> <p>第5回 図書館の社会的意義②：知識基盤社会と図書館</p> <p>第6回 図書館の社会的意義③：生涯学習社会と図書館</p> <p>第7回 図書館の社会的意義④：知的創造と図書館</p> <p>第8回 公共図書館の成立と展開</p> <p>第9回 日本の公共図書館①：明治～戦前の図書館</p> <p>第10回 日本の公共図書館②：戦後の図書館</p> <p>第11回 図書館の種類と利用者①（国立図書館、公共図書館）</p> <p>第12回 図書館の種類と利用者②（大学図書館、学校図書館、専門図書館）</p> <p>第13回 図書館員とライブラリアンシップ</p> <p>第14回 知的自由と図書館、図書館の自由</p> <p>第15回 図書館の課題と展望</p>
テキスト	なし
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> 二村健『図書館の基礎と展望』学文社、2011年 1,800円+税 『図書館情報学用語辞典 第4版』丸善、2013年 3,800円+税 『図書館ハンドブック 第6版補訂2版』日本図書館協会、2016年 5,500円+税
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> 平常点（50%）、レポート（20%）、試験（30%） 平常点では①オピニオンペーパーの記述、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。
自己学習に関する指針	本学の図書館ばかりでなく、あらゆる図書館を自主見学して図書館に親しむことが大切です。
履修上の指導・留意点	

授業科目	社会学						
担当教員	片岡佳美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010070
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちが日常生活を営んでいる、この社会について知るために、社会学はさまざまな見方を示してきている。この授業では、そうした「社会学の見方」について「家族」「地域」を切り口に学ぶことを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 社会学をはじめて学ぶ人に、社会学とはどのような学問かを理解してもらうために、そのユニークな視点について講義する。家族や地域といった身近なトピックについて、これまで社会学者たちが論じてきたことをやさしく説く。</p>
授業の到達目標	日常生活、社会現象について、社会学的な視点から見つめることができ、説明することができる。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション—問題の所在—</p> <p>第2回 近代家族の成立とゆらぎ(1)—近代家族の特徴—</p> <p>第3回 近代家族の成立とゆらぎ(2)—近代家族成立の背景—</p> <p>第4回 近代家族の成立とゆらぎ(3)—日本の家族変容—</p> <p>第5回 近代家族の成立とゆらぎ(4)—ライフスタイルとしての家族—</p> <p>第6回 近代家族の成立とゆらぎ(5)—家族の個人化—</p> <p>第7回 近代家族の成立とゆらぎ(6)—民主的家族という目標—</p> <p>第8回 地域コミュニティの変容(1)—近代化とコミュニティ—</p> <p>第9回 地域コミュニティの変容(2)—一心同体のつながりと「契約」のつながり—</p> <p>第10回 地域コミュニティの変容(3)—地域ケアへの注目—</p> <p>第11回 地域コミュニティの変容(4)—共助の視点—</p> <p>第12回 地域コミュニティの変容(5)—個人の自由と地域ケア—</p> <p>第13回 「第二の近代」</p> <p>第14回 日本人と「第二の近代」</p> <p>第15回 まとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	
参考文献	参考文献は、アンソニー・ギデンズ『親密性の変容』而立書房ほか（他の文献については授業中に提示する）。
評価方法	中間レポート（30%）、期末試験（70%）
自己学習に関する指針	日頃から、新聞記事やテレビのニュースなどで、家族や地域コミュニティの最近の動向についてチェックしておこう。国や地方自治体の家族や地域コミュニティに関する政策についても、インターネットなどで見ておくとよい。
履修上の指導・留意点	質問などあれば、email (kataoka@soc.shimane-u.ac.jp) に送ってください。

授業科目	現代経済学						
担当教員	大塚茂						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010080
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 現代の経済状況を理解するために必要な基礎的知識を蓄えながら、経済諸問題を自らの問題として根本から問い直す分析力を身につける。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 日本及び世界の国々が直面する具体的な経済の諸問題の考察を通して、現代の経済の基本的な特徴と趨勢を理解するとともに、現代に生きる私たちに突きつけられている歴史的課題とその解決策に対する洞察力を養うことを目標とする。同時に、基礎的な経済の仕組みと経済用語についての知識を深めていく。授業で取り上げるテーマは、「経済循環」「景気変動」「株式会社の特質」「会社の変容」「格差問題」「雇用問題」「資本主義の構造」「物価と価格」「グローバリゼーション」「財政の役割」「税の原理」「税制改革」などである。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 主な経済ニュースが概ね理解できるようになる。 2. さまざまな経済問題について関心と疑問が持てるようになる。 3. 主な経済政策について、その当否を判断できるようになる。
授業計画	<p>第1回 価格と物価 第2回 経済循環 第3回 景気変動 第4回 株式会社 第5回 会社の変容 第6回 格差と貧困 第7回 雇用問題 第8回 資本主義 第9回 グローバリゼーション 第10回 規制と自由 第11回 財政の役割 第12回 所得税 第13回 消費税 第14回 税の原理 第15回 まとめ(現代の課題) 定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは使用しません。毎回、プリントを配布します。 プリントは試験のときに持ち込み可としますので大切に保管してください。</p>
参考文献	<p>神野直彦 『「分かち合い」の経済学』 岩波新書、2010年</p>
評価方法	<p>定期試験(100%)</p>
自己学習に関する指針	<p>授業で配布したプリントは、次の授業までにもう一度目を通すこと。</p>
履修上の指導・留意点	<p>疑問に思ったことは積極的に質問してください。 逆に、質問されたら積極的に答えてください。</p>

授業科目	生涯学習概論						
担当教員	仲野寛						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010090
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	生涯学習及び社会教育の理念と意義及び特質を理解し、生涯学習社会における家庭教育・学校教育・社会教育の役割と連携、地域と学校の協働活動の意義、生涯各期の学習課題と学習ニーズ、現代的課題と社会の要請、生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用、社会教育施設や生涯学習関連施設等の役割などについて理解する。
授業の到達目標	①生涯学習の理念と意義、社会教育の意義と役割及び特質を理解する。 ②生涯学習支援の教育システムと学習成果の評価と活用を理解する。 ③社会教育施設(公民館、図書館、博物館等)と指導者(社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等)の役割や職務を理解し、説明できる基礎的能力を養う。
授業計画	第1回 授業のガイダンス。生涯学習の理念と意義、生涯教育社会の考え方 第2回 諸外国における生涯学習の歴史と発展、ユネスコ、OECDの生涯教育論等 第3回 人生の修養としての学びも含めて、我が国における生涯学習の歴史と発展 第4回 我が国の教育改革と生涯学習社会の構築の動き等、近年の教育施策の動向 第5回 生涯学習社会への移行、伝統的な教育システムからの転換と開かれた学校 第6回 生涯各期の学習課題の意義と学習の必要性、及びそのための生涯教育のあり方 第7回 社会教育施設である公民館、図書館、博物館、青少年教育施設等の機能と役割 第8回 社会教育主事、公民館主事、司書、学芸員等の社会教育指導者の役割、職務 第9回 地域資源(指導者、施設、学習事業、地域環境等)活用した生涯学習の支援 第10回 個人学習、集合学習の種類と方法、学習機会と提供方法、学習評価と成果 第11回 生涯学習社会における学校教育・社会教育行政、生涯学習振興行政の役割 第12回 生涯学習振興計画と社会教育事業計画の役割と意義、事業評価とPDCAの意義 第13回 学習プログラムの種類と特徴、構造、企画、及び立案する際の視点と手順 第14回 公的教育事業、企業・民間教育事業の果たす役割と今後の連携・協力のあり方 第15回 学習成果の評価と活用、まちづくり、ボランティア活動等との関係 第16回 講義のまとめ、及び評価試験
テキスト	・テキストは使用しない。毎回、講義レジメ・資料を配付する。
参考文献	・授業中に、適宜、参考文献・資料等を紹介する。
評価方法	・評価は、小レポート・試験(70%)、受講態度(30%)で、総合的に評価する。
自己学習に関する指針	毎回の講義に配布する講義レジメ・資料で、復習すること。疑問点は、自ら、図書館の関係文献で調べるか、担当教員へ下記のメールで問い合わせ理解、解決すること。
履修上の指導・留意点	授業中の疑問点や授業資料で不明な点の質問や相談は、授業終了後の時間、及びオフィスアワーの時間を設定できないので次のメールで対応する。nakano@edu.shimane-u.ac.jp

授業科目	日本国憲法						
担当教員	谷口智紀						
科目分類	共通基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M1010100
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状						

授業の概要	<p>「憲法を学ぶ」ことは、憲法の条文を暗記することではない。法は、社会生活における具体的な問題を解決するためのルールであり、憲法を学ぶことは、その処方箋を見つけることにある。</p> <p>例えば、AI(人工知能)の発達やビッグ・データの活用等により、私たちの生活水準は大きく向上しているが、一方で、プライバシー(個人情報)の問題が指摘されている。憲法は私たちのプライバシーをどのように保障しているのだろうか。</p> <p>また、憲法の条文には、私たちが普段使っている言葉が用いられている。私たちは「平等」という言葉を「みんな同じ」という意味で使うことがあるが、憲法で用いられる「平等」は、「みんな同じ」ということを保障しているのだろうか。</p> <p>本講義では、歴史的な出来事や判例などを素材として、憲法の基本的な考え方を学ぶことを目指す。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 憲法の基本的な考え方を習得する。</p> <p>(2) 法的なものの考え方を身につける。</p>
授業計画	<p>第1回：憲法とは何か、日本国憲法の成立、日本国憲法の基本原理</p> <p>第2回：基本的人権(1) 基本的人権総論、人権享有主体</p> <p>第3回：基本的人権(2) 幸福追求権</p> <p>第4回：基本的人権(3) 法の下での平等</p> <p>第5回：基本的人権(4) 内心の自由</p> <p>第6回：基本的人権(5) 表現の自由とその制限</p> <p>第7回：基本的人権(6) 経済的自由権</p> <p>第8回：基本的人権(7) 人身の自由</p> <p>第9回：基本的人権(8) 社会権</p> <p>第10回：国民主権と選挙</p> <p>第11回：統治機構(1) 国会</p> <p>第12回：統治機構(2) 内閣</p> <p>第13回：統治機構(3) 裁判所</p> <p>第14回：平和主義</p> <p>第15回：日本国憲法のまとめ</p> <p>第16回：定期試験</p>
テキスト	吉田仁美編『スタート憲法 [第2版補訂版]』、成文堂、〇年、〇円
参考文献	講義の中で紹介する。
評価方法	レポート等(20%)、定期試験(80%)
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。また、授業中に紹介した参考文献を読んでおくこと。

授業科目	人間と自然						
担当教員	鹿野一厚						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 人間と自然との関係について基礎的な事項を幅広く学び、人間と自然との共生について考えることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] まず、人口の爆発と生物の絶滅・地球温暖化など、地球の自然の現状を知る。次に3,000万種ともいわれる生物の進化、そして我々人類の進化を学び、地球そして人間はどのようにして現在の姿に至ったのかを知る。以上の事柄を踏まえた上で、最後に、人間はなぜ自然を破壊するのか、自然と共生する文化はいかにすれば可能かについて考察する。</p>
授業の到達目標	<p>①現代生物学について基礎的な知識を習得している。 ②人類の進化について基礎的な知識を習得し、人間の特性について説明することができる。 ③自然と共生する文化について自ら考え、その内容を自己の言葉で表現することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 生命の多様性と連続性 [原核生物、真核生物、多細胞生物。動物、植物、菌類] 第2回 現代生物学の基本原則(1) [細胞説、セントラルドグマ] 第3回 現代生物学の基本原則(2) [生態系、進化論] 第4回 第六の大量絶滅の時代 [人口爆発、地球温暖化、現代文明、自然嫌い] 第5回 生物進化の概要 [原生代、古生代、中生代、新生代] 第6回 生物進化のメカニズム [遺伝子の変異と自然選択、細胞内共生説] 第7回 生物の絶滅と進化 [五回の大量絶滅、大量絶滅後の飛躍的進化] 第8回 前半のまとめと補足 第9回 人類進化の概要(1) [類人猿、猿人、原人、旧人、新人] 第10回 人類進化の概要(2) [直立二足歩行、脳の大型化、咀嚼器の退化、文化の獲得] 第11回 人類進化の謎への挑戦(1) [遺伝子と文化の共進化：社会的学習能力と文化の進化] 第12回 人類進化の謎への挑戦(2) [遺伝子と文化の共進化：協力・利他的行動の進化] 第13回 自然と共生する文化を考える(1) [狩猟採集民の文化から学ぶ] 第14回 自然と共生する文化を考える(2) [日本の里山の文化から学ぶ] 第15回 自然と共生する文化は可能か [文化進化論に学ぶ：人間はなぜ自然を壊すのか] 定期試験 ●パワーポイントを用いた講義形式の授業を行うが、ビデオや新聞記事などの資料も交えて、できるだけ分かりやすい授業を目指す。</p>
テキスト	とくに使用しない。
参考文献	<p>・『池上彰が聞いてわかった生命のしくみ』池上・岩崎・田口ら 2016年 朝日新聞出版 ・『アフリカで誕生した人類が日本人になるまで』溝口優司 2011年 SB新書 ・『文化進化論』A. メスーディ 2016年 NTT出版</p>
評価方法	<p>●単位認定は、定期試験(50%)、課題レポート(50%)によって総合的に評価する。 ●到達目標①および②は定期試験によって、到達目標③は授業参加と課題レポートによって、それぞれ評価する。 ●試験(記述問題)やレポートは、どこまで自己の言葉で書かれているかを評価する。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	脳科学と心						
担当教員	内山仁志						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010120
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] ヒトの神経系（脳）の構造と機能の概略を理解し、脳の構造や機能を可視化できる測定法を学修する。それを踏まえて「心」とは何かについて考える。また脳に関する迷信についてその現状を知り、問題点を見つけてわかりやすく説明できることを目的とする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 思考、認知、記憶、情動、意思、行動などに関連する脳科学の知見を通じて、人間理解の可能性と脳科学が果たす役割について学ぶ。ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能局在について理解を深めることを目標とする。歴史的経緯を踏まえつつ臨床症例や研究知見を神経科学的手法（脳波・fMRI・TMS・PET など）とともに紹介する。また神経神話（脳に関する迷信）問題について、課題発見解決型学習（PBL）を通じて、その理論的根拠や妥当性を論理的に検討していき、巷に氾濫する誤った脳科学情報にきちんと対処できる知識を修得する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) ヒトの神経系（脳）の構造と脳の機能の概略を説明できる</p> <p>(2) 神経科学的手法について説明できる</p> <p>(3) 神経神話（脳に関する迷信）問題について自身で課題を見つけて解決できる</p>
授業計画	<p>第1回 心の発達と脳科学</p> <p>第2回 神経系の構造</p> <p>第3回 神経系の発達</p> <p>第4回 神経科学的手法と研究法</p> <p>第5回 脳研究の最新トピックと神経神話問題、PBL のための課題の設定と振り分け</p> <p>第6回 脳と嗅覚・視覚</p> <p>第7回 脳と聴覚・味覚</p> <p>第8回 脳と体性感覚・運動</p> <p>第9回 脳と思考・意思・情動</p> <p>第10回 脳と学習・記憶</p> <p>第11回 脳と言語</p> <p>第12回 脳と病気</p> <p>第13回 PBL 発表と討議 1</p> <p>第14回 PBL 発表と討議 2</p> <p>第15回 PBL 発表と討議 3</p> <p>定期試験</p>
テキスト	・テキストは使用せず、適宜プリント資料等を配布する。
参考文献	<p>・「発達科学ハンドブック 8 脳の発達科学」、榊原洋一他編、新曜社</p> <p>・「病気が見える vol.7 脳・神経」、医療情報科学研究所編、メディックメディア</p> <p>・「脳ブームの迷信」、藤田一郎著、飛鳥新社</p>
評価方法	定期試験 60%、レポート（発表時のプレゼンテーション力を含む）40%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	生物と栄養						
担当教員	安藤彰朗						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010130
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 私たちヒトも哺乳動物も「食べる」ことなしに生命・生活は成り立ちません。この講義では、哺乳類の一員としてのヒトにおける、食べ物とからだ、栄養素の役割、食べもと健康について理解を深めることを目的とします。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 生物（特にヒトを含む哺乳動物）のからだのつくりを中心に、生物個体から出発して、その内部構造（器官や細胞）へと展開するからだのしくみの基盤となる内容を学ぶ。引き続き、生物・生命のもう一つの特性である「栄養」や「代謝」について理解を進め、からだの構成成分と栄養素、生命維持や活動のエネルギー代謝と栄養素等、からだのしくみと栄養の視点から、食べ物が栄養に変わる旅（過程）を知るとともに、生物と栄養について理解を深める。そして、応用編として「人間（ヒト）と健康」に関わる諸課題についても考察する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> ヒトや他の哺乳動物の基本的な内臓の構成、特に消化器系の臓器の名称と働きを説明できる。 栄養素の特徴および、からだの中での役割を説明できる。 ヒトについて食べ物とからだの関係、食べ物と健康の係りについて認識し、自身の生活を踏まえて、自分の考えを述べることができる。
授業計画	<p>第1回 「生物と栄養」の講義について、ヒトのからだの概要 第2回 ヒトの消化器系の全体像、口腔の話（口から始まる消化作用） 第3回 胃の話（主役は3つの細胞）・腸の話（絨毯のような内面） 第4回 胃と腸のビデオ視聴 第5回 いろいろな哺乳動物の歯について 第6回 食性が異なる哺乳動物は、どのような消化管を持っているか 第7回 糖質の消化・吸収、糖質の栄養 第8回 タンパク質の消化・吸収、タンパク質の栄養 第9回 脂質の消化・吸収、脂質の栄養 第10回 カルシウムの役割、骨と筋肉のビデオ視聴 第11回 エネルギー代謝について 第12回 あなた自身はどんな食事をしていますか 第13回 食事バランスガイドについて 第14回 食べ物と健康について 第15回 全体のまとめ 定期試験（試験あり）</p>
テキスト	テキストは特に用いません。必要に応じて毎回プリントを配布します。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 「イラスト栄養学総論」城田知子ほか著、東京教学社、 「新版ヒトと自然」荒井秋晴ほか著、東京教学社、
評価方法	<p>試験は、消化器系や栄養素などについての知識を問う問題と講義で取り上げたテーマについての記述問題を課します。</p> <p>評価基準は、質問感想カードの提出 20%、課題レポートの提出 30%、試験 50%を考慮して総合的に評価します。</p>
自己学習に関する指針	特定のテキストは用いないので、授業中に適宜ノートを取る、配布資料の余白などにメモを取ることを勧めます。復習する際にそれらを役立てて欲しいと考えています。

履修上の 指導・留意点	科目名の通り、主として解剖生理学、生物学、化学、栄養学などに関連するいわゆる理系の内容や計算を含みます。また、臓器名、元素記号や化学式、馴染みのないカタカナの物質名なども沢山出てきます。

授業科目	環境の科学						
担当教員	高橋泰道						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1010140
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>[授業の目的・ねらい] 地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化など、地球の自然環境の歴史について理解すると共に、地球環境問題の現状を理解し、持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考え、実践的態度を培うことをねらいとする。</p> <p>[授業全体の内容の概要] 地球環境問題を理解するために必要な基礎知識として、地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化が地球の自然環境とどのようにかかわってきたか、地球がどのように現在の自然環境を作り上げてきたかについて学ぶ。そして、身近な環境汚染から差しせまった地球温暖化の問題に至るさまざまな問題の本質と現状を理解した上で、環境問題を自らの課題としてとらえ、主体的に向き合い、持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考え、実践的態度を培う。</p>
授業の到達目標	<p>①地球の誕生から、生命の誕生、生物の進化など、地球の自然環境の歴史について説明できる。</p> <p>②地球環境問題の現状について説明できる。</p> <p>③持続可能な社会の構築に向けて、どのように行動すべきかを考えることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、月面で遭難したら テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第2回 太陽と地球、月 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第3回 地球の誕生 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第4回 地球の変動 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第5回 生物の繁殖戦略 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第6回 地球の大気 テーマ問題について予想し、グループで話し合い、問題を解決する。</p> <p>第7回 いま地球で何が起きているか テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第8回 環境問題の実態 ① 地球温暖化 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第9回 環境問題の実態 ② エネルギー問題 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第10回 環境問題の実態 ③ 生物多様性・自然共生社会 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第11回 環境問題の実態 ④ 地球環境問題 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第12回 環境問題の実態 ⑤ 循環型社会 エネルギー・廃棄物 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第13回 環境問題の実態 ⑥ 地域の環境問題 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第14回 環境問題の実態 ⑦ 化学物質・震災関連・放射性物質 テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p> <p>第15回 持続可能な社会に向けたアプローチ、まとめ テーマ問題についてグループで調べ、まとめる。</p>
テキスト	特になし。適宜プリントを配布する。
参考文献	授業中に随時紹介する。
評価方法	<p>授業レポート等提出物 (30%)</p> <p>発表資料・発表内容 (30%)</p> <p>期末レポート (40%)</p>
自己学習に関する指針	配布資料、およびレジュメに記載された参考文献を読み、事前学修・事後学修に役立てる。

履修上の 指導・留意点	授業中は、タブレット PC, 或いはノート PC, スマートフォン等を使用し、双方向の授業を行います。質問は、その内容に応じて、授業時間中・オフィスアワー・e-mail に対応します。
----------------	--

授業科目	しまね地域共生学入門						
担当教員	島根県立大学教員						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M1010150
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>この講義は、各キャンパスにおける専門分野を学習する前の段階において、島根県が数十年来直面している人口減少・少子高齢化・過疎化という地域の諸課題を様々な角度から講義する。そうした課題は、今後のわが国における多くの地域において予期されるが、それぞれの主体の強みを生かした連携と協力を継続させるという、「共生」により解決しなければならない。本講義を通じて、地域課題への対応がいかに困難で複雑なものであるかの再認識を促し、複合的対応の重要性についての理解を深める。</p> <p>また、学問的見地においてもひとつの学問領域から得られる知見のみで解決できるものではない。本講義では、特定の学問領域にとどまらず、複眼的に物事をとらえ分析することの重要性も学ぶ。</p> <p>これらの目的に照らし、さしあたり本講義では3キャンパスの教員がそれぞれの専門分野から島根地域にかかわる諸課題についての解説を平易に行う。また、オムニバス講義ゆえに全体としての体系性が失われぬよう、本講義では人々の人生における代表的なライフステージ(3段階)を共通で用いる。このことを通じて、学生は島根県内の地域課題に関する基礎知識・周辺知識を習得する。</p> <p>本講義を履修したのち、自らの関心あるテーマについて仮説を立てて実証をしたり、地域に出て「実践する」ことが求められるが、その際に関心のあるテーマを自ら発見できるよう積極的な姿勢で受講してもらいたい。</p> <p>※本講義は、原則的に、講義中継システムを活用して3キャンパス同時の遠隔講義形式にて実施する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島根県の課題について理解し、日本全体の課題のなかでの位置づけを説明できる。 ・ 地域社会の諸課題の解決に向けて各主体が連携・協力する「共生」により解決にあたることや、自らも複数の学問領域の考え方を学ぶことの重要性について理解できる。 ・ 以降の学生生活を通じて自ら実践的に地域の諸課題に取り組むことの重要性を理解し、そのテーマを設定できる。
授業計画	<p>第1週 島根県立大学へようこそ——開講にあたって(仮題) [清原正義・全学開講責任者] ※オリエンテーションも併せて実施。</p> <p>第2週 データでみる島根のすがた [林 秀司]</p> <p>第3週 しまねの地域課題——幼少年期を題材として 藤原真砂</p> <p>第4週 しまねの地域課題——幼少年期を題材として 三瓶まり</p> <p>第5週 しまねの地域課題——幼少年期を題材として 岩田英作</p> <p>第6週 しまねの地域課題——青壮中年期を題材として 松尾哲也</p> <p>第7週 しまねの地域課題——青壮中年期を題材として 岡安誠子</p> <p>第8週 しまねの地域課題——青壮中年期を題材として 藤原映久</p> <p>第9週 しまねの地域課題——老年期を題材として 久保田典男</p> <p>第10週 しまねの地域課題——老年期を題材として 細川 優</p> <p>第11週 しまねの地域課題——老年期を題材として 前林英貴</p> <p>第12週 島根県の政策展開 [島根県政策企画監室]</p> <p>第13週 地域課題への実践的取組 [未定]</p> <p>第14週 まとめ [全学開講責任者]</p> <p>第15週 松江キャンパスでの学びに向けて [学部長 または 副学長]</p>
テキスト	各週の担当教員が指定することがある。
参考文献	各週の担当教員が紹介する。
評価方法	授業に出席することを前提とし、授業への取り組み姿勢、各週の授業で実施する小テストの結果を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	

履修上の 指導・留意点	本講義は地域の抱える課題について包括的に概論する講義ではあるが、本講義のみでは大学生が学ぶべき内容を完全にマスターできるわけではない。本講義は1年生を標準履修年次としており、どちらかといえば、これからの修学期間で地域課題への対応に取り組むにあたり、必要となる予備知識や一般知識の習得を目指す、いわば入門科目としての位置づけである。したがって、受講したのち、より専門的な見地から詳細な議論を行う諸科目の履修により補完することが望ましい。具体的には、地域志向科目の履修がひとつの目安となる。
----------------	---

授業科目	しまね文化論						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M1010160
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>本科目は、松江城、出雲大社、石見銀山など、島根県が有する豊かな特色ある地域文化・地域資源について、基礎的な知識を修得し、しまねの地域資源の価値と、それらに誇りを持って未来へ継承することの意義を理解することを目的とする。授業はオムニバス形式で行い、各テーマにふさわしい専門家や実践者による講義を通して、島根県における伝統文化の歴史的背景や文化的価値、文化を伝承する上での課題や未来へ向けた取組みなどを学習する。さらに、学外見学会を実施することで学習内容の理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>出雲、石見、隠岐が有する様々な文化について理解し、それぞれの特徴や歴史的背景を説明できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス (人間文化学部教員) 第2回 神々の国しまね(1) (出雲大社) 外部講師: 千家和比古 氏 (出雲大社権宮司) 第3回 神々の国しまね(2) (神話) 外部講師: 錦田剛志 氏 (万九千神社宮司) 第4回 しまねの日本遺産 (たたら製鉄) 外部講師: 田部長右衛門氏 (田部家 25 代当主) 第5回 しまねの地質資源 (隠岐世界ジオパーク) 外部講師: 野辺一寛 氏 (隠岐の島町役場課長) 第6回 しまねの世界遺産 (石見銀山) 外部講師: 仲野義文 氏 (石見銀山資料館館長) 第7回 しまねの自然 外部講師: 中村唯史 氏 (島根県立三瓶自然館) 第8回 フィールドワーク事前学習 (人間文化学部教員) 第9回 フィールドワーク (石見銀山) [11月23日(土) 実施予定] 第10回 しまねの食文化(1) (松江の茶文化) 外部講師: 中村寿男 氏 (中村茶舗代表取締役) 第11回 しまねの食文化(2) (次世代への継承) 外部講師: 景山直観 氏 (一文字家社長) 第12回 しまねの国宝 (松江城) 外部講師: 卜部吉博 氏 (元松江市松江城調査研究室長) 第13回 しまねの伝統芸能 (神楽) 外部講師: 藤原宏夫 (島根県教育庁文化財課) 第14回 しまねの文化の魅力 外部講師: 東芝国際交流財団 島根文化研究者(予定) 第15回 しまねの文化の魅力を考える—グループワーク、学生発表 ※外部講師招聘のため、順番が入れ替わる場合がある。</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	
評価方法	各回の小テストの結果、課題提出、コメントシート、発表など、授業への取組み状況を総合的に判断して評価を行う。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	11月23日(土)にフィールドワーク実施予定。

授業科目	しまねボランティア研修						
担当教員	目次 和恵						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	通年
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010170
免許資格 関連事項							

授業の概要	ボランティア活動を始めようとする学生に、県立青少年の家における体験学習プログラムを提供することにより、ボランティアの役割を体得し、他者と関わりながら主体的に活動することのできる人間になることを目指す。そのためにボランティア活動を体験し、ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解したり、体験活動をしながら場に応じて必要な支援について学修したりする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. ボランティア活動の意義及びボランティアの役割を理解できる。 2. 他者との関わり方を考え、協力して活動できる。 3. 体験学習について理解し、場に応じて適切な支援ができる。
授業計画	<p>第1回 事前学習…<4月18日(木)18:10~19:40 1コマ：県立大学松江キャンパス> (青少年の家と主催事業についての理解・授業スケジュールの理解)</p> <p>第2回 実習①「ボランティア(体験活動支援者)養成講座」…<6月15日~16日(土・日)：県立青少年の家> ・講義(ボランティア活動について・アイスブレイク・グループワーク・安全講習) ・演習(青少年の家のプログラム体験・振り返り)</p> <p>第3回 実習②「ボランティア(体験活動支援者)実習」(7月~12月で1つを選択：県立青少年の家> 選択事業の例 ・サマーチャレンジ(小5~中3対象) …8月 ・キッズチャレンジ(小3~小4対象) …7月~11月(3回) ・にんにんチャレンジ(年長~小2対象) …11月~12月(3回) ※選択可能な事業の詳細については事前学習において発表する。</p> <p>第4回 事後学習<1月25日(土)AM 3コマ：県立大学松江キャンパス> ・グループワークによるシェア及びグループ発表</p>
テキスト	上記1~3については、参加者ノート、スタッフノート等を配布する。
参考文献	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・実習における積極性、参加態度、ならびに、発表の内容、提出課題等で、総合的に判断する。 ・本科目の性質上、1回でも欠席した場合は成績評価の対象外とする。
自己学習に関する指針	第2回の養成講座受講後、第3回のボランティア実習に向けて、青少年の家ホームページから前年度や本年度実施された主催事業の様子について関心をもって、予習をしておくことが望ましい。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・実習①での施設使用料、食費は各自負担をする。(例年：約2,000円) ・定員は36名とする。 ・履修希望者は、4月12日(金)までに登録の上、第1回事前学習(4/18)に必ず出席すること。(希望者が定員を上回った場合は、抽選・その他の方法で選抜を行う)

授業科目	健康スポーツ概論						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	15	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010180
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・体育 ○高等学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・体育						

授業の概要	<p>競技スポーツや健康の保持・増進のためのスポーツ, スポーツを活用した健康生活について学ぶとともに, 大学生として心得ておくべきスポーツ政策についての概要や現代的諸問題について学修する。また, スポーツ活動を通じたパーソナリティー形成や社会性の発達についての知識を修得し, スポーツ活動によってもたらされるプラス面の効果や留意すべきことについて正しく理解し, 競技スポーツ・健康スポーツ・生涯スポーツの見方・考え方についての学修を深める。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 健康スポーツについて基礎的な知識を修得することができる。 (2) 現代的スポーツ事情, スポーツ諸課題について論述することができる。</p>
授業計画	<p>第 1 回 日本のスポーツ政策と現状(国, 地方自治体のスポーツ推進計画) 第 2 回 スポーツとは? スポーツの高度化, 大衆化について 第 3 回 競技スポーツと健康志向スポーツについて 第 4 回 スポーツのパーソナリティー形成と二面性について 第 5 回 スポーツ集団への関わり方, チームワークのメカニズムと形成の考え方 第 6 回 スポーツのための食と液体補給 第 7 回 運動・休養・栄養と生活リズム 第 8 回 救急処置と救急蘇生法, まとめ 定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	毎回, プリント資料を配付する。
評価方法	毎回クイズ(小テスト) = 30% 筆記試験 = 70%
自己学習に関する指針	配付資料を再読し, 復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	毎回, 授業終わりに小テストを行う。

授業科目	健康スポーツ I						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010190
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・体育 ○高等学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・体育						

授業の概要	健康スポーツ I では、各種身体運動の方法を実践学習し、健康の保持増進と体力の向上、運動の意味や効果の理解を図りながら、運動することへの自覚を一層促進する。また、スポーツ活動を通して、運動や運動技術のみにとどまらず、集団のなかの一員としての役割等から協調性や社会性を身に付ける。内容については、準備運動(ストレッチを含む)の仕方、集団スポーツの学習、個人スポーツの学習からルール・技術・ゲームの仕方を学修し、生涯スポーツの取り組みを見据えた授業とする。
授業の到達目標	(1) 生涯スポーツの観点から個人種目やチームスポーツに取り組み、多種目の技術・技能を身につけることができる。 (2) 主体的に学ぶ姿勢を身につけ、受講者で協力してゲームを運営することができる。
授業計画	第 1 回 オリエンテーション、準備運動の方法及びストレッチング、リズム運動 第 2 回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの基礎・基本 第 3 回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールの応用とミニゲーム 第 4 回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム(リンク式) 第 5 回 スポーツ種別特性の理解と実践・ソフトバレーボールのゲーム(トーナメント式) 第 6 回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの基礎・基本 第 7 回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンの応用とミニゲーム 第 8 回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム(シングルス) 第 9 回 スポーツ種別特性の理解と実践・バドミントンのゲーム(ダブルス) 第 10 回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の基礎・基本 第 11 回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球の応用とミニゲーム 第 12 回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム(シングルス) 第 13 回 スポーツ種別特性の理解と実践・卓球のゲーム(ダブルス) 第 14 回 スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム(リンク式) 第 15 回 スポーツ種別特性の理解と実践・種目選択でのゲーム(トーナメント式)
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する。
評価方法	技術・技能 30%、実践記録 20%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	健康スポーツⅡ						
担当教員	岸本強						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010200
免許資格 関連事項							

授業の概要	健康スポーツⅡでは、身体組成測定器や血圧・脈拍測定器、エアロバイク（体力・最大酸素摂取量測定可能）など、各種身体及び身体機能測定機器で受講者が自ら計測した各々のデータを蓄積管理し、一人ひとりがこのデータを活用して自らに合った運動（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）をプログラムしていく方法を学修する。授業ではスムーズな展開を図るため、取り組む内容毎にグループで活動を展開する。このグループ化は2回行い、複数（異種）の取り組みを経験する。
授業の到達目標	(1) 主体的・計画的に測定機器を使いデータを管理することができる。 (2) 測定データを活用し、機器を用いたトレーニング、エクササイズ、スポーツに取り組むことのできる運動プログラムを確立することができる。
授業計画	第1回 オリエンテーション及び各種測定 第2回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）試行 第3回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ）定着 第4回 測定とグループ化①、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第5回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ試行 第6回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ定着 第7回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ応用 第8回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・チームスポーツ）グループ発展 第9回 これまでのデータ処理と中間評価 第10回 測定とグループ化②、運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・各種スポーツ） 第11回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ試行 第12回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ定着 第13回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ応用 第14回 測定と運動実践（機器を用いたトレーニング・エクササイズ・個人スポーツ）グループ発展 第15回 データのまとめ、授業のまとめ
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配付する
評価方法	実践記録 50%、まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	授業外においても取り込むことが好ましい。
履修上の指導・留意点	運動服の指定はないが、運動に適した服装・靴を着用すること。

授業科目	健康スポーツⅢ						
担当教員	山本ユミ						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	実技	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010210
免許資格 関連事項							

授業の概要	ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、思いきり身体を動かすこと、動きを創作する楽しさ、表現を追求する面白さ、人に伝える喜びなどダンスの醍醐味を身体で経験する。発表を通して、踊る・創る・観るという総合的な視点でダンスを学習する。
授業の到達目標	(1)ダンスの基礎的な身体の使い方を学び、創る、踊る、観るという総合的な視点でダンスの技能を身に付けることができる。 (2)共同作業を通して、互いの表現を認め合い、自己表現力を高め、積極的に取り組む姿勢を身に付けることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス、ダンスの種類と特徴 第2回 ダンスの実践レベル1・リズム 第3回 ダンスの実践レベル1・ステップ 第4回 ダンスの実践レベル1・コンビネーション(簡単な振付) 第5回 ダンスの実践レベル1・レベル1のまとめのダンス 第6回 ダンスの実践レベル2・リズム&ステップ 第7回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付基礎) 第8回 ダンスの実践レベル2・コンビネーション(振付応用) 第9回 ダンスの実践レベル2・レベル2のまとめのダンス 第10回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ 第11回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付基礎) 第12回 ダンスの実践レベル3・リズム&ステップ&コンビネーション(振付応用) 第13回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス基礎パターン) 第14回 ダンスの実践レベル3・フォーメーション(グループ創作ダンス応用パターン) 第15回 まとめダンス発表会
テキスト	なし
参考文献	必要に応じて資料を配布する。
評価方法	技術・技能 30%, 実践記録 20%, まとめレポート 50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	基礎中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010220
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>中国には56の民族があり、広東語や上海語など、実際には多種の言語や方言が使われている中で、現在中国の標準語になっている“汉语の普通话”を学ぶ。ピンイン、四声、発音から始まり、テキストの会話や作文の練習を通して中国語の基礎を学習する。中国語は漢字を使う言語のため、同じく漢字を使う日本人には親しみを感じる言語ではあるが、文化が違えばその発想も違うため、日本語との違いを通してその文化の違いを感じ取ってもらう。また、中国の音楽や中国人から見た日本の文化に対するエッセイなどに触れて、中国語を通して中国への理解を深めることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<p>①ピンイン表記の中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な会話ができる。 ③中国語検定試験準4級レベルを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 中国語ウォーミングアップ、発音・声調・簡体字 第2回 人称代名詞、“是”の文 第3回 指示代名詞(1)、疑問詞疑問文 第4回 “的”の用法(1)、副詞 第5回 動詞の文 第6回 「所有」を表す“有”、省略疑問の“呢” 第7回 量詞、指示代名詞(2) 第8回 形容詞の文、“几”と“多少” 第9回 数字 第10回 日付・時刻を表す語、「動作の時点」を言う表現 第11回 「完了」を表す“了” 第12回 「所在」を表す“在”、助動詞(1)“想” 第13回 介詞(1)“在”・“离”、「存在」を表す“有” 第14回 反復疑問文 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験</p>
テキスト	最新2訂版「中国語はじめの一步」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。

授業科目	中国語						
担当教員	鳥谷聡子						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010230
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>「基礎中国語」に引き続き、中国語(汉语)の基礎を学ぶ。テキストの会話や作文の練習を通して、中国語の文法を学習する。また、中国の音楽や文化に触れるだけでなく、日本の文化を中国語で説明することにもチャレンジする。今後中国人に限らず、台湾やシンガポールなど、多くの中華圏の観光客が日本に来ることが期待されるので、中国語を使って日本、特に島根県や山陰地域の観光地の説明を、観光パンフレット等を利用して学び、その学習で得た中国語で日本や山陰地域の魅力を伝え、相互理解を深めることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<p>①ピンイン表記無しで、簡単な中国語が読める。 ②テキスト内の単語と文法を覚え、それを使って作文や簡単な日常会話ができる。 ③中国語で自己紹介ができる。 ④中国語検定試験準4級以上のレベルを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 中国語で自己紹介、前期の復習、中国語検定試験準4級の説明 第2回 「時間量」を表す語、試験対策(1) 第3回 助動詞(2) “得”、試験対策(2) 第4回 介詞(2) “从”、試験対策(3) 第5回 「過去の経験」を表す“过”、試験対策(4) 第6回 “是…的”の文、試験対策(5) 第7回 介詞(3) “跟”・“给”、試験対策(6) 第8回 試験対策まとめ 第9回 助動詞(3) “能”・“会” 第10回 「動作の様態」を言う表現、動詞の重ね型 第11回 「動作の進行」を表す“在…呢”、“…しに来る・…しに行く」の表し方 第12回 選択疑問の“还是”、目的語を文頭に出す表現 第13回 「比較」の表現、“的”の用法(2) 第14回 2つの目的語をとる動詞、目的語が主述句のとき 第15回 総まとめ、会話テスト 定期試験</p>
テキスト	最新2訂版「中国語はじめの一步」白水社
参考文献	適宜プリント配布 中日辞典と日中辞典(電子辞書だと便利)
評価方法	期末試験(60点)会話テスト(30点)、残り10点は授業への取り組みと出席状況を総合して評価します。
自己学習に関する指針	テキストを何度も繰り返し音読すること。その際、発音と四声に注意して、大きな声で読むことが大事。文字や文章も書いてみること。
履修上の指導・留意点	質問は授業時間中と授業の前後で対応します。 受講者は、前から詰めて着席してください。

授業科目	基礎韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010240
免許資格 関連事項							

授業の概要	基礎的な韓国語を「読む」「聴く」「話す」というバランスを考えながら身に付けていきます。また、言語を学ぶということは、その背景にある文化を理解することも必要です。そこで歴史、風習にも折々触れていきます。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル（母音、子音、パッチム）を読めるようにします。 ・簡単な日常会話を韓国語で表現できるようにします。
授業計画	<p>第1回 ハングルの特徴、文字の仕組み、基本母音（1）</p> <p>第2回 基本母音（2）、基本子音（平音9こ）</p> <p>第3回 基本子音（激音5こ、濃音5こ）</p> <p>第4回 パッチム</p> <p>第5回 ハングルの読み書き（1）、小テスト（母音、子音）</p> <p>第6回 ハングルの読み書き（2）、小テスト（パッチム）</p> <p>第7回 挨拶、日常表現</p> <p>第8回 語彙と表現のまとめ、教室用語</p> <p>第9回 第1課 アンニョンハセヨ（～です。～ですか。）</p> <p>第10回 第1課アンニョンハセヨ、文化（韓国の基本情報）</p> <p>第11回 第2課この人は誰ですか？（指示詞、数詞）</p> <p>第12回 第2課この人は誰ですか？文化（韓国の交通）</p> <p>第13回 第3課これは何ですか？（助数詞）</p> <p>第14回 第3課これは何ですか？（助数詞）2</p> <p>第15回 自己紹介の練習、復習</p> <p>定期試験（筆記試験、会話テスト）</p>
テキスト	いよいよ韓国語（朝日出版社）定価2,400円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	前期試験60点、会話テスト30点、小テスト、課題提出、出席状況で10点、総合100点満点で評価します。
自己学習に関する指針	復習することが上達の近道です。特に発音の練習は、声をしっかり出して繰り返しやるのが大切です。
履修上の指導・留意点	欠席が6回になると原則試験は受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

授業科目	韓国語						
担当教員	崔貞美						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010250
免許資格 関連事項							

授業の概要	基礎韓国語の授業を終了していることを前提に授業を行います。「語彙と表現」「文型練習」「会話練習」の3つの学習内容で授業を進めます。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ハングル（文章）を読めるようにします。 ・様々な場面での日常会話ができるようにします。
授業計画	<p>第1回 前期の復習</p> <p>第2回 第4課 今どこに行きますか？（動詞）</p> <p>第3回 第4課 今どこに行きますか？（文型練習、会話練習）</p> <p>第4回 第4課 今どこに行きますか？（読む、書く、聴く）</p> <p>第5回 まとめ、小テスト、文化（韓国の食べ物①）</p> <p>第6回 第5課 趣味は何ですか？（～ます、～ますか）</p> <p>第7回 第5課 趣味は何ですか？（文型練習、会話練習）</p> <p>第8回 第5課 趣味は何ですか？（読む、書く、聴く）</p> <p>第9回 まとめ、小テスト、文化（韓国の食べ物②）</p> <p>第10回 第6課 運動靴を買いたいです（形容詞）</p> <p>第11回 第6課 運動靴を買いたいです（文型練習、会話練習）</p> <p>第12回 第6課 運動靴を買いたいです（読む、書く、聴く）</p> <p>第13回 まとめ、小テスト、年賀状提出</p> <p>第14回 グループで会話</p> <p>第15回 総まとめ、会話の練習</p> <p>定期試験（筆記試験、会話テスト）</p>
テキスト	いよいよ韓国語（朝日出版社）定価 2,400 円
参考文献	授業において適宜紹介します。※プリント配布
評価方法	期末試験 60 点、会話テスト 30 点、小テスト、課題提出、出席状況等で 10 点、総合 100 点満点で評価します。
自己学習に 関する指針	学習内容をチェックして、未修のところは復習を通して自律的に学習していくことが大切です。
履修上の 指導・留意点	欠席が6回になると原則試験を受けられません（但し、公欠の場合は事前に公欠届を提出すること）。

授業科目	基礎タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010260
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>初学者を対象として、タイ語の基礎を身に付けることを目標とする。タイ語特有の文字とイントネーションは日本人にはなじみがなく難しく感じられるが、子音字と母音符号の発音と書き方、声調規則を段階的・体系的に学び、繰り返し練習をすれば、誰にでも習得が可能である。授業では、可能な限り発音と書き方の練習に時間を割き、知識の定着を図りたい。ただし、文字と発音の練習ばかりでは飽きてしまうので、これらと並行して日常会話で使われる平易な表現や基本単語も学習する予定である。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 子音字と母音符号のしくみを理解し、正しく発音できる。 (2) 基本的な単語を読んだり書いたりできる。 (3) 声調規則にしたがって、正しいイントネーションで発音できる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 子音字と高・中・低子音字の区別 第3回 高子音字と低子音字 (1) 基本的な子音字 第4回 高子音字と低子音字 (2) 基本的な子音字 (続き) 第5回 高子音字と低子音字 (3) 低子音字の高子音字化 第6回 中子音字と無気音・有気音の区別 第7回 母音符号 (1) 基本的な母音 第8回 母音符号 (2) 基本的な母音 (続き) 第9回 母音符号 (3) 二重母音とその他の母音 第10回 末子音 第11回 声調規則 (1) 高子音字と声調記号 第12回 声調規則 (2) 低子音字と声調記号 第13回 声調規則 (3) 中子音字と声調記号 第14回 声調規則 (4) 末子音による声調の変化 第15回 まとめ</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	期末試験 (40%)、小テスト (40%)、出席状況および授業への取り組み (20%) に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・ 毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の指導・留意点	

授業科目	タイ語						
担当教員	増原善之						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010270
免許資格 関連事項							

授業の概要	「基礎タイ語」の既履修者を対象として、会話・コミュニケーション力の向上を目標とする。授業では基礎的な文法や単語の意味を理解するだけでなく、音声教材を利用しながら会話練習を繰り返すことにより「使えるタイ語」が身につくようにしたい。平易な内容であればタイの人びととなんとか意思疎通ができるというレベルを目指している。語学の学習に加え、動画等の視聴を通してタイ語の生きた表現に触れながら、タイの社会や文化に対する関心を高めていきたい。
授業の到達目標	(1) 基礎的な文法が理解できる。 (2) 平易な文を読んだり書いたりできるようになる。 (3) 簡単な日常会話レベルのタイ語が身につく。
授業計画	第1回 「基礎タイ語」の復習 第2回 こんにちは 第3回 お名前は何ですか？ 第4回 あなたは大学生ですか？ 第5回 お仕事は何ですか？ 第6回 タイ語がとても上手ですね 第7回 これは何ですか？ 第8回 どのように行けばいいですか？ 第9回 この電車はチャトゥチャックに行きますか？ 第10回 どこにいます（あります）か？ 第11回 どこに行って来ましたか？ 第12回 どのように売りますか？ 第13回 何時ですか？ 第14回 何曜日に生まれましたか？ 第15回 まとめ
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	宮本マラシー・村上忠良『世界の言語シリーズ9 タイ語』大阪大学出版会
評価方法	期末試験（40%）、小テスト（40%）、出席状況および授業への取り組み（20%）に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・毎回、宿題を出すので、しっかり復習をしてほしい。
履修上の指導・留意点	・本科目は「基礎タイ語」の既履修者または初歩的なタイ語（文字の読み書きができる程度）を学んだ経験のある者を対象としている。

授業科目	基礎インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010280
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>インドネシア語の初学者を対象とし、インドネシア語の基礎を身に付けることを目標とする。教科書に基づいて段階的に文法を学習しながら基本的な単語を修得していく。特に、日常会話について、インドネシア語でコミュニケーションがとれるようになることを目指し、発音練習や会話練習を積極的に行う。また、語学にあわせて、インドネシアの生活習慣などについても映像資料等を用いながら解説し、その内容を会話表現等に結びつけて解説を行なう。</p>
授業の到達目標	<p>(1) インドネシア語の発音を学び、文章を見て音読できるようになる。 (2) 基礎となる単語・文法を身につけ、自己紹介や簡単な会話をできるようになる。 (3) 語学とあわせて、インドネシアの文化や生活習慣について、理解できるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 インドネシア語の特徴と発音 第2回 1. 指示代名詞 第3回 2. あいさつ・3. 名詞の否定詞 第4回 4. 人称代名詞 第5回 5. 場所を示す前置詞 第6回 6. 動詞・形容詞の否定詞 第7回 1-6課の復習・まとめ 第8回 7. 疑問詞のつかない疑問文 第9回 8. 限定形容詞・所有格 第10回 9. 助動詞・語順 第11回 10. 時制 第12回 7-10課の復習・まとめ 第13回 11. 数字 第14回 12. 日付・曜日 第15回 13. 時間</p>
テキスト	舟田京子 2004 『やさしい初歩のインドネシア語』 南雲堂
参考文献	降幡正志 2014 『インドネシア語のしくみ』 白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子 (編) 2013 『現代インドネシアを知るための60章』 明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に関する指針	<p>(1) 基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2) 新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。</p>
履修上の指導・留意点	<p>(1) 積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2) 出された課題は、必ず済ませてくること。</p>

授業科目	インドネシア語						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	基礎科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1010290
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>「インドネシア語基礎」の受講者を対象とし、インドネシア語で簡単な会話ができるようになることを目標とする。教科書に基づき文法を学習しながら、接辞についても学んでいく。インドネシア語でコミュニケーションできるようになるため、「読む」「書く」「聞く」「話す」力を総合的に身に付けていく。また、語学にあわせてインドネシアの生活習慣などについても、映像資料等を用いながら解説し、語学への関心を深めつつ日常会話で使える表現を学習する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 接辞を身に付けることで辞書が引けて、簡単な文章を読むことができるようになる。 (2) 旅行の際に必要な基本的な表現を身につけ、活用できるようになる。 (3) 簡単な会話がインドネシア語でできるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 14. 疑問詞 第2回 15. 関係代名詞 第3回 16. 所有を表す語 第4回 14-16 課の復習・まとめ 第5回 21. 複数形・22. 副詞 第6回 23. 原級・比較級・最上級 第7回 24. 単純動詞・ber 動詞 第8回 25. me 動詞 第9回 21-25 課の復習・まとめ 第10回 26. 命令形 第11回 27. 受動態 第12回 28. me-kan 動詞 第13回 29. me-i 動詞 第14回 member 動詞 第15回 接頭辞・接尾辞</p>
テキスト	舟田京子 2004 『やさしい初歩のインドネシア語』 南雲堂
参考文献	降幡正志 2014 『インドネシア語のしくみ』 白水社 村井 吉敬・佐伯 奈津子 (編) 2013 『現代インドネシアを知るための 60 章』 明石書店
評価方法	小テスト 40% 期末試験 60%
自己学習に関する指針	<p>(1) 基礎となる単語をしっかりと覚える。 (2) 新しい文法事項については、練習問題などを通じて身に付くよう努力する。</p>
履修上の指導・留意点	<p>(1) 積み上げが大事なので、単語と文法について、毎週しっかりと授業時間外にも復習すること。 (2) 出された課題は、必ず済ませてくること。</p>

【地域文化学科】 学 科 基 础 课 目

授業科目	スタートアップセミナー I						
担当教員	地域文化学科専任教員						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M3010010
免許資格 関連事項							

授業の概要	大学教育において必要とされる基礎的な学習の方法を学び、各ゼミでの演習を通じて身に付ける。大学教育への導入、大学教育での必要な技術を、地域に関わるテーマを題材として身に付ける。事前・事後学習でのグループ学習、プレゼンテーション、意見交換など、学生参加型の演習を行ない、さらにレポート課題を通じて、書く能力を身に付ける。
授業の到達目標	大学で学ぶことの意義を認識し、大学教育において必要とされる基礎的な学習の方法を学び、身に付けることを目標とし、口頭発表・文章による表現の基礎力向上を図る。
授業計画	<p>第1回 地域文化学科ガイダンス1：学科の学びの仕組み 「スタートアップセミナーI・II」について、履修指導など</p> <p>第2回 基礎的な学習方法1：ノートの取り方</p> <p>第3回 キャンパス講習会1：心と身体の健康（小村講師、手島主任看護師） 大講義室</p> <p>第4回 基礎的な学習方法2：テキストの読み方</p> <p>第5回 キャンパス講習会2：ネット被害・マルチ商法対策（島根県消費者センター） 大講義室</p> <p>第6回 基礎的な学習方法3：レポートの書き方①形式</p> <p>第7回 キャンパス講習会3：交通安全（松江警察署） 大講義室</p> <p>第8回 基礎的な学習方法4：資料の探し方①情報源の利用</p> <p>第9回 キャンパス講習会4：防犯の心構えと護身術（松江警察署） 体育館アリーナ</p> <p>第10回 基礎的な学習方法5：資料の探し方②文献情報の読み方・書き方</p> <p>第11回 キャンパス講習会5：人権セミナー（人権啓発推進センター） 大講義室</p> <p>第12回 基礎的な学習方法6：レポートの書き方②テーマ設定</p> <p>第13回 キャンパス講習会6：ブラックバイト対策（島根労働局） 大講義室</p> <p>第14回 基礎的な学習方法7：レポートの書き方③本論・結論・序論</p> <p>第15回 基礎的な学習方法8：レポートの書き方④推敲・共有 レポート提出</p>
テキスト	特になし（授業中に配布）
参考文献	授業中に指示
評価方法	<p>①【聴く力】ワークシート 30%</p> <p>②【発言力】ゼミの取り組み 20%</p> <p>③【発表力】プレゼンテーション 20%</p> <p>④【書く力】レポート 30%</p>
自己学習に関する指針	ノートパソコンの活用にか力を入れること
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・この科目はホームルームの役割があり、重要な連絡や配布などの伝達事項が多いので注意すること ・欠席の場合は事前に連絡すること ・図書館講習を受けること

授業科目	スタートアップセミナーⅡ						
担当教員	地域文化学科専任教員						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M3010020
免許資格 関連事項							

授業の概要	学習の方法および研究の基礎となる知識や方法を学び、研究入門、基礎的な学習・研究の方法について、各ゼミでの演習を通じて身に付ける。資料の収集方法、資料の活用・分析の仕方、レポートのまとめ方などをテーマに、グループ学習、プレゼンテーションなど、学生参加型の授業を展開し、レポート課題によって書く力を身に付ける。
授業の 到達目標	大学で学ぶことの意義を認識し、大学教育において必要とされる基礎的な学習の方法を学び、研究の基礎を身に付けることを目標とし、資料処理能力、口頭・文章による表現力を高める。
授業計画	<p>第1回 地域文化学科ガイダンス：「スタートアップセミナーⅡ」について、履修指導など</p> <p>第2回 基礎的な学習・研究方法1：研究テーマの設定</p> <p>第3回 基礎的な学習・研究方法2：資料の収集方法</p> <p>第4回 ライフデザインスキルの測定</p> <p>第5回 基礎的な学習・研究方法3：資料の活用方法</p> <p>第6回 客員教授講演会</p> <p>第7回 基礎的な学習・研究方法4：資料の分析方法</p> <p>第8回 基礎的な学習・研究方法5：グループディスカッション</p> <p>第9回 基礎的な学習・研究方法6：レポートのまとめ方</p> <p>第10回 キャリア講座</p> <p>第11回 基礎的な学習・研究方法7：ゼミ別発表リハーサル</p> <p>第12回 全体発表会1（6グループ）</p> <p>第13回 全体発表会2（6グループ）</p> <p>第14回 全体発表会3（6グループ）</p> <p>第15回 基礎的な学習・研究方法7：後期学習の振り返り、コースの選択について レポート提出</p>
テキスト	特になし
参考文献	特になし
評価方法	<p>①【聴く力】ワークシート 25%</p> <p>②【資料収集力・分析力・活用力】 15%</p> <p>③【発表力】プレゼンテーション 30%</p> <p>④【書く力】レポート 30%</p>
自己学習に 関する指針	ノートパソコンの活用に力を入れること
履修上の 指導・留意点	<p>・この科目はホームルームの役割があり、重要な連絡や配布などの伝達事項が多いので注意すること</p> <p>・欠席の場合は事前に連絡すること</p>

授業科目	キャリアデザイン I						
担当教員	岩田 英作						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M3010030
免許資格 関連事項							

授業の概要	自分や社会を知りながら、「生き方」「大学生生活の過ごし方」「大学で何を学ぶか」を自分で考え、行動するきっかけをつくる。社会人インタビュー、グループ活動など学生主体の授業を通して、大学生生活を自らデザインさせる。
授業の到達目標	積極的に人の話を聴き、自分の意見を分かりやすく伝えられる。 社会で求められる力や PDCA サイクルを理解し、日々の行動で意識することができる。 業界・業種・企業・職種について理解し、その調べ方がわかる。 自己理解・社会理解を深め、将来に向けた行動計画を立てることができる
授業計画	<p>【講義内容】</p> <p>第1回 オリエンテーション<キャリアデザインとは>「大学生基礎力レポート I」の説明 第2回 コミュニケーションの重要性 第3回 話を聴く わかりやすく説明する 第4回 自分について考えよう～自分らしさとは～ 第5回 自分の強みは？大学で伸ばしたい力を考える 第6回 社会に出るとは 第7回 社会が求める人材 社会人インタビュー 第8回 社会人インタビューの発表 第9回 業界・業種について考えよう～地元企業の研究～ 第10回 業界・業種研究発表 職種・資格について考えよう 第11回 職種・資格研究発表 第12回 社会と学問の関係は？地域文化学科での学びの意味を考えよう 第13回 キャリアデザインマップ作成 第14回 キャリアデザインマップ～プレゼン①～ 第15回 キャリアデザインマップ～プレゼン②～</p>
テキスト	MY CAREER NOTE I ADVANCE
参考文献	なし
評価方法	<p>平常点 50%</p> <p>授業で使用するコミュニケーションシート（講師が毎回テーマを指定します）の提出状況、講義への参加態度（主体性、積極性、協調性など）等で評価します。</p> <p>課題 20%</p> <p>「社会人インタビュー」「会社についてリサーチしよう/私の目指す職種と適性、資格」の2つの課題を行います。課題の記入状況で評価します。</p> <p>最終課題 30%</p> <p>キャリアデザインマップのプレゼンと提出したシートで評価します。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	大学生基礎力レポート I を春学期に受験予定

授業科目	キャリアデザインⅡ						
担当教員	岩田 英作						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010040
免許資格 関連事項							

授業の概要	地元企業の事例をもとに、課題解決のトレーニングを行う。本授業では、一人一人が主体的にチーム活動を行うなかで、課題解決を行う。社会で求められる主体的な態度とチームの問題解決を鍛える授業。
授業の到達目標	積極的に人の話を聴き、自分の意見を分かりやすく伝えられる。 与えられた課題を解決するためにはどうしたらよいかを自分で考え、仲間と協力しながら行動に移せる。 企業や仕事について調べ、学生生活で身につけるべきことが理解できる。 自己理解、社会理解を深め、将来に向けた行動計画を立てられる。
授業計画	<p>【講義内容】</p> <p>第1回 オリエンテーション・マインドセット 第2回 課題①の提示（企業参加予定） 第3回 グループ活動（議論・情報収集） 第4回 課題①一次（中間）プレゼン 第5回 グループ活動（議論・情報収集） 第6回 課題①最終プレゼン・評価（企業参加予定） 第7回 振り返り 第8回 課題解決・議論のスキルとは 第9回 課題②の提示（企業参加予定）※課題①とは別の企業 第10回 グループ活動（議論・情報収集） 第11回 課題②一次（中間）プレゼン 第12回 グループ活動（議論・情報収集） 第13回 課題②最終プレゼン・評価（企業参加予定） 第14回 振り返り 第15回 全体の振り返り・今後の大学の学びの検討 ※大学生基礎力レポートⅡの結果使用</p>
テキスト	PROJECT SUPPORT NOTEBOOK
参考文献	なし
評価方法	<p>平常点 50%</p> <p>授業で使用するコミュニケーションシート（講師が毎回テーマを指定）の提出状況、講義やグループ活動への参加態度（主体性、積極性、協調性）等で評価。</p> <p>プレゼン 40%</p> <p>2回のプレゼンを、それぞれ20%ずつで、チームごとの評価。</p> <p>最終課題 10%</p> <p>最終授業で課すレポート（自分Project宣言）で評価。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	大学生基礎力レポートⅡの受験については別途連絡

授業科目	キャリアデザインⅢ						
担当教員	岩田 英作						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M3010050
免許資格 関連事項							

授業の概要	就活の実践力育成を目的とする授業。納得のいく就活を進めるために必要な知識を身に付け、実際に活用できるトレーニングを行う。
授業の到達目標	就活の流れについて知る。 就活に必要な知識とスキルを知り、活用できるようになる。
授業計画	<p>【講義内容】</p> <p>第1回 オリエンテーション 大学生基礎力レポートⅡ 自宅受験説明</p> <p>第2回 就活の基本的な流れ、スケジュールと現在の就活環境</p> <p>第3回 就活情報収集方法</p> <p>第4回 職種・業種の理解</p> <p>第5回 自己分析～自分のやりたいことを考える～</p> <p>第6回 エントリーシートの目標と評価ポイント</p> <p>第7回 自己PRを作成してみる</p> <p>第8回 志望動機を作成してみる</p> <p>第9回 筆記試験の目的と種類</p> <p>第10回 マナーの基本 あいさつ 手紙の書き方</p> <p>第11回 面接・グループディスカッションの説明と評価のポイント</p> <p>第12回 模擬面接（集団面接）</p> <p>第13回 模擬面接（集団面接）</p> <p>第14回 模擬グループディスカッション</p> <p>第15回 まとめ 就活スケジュールの作成</p>
テキスト	MY CAREER NOTE Ⅲ
参考文献	なし
評価方法	<p>平常点 60 点</p> <p>授業で使用するコミュニケーションシート（講師が毎回テーマを指定）の提出状況、講義への参加態度（主体性、積極性、協調性）等で評価。</p> <p>課題 30%</p> <p>エントリーシート課題を提出。</p> <p>最終課題 10%</p> <p>作成する就活行動計画表で評価。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	アセスメントシートを使用

授業科目	インターンシップ						
担当教員	岩田 英作						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010060
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>企業・官公庁・NPO法人等で行う一定期間の就業体験（実地訓練・実習的勤務）と本学での事前・事後授業を合わせて行うことで、社会で必要とされる力、職業や業界に関する知識や「働くことの意味」、将来の自分の仕事について理解を深める。インターンシップの意義とキャリア形成との関連性、インターンシップ先の探し方等について説明する。また、ビジネスマナー研修や社会人として必要になる姿勢等も学ぶ。</p> <p>支援機関（ジョブカフェしまね）のプログラムを利用してインターンシップ実習を行う。インターンシップの事後授業では、「インターンシップでの学びを、その後の学生生活、就職活動、社会人生活にどのように活かすのか」等について学習する。</p>
授業の到達目標	<p>①インターンシップ（就業体験）の目的と意義、キャリア形成の関連性について説明できる。</p> <p>②受け入れ先企業・団体、業界理解のもとに立てた目的を振り返ることができる。</p> <p>③働くなかで自己理解を深め、今後自ら養うべき能力を自覚し、成長プランを持つ。</p> <p>④TPOをわきまえたビジネスマナーを実践することができる。</p> <p>⑤コミュニケーションほか、職場で求められる能力について理解し、説明することができる。</p> <p>⑥インターンシップで得た学びについて説明でき、その後の学生生活で活用する行動につなげる。</p>
授業計画	<p>【事前授業】 <5月～6月頃></p> <p>(1) インターンシップの目的・意義、インターンシップとキャリア形成について (2) インターンシップ先の情報収集、応募書類の記入方法のガイダンス (3) 応募書類・自己PRの記載アドバイスセミナー</p> <p><7月頃></p> <p>(4) インターンシップ・直前準備講座（就業体験に必要なビジネスマナーを含む）</p> <p>【インターンシップ実習】 (5) 夏季（夏休み）期間中に原則（30時間以上又は）5日以上の就業体験を実施する。 インターンシップ先により、実習時期や期間が異なるため学業に支障が無い範囲で参加する。</p> <p>【事後授業】 <9月～10月頃></p> <p>(6) インターンシップ成果報告会での発表（学外インターンシップ関係者招聘） (7) インターンシップ振り返り講座、学習成果・今後の課題をまとめる</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	
評価方法	インターンシップ実習前の取り組み・インターンシップ研修日誌・就業体験事業所からの評価シート・事後報告を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	不定期開講のため、日程に留意すること。

授業科目	総合英語 I (多読)						
担当教員	Lange Kriss						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010070
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○中学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p>						

授業の概要	英語多読により英語の運用力を高め、総合的な英語力を向上させることを目標とする。楽しさを実感できる読書を通して、自立的で持続的な学習習慣を身に付けさせる。授業では、本学の多読ライブラリーから自分の読みやすさレベル (YL)、興味にあった本を選んで自由に読み進め、大量の英語をインプットすることで、英語を英語のまま理解できるようにし、1分間に 100~130 語以上の速度で読めるようにしていく。教員は、速読トレーニングや多読本の紹介を行なう他、音読指導などを行い、学生の多読を支援していく。
授業の到達目標	英語多読により英語の運用力を高め、総合的な英語力を向上させる。
授業計画	<p>毎回速読トレーニングと読書を行い、それに加えて以下の内容を実施する</p> <p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 実力確認・読書量・ペースの設定</p> <p>第 3 回 ディスカッションを含めたグループワーク (YL 0.5 ~)</p> <p>第 4 回 リスニング・音読・語彙テスト (YL 0.5 ~)</p> <p>第 5 回 ペアワーク (YL 0.5 ~)</p> <p>第 6 回 ディスカッションを含めたグループワーク (YL 1.0 ~)</p> <p>第 7 回 リスニング・音読・語彙テスト (YL 1.0 ~)</p> <p>第 8 回 ペアワーク (YL 1.0 ~)</p> <p>第 9 回 ディスカッションを含めたグループワーク (YL 1.5 ~)</p> <p>第 10 回 リスニング・音読・語彙テスト (YL 1.5 ~)</p> <p>第 11 回 ペアワーク (YL 1.5 ~)</p> <p>第 12 回 ディスカッションを含めたグループワーク (YL 2.0 ~)</p> <p>第 13 回 リスニング・音読・語彙テスト (YL 2.0 ~)</p> <p>第 14 回 ペアワーク (YL 2.0 ~)</p> <p>第 15 回 まとめ</p>
テキスト	めざせ 100 万語! 読書記録手帳 コスモピア
参考文献	読書記録はムードル上で行う
評価方法	授業への取り組む姿勢・・・30 点、語彙テスト・・・20 点、読書量・・・30 点 ペアワーク、グループワーク・・・20 点
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	総合英語Ⅱ (リスニング)						
担当教員	マユー あき						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010080
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》</p> <p>・外国語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》</p> <p>・外国語コミュニケーション</p> <p>○中学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》</p> <p>・英語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》</p> <p>・英語コミュニケーション</p>						

授業の概要	英語の音声に関わる基本事項 (母音・子音の発音、音変化、強弱リズム、イントネーション) についての知識を身に付け、その知識をトレーニングによりリスニングとスピーキングの実践的技能として体得することを目標とする。授業では、パラレル・リーディング、シャドーイング、ディクテーションを中心としたトレーニングを行う。それにより、英語の正しい音声イメージと様々な話題や状況で実際によく使われる口語表現を内在化させ、リスニングとスピーキングの力を養う。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語音声に関わる基本事項を理解している。 ・英語の発音、リズムやイントネーション、音変化の基本を体得している。 ・日常の様々な場面で使える語彙や表現パターンを習得し、英語で積極的にコミュニケーションをとろうとする姿勢を身に付けている。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション</p> <p>第2回 プレテスト (Pretest)</p> <p>第3回 シャドーイングに挑戦 (Give it a try to Shadowing)</p> <p>第4回 シャドーイング・トレーニング (シャド・トレ) : His last words (プロソディ・シャドーイング)</p> <p>ディクテーション&会話練習 (ディクテ&会話) : Unit 1 Getting to Know Someone</p> <p>第5回 シャド・トレ : His last words (コンテンツ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 2 Greetings and Farewells</p> <p>第6回 シャド・トレ : You' re never too old to learn (プロソディ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 3 Joining Clubs</p> <p>第7回 シャド・トレ : You' re never too old to learn (コンテンツ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 4 Working Part-time</p> <p>第8回 シャド・トレ : You never know! (プロソディ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 5 Making Appointments</p> <p>第9回 シャド・トレ : You never know! (コンテンツ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 6 Computers, E-mail and the Internet</p> <p>第10回 シャド・トレ : It could happen to you (プロソディ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 7 Getting Together</p> <p>第11回 シャド・トレ : It could happen to you (コンテンツ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 8 Making Holiday Plans</p> <p>第12回 シャド・トレ : No more excuses! (プロソディ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 9 Showing Someone the Way</p> <p>第13回 シャド・トレ : No more excuses! (コンテンツ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 10 Getting Credits</p> <p>第14回 シャド・トレ : I was born too soon! (プロソディ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 11 Telephoning and Faxing</p> <p>第15回 シャド・トレ : I was born too soon! (コンテンツ・シャドーイング)</p> <p>ディクテ&会話 : Unit 12 Driving</p> <p>定期試験 (ポストテスト (Posttest))</p>

テキスト	シャドーイング・トレーニング： プリントを配布 ディクテーション&会話練習： 山口俊治・Timothy Milton 著 『話すための口語英語リスニング』（成美堂）
参考文献	なし
評価方法	授業への取り組み 30 点、課題 30 点、期末試験 40 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業で行ったトレーニングを、できるだけ毎日、短時間でよいので継続して取り組んでください。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	総合英語Ⅲ (リーディング)						
担当教員	松浦 雄二						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010090
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○中学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p>						

授業の概要	<p>まず、各段落における topic sentence と、そこから導かれ展開する議論、その段落内の結論的な sentence を発見し、段落の内容を見出し化し、段落ごとの主旨を把握する。さらにそのような個々の段落の文章全体の中での役割を考え、全体の構成をつかむ。必要に応じて、その論理的な流れの中でポイントになる箇所を、語彙使用の意味や文法事項などを確認しながら精読し、さらに今一度全体の文脈に置いて再考する読みの往還作業により、内容把握の精度を高めていく。教材として様々なジャンルの文章を用い、ジャンルによる論理展開に一定のパターンがあるか確認しながら、英語を予復習する。なお、各回の授業の終わりには、English confirmation (英語による口頭での内容確認) を行う。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・段落単位で正確かつ、より早く論点をつかむ力を身に付けることができる。 ・書き手の論点を全体として把握できる論理的判断力を養う。 ・ジャンルによる論理展開の形式 (フォーマル・スキーマ) を習得する。
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第 1 回 イントロダクション～リーディングにおけるフォーマル・スキーマ (パラグラフ・文章の形式における背景知識)</p> <p>第 2 回 マニュアル、レシピなどのタイプの英文リーディング</p> <p>第 3 回 議論を提起するパターンを持つ英文のリーディング その 1 論文</p> <p>第 4 回 議論を提起するパターンを持つ英文のリーディング その 2 メディア英語</p> <p>第 5 回 社説・論説のパターンを含んだ英文のリーディング その 1 新聞</p> <p>第 6 回 社説・論説のパターンを含んだ英文のリーディング その 2 インターネットから</p> <p>第 7 回 社説・論説のパターンを含んだ英文のリーディング その 3 演説</p> <p>第 8 回 社説・論説のパターンを含んだ英文のリーディング その 4 論文</p> <p>第 9 回 対比的な記述によって説明的に議論展開するパターンなどを含んだ英文のリーディング 演説</p> <p>第 10 回 対比的な記述によって説明的に議論展開するパターンなどを含んだ英文のリーディング 論文</p> <p>第 11 回 文学的情景描写あるいはそれに類する記述を含む英文のリーディングその 1 小泉八雲「神々の国の首都」より</p> <p>第 12 回 文学的情景描写あるいはそれに類する記述を含む英文のリーディングその 2 小泉八雲「幼子の霊たちの洞窟で」より</p> <p>第 13 回 物語、または物語的記述を含む英文のリーディングその 1 ブルフィンチ『ギリシャ・ローマ神話』より</p> <p>第 14 回 物語、または物語的記述を含む英文のリーディングその 2 ラム『シェイクスピア物語』より</p> <p>第 15 回 フォーマル・スキーマの総まとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	卯城祐司編著『リーディングの科学』(研究社)ほか、授業において適宜紹介する。
評価方法	期末試験 (70 パーセント)、授業参加度 (担当の状況、毎回授業のコメント・シート記入、30 パーセント) により、合計 100 点満点で評価する。
自己学習に 関する指針	

履修上の 指導・留意点	
----------------	--

授業科目	総合英語Ⅲ (リーディング)						
担当教員	玉木祐子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010090
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○中学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p>						

授業の概要	<p>まず、各段落における topic sentence と、そこから導かれ展開する議論、その段落内の結論的な sentence を発見し、段落の内容を見出し化し、段落ごとの主旨を把握する。さらにそのような個々の段落の文章全体の中での役割を考え、全体の構成をつかむ。必要に応じて、その論理的な流れの中でポイントになる箇所を、語彙使用の意味や文法事項などを確認しながら精読し、さらに今一度全体の文脈に置いて再考する読みの往還作業により、内容把握の精度を高めていく。</p> <p>授業の終わりに次回授業の予習プリントを配布し、提出を求めることで予習の徹底を図り、円滑な授業展開を確保する。</p> <p>各回の授業の終わりには、各 Unit の練習問題を利用して English confirmation (英語による口頭での内容確認) を行う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・段落単位で正確かつ、より早く論点をつかむ力を身に付けることができる。 ・書き手の論点を全体として把握できる論理的判断力を養う。 ・Critical Reading (批判的読解) を習得する。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション・Quizlet の使い方</p> <p>第2回 Unit 1 Eigo Rakugo</p> <p>第3回 Unit 2 Silent CEOs</p> <p>第4回 Unit 3 Cappadocia</p> <p>第5回 Unit 4 Eco-cars</p> <p>第6回 Unit 5 Finance for Kids</p> <p>第7回 Unit 6 Jazz</p> <p>第8回 前半のまとめと確認</p> <p>第9回 Unit 7 Britain's National Trust</p> <p>第10回 Unit 8 How fast Can Humans Run</p> <p>第11回 Unit 9 Pitfalls of Statistics</p> <p>第12回 Unit 10 Hot Springs</p> <p>第13回 Unit 11 Abraham Lincoln</p> <p>第14回 Unit 12 Eating Oil</p> <p>第15回 授業のまとめと整理 定期試験</p>
テキスト	<p>Power Reading 2—Reading in Paragraph—(『パラグラフで読むリーディングスキル演習』)</p> <p>土屋武久・湯舟英一・B. Benfield 著, 成美堂</p>
参考文献	授業において適宜紹介する。
評価方法	中間試験 (40%)、期末試験 (40%)、平常点 (20%) を総合して評価する。なお、平常点は、出席状況、課題等の評価、授業への参加度等を総合的に勘案して得点化する。
自己学習に関する指針	Quizlet を用いて語彙の学習を徹底すること。

履修上の 指導・留意点	Quizlet を用いて語彙の学習を徹底すること。
----------------	---------------------------

授業科目	総合英語Ⅳ (英会話)						
担当教員	Lange Kriss、Dixon Heather						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010100
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・外国語コミュニケーション</p> <p>○中学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p> <p>○高等学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション</p>						

授業の概要	適切な英語表現と会話スキルを習得し、日常的な場面における英会話能力を向上させることを目標とする。授業では、ペアワーク・ロールプレイ・グループに分かれてのディスカッションを行い、あるトピックに関して英語で自分の考えや意見を明確に表現する力を養う。リスニング等のインプットを土台として、適切な表現と会話スキルを習得し、自然な会話力を身に付けていく。
授業の到達目標	あるトピックに関して、英語で自分の考えや意見を明確に表現できるようになる。
授業計画	<p>第 1 回 ガイダンス</p> <p>第 2 回 自己紹介・・・自分のことを話そう</p> <p>第 3 回 家族のことを話そう</p> <p>第 4 回 日常生活</p> <p>第 5 回 ペアワーク活動・・・自己紹介</p> <p>第 6 回 住宅</p> <p>第 7 回 ふるさと</p> <p>第 8 回 観光と旅行</p> <p>第 9 回 ペアワーク活動・・・旅行について</p> <p>第 10 回 レストラン</p> <p>第 11 回 人の説明</p> <p>第 12 回 物の説明</p> <p>第 13 回 プレゼンテーション・・・自分の経験を発表しよう</p> <p>第 14 回 友達について</p> <p>第 15 回 プレゼンテーション・・・自分の意見を発表しよう</p> <p>定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	授業中に提示する
評価方法	授業への取り組み姿勢・・・40 点、課題・・・30 点、定期試験・・・30 点
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	実践英語 I (TOEIC 対策)						
担当教員	藤吉 知美						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010110
免許資格 関連事項							

授業の概要	TOEIC 試験の問題演習を通して、語彙力・文法力・リスニング力・リーディング力を総合的に定着させながら、問題解法の本質を知ることで、スコアアップをはかることを目標とする。この授業では、先ず7つのパートにおける出題のされ方・特色、問題の捉えかた、解法のポイントを知る。これを踏まえ、問題の解答に必要なリスニングの練習を行いながら、基本的な語彙・文法事項の習得によって読解に必要な基礎力を定着させ、TOEIC を始めとする資格英語試験のための英語総合力を向上させていく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ TOEIC テストの各パートにおける解答力アップのポイントを学びながら、TOEIC テストがどのようなものであるかを知り、さまざまな練習問題を解いて、目標スコアを取得する。 ・ リスニングスキルを高めるために、音読や暗唱など声に出すプロセスを通じて、頻出表現や会話・トークの型を覚える。リーディング練習問題は、解いて答え合わせをするだけでなく、問題文における頻出表現、文法事項や解法ルールを理解できるよう繰り返し学習する。
授業計画	<p>第1回 導入 授業の進め方と評価方法について</p> <p>第2回 Pre-Test 現在の实力を知る。</p> <p>第3回 Unit 1 各パートの攻略ポイントを知る。</p> <p>第4回 Unit 2 人・物・風景のチェックポイント、文法問題と語彙問題の違いを知る。</p> <p>第5回 Unit 3 聞いてわかる生活語彙を増やす。高難度の文書・設問を見抜く。</p> <p>第6回 Unit 4 現在進行形を聞き取る。英文の基本構造を見抜く。</p> <p>第7回 Unit 5 様々な主語を聞き取る。チャット形式を読む。</p> <p>第8回 Unit 6 前置詞を聞き取る。広告を読む。</p> <p>第9回 Unit 7 現在完了形を聞き取る。Eメール・社内メモを読む。</p> <p>第10回 Unit 8 受動態を聞き取る。手紙を読む。</p> <p>第11回 Unit 9 種類の名詞を聞き取る。記事を読む。</p> <p>第12回 Unit 10 行為の目的を推測する。複数パッセージ問題を読む。</p> <p>第13回 Unit 11 意外な正解を聞き取る。照合作業が必要な設問を解く。</p> <p>第14回 Unit 12 質問で返す応答を聞き取る。NOT型設問を解く。</p> <p>第15回 Post-Test 到達点を測る。</p> <p>定期試験</p>
テキスト	Level-Up Trainer for the TOEIC Test (Cengage Learning)
参考文献	プリントして配布する。
評価方法	テスト (80%)、レポート (20%)
自己学習に関する指針	辞書を活用して予習を行うこと。
履修上の指導・留意点	授業への積極的な参加を評価します。

授業科目	実践英語Ⅱ (TOEIC 対策)						
担当教員	中井 誠一						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010120
免許資格 関連事項							

授業の概要	この授業では、英語コミュニケーション能力を測る試験 TOEIC の概要を学び、その傾向や解法スキルを習得し、演習問題を通して、英語の聴解力、文法力、読解力の増進を図り、スコア向上につなげる。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 応用的な文法力、読解力を身につけ、TOEIC のリーディング・セクションに対応できる。 ・ 短文レベルの英語や日常会話英語を聞き取るリスニング能力を身につけ、TOEIC のリスニング・セクションに対応できる。
授業計画	第1回 授業の解説 第2回 Unit 1: Travel—時制, テスト演習 01 第3回 小テスト 1, Unit 3: Media—能動・受動, テスト演習 02 第4回 小テスト 2, Unit 4: Entertainment—to 不定詞, テスト演習 03 第5回 小テスト 3, Unit 5: Purchasing—代名詞, テスト演習 04 第6回 小テスト 4, Unit 6: Clients—名詞, テスト演習 05 第7回 小テスト 5, 前半のまとめ 第8回 中間試験 (試験解説) 第9回 Unit 8: Personnel—副詞, テスト演習 06 第10回 小テスト 6, Unit 9: Advertisement—形容詞, テスト演習 07 第11回 小テスト 7, Unit 10: Meetings—前置詞, テスト演習 08 第12回 小テスト 8, Unit 11: Finance—接続詞, テスト演習 09 第13回 小テスト 9, Unit 13: Daily Life—関係代名詞, テスト演習 10 第14回 小テスト 10, Unit 14: Sales & Marketing—進行形 第15回 後半のまとめ TOEIC-Mini テスト 定期試験
テキスト	The High Road to The TOEIC Listening And Reading Test, 早川幸治 他著 (金星堂)
参考文献	適宜, 授業中に配布する。
評価方法	成績は、中間・期末試験 70 点、小テスト 20 点、平常点 10 点の合計 100 点で評価する。平常点では、出席状況、課題等の評価、授業への参加度などを総合的に勘案して、得点化する。
自己学習に関する指針	毎回割り当てられたテキストの予習・復習、及びオンライン課題をしっかりと行って授業に臨んでください。
履修上の指導・留意点	第1回目に、オンライン学習方法を含めた授業の解説を行いますので、必ず出席するようにしてください。

授業科目	実践英語Ⅲ (観光英検英語)						
担当教員	玉木 祐子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010130
免許資格 関連事項							

授業の概要	観光英検 3 級の取得に向けて、頻出単語・熟語、重要表現等を学びつつ、過去問題を学習し、受験に対応可能な英語能力を習得することを目標とする。講義では毎回、検定に向けて観光に関する重要表現及び過去の出題傾向から精査した重要単語・熟語の小テストを実施し、学習者の進捗状況を確認する。このため、毎回の授業準備は必須である。また、オンライン教材を用いることで、観光英検受験に必要とされる国内外観光の基礎知識を体系的に学習する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・観光英検 3 級を取得する。 ・実務に使用可能な国内外の観光に関する基礎知識を修得する。
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション / 観光英検の概要, Quizlet の使い方</p> <p>第 2 回 リーディング演習 コミュニケーションの問題</p> <p>第 3 回 リスニング演習 写真描写/イラスト描写の問題</p> <p>第 4 回 リーディング演習 英文構成の問題</p> <p>第 5 回 リスニング演習 対話に関する内容把握</p> <p>第 6 回 リーディング演習 英文読解の問題</p> <p>第 7 回 リスニング演習 会話に関する内容把握</p> <p>第 8 回 リーディング演習 海外観光と国内観光の問題</p> <p>第 9 回 リスニング演習 観光事情に関する内容把握</p> <p>第 10 回 問題演習</p> <p>第 11 回 問題演習</p> <p>第 12 回 観光に関する基礎知識・空港</p> <p>第 13 回 観光に関する基礎知識・機内</p> <p>第 14 回 観光に関する基礎知識・文化事情</p> <p>第 15 回 観光に関する基礎知識・文化事情</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・『観光英検 3 級の過去問題+解答と解説 第 23 回~25 回 CD 付』 - 2012/8/29 ・山口 百々男 (監修), 全国語学ビジネス観光教育協会 観光英検センター (三修社) ・参考 URL : Quizlet: https://quizlet.com/class/170782/
参考文献	なし
評価方法	中間試験 30% / 期末試験 30% / 小テスト 30%/ 授業参加度 (発言等) 10%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	コンピュータ・リテラシー I						
担当教員	加藤 暢恵、小倉 佳代子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M3010140
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・情報機器の操作 ○高等学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・情報機器の操作						

授業の概要	教育現場で必要となる情報機器の操作技術及び情報処理能力を学ぶ。具体的には、入力・タイピング、電子メールの利用、インターネットに関する基本的な知識・倫理と技能、ワープロソフト(文書・図形・表)、表計算ソフト(計算・関数・グラフ)、プレゼンテーションソフトの初級から中級にかけての能力を習得する。習熟度によって 2 クラス編成とする。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報機器操作の基礎的な知識・技能を習得する。 ・情報モラルについての知識をもち、正しく行動できる。
授業計画	第 1 回 コンピュータの基礎、インターネットの基礎 第 2 回 Windows の基礎知識、電子メールの利用 第 3 回 情報モラルと著作権 第 4 回 文書作成の基本操作 第 5 回 表を用いた文書作成 第 6 回 文書の編集 第 7 回 図を用いた文書作成 第 8 回 長文作成サポート機能を用いた文書作成 第 9 回 表計算ソフトの基本操作 第 10 回 表計算ソフトによる表の作成と編集 第 11 回 表計算ソフトによるグラフの作成 第 12 回 プレゼンテーション作成の基本操作 第 13 回 図やオブジェクトの挿入と編集 第 14 回 図表の挿入と特殊効果の設定 第 15 回 総合演習
テキスト	「30 時間アカデミック情報リテラシーOffice2013」 実教出版 杉本くみ子、吉田栄子著
参考文献	特になし
評価方法	各回の課題レポート 70%、総合演習課題レポート 30%により評価する。定期試験は行わない。
自己学習に関する指針	課題レポートを課すので、自身の理解度把握及び復習に役立てること。
履修上の指導・留意点	演習中心の授業であるため、不明な点については質問するなどして早めの解決を図ること。

授業科目	コンピュータ・リテラシーⅡ						
担当教員	加藤 暢恵、小倉 佳代子						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	1	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	必修	単位数	1	授業コード	M3010150
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・情報機器の操作 ○高等学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教育職員免許法施行規則第 66 条の 6 に定める科目》 ・情報機器の操作						

授業の概要	教育現場で必要となる情報機器の操作技術及び情報処理能力を学ぶ。具体的には、ワープロソフト、表計算ソフト、プレゼンテーションソフトの中級以上の能力を習得し、調査・レポート作成に応用できる実践力を身に付ける。習熟度によって 2 クラス編成とする。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・コンピュータの知識及び技能の理解を深める。 ・情報機器の操作に関する基礎的な知識・技能を調査やレポート作成に応用できる。
授業計画	第 1 回 文書作成の基本操作 第 2 回 テンプレートを用いた文書作成 第 3 回 さまざまな書式設定と差し込み印刷 第 4 回 校閲用の文書の作成と文書の保護 第 5 回 索引、目次、アウトラインを用いた文書作成 第 6 回 表計算の基本操作 第 7 回 関数を用いたデータ集計、データ検索 第 8 回 文字列操作関数による書式設定、条件付論理の使用 第 9 回 高度な機能を用いた数式の作成 第 10 回 高度なグラフの作成、ピボットテーブルの作成 第 11 回 プレゼンテーション作成の基本操作 第 12 回 スライドマスタを用いたプレゼンテーション作成 第 13 回 プレゼンテーションの保護と共有 第 14 回 スライドコンテンツの作成演習 第 15 回 総合演習
テキスト	テキストは特に指定しない。適宜、資料を配付する。
参考文献	「30 時間アカデミック情報リテラシー-Office2013」 実教出版 杉本くみ子、吉田栄子著
評価方法	各回の課題レポート 70%、総合演習課題レポート 30%により評価する。定期試験は行わない。
自己学習に関する指針	課題レポートを課すので、自身の理解度把握及び復習のために役立てること。
履修上の指導・留意点	演習中心の授業であるため、不明な点については質問するなどして早めに解決を図ること。

授業科目	情報サービス論						
担当教員	木内 公一郎						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3010160
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	地域課題及び地域住民の日常生活、学業、仕事等のあらゆる課題を解決するために、図書館において利用できる情報サービスの意義について理解することを目標とする。「情報サービスの意義と理論」「レファレンスサービス」「レフェラルサービス」「情報検索サービス」「参考図書・データベース等の情報源」「インターネット情報資源」「図書館利用教育」「発信型情報サービス (Web サイト、パスファインダ)」等について解説する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報サービスの理論を理解し、説明できるようになる。(知識) 2. レファレンスサービスのプロセスを理解する。(知識) 3. 基本的な情報源の特徴を理解し、その利用法が身に付く。(技能) 4. 地域課題を発見し、解決をする際に図書館を利用する習慣が身につくようになる。(態度)
授業計画	<p>第1回 講義 図書館と情報社会の関係並びに情報サービスの意義</p> <p>第2回 講義 情報サービスの種類：直接、間接サービス、課題解決支援サービスその他</p> <p>第3回 講義 レファレンスサービスの定義</p> <p>第4回 講義 図書館の教育機能と情報提供機能。レファレンスサービスの実践。</p> <p>第5回 講義 レファレンスサービスのプロセス</p> <p>第6回 講義 情報検索：論理演算、トランケーション機能、検索の評価</p> <p>第7回 講義 各種情報源の特質と利用法 (1) 情報メディア、文献を探し方</p> <p>第8回 講義 各種情報源の特質と利用法 (2) 論文・記事を探し方</p> <p>第9回 講義 各種情報源の特質と利用法 (3) 事項、事実の探し方</p> <p>第10回 演習 各種情報源の評価と解説 (1) 各種情報源の評価</p> <p>第11回 演習 各種情報源の評価と解説 (2) 各種情報源の評価</p> <p>第12回 講義 発信型情報サービス：レファレンス事例集、パスファインダー</p> <p>第13回 講義 知的財産権：著作権、工業所有権 (特許権、意匠権、肖像権)</p> <p>第14回 講義 情報リテラシー教育：情報リテラシー教育の方法と手段</p> <p>第15回 講義 地域課題と情報サービス</p>
テキスト	二村健『情報サービス論』 (ベーシック司書講座・図書館の基礎と展望4) 学文社 2013年
参考文献	随時紹介する。
評価方法	筆記試験 (80%) 授業中の演習課題 (20%)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。

授業科目	情報サービス演習						
担当教員	木内 公一郎						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010170
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館における情報サービスの中から、利用者からの質問に対して適切な回答を提供するレファレンスサービスの基礎知識と技術を身に付けることを目標とする。まず、探索事項ごとに代表的な「レファレンスツール」の特徴を理解するために、各種ツールの現物を参照しながら解題を作成する。そして、「レファレンスインタビュー」の実践及びレファレンスインタビューから分析された「レファレンス質問」に対し、各種ツールの特徴を理解しながら回答を作成する演習を通して実践的な能力を養成する。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. レファレンスコレクションの全体像を理解する。(知識) 2. レファレンスツールを使って、様々なタイプのレファレンス質問に調査回答することができるようになる。(技能) 3. 島根県特有の課題を調査し、回答する力が身につくようになる。(技能) 4. 利用者の情報ニーズを意識し、適切な対応ができるようになる。(技能, 態度)
授業計画	<p>第1回 講義 授業概要の説明。レファレンスコレクションのあり方と構築の方法</p> <p>第2回 演習 専門事典、書誌の評価(総記, 哲学, 歴史, 地理)</p> <p>第3回 演習 専門事典、書誌の評価(社会, 自然, 工学, 産業)</p> <p>第4回 演習 専門事典、書誌の評価(芸術, 言語, 文学, 地域資料)</p> <p>第5回 演習 レファレンスインタビュー: ロールプレイによる実践</p> <p>第6回 演習 文献の探し方: 所蔵調査の方法を学びます。</p> <p>第7回 演習 言葉に関する情報の探し方: 言葉のよみ、語源などの探し方を学びます。</p> <p>第8回 演習 地域に関する情報の探し方: 島根県に関する地域情報(1)</p> <p>第9回 演習 地域に関する情報の探し方: 島根県に関する地域情報(2)</p> <p>第10回 演習 歴史地理情報の探し方(1) 歴史的な事柄、地名などの探し方を学びます。</p> <p>第11回 演習 歴史地理情報の探し方(2) 歴史的な事柄、地名などの探し方を学びます。</p> <p>第12回 演習 人物、団体情報の探し方: 人物、団体情報の探し方を学びます。</p> <p>第13回 演習 法律情報の探し方: 法律情報の探し方を学びます。</p> <p>第14回 演習 総合演習(1): 地域課題に基づく、調査回答の実践</p> <p>第15回 演習 総合演習(2): 地域課題に基づく、調査回答の実践</p>
テキスト	原田智子『改訂情報サービス演習』(現代図書館情報学シリーズ7) 樹村房
参考文献	授業中に随時紹介する
評価方法	授業の演習課題(50%) 筆記試験(50%)
自己学習に関する指針	「情報サービス論」の復習をしておくこと。・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。

授業科目	情報検索						
担当教員	昌子 喜信						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3010180
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館における情報サービスの中から、主としてコンピュータを用いた情報検索の技術を身に付けることを目標とする。OPAC (国立国会図書館、各種図書館)、国立国会図書館サーチ、CiNii Articles、CiNii Books、Webcat Plus、サーチエンジン、その他代表的なデータベースを扱い、これら各種データベースの特徴を理解しながら、論理演算、検索式、検索結果の評価を行う演習を通して、実践的な能力を養成する。検索技術者検定3級のスキルの修得を到達目標とする。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報源としての各種データベースやインターネット情報の特性を理解し、適切な情報源を選択できるようになること。 2. 情報検索の基本的な技法(論理演算・トランケーション等)を使った検索ができるようになること。 3. 代表的なデータベースやインターネット検索の操作方法を修得し、効果的な検索ができるようになること。 4. 検索結果を評価し、評価結果を検索戦略にフィードバックしながら必要な情報を効率よく検索することができるようになること。
授業計画	<p>第1回 演習 授業ガイダンス/情報検索を体感しよう</p> <p>第2回 演習 情報資源と情報検索</p> <p>第3回 演習 図書を検索する(1) OPAC 検索と横断検索</p> <p>第4回 演習 図書を検索する(2) NDL-OPAC</p> <p>第5回 演習 図書を検索する(3) CiNii Books と NDL サーチ</p> <p>第6回 演習 まとめと総合演習(1) 図書を検索する</p> <p>第7回 演習 雑誌記事・論文を検索する(1) 雑誌記事索引と CiNii Articles</p> <p>第8回 演習 雑誌記事・論文を検索する(2) 電子ジャーナルと学術機関リポジトリ</p> <p>第9回 演習 見つけた文献を入手する</p> <p>第10回 演習 まとめと総合演習(2) 雑誌記事・論文を検索する</p> <p>第11回 演習 新聞記事を検索する</p> <p>第12回 演習 法令・判例を検索する</p> <p>第13回 演習 いろいろな情報を検索する 統計/人物・企業・団体情報</p> <p>第14回 演習 インターネットを検索する 検索エンジン</p> <p>第15回 演習 まとめと総合演習(3) 各種ツールを使いこなす</p> <p>定期試験</p>
テキスト	授業で使用する講義資料は授業サイトに掲載する他、必要に応じてプリント資料を配布する。
参考文献	<p>大谷康晴編. 情報検索演習. 日本図書館協会, 2011, (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅡ; 6)</p> <p>齊藤泰則, 大谷康晴共編著. 情報サービス演習. 日本図書館協会, 2015, (JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ; 7)</p> <p>原田智子ほか編. 情報検索演習. 三訂, 樹村房, 2006, (新・図書館学シリーズ, 6)</p>
評価方法	各回の小テスト(50%), 定期試験(50%)を総合して評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・各回の授業はPCを使用した検索演習を主体とするため、授業サイトに掲載した講義資料により事前学習を行い、基礎知識を学んでおくこと。 ・各回の授業で行った演習課題を復習すること。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回、授業の初めに前回授業の小テスト(理解度確認テスト)を行う。 ・質問は、随時受け付ける(主に授業終了後/E-mail)

授業科目	情報技術論						
担当教員	石井大輔						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3010190
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	<p>コンピュータ及びインターネットに代表される情報ネットワークの仕組みを理解すると共に、図書館に導入される情報技術の特徴を理解することを目標とする。図書館業務に必要な基礎的な情報技術を修得するため、コンピュータ及びネットワークの基礎、図書館業務システム、データベース、サーチエンジン、電子資料（電子書籍、電子化資料）の管理技術、IC タグ、館内ネットワークの設計、セキュリティポリシーの策定等について解説し、必要に応じて演習を行う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ コンピュータ、ネットワークの基本的知識を修得する。 ・ 図書館に導入される情報技術の特徴を理解する。 ・ 上記をふまえ、情報メディアのスペシャリストである Librarian として、日々新しい技術が登場する情報技術を理解し、それらの図書館への導入について考察できるようになる。 ・ 未来の図書館が備える情報技術について自分なりの見識が作れるようになる。
授業計画	<p>第1回 コンピュータとネットワークの基礎 第2回 館内の LAN の構成 第3回 コンピュータシステムの管理 第4回 データベースの仕組み 第5回 図書館業務システムの仕組み 第6回 館内ネットワークの仕様 第7回 図書館における情報技術活用の現状 第8回 電子資料の管理技術 第9回 電子図書館とデジタルアーカイブ 第10回 最新の情報技術と図書館 第11回 情報技術と社会 第12回 インターネットと図書館 第13回 サーチエンジンの仕組み 第14回 Web2.0 と Library2.0 第15回 まとめと展望</p>
テキスト	<p>斎藤ひとみ、二村健『図書館情報技術論』学文社、2012年 1,800円+税 ※出版状況等により、改訂された場合には最新の版を用いる可能性がある。</p>
参考文献	<p>授業時に随時紹介する。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数回の課題・レポート（60%）、試験（40%）を行う。 ・ 上記に加え、授業への参加（質問、感想等）については適宜加点する。
自己学習に関する指針	<p>情報技術がこのまま進んでいくと私たちの生活もどんどん様変わりし、情報ニーズの満たし方も変わっていくでしょう。未来の図書館に関するある程度の見識が作れるよう、授業で学んだ内容を元に、インターネットなどで最新的话题に触れながら考察することが必要です。</p>
履修上の指導・留意点	<p>司書資格を取得するために必要な科目です。</p>

授業科目	情報メディアの活用						
担当教員	石井大輔						
科目分類	学科基礎	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1030030
免許資格 関連事項	○司書教諭						

授業の概要	<p>日常生活(大学での学習を含む)において、「思った」または「感じた」ことを多様な情報メディアの中からその時に最適なものを選び、創作的に表現できるスキルを修得することを目的とする。また、司書教諭となるものが学校教育において学校図書館における多様な情報メディアの特性を熟知した上で活用できるようになることを目指す。「高度情報社会と人間(情報メディアの発達と変化を含む)」「情報メディアの特性と選択」「視聴覚メディアの活用、コンピュータの活用(教育用ソフトウェアの活用、データベースと情報検索、インターネットによる情報検索と発信)」「情報メディアと著作権」などについて解説する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 日常の課題解決において、必要な情報を多様な情報メディアの中からその時に最適なものを選ぶために必要な知識とスキルを修得し、得られた知見をもとに着想した事柄を、情報メディアや ICT を活用しながら創作的に表現、発信できるスキルを修得する。 ・ 司書教諭となるものに求められる伝統的メディアである図書や雑誌等を取扱う技術に加え、情報ネットワーク環境のもとで基本的に求められる知識とスキル、方向感覚を修得する。 ・ 情報メディアの活用に欠かせない情報倫理や知的財産権に関する本質的認識を身につける。
授業計画	<p>第1回 情報メディアの現状 第2回 情報メディアの歴史 第3回 情報ネットワークの技術的背景 第4回 情報メディアの特性と選択 第5回 学校教育と情報リテラシー 第6回 インターネット情報資源 第7回 アナログ情報の電子化および活用 第8回 文献管理と発想法：紙媒体 第9回 文献管理と発想法：電子媒体 第10回 文献管理と発想法：スマートフォンの活用 第11回 知的創造と著作権 (1)：情報メディアの利用と知的財産制度 第12回 知的創造と著作権 (2)：情報メディアと著作権 第13回 知的創造と著作権 (3)：学校教育と著作権 第14回 情報メディアとアクセシビリティ 第15回 学校教育における情報メディアの展望と課題 定期試験</p>
テキスト	なし
参考文献	山本順一、気谷陽子編著『情報メディアの活用』三訂版、放送大学教育振興会 (2016 年)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点 (40%)、レポート (30%)、試験 (30%) ・ 平常点では①オピニオンペーパーの記述 (毎時出題するクイズの回答等)、②授業への参加を評価する。授業への参加とは授業内での教員からの問いかけに対する発言のほか、挙手による回答の回数をカウントする。
自己学習に関する指針	<p>日常的にコンピュータやスマートフォン等の情報機器の扱いに慣れておくことが必要です。授業の内容をよく理解し、積極的にインターネットを用いた情報発信を実践してください。</p>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業はコンピュータを使用できる環境で行いますが、受講生所有のコンピュータやスマートフォン等を適宜使用します。 ・ 司書教諭資格の取得に必要な科目です。

【地域文化学科】 専門科目

授業科目	日本文化概論						
担当教員	中野 洋平						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M3020230
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>本科目は日本文化を多角的相対的に捉え、文化を学修する基礎を形成するために、文化を捉える視座（第一部）と、文化を活用する方法（第二部）について学ぶ。第一部では「文化相対主義」や「オリエンタリズム」「近代」など、現代の日本文化を捉えるために必要な視座と方法について、受講者同士のディスカッションやワークショップ等のアクティブラーニングを取り入れながら学修する。第二部では文化を活用する方法について、「文化財」「文化遺産」「文化資源」等に関する基礎知識を修得しつつ、それらを活用する事例について学ぶ。</p>
授業の到達目標	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・文化を捉える視座を、受講生同士の積極的な議論に基づき学ぶ ・文化の活用について実例に基づいて学ぶ ・上記を通して、地域文化学科の学修を展開する基礎を確立する <p>【目標】</p> <p>(1) 日本文化を多角的・相対的に捉えることができる【知識・理解】</p> <p>(2) 文化の活用方法について実例を基に具体的に説明することができる【知識・理解】</p> <p>(3) 文化の多様性について関心を示し、自らも文化の担い手であると意識することができる【関心・意欲・態度】</p> <p>(4) 文化を通じた他者及び地域理解に向けた積極的な姿勢を持つことができる【関心・意欲・態度】</p> <p>(5) 授業時間内のディスカッションやグループワークにおいて、論理的に自らの意見をまとめ、他と共有・討論できる【技能・表現】</p> <p>(6) 文化を学ぶことに自覚的になり、文化を学ぶことで自己と社会との関係を考えることができるようになる。【思考・判断】</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス/セルフイントロダクション/ディスカッションのススメ 【第一部 文化を捉える視座を学ぶ】</p> <p>第2回 文化の価値は誰が決めるのか?—「文化相対主義」を学ぶ</p> <p>第3回 文化は何種類あるのか?—文化の「カテゴライズ」と「ラベリング」</p> <p>第4回 どうすれば日本文化は捉えられるか?—「比較」という方法を学ぶ</p> <p>第5回 日本人は「内気」なのか?—文化の「本質」を考える</p> <p>第6回 日本にNinjaはいるのか?—「オリエンタリズム」と異文化理解について学ぶ</p> <p>第7回 なぜ「侍ジャパン」というのか?—文化の「表象」を学ぶ</p> <p>第8回 「家族団らん」は日本古来の文化?—私たちが生きる「近代」を自覚する</p> <p>第9回 日本人は日本文化をどう捉えてきたか 【第二部 文化の活用を学ぶ】</p> <p>第10回 日本の文化財制度</p> <p>第11回 文化財から文化遺産へ—世界遺産と日本遺産</p> <p>第12回 自然と文化の合一 —ジオパークの世界</p> <p>第13回 地域資源と文化資源—郷土料理からCool Japanまで</p> <p>第14回 文化資源を活用した地域づくり—戦国武将を例にとりて考える</p> <p>第15回 文化を学ぶことと、社会との関わりについて</p>
テキスト	なし
参考文献	大久保喬樹『日本文化論の名著入門』（角川選書）角川学芸出版
評価方法	<p>1. 授業内小レポートに対する配点20点→科目の達成目標（1）～（4）</p> <p>2. 授業内ディスカッション・グループワーク・発表に対する配点50点→科目の達成目標（1）～（6）</p> <p>3. 最終レポートに対する配点30点→科目の達成目標（1）～（6）</p>

自己学習に 関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	・授業では受講生同士でディスカッションします。

授業科目	日本文化論Ⅰ（居住文化）						
担当教員	藤居由香						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義・演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020240
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>居住文化に関する知識の獲得と歴史的背景の理解を目標とする。日本国内を対象とし、「住居史」「住宅」「生活空間」の三つのテーマに分けて学ぶ。</p> <p>住居史については、住宅から生活の営みの歴史を見つめ、近隣地域の歴史的建造物を題材に各時代の住まいの特徴について扱う。</p> <p>住宅については、文化を支える技術を踏まえて、今後の学生自身の住生活に役立つ住宅建設材料、耐震化、快適に暮らすための設備選択を考えながら、継承すべき日本の居住文化とは何かを知る。</p> <p>生活空間については、衣食住にまつわる日本の生活様式の変化とともに育まれてきた現代の居住文化についての理解を深める。</p> <p>(講義26時間、演習4時間)</p>
授業の到達目標	<p>【目的】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の文化の多面性を、生活の営みの歴史として育まれてきた住まいの変遷から知る。 修繕しながら住み続ける島根の居住文化を知り、今後の住生活へ活用できる事柄を考える。 <p>【目標】</p> <ul style="list-style-type: none"> 日本の居住文化に関する基本的な知識の獲得を第一到達目標とする。 学習内容の応用として、地域の価値ある居住文化を発見し理解する事を第二到達目標とする。
授業計画	<p>第1回 住まいの歴史（古代・中世） 事例；松江市八雲立つ風土記の丘「竪穴住居」、出雲国庁跡復元</p> <p>第2回 住まいの歴史（近世） <学外演習> 事例；国重要文化財穴道町「木幡家住宅」・松江市指定文化財「武家屋敷」</p> <p>第3回 住まいの歴史（近代） 事例；国交省超長期住宅先導的モデル事業リノベーション美保関「橋津屋」</p> <p>第4回 気候及び風土と住まい 事例；防風林（斐川平野築地松）・克雪住宅と雁木（新潟県）</p> <p>第5回 インテリアと居住文化 室内意匠史・デザイン（透視図・家具三面図）・照明器具・窓装飾</p> <p>第6回 居住文化に用いた材料 事例；出雲市大津瓦・島根県指定文化財「興雲閣」</p> <p>第7回 居住文化を支える構造 耐震構造（地盤・基礎・柱梁・筋交い・小屋組・真壁大壁・壁量）</p> <p>第8回 居住文化をつくる建設 <学外演習> 事例；「しまね県民住宅祭」、在来工法・2×4・プレハブ・軽量鉄骨・RC</p> <p>第9回 居住文化の快適性確保 事例；輻射熱による冷暖房設備と温熱環境「たなべ総合展示場」</p> <p>第10回 高齢者のための住宅 住生活支援の方策と捉える介護保険制度による住宅改修と福祉用具</p> <p>第11回 衣生活空間と衣文化 被服生理からみた快適性と繊維特性・被服整理からみる収納と洗浄</p> <p>第12回 食生活空間と食文化 食寝分離論・ダイニングキッチンの誕生・テーブルコーディネート</p> <p>第13回 住生活空間と住文化 住宅設計（平面図・立面図・断面図）と家事労働を軽減する動線計画</p> <p>第14回 消費生活と消費文化 商品と役務を媒介とした消費者と事業者の位置づけと購買環境の変化</p> <p>第15回 居住環境と居住文化 今後の課題；中心市街地空洞化・マンション進出・郊外住宅地開発問題</p>
テキスト	「住まいのデザイン」 藤居由香、他8名 朝倉書店 2015
参考文献	「すまい考今学 現代日本住宅史」 西山卯三 彰国社 1989

	「新しい住まい学」 ペリー史子、他 6 名 井上書院 2016
評価方法	居住文化に関する知識の理解度について測る小テスト (50%) と、地域の価値ある居住文化発見に関するレポート作成及び発表 (50%) の二つに分けて評価する。
自己学習に関する指針	・ 将来、自分が住みたい家を探す際に、役立つようなノートを取ること。
履修上の指導・留意点	・ 公務員/まちづくり/地域資源/住宅に関わる企業等への就職を考えている学生は履修が必要。

授業科目	日本文化論Ⅱ（祭礼文化）						
担当教員	品川 知彦						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020250
免許資格 関連事項	記入不要						

授業の概要	神在祭・および神集い伝承を例にとりながら、島根の祭礼文化を調査・研究する上での基礎知識の習得を目標とする。地域の祭礼文化の意義を知り、県外の人にもその意義を伝えられるレベルを到達目標とする。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 県外の人にも島根の特色ある祭礼行事の意味を伝えられる。 ・ 民俗調査を実際に行う上での留意点を把握し、祭礼の調査・研究を行う上での基礎知識を習得する。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 神在祭の概要・課題の把握</p> <p>第2回 先行研究の把握1（民俗学からのアプローチ1）</p> <p>第3回 柳田国男の民俗学1</p> <p>第4回 柳田国男の民俗学2</p> <p>第5回 先行研究の把握2（民俗学からのアプローチ2）</p> <p>第6回 民俗宗教論概説・神集い諸社概説</p> <p>第7回 先行研究の把握3（歴史学・神道史学からのアプローチ1）</p> <p>第8回 先行研究の把握4（歴史学・神道史学からのアプローチ2）</p> <p>第9回 先行研究の問題点の把握</p> <p>第10回 現状の祭礼の把握、および現地調査の留意点</p> <p>第11回 諸社の神集いの論理1</p> <p>第12回 諸社の神集いの論理2</p> <p>第13回 神集い伝承の広がり</p> <p>第14回 さらになる課題の把握</p> <p>第15回 出雲大社縁結び信仰の成立</p>
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	<ol style="list-style-type: none"> 1 石塚尊俊『神去来』、慶友社、平成7年 2 『柳田国男全集』28、ちくま文庫、平成2年（『柳田国男全集』8、筑摩書房、平成10年） 3 『神在月』、山陰中央新報社、平成27年
評価方法	簡単なレポート、試験などから総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	参考文献を熟読することをお薦めする。
履修上の 指導・留意点	授業前に、配布したプリントを一読しておくこと。

授業科目	日本文化論Ⅲ (妖怪文化)						
担当教員	小泉凡						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020260
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>民俗学の基層をなす民間信仰に焦点をあて、その中でも人間の想像力が生み出した異界に属する超自然的なものの存在(妖怪)に多角的にアプローチしながら、人間と異界との交渉の歴史を探究することを目標とする。授業では、「一つ目小僧」「雪女」「河童」「巨人」「小泉八雲」「水木しげる」などを切り口に、妖怪とその文化背景、妖怪研究の系譜への理解を深めるとともに、ヨーロッパの妖精信仰との比較や現代社会における妖怪の意味についても考えていく。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 日本の民俗的世界にみえる妖怪とその背後にある民俗信仰について説明することができる。 2. 日本人の妖怪観の特色と変遷について説明することができる。 3. 現地研修を通し、文化資源としての妖怪の活かし方について、具体的な意見を述べるすることができる。
授業計画	<p>(講義 28 時間、演習 2 時間)</p> <p>第1回 イントウロダクション：妖怪の概念と種類、妖怪研究の系譜</p> <p>第2回 日本人における妖怪観の系譜</p> <p>第3回 一つ目小僧とたたら製鉄</p> <p>第4回 ダイダラ坊と巨人伝説</p> <p>第5回 河童と水神①～河童駒弾譚と胡瓜・相撲・頭上の皿の意味～</p> <p>第6回 河童と水神②～球磨地方の川ん太郎と山ん太郎～</p> <p>第7回 雪女伝承と民話～書承と口承を行き来して伝播する怪談～</p> <p>第8回 日本の怪談にみる輪廻転生の死生観</p> <p>第9回 水木しげると小泉八雲①～幼児体験をめぐる共通性～</p> <p>第10回 水木しげると小泉八雲②～アニミズムに根差す妖怪観～</p> <p>第11回 ザシキワラシとバンシー～日本とアイルランドの家につく精霊たち～</p> <p>第12回 ケルト世界の妖精伝承の特色～ドルイド信仰をめぐる～</p> <p>第13回 現代社会と妖怪文化～地域活性化に寄与する妖怪たち～</p> <p>第14回 文化資源としての妖怪～日本妖怪博物館(広島県三次市)での現地研修～</p> <p>第15回 まとめ：日本における神と妖怪</p>
テキスト	授業で、プリントを適宜配布する。
参考文献	小松和彦『妖怪文化入門』(角川ソフィア文庫、2012年)、小松和彦他編『47都道府県・妖怪伝承百科』(丸善出版、2017年)、ウェブサイト「怪異妖怪伝承データベース」(国際日本文化研究センター)
評価方法	平常点(授業態度・コメントカード)(30%)、現地研修への参加とレポート(30%)、期末課題(40%)
自己学習に関する指針	授業中に紹介した参考文献を積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	現地研修の訪問予定先、日本妖怪博物館は2019年にオープン予定。入館料交通費等の一部負担金が必要となる。

授業科目	日本文化論Ⅳ (表象文化)						
担当教員	渡部周子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020270
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>想像されたものや象徴的なものを虚構のイメージによって表現する「表象」という概念について、また、人々の心を動かし社会構造を維持したり変化させたりという「表象」の機能について理解することを目標とする。具体的には、文献資料と視覚資料（美術、写真、映画、漫画、アニメーション等）の双方に表現された、「女性」「子ども」「少女」などを分析の軸とし、これらを歴史的、社会的な観点から考察する。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 人文社会科学の研究上における「表象」という概念の位置づけを理解し、説明できる。 2. 具体的な事例について、表象の機能という視点で、分析的に説明できる。
授業計画	<p>授業計画</p> <p>第1回 ガイダンス</p> <p>第2回 表象とはなにか</p> <p>第3回 象徴とはなにか</p> <p>第4回 規範像とはなにか</p> <p>第5回 規範像1 国民主義と市民道徳</p> <p>第6回 規範像2 ジェンダー規範</p> <p>第7回 規範像3 理想的女性像の諸相</p> <p>第8回 規範像4 新しい女性像としての一女学生、少女</p> <p>第9回 規範像と逸脱者</p> <p>第10回 「美」という表象 1 「美しい」とはどういうことなのか</p> <p>第11回 「美」という表象 2 男性美と女性美について</p> <p>第12回 「美」という表象 3 性別の境界と越境</p> <p>第13回 「美」という表象 4 「かわいい」とはどういうことか</p> <p>第14回 「美」という表象 5 未成熟の美学</p> <p>第15回 総括</p>
テキスト	プリントを配布する他、講義に際して適宜案内します。
参考文献	<p>ジョージ・L・モッセ『ナショナリズムとセクシュアリティ』佐藤卓己、佐藤八寿子訳、柏書房、1996年</p> <p>ブラム・ダイクストラ『倒錯の偶像』富士川義之他訳、パピルス、1994年</p> <p>若桑みどり『イメージの歴史』ちくま学芸文庫、2012年</p> <p>渡部周子『<少女>像の誕生 近代日本における「少女」規範の形成』新泉社、2007年</p> <p>渡部周子『つくられた「少女」－「懲罰」としての病と死』日本評論社、2017年</p>
評価方法	平常点（発言、小課題等）（65%）、課題（35%）の総合評価となる予定である。
自己学習に関する指針	授業で挙げた参考文献、図像資料について、各自で読んだり、鑑賞する時間を設けること。
履修上の指導・留意点	受講生数や受講生の理解度等に応じて、授業の順序、進行、評価方法に変更がある場合がある。

授業科目	日本の歴史 I (文化史)						
担当教員	杉岳志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020280
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>天変地異を文化史の側面から考察し、江戸時代の人々が我が身に降りかかった天変地異をどのように理解したのか、そしてどのように対応したのかを検証する。天変地異を切り口として、過去もまたひとつの「異文化」であることを理解すること、ならびにわたしたちの文化と社会を相対的に捉える視点を獲得することが授業の目的である。授業は、毎回ひとつないし関連する複数の天変地異を取り上げ、当時の人々の記録を読み解きながら進めていく。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 天変地異を歴史的に捉えることができる。 2. 根拠に基づき、自分なりの議論を展開することができる。 3. 授業の内容に対し、自分なりの疑問・感想を述べることができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 明暦の大火 第3回 寛文地震 第4回 近世日本の天文学と彗星 第5回 寛文4年の彗星 第6回 寛文8年の大火 第7回 綱吉と天変地異1 天変と大火 第8回 綱吉と天変地異2 元禄地震・宝永地震・富士山噴火 第9回 吉宗と洪水・彗星 第10回 近世中後期に出現した彗星と天皇・民衆 第11回 浅間山の噴火と天明の飢饉 第12回 天保14年の白気 第13回 安政江戸地震 第14回 幕末に出現した彗星とコレラ 第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>テキストは使用せず、プリントを配布する。</p>
参考文献	<p>授業の中で適宜紹介する。</p>
評価方法	<p>コメントシートの記述内容 30%、中間レポート 30%、期末レポート 40%の割合で評価する。 レポートは、①レポートの作法に則っているか、②授業で示した論点を理解できているか、③根拠に基づいて自分なりの議論を展開できているかをもとに総合的に評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>・ 中間レポートでは課題文献の書評、期末レポートでは過去に生じた天変地異とその影響についての考察を求めます。授業で紹介する文献をしっかりと読んでください。</p>
履修上の指導・留意点	<p>・ 質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mail に対応します。</p>

授業科目	日本の歴史Ⅱ（観光史）						
担当教員	工藤泰子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020290
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>近代日本における観光の展開について理解を深めることを目標とする。</p> <p>授業では近世の旅の形態から近代的な観光への変遷について、社会のうごき（近代国家の誕生、博覧会開催、鉄道の敷設、移民送出、戦争など）と連動させながら、観光の位置づけがどのように変化してきたのかを学修する。具体的には、幕末期から戦後復興期における観光関係特別都市建設法の制定までを本授業の対象とし、国家的な観光政策と地方都市の事例をおりまぜながら講義する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・近世までの旅と明治期以降の観光のあり方の違いを理解する。 ・近代日本における観光政策を理解する。 ・観光の歴史を社会の動きと連動させて考察できるようになる。
授業計画	<p>第1回 近世以前の旅</p> <p>第2回 近代化とお雇い外国人①近代国家の誕生</p> <p>第3回 近代化とお雇い外国人②観光の国際化</p> <p>第4回 博覧会と観光①京都博覧会</p> <p>第5回 博覧会と観光②地方への影響</p> <p>第6回 鉄道敷設と観光</p> <p>第7回 修学旅行の誕生</p> <p>第8回 都市イメージの形成①古都</p> <p>第9回 都市イメージの形成②城下町</p> <p>第10回 戦前の国際観光政策①（明治期）</p> <p>第11回 戦前の国際観光政策②（大正－昭和初期）</p> <p>第12回 戦前山陰の観光</p> <p>第13回 戦時下の観光①国策と観光</p> <p>第14回 戦時下の観光②幻の東京五輪</p> <p>第15回 戦後復興と観光</p>
テキスト	適宜プリントを配布します。
参考文献	授業ごとに紹介します。
評価方法	平常点70%（課題、コメントシート、小テスト、授業への取組状況）、期末レポート（30%）の総合評価とします。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	日本の歴史Ⅲ (近世)						
担当教員	杉岳志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020300
免許資格 関連事項							

授業の概要	今日の日本の社会や文化の基層をなす江戸時代の社会と文化について学ぶとともに、歴史研究の基本的な手続きである史料批判について理解を深める。授業では、「鎖国」「士農工商」「生類憐みの令」「元禄文化」「田沼時代」「百姓一揆」といった高校までの日本史の授業で学習してきた事項について近年の研究成果を紹介し、当該期の社会や文化、史料批判の重要性などについて講義する。島根の事例を交えて説明することで、地域の歴史を相対化して捉える視点も養う。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 江戸時代の歴史に関する事項について説明することができる。 史料批判の重要性について説明することができる。 島根の歴史を日本の歴史の中に位置づけて捉えることができる。 授業の内容に対し、自分なりの疑問・感想を述べることができる。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 鎖国 第3回 士農工商 第4回 村 第5回 城下町 第6回 西廻り海運・東廻り海運 第7回 儒学 第8回 関ヶ原の戦い 第9回 慶安の御触書 第10回 生類憐みの令 第11回 元禄文化 第12回 田沼時代 第13回 三大改革・藩政改革 第14回 百姓一揆・打ちこわし 第15回 まとめ 定期試験
テキスト	テキストは使用せず、プリントを配布する。
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	コメントシートの記述内容 20%、小テスト 20%、期末試験 60%の割合で評価する。
自己学習に関する指針	・配布のプリントをしっかりと復習してください。
履修上の指導・留意点	・質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mail に対応します。

授業科目	日本の歴史Ⅳ (近現代)						
担当教員	板垣貴志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020310
免許資格 関連事項							

授業の概要	現在の日本の社会の形成と密接に関係する日本の近現代の歴史についての講義を受講することで、日本の社会がいかなる歴史的過程を経て成り立ってきたかを理解し、その理解を現代の諸問題を考える契機とすることを目標とする。講義では、日本近現代史の通史叙述の背後にある歴史研究の蓄積を紹介する。学生は日本近現代史がこうした蓄積の上に成り立っていることを理解し、学術的根拠に基づく日本近現代史の認識を身に付ける。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1、日本近現代史の通史叙述の背後にある歴史研究の蓄積を理解する。 2、学術的根拠に基づく日本近現代史認識の獲得を目指す。 3、歴史的事象の調べ方を学ぶ。
授業計画	<p>日本近現代史の通史叙述の背後にある歴史研究の蓄積を概説します。</p> <p>第1回 ガイダンス 第2回 開国と幕末の動乱 第3回 明治維新と富国強兵 第4回 立憲国家の成立と日清戦争 第5回 日露戦争と国際関係 第6回 近代産業の発展 第7回 近代文化の発達 第8回 第一次世界大戦と日本 第9回 恐慌の時代 第10回 軍部の台頭 第11回 第二次世界大戦 第12回 占領下の日本 第13回 高度成長の時代 第14回 激動する世界と日本 第15回 まとめ</p>
テキスト	特にありません。
参考文献	『週刊朝日百科 日本の歴史』(朝日新聞社) など。その他は講義にて適宜紹介します。
評価方法	平常点 50%、最終レポート 50%
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	毎回の授業では出席票として感想・質問用紙を配付します。次回の授業でそれに応答し、往還的に授業を作っていきます。積極的な参加を望みます。

授業科目	古文書を読む						
担当教員	杉岳志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020320
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)						

授業の概要	くずし字で書かれた江戸時代の古文書を読解する。授業は教科書の事前学習を前提とし、前半に事前学習内容の解説、後半に史料を読解するグループワークを行う。グループワークで読解する史料には実際の古文書を利用し、モノとしての古文書に対する理解を深める。また、受講生が地域に残る古文書の保存の一翼を担えるよう、史料保存の重要性や史料を保存する上でのポイントを適宜説明する。
授業の 到達目標	1. くずし字で書かれた江戸時代の古文書を読解するのに必要な基礎知識を身に付ける 2. 古文書という資料の特質を理解する
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 古文書読解のポイント 第3回 教科書第1章 婚姻① 解読 / グループワーク 第4回 教科書第1章 婚姻② 解釈 / グループワーク 第5回 教科書第2章 相続① 解読 / グループワーク 第6回 教科書第2章 相続② 解釈 / グループワーク 第7回 教科書第6章 村役人① 解読 / グループワーク 第8回 教科書第6章 村役人② 解釈 / グループワーク 第9回 教科書第8章 鉄炮① 解読 / グループワーク 第10回 教科書第8章 鉄炮② 解釈 / グループワーク 第11回 教科書第11章 拝借金① 解読 / グループワーク 第12回 教科書第11章 拝借金② 解釈 / グループワーク 第13回 教科書第14章 修験① 解読 / グループワーク 第14回 教科書第14章 修験② 解釈 / グループワーク 第15回 まとめ 定期試験
テキスト	天野清文・実松幸男『はじめての古文書教室』(天野出版工房/吉川弘文館(発売)、2005年)
参考文献	授業の中で適宜紹介する。
評価方法	平常点(グループワークへの取り組み・コメントシートの記述内容など)50%、期末試験50%の割合で評価する。
自己学習に 関する指針	・教科書の予習を前提として授業を進めるので、毎回予習をして授業に臨むこと。
履修上の 指導・留意点	・日本史ゼミを希望する学生は2年次に履修してください。 ・質問はその内容に応じて授業時間中・研究室・e-mailで対応します。

授業科目	日本文化演習 I (茶道)						
担当教員	和泉澄子 (宗澄)						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020330
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>茶道の歴史や茶の心を、理論と実践を通して学ぶ。深い精神性をもとに作り出された茶室や露地、礼儀作法、茶道具、茶事・茶会、さらに松江の茶人として有名な松平不昧について理解を深める。実技では、基本手前を実践的に学ぶことで、茶席における客と亭主、双方の振る舞いを身に付ける。学生間で客と亭主の役割を交替でおこない、お互いの進捗状況を記録・確認することで、基本的な手前・所作を身に付ける。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 茶道の歴史とその精神を知ること ・ 基本手前の実践を通じて、日本及び地域の伝統文化を理解すること
授業計画	<p>第1回 茶道の意義 ◆和敬静寂・利休七則・茶事・茶と禅・茶道の逸話・茶と健康</p> <p>第2回 茶の歴史 ◆茶の伝来と発展(草庵茶・わび茶)・茶道の成立(利休とわび茶の完成)・松平不昧の歴史と茶道具・茶室</p> <p>第3回 茶室・露地 ◆茶室の作り・国宝の茶室待庵・如庵・密庵 ◆露地の名称と役割</p> <p>第4回 主な茶道具 ◆掛物・茶入・茶杓・茶碗・薄茶器</p> <p>第5回 茶事・茶会 ◆茶事における亭主と客の心得・茶事の構成・懐石・濃茶と薄茶</p> <p>第6回 茶の点前 ◆茶の湯とお点前の意義 ◆亭主・水屋の役割と客の心得</p> <p>第7回 実技1 ◆茶室での作法(入退出・歩き方・床の間拝見・礼の仕方など)</p> <p>第8回 実技2 ◆割稽古(帛紗の扱い)</p> <p>第9回 実技3 ◆割稽古(棗・茶杓・茶巾・茶筌の扱い)と水屋の準備・片付け</p> <p>第10回 実技4 ◆割稽古(帛紗・棗・茶杓・茶巾・茶筌の扱い)と水屋の準備・片付け</p> <p>第11回 実技5 ◆薄茶運び点前(亭主・客・水屋の役割)と水屋の準備・片付け</p> <p>第12回 実技6 ◆薄茶運び点前(亭主・客・水屋の役割交代)と水屋の準備・片付け</p> <p>第13回 実技7 ◆薄茶運び点前(亭主・客・水屋の役割交代)と水屋の準備・片付け</p> <p>第14回 実技8 ◆薄茶運び点前(点前習得状況の相互確認)と水屋の準備・片付け</p> <p>第15回 総合 ◆まとめ</p>
テキスト	『裏千家茶道』(今日庵) 970円(税込)
参考文献	『茶の湯入門』(洋泉社BOOK)
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 平常点(50%)→理解度テストを実施 ・ 実技(50%) →点前習得状況確認
自己学習に関する指針	実技については前回の実技の復習が必要。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 履修上限を20名までとします。 ・ 実技の際は白いソックスを持参してください。(茶道の和室に入室する際に着用します) ・ 実技については前回の実技の復習が必要です。(点前習得状況の確認を実施します) ・ 茶道検定(裏千家主催)3・4級の受験支援をしています。 <p>【テキスト代に加えて下記の費用が必要となります】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 帛紗セット@3000円程度(手持ちのものがあれば持参してください) ・ 菓子・抹茶@2000円程度

授業科目	日本文化演習Ⅱ (華道)						
担当教員	山根かねみ						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020340
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>生け花を通じて、日本の伝統文化、特に室町期から江戸期にかけて完成された日本の美意識を理解することを目標とする。授業は講義と実技によって構成する。講義では、生け花の歴史と、茶の湯とともに発展した立花の中心的概念を学ぶ。実技では、自由花・生花を実践的に生けることによって、日本の様式美を学ぶ。それぞれの作品に対しては、作品の個性を尊重しながら個別にアドバイスをを行うことで、生け花への関心と創造性を養う。また、学生間の作品批評や毎回のレポート、復習を通して、基本的な生け花の方法を身につける。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・花や草木という植物の調和を考えることができるようになる。 ・テーマに対する表現力を身につける。 ・いけばなを通して自己を表現する力を身につける。
授業計画	<p>第1回 生け花概論 ◆「華道」とは：生け花の成立と歴史</p> <p>第2回 いけばなの形態と技法 ◆立花、生花、自由花について ◆稽古の心得（マナー） ◆草木の扱い方（叉木、剣山での技法、水揚げ処理の仕方）</p> <p>第3回 生花概論とデモンストレーション ◆生花の構成について～真・副・体・あしらい ◆実習～自然出生、観察、一種生けの技法、レポート提出</p> <p>第4回 生花実習Ⅰ基礎編（二種生け～実習、レポート）</p> <p>第5回 生花実習Ⅱ基礎編（三種生け～実習、レポート）</p> <p>第6回 生花まとめ：生花新風体と今後の生花に関して</p> <p>第7回 自由花概論と実習：自然的表現と意匠的表現に関して、レポート提出</p> <p>第8回 自由花実習Ⅰ基礎編～面の見せ方、レポート提出</p> <p>第9回 自由花実習Ⅱ基礎編～点、マスの技法、レポート提出</p> <p>第10回 自由花実習Ⅲ応用編～花器・花材からの発想、レポート提出</p> <p>第11回 自由花実習Ⅳ応用編～オンリーワンの花に挑戦、レポート提出</p> <p>第12回 四季といけばな「行事を生ける」</p> <p>第13回 自由花まとめ～環境との調和、心を生ける</p> <p>第14回 総合実習～生花か自由花を生ける、レポート提出</p> <p>第15回 いけばな概論まとめ：「専応口伝」解説、池坊ビデオ鑑賞</p>
テキスト	<p>以下のテキストを授業中に販売する</p> <ul style="list-style-type: none"> ・『いけばな池坊 生花入門カリキュラム お稽古ノート』（華道家元池坊総務所） ・『いけばな池坊 自由花入門カリキュラム お稽古ノート』（同）
参考文献	『はじめるいけばな 学校華道』、松原清耕『いけばなの傳法』（ともに日本華道社）
評価方法	<p>平常点 (50%)：レポート内容</p> <p>実習 (50%)：理解度、表現力</p>
自己学習に関する指針	<p>実習で生けた花については、持ち帰り後に再び生けて復習することが望ましい。但し持ち帰りできない場合は、構内に作品として展示することとする。</p>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・履修上限を 20 名までとします。 ・実習の花材代として、別途 3,600 円程度（300 円×12 回分）が必要です。 ・この授業を受講すると、池坊の入門・初伝の資格を申請・取得することができます（希望者のみ。別途申請料が必要です）。

授業科目	書道 I (基礎)						
担当教員	福田哲之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020350
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・書道(書写を中心とする。)						

授業の概要	楷書の古典の中から唐・欧陽詢「九成宮醴泉銘」を取り上げ、臨書を通して楷書の基本的な技法を習得する。授業は毛筆による半紙練習を主とし、個別指導を中心に展開する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・楷書の特徴について理解する。 ・楷書の基本的な技法を習得する。 ・授業で習得した技法を日常の文字書写にも生かすことができるようにする。
授業計画	第1回 授業の進め方・用具・教材についての説明(用具は第2回から使用) 第2回 点画の書き方(1)横画 第3回 点画の書き方(2)縦画 第4回 点画の書き方(3)点 第5回 点画の書き方(4)はらい 第6回 点画の書き方(5)折れ 第7回 点画の長短 第8回 点画の方向 第9回 点画の接し方・交わり方 第10回 画と画との間 第11回 文字の中心 第12回 文字の組み立て方(1)上下の組み立て 第13回 文字の組み立て方(2)左右の組み立て 第14回 文字の組み立て方(3)によろ・たれ・かまえ 第15回 行の中心・字間・行間 まとめ・課題提出
テキスト	「九成宮醴泉銘」から各回のテーマに応じた課題をプリントして配布する。
参考文献	『教えて先生書の基本』、『墨』編集部編、芸術新聞社
評価方法	毎回の授業で提出された課題にもとづき、各回のテーマである基本点画を中心に、基礎的な書写技能の達成度により評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返って、本時の課題のポイントを確認しておきましょう。 ・授業で学習した楷書の基本点画を、日常の文字書写の場面で積極的に活用しましょう。
履修上の指導・留意点	・履修希望者が30名を超える場合、人数を制限することがあります。

授業科目	書道Ⅱ（発展）						
担当教員	福田哲之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020360
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・書道（書写を中心とする。）						

授業の概要	行書の古典の中から東晋・王羲之の「集字聖教序」を取り上げ、臨書を通して行書の基本的な技法を習得する。授業は毛筆による半紙練習を主とし、個別指導を中心に展開する。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・行書の特徴について理解する。 ・行書の基本的な技法を習得する。 ・授業で習得した技法を日常の文字書写にも生かすことができるようにする。
授業計画	第1回 授業の進め方・用具・教材についての説明（用具は第2回から使用） 第2回 起筆（1）楷書と共通する筆法 第3回 起筆（2）行書特有の筆法 第4回 終筆（1）横画の終筆 第5回 終筆（2）縦画の終筆 第6回 終筆（3）左はらい 第7回 終筆（4）右はらい 第8回 転折（1）丸みのある運筆 第9回 転折（2）円転と連続 第10回 点画の連続（1）虚画の実線化 第11回 点画の連続（2）空白の変化 第12回 点画の省略（1）基本的な略法 第13回 点画の省略（2）一字の構成 第14回 筆順の変化（1）点画の省略と筆順 第15回 筆順の変化（2）字形と筆順 まとめ・課題提出
テキスト	「集字聖教序」から各回のテーマに応じた課題をプリントして配布する。
参考文献	『教えて先生書の基本』、『墨』編集部編、芸術新聞社
評価方法	毎回の授業で提出された課題にもとづき、各回のテーマである行書の技法を中心に、基礎的な書写技能の達成度を評価する。
自己学習に 関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・前時の学習を振り返って、本時の課題のポイントを確認しておきましょう。 ・授業で学習した行書の書き方を、日常の文字書写の場面で積極的に活用しましょう。
履修上の 指導・留意点	・履修希望者が30名を超える場合、人数を制限することがあります。

授業科目	日本文化特殊講義						
担当教員	木場貴俊						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020370
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>「怪異」あるいは「妖怪」と表現される物事を歴史学的に理解することを目標とする。具体的には、「怪異」や「妖怪」に関して、単純に「いる・いない」と二項対立的に捉えるのではなく、「なぜ人々はそうした物事を記録し、また対応したのか」という、人のいとなみとして考察する。日本近世の状況を中心にみていくが、古代・中世、そして近現代との関連性についても取り上げる。史料も文字史料だけではなく、絵画や映像などを使うことで、多角的に理解できる内容にする。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 一見歴史研究の対象とならないように思える物事でも、学問的手続きを踏めば研究対象にすることが可能となる歴史学の手法を学ぶことができる。 ・ 現代の「怪異」や「妖怪」に対するイメージが不変ではなく、時代や社会状況に応じて異なっていることを理解することで、現代の社会認識＝常識を相対化する視点を持つことができる。 ・ 歴史学だけでなく、民俗学や国文学、美術史などさまざまな学問分野を応用することで、多角的に歴史を考察していく醍醐味を知ることができる。
授業計画	<p>第1回 はじめに—「怪異」あるいは「妖怪」を考える、ということ 第2回 歴史的産物としての「妖怪」 第3回 近代の「妖怪」をめぐって—井上圓了・江馬務・藤澤衛彦・柳田國男— 第4回 現代の通俗的「妖怪」—水木しげる— 第5回 古代の「怪異」 奈良時代 第6回 古代の「怪異」 平安時代 第7回 中世の「怪異」 武士と化物 第8回 中世の「怪異」 鎌倉時代 第9回 中世の「怪異」 室町時代 第10回 近世の「怪異」 政治との関わり 第11回 近世の「怪異」 描かれる「怪異」 第12回 近世の「怪異」 学問と宗教 第13回 近世の「怪異」 西鶴、秋成、百物語 第14回 近世の「怪異」 遊ばれる「怪異」 第15回 まとめ 近世から近代へ 定期試験</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	授業中に適宜紹介する。
評価方法	小テスト (40%)、筆記試験 (60%)
自己学習に関する指針	配布資料、および紹介された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の指導・留意点	集中講義なので、気持ちを集中させて授業を受けること。

授業科目	日本語学概論 I						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020380
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)</p> <p>○高等学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)</p>						

授業の概要	<p>他の言語と比較対照しながら、世界の中の日本語(口語を含む)がどのような言語かということを観る。高校までは、外国語は英語しか学んでいない人が多いが、英語との対比のみで、日本語の特殊性を語ることの安直さを避け、様々な言語と比較対照することで、日本語への偏見(欲目 or 卑下)をなくし、言語そのものの性質を学ぶことを目的とする。具体的には、目標として、音声(子音・母音体系)・文字の体系・文構造(述語構造・副文構造・結束性 etc.)を学び、日本語の特徴を考える。この授業は、「日本語文法論」や「対照文法」などの基礎となる。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代日本語の特徴を 10 個以上挙げられるようになる。 ・日本語は世界的に珍しい言語ではないということを理解する。
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション・「日本語」とそのバリエーション・「日本語」の定義 第 2 回 「日本語」について 第 3 回 日本語の発音(子音: IPA を参照しながら) 第 4 回 日本語の発音(母音: IPA を参照しながら) 第 5 回 日本語の音韻 第 6 回 日本語の音節構造(モーラとシラビーム) 第 7 回 アクセント 第 8 回 日本語の文字 第 9 回 語彙 第 10 回 語構造 第 11 回 文構造(述語構造を中心) 第 12 回 文構造(副文構造) 第 13 回 文章表現(結束性) 第 14 回 言語生活 第 15 回 復習 定期試験</p>
テキスト	沖森卓也 他(2006)『図解日本語』三省堂
参考文献	日野資成(2009)『ベーシック現代の日本語学』ひつじ書房 斎藤純男(2010)『言語学入門』三省堂
評価方法	期末テスト 60%、小テスト 40%で評価する。小テストは、授業が終了する毎に、CBT にておこなう。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	英語以外の外国語を履修していると理解しやすいと思われるので、積極的に外国語の授業を履修することをお勧めする。

授業科目	日本語学概論Ⅱ						
担当教員	山村仁朗						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020390
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)</p> <p>○高等学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)</p>						

授業の概要	日本語学概論Ⅰに続き、日本語学の基礎を学ぶ。日本語の特徴および日本語研究についての基礎的な知識を修得し、日本語についての理解を深める。特に日本語学概論Ⅱでは現代日本語だけでなく、いろは歌・万葉仮名(音韻史)、古辞書(語彙史)、動詞活用の変遷(文法史)など日本語の歴史的側面にも注目する。また、山陰地方のことばを中心にして方言の概説を行う。この授業は「日本語史」や「日本語文法論」「地域とことば」などの基礎となる。
授業の到達目標	<p>(1) 音声と音韻の特徴を説明することができる。</p> <p>(2) 文字と表記の特徴を説明することができる。</p> <p>(3) 語彙と意味の特徴を説明することができる。</p> <p>(4) 文法と文体の特徴を説明することができる。</p> <p>(5) 方言の特徴を説明することができる。</p>
授業計画	<p>第1回 導入 世界の言語からみた日本語</p> <p>第2回 音声と音韻(1) 清音と濁音・アクセント</p> <p>第3回 音声と音韻(2) いろはうた・五十音図・四つ仮名の混同</p> <p>第4回 文字と表記(1) 漢字</p> <p>第5回 文字と表記(2) 万葉仮名・ひらがな・カタカナ</p> <p>第6回 語彙と意味(1) 和語・漢語・外来語</p> <p>第7回 語彙と意味(2) 語義と語構成</p> <p>第8回 語彙と意味(3) 辞書と古辞書</p> <p>第9回 文法(1) 語と文</p> <p>第10回 文法(2) 品詞と文の成分</p> <p>第11回 文法(3) 動詞活用の変遷</p> <p>第12回 文法(4) 文の種類と構造</p> <p>第13回 文体 和文体と漢文訓読体/口語体と文語体</p> <p>第14回 方言(1) 共通語と方言</p> <p>第15回 方言(2) 山陰地方の方言</p> <p>定期試験</p>
テキスト	沖森卓也ほか(2006)『図解日本語』(三省堂)
参考文献	<p>金田一春彦(1988)『日本語』(上・下)(岩波新書)</p> <p>沖森卓也『日本語全史』(ちくま新書)</p>
評価方法	定期考査(70%)、毎回のコメントカードの内容(30%)
自己学習に関する指針	予習・復習に関して、テキストの指示するページを熟読してください。
履修上の指導・留意点	<p>質問はオフィスアワーに受けつけます。前もって、メールで連絡をしてください。</p> <p>y-yamamura@u-shimane.ac.jp</p>

授業科目	日本語文法論						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020400
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) ○高等学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)						

授業の概要	日本語の文法構造の詳細を学ぶことを目的とする。日本語学概説Ⅰ・Ⅱが履修されて基礎的な内容を理解していることを前提に進められる。内容は、現代の日本語学の中においてよく扱われている文法カテゴリー(「主語」「時制・アスペクト」「態」「モダリティ」「副文構造の特徴」「否定」「指示詞」etc.)を対象として、その振る舞いを学ぶだけでなく、これらの対象を扱う際に何に注意して考えるべきなのかを問いながら、自分自身で日本語の文法について考えられるようになることを到達目標とする。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語の文をみて、どのような構造の文であるかを簡単に説明できるようになる。 ・文法カテゴリーから具体的な文を作ることができるようになる。
授業計画	第1回 オリエンテーション・「日本語」の定義 第2回 用言について(動詞の特徴) 第3回 用言について(形容詞・形容動詞の特徴) 第4回 名詞と形容詞と形容動詞と動詞(品詞の特徴の比較) 第5回 助詞について(格助詞) 第6回 「受け身」について 第7回 「受け身」以外の態について 第8回 テイル形とタ形 第9回 助動詞について(語順とからめて) 第10回 助詞について(副助詞) 第11回 「は」と「が」について 第12回 副詞について 第13回 助動詞とモダリティ 第14回 終助詞とモダリティ 第15回 復習 定期試験
テキスト	特になし。 必要に応じて、プリントを配布する。
参考文献	会田貞夫 他(2004)『学校でおしえてきている現代日本語の文法』右文書院 天野みどり(2008)『学びのエクササイズ 日本語文法』ひつじ書房 藤原雅憲(1999)『よくわかる文法』アルク 井上優(2002)『日本語文法のしくみ』研究社
評価方法	小テスト40%、期末テスト60%の割合で成績を出す。小テストは、授業時間後に毎回、CBTにておこなう。
自己学習に関する指針	授業に出る前に参考文献にあげてある文献を最低1冊は読んでおいてほしい。
履修上の指導・留意点	電子辞書で構わないので、授業には辞書を持参していただきたい。

授業科目	日本語史						
担当教員	百留康晴						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020410
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学（音声言語及び文章表現に関するものを含む。）						

授業の概要	日本語は漢字、平仮名、片仮名という三種類の文字、和語、漢語、外来語という三種類の語彙を有している。このような状況は歴史的経緯によってもたらされたものである。また文法、音韻、文体の面でも日本語には多くの歴史的変遷が見られる。この授業ではそのような日本語の歴史について学んでいく。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各時代における日本語の姿に関する知識を身に付ける。 ・日本語の変遷における背景や要因、傾向を理解することができる。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 漢字の受容過程 第3回 上代特殊仮名遣いと古代の音韻 第4回 仮名の発生と文体の多様化 第5回 平安時代における文体と語彙 第6回 平安時代における文法 第7回 鎌倉・室町時代以降生じる文法の変化（1）係り結び 第8回 鎌倉・室町時代以降生じる文法の変化（2）活用 第9回 仮名遣いの発生と音韻変化（1）定家仮名遣い 第10回 仮名遣いの発生と音韻変化（2）契沖仮名遣い 第11回 漢語・外来語の増加 第12回 江戸語の姿 第13回 明治時代における話し言葉の統一 第14回 明治時代における言文一致運動 第15回 まとめ 定期試験
テキスト	特になし。
参考文献	佐藤武義編『概説日本語の歴史』朝倉書店、山口仲美『日本語の歴史』岩波書店
評価方法	授業中に課す小レポートが20%、定期試験の成績を80%ととして評価する。6回以上欠席した場合は成績評価の対象外とする。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	地域とことば						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020420
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状<<教科に関する科目>> ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状<<教科に関する科目>> ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)						

授業の概要	<p>言語というものが地域によってどのような展開を見せるのかを、地域社会との関係を通して学ぶことを目的とする。地域の特徴(行政や方言分布)によって、言語の変化にも影響が及ぼされる。地域ごとにさまざまな現象があるので、海外の事例なども踏まえ、本学が位置する島根県の方言などを取り上げながら、地域の言語を考えていく。島根県は、出雲方言と石見方言とで大きく異なっているが、県庁所在地が位置する松江は出雲方言の地域に位置していることから、石見方言にも影響を及ぼしている例などを扱う。また、世界に目を向けどのような言語状況があるのかも概観する。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・言語とは、その状況によって、変化するということを理解する。 ・ある言語の基準というものは、その言語が依拠する条件によって決まるという事実を理解する。
授業計画	第1回 ことばが話される場について 第2回 ことばのバリエーション 第3回 共通語と標準語 第4回 方言と標準語 第5回 国と言語 第6回 日本語の標準語とは 第7回 日本の方言 第8回 山陰の方言 第9回 方言の世代差 第10回 社会状況による方言の地域差 第11回 言語接触と変化 第12回 風土とことば 第13回 経済とことば 第14回 人口とことば 第15回 まとめ
テキスト	特になし。
参考文献	井上史雄(2008)『社会方言学考：新方言の基盤』明治書院 佐野直子(2015)『社会言語学のまなざし』三元社 中井精一(2012)『都市言語の形成と地域特性』和泉書院
評価方法	授業参加度(40%)と学期末レポート(60%)を総合して評価する。 授業参加度の評価は、毎回の授業ごとに提出するコメントカードを用いる。そこに授業で説明したことに対して発展的に質問してもらいたい。
自己学習に 関する指針	日常生活において、言語的に不思議だと思った現象・状況・事態などを自分なりに集め、授業をとおして、疑問が解決できるかどうかを考えてみよう。
履修上の 指導・留意点	コメントカードを毎回提出してもらおうが、コメントカードの内容で、各回の授業の理解度をはかりたい思っているので、コメントカードもまじめに書いていただきたい。

授業科目	対照文法						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020430
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)</p> <p>○高等学校教諭(国語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)</p>						

授業の概要	<p>日本語に形式的には現れないが、日本語に内在するカテゴリーを、外国語との比較対照をとおして可視化しながら学ぶことを目的とする。自然言語は、外見上多様であるが、人間の認知的な部分が反映されている場合が多く、このような部分を意識化し、日本語に形式的に現れない文法について学ぶ。特に、欧米言語の冠詞の意味を結束性という概念を通して理解し、日本語ではどのように表現されているのかを見たり、時制とアスペクトの対比で日本語ではこれらのカテゴリーがどのように機能しているのかなどを学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本語文法を形態のみからでなく、意味的な部分でも説明できるようになる。 ・高校までで習ってきた英語文法とあわせて、日本語と英語の相違点を説明できるようになる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・世界の中の日本語(系統的な分類と類型論的な分類など)</p> <p>第2回 品詞について(名詞:性・数)</p> <p>第3回 品詞について(動詞:活用)</p> <p>第4回 品詞について(形容詞・形容動詞)</p> <p>第5回 語順について(格との関係)</p> <p>第6回 主語と動作主</p> <p>第7回 時間に関する形式</p> <p>第8回 ムードに関する形式</p> <p>第9回 定性について</p> <p>第10回 文と文をつなげる構造(接続詞)</p> <p>第11回 文と文をつなげる構造(従属節)</p> <p>第12回 文と文をつなげる構造(指示詞)</p> <p>第13回 文と文をつなげる構造(語順・冠詞)</p> <p>第14回 情報構造について(構文の交替の意味)</p> <p>第15回 情報構造について</p> <p>定期試験</p>
テキスト	特になし。
参考文献	<p>以下の文献は、英語と対照した文献であるが、対照文法とはどのようなものであるかを理解するため読んでおいてほしい。また、勉強を進める上の読書案内も充実している。</p> <p>畠山雄二(2016)『徹底比較 日本語文法と英文法』くろしお出版</p>
評価方法	<p>授業への参加度を40%、期末テストを60%の割合で評価をおこなう。</p> <p>授業への参加度は、毎回の授業の最後に課題を出し、それへの解答で判断する。</p>
自己学習に関する指針	外国語学習をとおして、疑問に感じたことを自分なりにまとめておこう。
履修上の指導・留意点	英語以外の外国語の学習が役に立つので、積極的に外国語の授業を履修することをお勧めする。

授業科目	日本語学演習 I						
担当教員	高橋純						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3・4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020440
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)						

授業の概要	<p>現代日本語を対象とした学校文法を取り上げ、現在日本語学で行われている文法とどのような関係にあるのかを明確することを目標とする。学校文法は、学校教育の中で広くおこなわれ教えられているため、日本語学における文法を学ぶ上でも非常に重要であるが、それらの発展の仕方は大きく異なっているため、学校文法が現代日本語文法論の中でどのように重なり、違うのかが、学習者にわからない。そこで、学校文法を出発点にして、現代日本語文法では、その部分がどのように記述されており、なぜ学校文法と異なる分析になるのかを学ぶ。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校文法をきちんと身につける ・学校文法の用語を日本語学文法の用語と対比させ、両者の異同について簡単に説明できるようになる。
授業計画	<p>第1回 「学校文法」と「現代日本語文法」について 第2回 「学校文法」のおさらい 第3回 「文節」について(アクセントとの関係) 第4回 「文節」について(構文論との関係) 第5回 「文節」について(語について) 第6回 用言について(動詞の活用形を考える) 第7回 用言について(形容詞・形容動詞の活用形:学校古典文法との比較をとおして) 第8回 品詞について(形容動詞の活用と助詞について) 第9回 品詞について(形容動詞と形式名詞について) 第10回 「主語」について(主語という概念について:学校英文法との比較をとおして) 第11回 「主語」について(「主語」の形式について) 第12回 「述語」について(形容詞類の名詞性と動詞性) 第13回 「終止形」と「連体形」について 第14回 「接続詞」について 第15回 「副詞」について 定期試験</p>
テキスト	特に使用しない。
参考文献	<p>会田貞夫・中野博之・中村幸弘(2004)『学校で教えてきている現代日本語の文法』右文書院 山田敏弘(2004)『国語教師が知っておきたい日本語文法』くろしお出版 山田敏弘(2009)『国語を教える文法の底力』くろしお出版</p>
評価方法	期末テスト60%、小テスト40%で評価する。小テストは、授業が終了する毎に、CBTにておこなう。
自己学習に関する指針	小テストは、復習だけではなく、次回の授業への架け橋となるので、しっかりと考えて解くこと。
履修上の指導・留意点	高等学校で使用した「国語便覧」があると便利である。また、電子辞書でも構わないので、授業には、辞書を持ってくること。

授業科目	日本語学演習Ⅱ						
担当教員	山村仁朗						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3・4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020450
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)						

授業の概要	<p>柳田国男『毎日の言葉』を読解することを通して、日本語の分析方法を修得することを目標とする。本書に挙がる語彙のうちの一つを学生各自が担当し、本文の要約を行ったうえで、辞書や索引を手掛かりに最古の用例に遡り、その語が本来どのような意味の語であるかを考察する。また日本語史上の変遷を辿り、その語を現代において私たちがどのように所有しているかを検討する。日本語学演習Ⅱでは、現代語だけでなく古典語も考察の対象とする。</p>
授業の 到達目標	<p>(1) 用例の収集ができる。 (2) 日本語資料の性格を説明することができる。 (3) 日本語の分析ができる。</p>
授業計画	<p>第1回 柳田国男と日本語 第2回 日本語史の時代区分 第3回 日本語史の資料と発表の手順 第4回 学生による発表① 「オ礼ヲスル」 第5回 学生による発表② 「有難ウ」 第6回 学生による発表③ 「スミマセン」 第7回 学生による発表④ 「モッタイナイ」 第8回 学生による発表⑤ 「イタダキマス」 第9回 学生による発表⑥ 「タベルとクウ」 第10回 学生による発表⑦ 「オイシイとウマイ」 第11回 学生による発表⑧ 「クダサイとオクレ」 第12回 学生による発表⑨ 「モライマス」 第13回 学生による発表⑩ 「イル・イラナイ」 第14回 学生による発表⑪ 「モシモシ」 第15回 まとめ</p>
テキスト	柳田国男『毎日の言葉』(角川文庫)
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『定本 柳田国男集』第18・19巻(筑摩書房) ・阪倉篤義『日本語の語源』(平凡社ライブラリー) ・佐竹昭広『古語雑談』(平凡社ライブラリー)
評価方法	発表(70%)、学期末レポート(30%)
自己学習に 関する指針	自分の発表は入念に準備してください。そうでない場合も予めテキストを読み、質問を準備しておいてください。
履修上の 指導・留意点	<p>「日本語学概論Ⅰ」「日本語学概論Ⅱ」を受講していることを前提に授業を進めます。 質問はオフィスアワーに受け付けます。前もって、メールで連絡をしてください。 y-yamamura@u-shimane.ac.jp</p>

授業科目	日本語学特殊講義						
担当教員	内田賢徳						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020460
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国語学(音声言語及び文章表現に関するものを含む。)						

授業の概要	<p>萬葉ことばの意味世界について考察する。萬葉集に代表される七、八世紀の日本語は、九世紀以後の日本語と異なる点が多々ある。平仮名の中に住むようになった平安朝以後の日本語世界と、漢字のみで表記した日本語のあり方は異質な面が見られる。それらを具体的な語の意味の解明を通して知ることが出来るように講述する。毎回作成する配布資料に従って進めるが、それ以外に現代語の用法について課題を提示して、コメントを提出してもらう。古代語について知ることと現代語について反省をもつことは、ことばを考えることの両輪である。</p>
授業の到達目標	<p>・萬葉集のことばの解明を通して、日本語本来の意味のあり方を実感できるようになることを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 「萬葉ことば」とは何を指すのか。 第2回 「天地—あめつち」について 第3回 空間を表す語1「まへ・うしろ」 第4回 空間を表す語2「うへ・した・みぎ・ひだり」 第5回 時間を表す語 第6回 「ころ」と「身」1 その原義 第7回 「ころ」と「身」2 その展開 第8回 「思ふ」と「恋ふ」 第9回 「偲ふ—しのぶ」 第10回 「あはれ」 第11回 「生きる」と「死ぬ」「消ゆ」 第12回 「やさし」1 その原義 第13回 「やさし」2 ある資料の誤り 第14回 「かなし」1 悲と愛 第15回 「かなし」2 モーツアルトは萬葉のようにかなしい 定期試験</p>
テキスト	なし。資料を配付する。
参考文献	阪倉篤義著 内田賢徳解説『日本語の語源』平凡社ライブラリー 2011年
評価方法	講義内容について試験を行い、理解度を評価、また講義時に発言を求めて評価の一端とする。
自己学習に関する指針	配付資料をよく読み返して、講義内容を復習すること。参考文献として指定した著作を読むこと。
履修上の指導・留意点	私語は他の受講者の受講する権利と自由の侵害である。慎むこと。

授業科目	日本文学史 I (古典)						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020470
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	日本の古典文学史を通史的に把握し、日本の古典文学を研究するために必要な基礎的知識を修得する。平安中期に成立した『源氏物語』を軸として、成立以前と以後に分け、上代から近世までの代表的な古典文学作品を実際に読み進めながら、表現の摂取及び展開とその文学史的意義を考察する。また、古典文学の読解のために必要な知識(歴史的仮名遣い・古語・文化習俗・歴史的背景など)についての確認を行う。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の代表的な古典文学作品の概略が説明できるようになる。 ・日本の古典文学史の展開が説明できるようになる。 ・古文の正確な音読ができるようになる。
授業計画	第1回 ガイダンス、神話から初期物語へ 第2回 古代物語の主人公—古事記・竹取物語 第3回 継子物語の展開—落窪物語・住吉物語 第4回 日記文学の展開—土佐日記・蜻蛉日記 第5回 歌物語の展開—伊勢物語・大和物語・平中物語 第6回 『源氏物語』第一部の素材と構成(人物造型) 第7回 『源氏物語』第二部の素材と構成(物語の構想) 第8回 『源氏物語』第三部の素材と構成(心理描写) 第9回 随筆文学—枕草子・徒然草・方丈記 第10回 平安後期物語—堤中納言物語・浜松中納言物語 第11回 歴史物語—栄花物語・大鏡 第12回 和歌—八代集・紫式部集 第13回 謡曲—夕顔・葵の上 第14回 仮名草子・浮世草子—仁勢物語・好色一代男 第15回 読本・草双紙—雨月物語・脩紫田舎源氏 定期試験
テキスト	秋山虔・三好行雄編『原色シグマ新日本文学史増補版』文英堂
参考文献	授業中に指示する
評価方法	定期試験(80%)、読書レポート(20%)によって評価する。
自己学習に 関する指針	授業で取り上げた古典文学を積極的に読んで下さい。読書レポートを作成してもらいます。
履修上の 指導・留意点	手持ちの文法書、古語辞典を持参してください。

授業科目	日本文学史Ⅱ（近代）						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020480
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	<p>明治から現代に至る日本近代文学の歴史を学び、各時代の状況と文学との関わりを知り、時代によって様々な状況に置かれた人間の生き方について理解を深めることを目標とする。講義にあたっては、文学史の説明に合わせ、より実感的にその歴史を理解するために、各時代における主要な作品（おもに小説）を実際に読みながら進めていく。作品の読解にあたっては、グループでの話し合いや発表などを取り入れ、双方向的に授業を行う。</p>
授業の到達目標	<p>①日本の近代文学について通史的に理解する。 ②近代文学を研究するために必要な基礎的知識を修得する。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス、江戸から明治へ 第2回 近代文学理論の提唱と実践 第3回 浪漫主義その1～森鷗外ほか～ 第4回 浪漫主義その2～夏目漱石ほか～ 第5回 自然主義～田山花袋ほか～ 第6回 耽美主義～谷崎潤一郎ほか～ 第7回 理想主義～志賀直哉ほか～ 第8回 大正諸系流～芥川龍之介ほか～ 第9回 プロレタリア文学～葉山嘉樹ほか～ 第10回 新戯作派～太宰治ほか～ 第11回 戦後の作家その1～大岡昇平ほか～ 第12回 戦後の作家その2～安部公房ほか～ 第13回 現代の作家その1～大江健三郎ほか～ 第14回 現代の作家その2～よしもとばななほか～ 第15回 現代の作家その3～村上春樹ほか～ 定期試験</p>
テキスト	プリントによる
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	コメントシート（30%）と期末の試験（70%）を総合して評価する。
自己学習に関する指針	講義で取り上げた作家・作品の中から関心のあるものを見つけ、積極的に作品を読んでみることを望ましい。
履修上の指導・留意点	本科目は近代文学を理解するうえで基礎となる科目である。この分野に関心のある学生にはぜひ履修してほしい。

授業科目	古典文学Ⅰ（神話と伝説）						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020490
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本古典文学のうち、神話と伝説について取り上げ、読解を行う。『古事記』の出雲神話及び『出雲国風土記』の国引き神話などについて、上代語と神話表現の特質、及び地理的環境や古代史を踏まえ、作品の構造と成立の文学史的意義について考察する。また、神話との連続性をもつ伝説について、『風土記』、『万葉集』及び松江の伝説を取り上げ、話型論、歴史、習俗、古語をふまえた考察を行う。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・記紀・風土記の内容と成立を学び、時代背景と神話が担う意味をふまえて理解する。 ・神話・伝説の解釈の方法を学び、また地域とのかかわりを理解する。
授業計画	第1回 『古事記』『日本書紀』『風土記』の成立 第2回 天地初発と国生み—神名の意義 第3回 黄泉国訪問—『古事記』の世界観 第4回 八岐大蛇退治—自然から文化への主題 第5回 国譲り—出雲神話を考える 第6回 海神の宮訪問—神話から昔話へ 第7回 国引き神話—島根半島の創造 第8回 伝説とは何か 第9回 風土記における伝説 第10回 万葉集における伝説 第11回 小野小町・和泉式部伝説 第12回 松江の伝説（1）事代主と恵比須さん 第13回 松江の伝説（2）六日の菖蒲 第14回 松江の伝説（3）松江大橋と源助 第15回 神話と伝説についての総括
テキスト	倉野憲司校注『古事記』岩波文庫
参考文献	西郷信綱『古事記の世界』岩波新書
評価方法	期末レポート（80%）、ワークシート（20%）
自己学習に 関する指針	島根県には、黄泉比良坂、須我神社、美保神社、出雲大社などの出雲神話にゆかりの地が多くあります。授業で取り上げる伝説の地も含めて、4年間でなるべく実地見学に行ってほしいと思います。
履修上の 指導・留意点	

授業科目	古典文学Ⅱ（歌謡と和歌）						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020500
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	日本古典文学のうち、特に歌謡と和歌について取り上げ、その読解の方法を学ぶことを目標とする。「うた」とは何か、また歌が生成する場を考え、人間にとって歌とは何かを考察する。また、時代ごとの表現方法の展開について、先行研究をふまえながら個別の歌の分析を通して考察をおこなう。歌は記紀歌謡、万葉集、八代集、梁塵秘抄から歌謡・和歌を取り上げる。加えて、歌物語や歌合についての基礎的知識を身に付ける。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様式や技法などの基礎的知識をふまえて歌謡と和歌の解釈することができる。 ・日本古典文学における和歌史を説明することができるようにする。
授業計画	第1回 教科書に載る和歌 第2回 古事記の歌謡1 第3回 日本書紀の歌謡2 第4回 万葉集の長歌1 天皇の歌 第5回 万葉集の長歌2 柿本人麻呂の歌 第6回 万葉集の短歌1 恋の歌 第7回 万葉集の短歌2 自然の歌 第8回 万葉集の短歌3 人生の歌 第9回 八代集 春の歌 第10回 八代集 夏の歌 第11回 八代集 秋の歌 第12回 八代集 冬の歌 第13回 歌物語 第14回 歌合 第15回 民謡 定期試験
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・各自の古典文法のテキスト、古語辞典（電子辞書可） ・適宜資料を配付する
参考文献	渡部泰明『和歌とは何か』岩波新書 他
評価方法	定期試験（80%）、毎回のワークシート（20%）による。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	古典文学Ⅲ (物語と説話)						
担当教員	福田景道						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020510
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	<p>日本古典文学のうち、特に中古・中世の物語文学、中世・近世の歴史文学を取り上げる。</p> <p>日本古典文学史全体の流れを概観した上で、まず中古・中世の作り物語の中から『竹取物語』『源氏物語』『堤中納言物語』『我身にたどる姫君』を取り上げて、その文学的価値を探究する。それを踏まえて、各作品の姫君たちが子どもから大人になる経緯を対比して、王朝文学の本質に迫る。次に、作り物語の後継者としての中世・近世の歴史物語に注目し、『増鏡』『梅松論』『月のゆくへ』『池の藻屑』などの文学史的意義や特質を概観しながら、作品の読まれ方や読者の実相を明示する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 日本古典文学史の基礎的事項、作り物語・歴史物語諸作品の文学史的意義、価値、面白さを、簡潔に説明できる程度に理解する。</p> <p>(2) 『竹取物語』『源氏物語』『堤中納言物語』などの「姫君」に注目して、物語文学の価値を追究する。</p> <p>(3) 『増鏡』『梅松論』などの中世以降の歴史物語の特性を理解する。</p> <p>(4) 文学の享受の実態、文学教育のあり方、日本文化の特性について考える。</p>
授業計画	<p>第1回 はじめに—日本文学史と古典(古文)教育—</p> <p>第2回 日本古典文学史の構想—中世・近世の物語文学と説話文学を中心に—</p> <p>第3回 作り物語の成立—『竹取物語』の形成と竹取の翁—</p> <p>第4回 作り物語の確立—『竹取物語』の達成とかぐや姫—</p> <p>第5回 作り物語の完成—『源氏物語』の享受と紫の上—</p> <p>第6回 作り物語の到達—『堤中納言物語』の虫めづる姫君—</p> <p>第7回 作り物語の変容—中世王朝物語(擬古物語)と説話文学—</p> <p>第8回 物語世界の姫君たち—かぐや姫・紫の上・虫めづる姫君・我身にたどる姫君—</p> <p>第9回 歴史物語と説話文学—物語文学の新展開—</p> <p>第10回 中世歴史物語の虚構性—伝統を保持する『増鏡』—</p> <p>第11回 中世歴史物語の新奇性—新時代に向かう『梅松論』—</p> <p>第12回 幻の歴史物語『弥世継』を探す—和書の世界に触れる—</p> <p>第13回 近世歴史物語の世界—荒木田麗女の『池の藻屑』と『月のゆくへ』—</p> <p>第14回 歴史物語と説話文学—『大鏡』と『今昔物語集』—</p> <p>第15回 まとめ—神々の国の「物語」と「歴史」—</p> <p>定期試験</p>
テキスト	資料を毎回配付する(A4判・約60頁)。
参考文献	<p>古典本文(活字又は複製)・論説・図表・参考文献目録等を必要に応じて配布する。</p> <p>また、授業の要点をまとめた空欄補充式「授業概要シート」を適宜配付する。</p>
評価方法	<p>成績の評価は、次の(1)(2)の合計得点による。(1)と(2)の比率は、3:1。</p> <p>(1) 定期試験(期末1回、筆記)…試験問題は、到達目標の達成度を問うもので、授業の最終日近くにその趣旨等を説明する。</p> <p>(2) 課題試験(中間試験)…前もって課題・問題集を配布し、その中から出題する。</p>
自己学習に関する指針	・刊行された文献やウェブ検索によってこの授業の内容を知ることが難しいので、配付資料によって復習してください。

履修上の 指導・留意点	・高等学校卒業程度の基礎知識は、配付資料の中で補います。
----------------	------------------------------

授業科目	近代文学Ⅰ（郷土文学）						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020520
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	<p>島根にゆかりのある①民話、②小説、③詩について、鑑賞と解釈を通して、地域の文化・風土、その土地の人の生き方に対する理解を深めることを目標とする。①民話について、約半世紀前に採集された出雲・石見・隠岐各地方に伝わる民話の語りを鑑賞し、民話の意義や特質について理解を深める。②小説について、専門基幹科目「しまねの文学探訪」で訪れた地域にゆかりのある作品について、さらに理解を深める。③詩について、島根出身の詩人の作品を鑑賞し、風土との関連などについて考察する。</p>
授業の到達目標	<p>①島根ゆかりの近代文学について基本的な知識を修得する。 ②島根ゆかりの文学と、その土壌となる郷土の文化や風土との関連について理解を深める。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 島根の民話その1（隠岐） 第3回 島根の民話その2（出雲） 第4回 島根の民話その3（石見） 第5回 島根の民話を語る 第6回 島根の小説その1（森鷗外） 第7回 島根の小説その2（小泉八雲） 第8回 島根の小説その3（志賀直哉・里見弴） 第9回 島根の小説その4（芥川龍之介・井川恭） 第10回 島根の小説その5（須藤鐘一・田畑修一郎） 第11回 島根の小説その6（阿部知二・三浦浩） 第12回 島根の小説その7（井伏鱒二・松本侑子） 第13回 島根の詩その1（千家元麿・入沢康夫） 第14回 島根の詩その2（田村のり子・郷原宏） 第15回 島根の詩その3（島根の同人詩誌） 定期試験</p>
テキスト	プリントによる
参考文献	『CDで楽しむふるさとの昔話－隠岐・出雲・石見－』（今井書店）ほか
評価方法	コメントシート（50%）と期末の試験（50%）を総合して評価する。
自己学習に関する指針	講義で紹介した文学作品を積極的に読み、時にはゆかりの土地を訪ねて空気を感じてみるとよい。
履修上の指導・留意点	専門基幹科目「しまね文学探訪」（1年春学期）を履修しておくことが望ましい。 島根で国語教員を目指す学生には、本科目の履修を特に勧める。

授業科目	近代文学Ⅱ (小説)						
担当教員	田中俊男						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020530
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む)						

授業の概要	教科書定番作品、学校を舞台とする作品などを中心に短編小説を取り上げる。作者の人となり解説し、作品が生まれた背景を作者の人生と合わせて考えたり、時代状況と作品に描かれた状況を比較したりする。また作品の構造を図式化し、どのような仕組みによって物語が作られているかを考える。
授業の到達目標	日本近代文学についての理解を深め、テキスト解読の方法を学ぶことを目的とする。小説作品の多様な意味が生まれるプロセスを経験し、より深く、より豊かな読みが実践できるようにする。
授業計画	第1回 芥川龍之介「羅生門」、語り手の位置 第2回 太宰治「走れメロス」、RPGゲームのように 第3回 小川未明「小さい針の音」、田舎教師と出世 第4回 有島武郎「一房の葡萄」、母としての教師 第5回 森鷗外「高瀬舟」、定番教材はどのように教えられたか？ 第6回 谷崎潤一郎「小さな王国」、学級の統治者は誰か？ 第7回 安房直子「白いおうむの森」、死を理解すること 第8回 重松清「ワニとハブとひょうたん池で」、学校のいじめ 第9回 江国香織「すいかの匂い」、異人との出会い 第10回 山田詠美「海の方の子」、子どもたちの時間 第11回 山田詠美「眠れる分度器」、学校の中のハンディキャップ 第12回 角田光代「転校生の会」、転校生としての人生 第13回 角田光代「ジミ、ひまわり、夏のギャング」、私が複数であること 第14回 村上春樹「バースディ・ガール」、空白を読む／読まない 第15回 村上春樹「鏡」、悪はどこにいるか？ レポート
テキスト	小説をコピーして配布する。
参考文献	特になし。 必要なプリントは授業中に配布する。
評価方法	提出されたレポートの成績によって行う。
自己学習に関する指針	授業を通して関心を持った作家の他作品を読んでもよい。大学図書館にも関連作品が多数ある。
履修上の指導・留意点	小説は原則として前の回に配布するので、できるだけ自宅で読み、必ず次の回に持参すること。

授業科目	近代文学Ⅲ (評論)						
担当教員	古賀洋一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020540
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	日常生活で触れる機会が多い新聞の投書や評論、政治演説を対象として、批判的な読みを実践できるようになることを目的とする。授業では、批判的読みを実際に体験し、理解を深めながら、協同的に読みを深められるようになることを目指す。国語科教師にとっても、自分自身が文章を批判的に、深く読めるようになることが、授業づくりの土台となる。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・批判的な読みの理論と方法を理解することができる。 ・具体的な文章に即して批判的な読みを実践することができる。 ・他者と協同して批判的な読みを進めることができる。
授業計画	第1回 読書生活を振り返る 第2回 「批判的に読む」とはということか 第3回 文章の「根」と「葉」と「幹」 第4回 議論の方法—根拠・理由・主張の区別— 第5回 新聞の投書への批判的読み 第6回 単純な構造を持つ評論への批判的読み 第7回 複雑な構造を持つ評論への批判的読み 第8回 評論を通して社会に向き合う①—経験が持つ説得力— 第9回 評論を通して社会に向き合う②—社会的意義の観点からの批判的読み— 第10回 評論を通して環境問題を考える①—二つの評論の比べ読み— 第11回 評論を通して環境問題を考える②—二つの評論を統合して自分の考えを生み出す— 第12回 政治演説の読み方 第13回 グループワーク①—各自の読みの交流— 第14回 グループワーク②—各自の読みの統合— 第15回 グループワークの成果発表
テキスト	・授業で適宜配布します。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・野内良三『レトリック入門—修辞と論証—』世界思想社、2002年 ・鈴木健・岡部朗一編『説得コミュニケーション論を学ぶ人のために』世界思想社、2009年
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・授業の理解度(55%)…ワークシートやグループワークをもとに、批判的読みの理解度を評価する。 ・レポート(45%)…文章分析と批判的的確さを評価する。
自己学習に 関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・毎回の授業の復習をしっかりと行ってください。 ・授業外でも、色々な投書や評論に目を通してください。
履修上の 指導・留意点	・教職志望者は学習の成果を「履修カルテ」にまとめ、授業で用いた資料等を「学習ポートフォリオ」としておくこと。

授業科目	近代文学Ⅳ（絵本と童話）						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020550
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。） ○高等学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学（国文学史を含む。）						

授業の概要	<p>絵本と童話に関する知識と鑑賞力を養い、児童文学について理解を深めることを目標とする。絵本と童話の歴史を紐解きながら、多種多様な絵本と童話の世界を具体的に鑑賞し、内容を考察する。学内にある児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を利用して、学生による読み聞かせ、ブックトーク（テーマを決めて数冊の絵本・童話を紹介する）やポップの作成を取り入れながら授業を進行する。ストーリーテリングや日本独自の文化である紙芝居についても取り上げる。</p>
授業の到達目標	<p>①絵本と童話、紙芝居などに関する知識と鑑賞力を身に付け、児童文学に対する理解を深める。 ②読み聞かせやストーリーテリング、ブックトークの魅力や実践方法について理解する。 ③本学の児童図書専門図書館や島根独自の子ども読書支援策について理解する。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 絵本の歴史 第3回 世界の絵本・日本の絵本 第4回 絵本の読み聞かせ 第5回 本学児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」について 第6回 島根発、〈読みメン〉の取組について 第7回 童話の歴史 第8回 戦争童話 第9回 新美南吉その1（「てぶくろを買いに」） 第10回 新美南吉その2（「ごんぎつね」） 第11回 宮沢賢治その1（「注文の多い料理店」） 第12回 宮沢賢治その2（「やまなし」） 第13回 ストーリーテリングの鑑賞 第14回 紙芝居の鑑賞 第15回 児童文学と〈生きる力〉 定期試験</p>
テキスト	プリントを利用する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	コメントシート（50%）と期末の試験（50%）を総合して評価する。
自己学習に関する指針	本学児童図書専門図書館「おはなしレストランライブラリー」を積極的に利用し、児童文学を楽しんでみたい。
履修上の指導・留意点	専門基幹科目「読み聞かせの実践」（2年春学期）を履修しておくこと、本科目に対する理解がさらに深まる。

授業科目	近代文学V (詩の鑑賞と創作)						
担当教員	山根道雄						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020560
免許資格 関連事項							

授業の概要	日本の現代詩の鑑賞と創作を通して、詩の歴史や表現形式・内容に関する知識を修得し、詩的言語に対する感受性を高めるとともに、言語表現力を培うことを目標とする。鑑賞にあたっては、戦後から現代に至る間の代表的な詩人を選び、定型・自由など様々な形式の詩、人生・恋愛・風刺・ことば遊びなど様々な内容の詩を取り上げ、それぞれの特色を理解する。創作にあたっては、詩を書くことと同時に朗読することにも力を入れ、学生同士で創作した詩について意見交換し、理解を深める。
授業の到達目標	優れた詩作品を鑑賞することで日本語による表現の素晴らしさ・ダイナミズムを実感するとともに、言葉に対するセンスを身につける。また、自ら創作することで、事物を客観的に観察する力や想像力を獲得し、言葉(語)による自分らしい表現を発見する。
授業計画	<p>第1回 授業への導入(詩とは何か?)</p> <p>第2回 詩の作り方①・現代詩の鑑賞 《課題①詩の創作》</p> <p>第3回 詩の作り方②・現代詩の鑑賞</p> <p>第4回 詩の作り方③・課題①の合評(1)</p> <p>第5回 詩の作り方④・課題①の合評(2)《課題②詩の創作》</p> <p>第6回 現代詩の分類①・現代詩の鑑賞</p> <p>第7回 現代詩の分類②・課題②の合評(1)《課題③》</p> <p>第8回 テキストの解読①・課題②の合評(2)</p> <p>第9回 現代詩の分類③・テキストの解読②</p> <p>第10回 テキストの解読③・課題③のワーキング</p> <p>第11回 テキスト解読④・課題③のワーキング《課題④》</p> <p>第12回 詩集の作り方・現代詩の鑑賞</p> <p>第13回 課題④の合評(1)・現代詩の鑑賞</p> <p>第14回 課題④の合評・作品集の作成(1)</p> <p>第15回 作品集の作成(2)・授業のまとめ</p>
テキスト	荒川洋治著・「詩とことば」(岩波現代文庫)
参考文献	現代詩の鑑賞としてプリントを作成・配布
評価方法	4回提出させる課題の出来映え(100%)、
自己学習に関する指針	テキストや配付資料を読み、自分に合った形式、リズム、構成等を学び、詩の創作に役立てる。
履修上の指導・留意点	創作課題の合評は、グループ分けをして、それぞれ進行役・記録者を決めて行います。記録者には合評の内容を発表してもらいます。

授業科目	古典文学演習 I						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3・4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020570
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	<p>日本最古の和歌集である『万葉集』を読解する。『万葉集』は、支配者の歌、恋の歌、季節の歌、亡き人を悼む歌、旅の歌、東国の歌、防人歌、古伝承を素材にした歌、厳しい生活を詠んだ歌など、収録された歌の内容はきわめて広範囲にわたる。本授業では、『万葉集』における代表的な歌人の歌を各自取り上げ、問題点を設定し、辞書・注釈書・先行論文を用い用例を収集して、自らの解釈を示す。また、近世における万葉集研究と石見国における人麻呂信仰についても考察を行う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自らの問題意識を持って和歌を読解することができるようになる。 ・先行研究を整理した上で、自ら和歌を解釈することができるようになる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 『万葉集』歌の解釈の方法 第2回 長歌の形式 第3回 短歌・旋頭歌の形式 第4回 近世における『万葉集』研究 第5回 石見における人麻呂信仰 第6回 演習① 天皇の歌 第7回 演習② 額田王の歌 第8回 演習③ 柿本人麻呂の歌1：長歌 第9回 演習④ 柿本人麻呂の歌2：短歌 第10回 演習⑤ 山部赤人の歌 第11回 演習⑥ 大伴旅人の歌 第12回 演習⑦ 山上憶良の歌 第13回 演習⑧ 高橋虫麻呂の歌 第14回 演習⑨ 大伴家持の歌 第15回 演習⑩ 東国の歌</p>
テキスト	プリントを配布する
参考文献	<p>神野志隆光・坂本信幸『セミナー万葉の歌人と作品』第一巻～第十二巻(和泉書院) 鈴木日出男『万葉集入門』岩波ジュニア新書</p>
評価方法	発表 50%、定期試験に代わるレポート 50%で評価する。
自己学習に関する指針	発表箇所の決定後は、各自早めに調査に取り組んでください。
履修上の指導・留意点	「古典文学Ⅱ(歌謡と和歌)」の履修を前提として授業を行います。

授業科目	古典文学演習Ⅱ						
担当教員	山村桃子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3・4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020580
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	平安中期の長編物語『源氏物語』第一部及び第二部の読解演習を行う。自ら問題意識を持って古典作品を読むために、各巻を講読し、各自で問題点を設定し、辞書・注釈書・先行論文を用い、必要な用例を収集・分析する。その上で、自らの解釈を示す。本文は影印を用いて翻刻を行い、古文・くずし字の読解能力を身につける。また、『源氏物語』の享受の一形態として源氏香を体験する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・息の長い古文を、古語・文法・文脈をふまえて解釈できるようになる。 ・基礎的なくずし字を読解できるようになる。 ・『源氏物語』の内容・人物・物語構造が説明できるようになる。
授業計画	第1回 ガイダンス 発表の方法 第2回 くずし字の読み方 第3回 準拠論・成立論 第4回 文化論 第5回 香道「源氏香」 第6回 演習①桐壺・帚木巻 第7回 演習②空蟬・夕顔巻 第8回 演習③若紫・末摘花巻 第9回 演習④紅葉賀・花宴巻 第10回 演習⑤葵・賢木・花散里巻 第11回 演習⑥須磨・明石巻 第12回 演習⑦少女・玉鬘巻 第13回 演習⑧野分・真木柱巻 第14回 演習⑨若菜上・若菜下巻 第15回 演習⑩柏木・横笛巻 定期試験
テキスト	笠間影印叢刊刊行会編『字典かな―出典明記―改訂版』笠間書院
参考文献	秋山虔『源氏物語の世界』東京大学出版会 ほか
評価方法	発表60%、定期試験40%により評価する。
自己学習に関する指針	くずし字の翻刻を毎回の宿題とします。毎回の宿題をこなすことで、基本的なくずし字を読むことができますようになります。
履修上の指導・留意点	くずし字を読むためには、古文の読解能力が必要です。古典文法や古語の知識の確認をしておいてください。

授業科目	近代文学演習 I						
担当教員	岩田英作						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3・4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020590
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	近代文学の中で中学・高校の国語科教材として採用されたことのある作品を中心に取り上げ、学生による発表とその後のディスカッションを中心に進行する。作品の読解を深めることを主眼に置く。
授業の 到達目標	①日本近代文学の作家・作品について専門的な知識を修得する。 ②小説を読む技法と解釈力を修得する。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 中学国語より 別役 実『空中ブランコ乗りのキキ』 第3回 中学国語より 宮沢賢治『オツベルと象』 第4回 中学国語より 太宰 治『走れメロス』 第5回 中学国語より 山川方夫『夏の葬列』 第6回 中学国語より 安岡章太郎『サーカスの馬』 第7回 中学国語より 阿部 昭『あこがれ』 第8回 高校国語より 志賀直哉『濠端の住まい』 第9回 高校国語より 吉行淳之介『童謡』 第10回 高校国語より 井伏鱒二『山椒魚』 第11回 高校国語より 石川 淳『アルプスの少女』 第12回 高校国語より 三島由紀夫『白鳥』 第13回 高校国語より 中島 敦『山月記』 第14回 高校国語より 山田詠美『ひよこの眼』 第15回 高校国語より 村上春樹『七番目の男』 定期試験
テキスト	プリントを利用する。
参考文献	適宜紹介する。
評価方法	発表(50%)と期末の試験(50%)を総合して評価する。
自己学習に 関する指針	取り上げる作品については講義に先立ってあらかじめ読んでおくこと。 取り上げる作家の他の作品についても積極的に読むことが望ましい。
履修上の 指導・留意点	近代文学(小説)をより深く読みたい学生、国語の教員免許の取得を目指す学生には、本科目の履修を勧める。

授業科目	近代文学演習Ⅱ						
担当教員	山根 繁樹						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3・4 (各年開講)	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020600
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	日本の戦後小説を題材に、自ら問題を発見しながら作品を読み解く方法と、その読解を説得的に他者に伝える力とを養うことを目標とする。言葉の連なりが生み出す意味作用に対する洞察力や、物語の構造を把握する分析力を磨く。また、それぞれの読解をもとに発表やディスカッションを行うことで、文学作品について自らの考えを的確に表現したり、他者の伝えようとしている内容を正確に把握したりする力を培う。それによって、文学に対する学生の主体的なかかわりを醸成する。
授業の到達目標	(1) 小説を分析的に読解することができる。 (2) 小説についての自分の見解を発表することができる。 (3) 小説についての自分の見解を説得的な文章にすることができる。
授業計画	第1回 概説1 近代文学の分析方法 第2回 概説2 小説の構造と物語の関わり 第3回 概説3 現代社会と物語の強度 第4回 発表1 内田百閒「ゆうべの雲」 第5回 発表2 石川淳「アルプスの少女」 第6回 発表3 稲垣足穂「澄江堂河童談義」 第7回 発表4 小島信夫「馬」 第8回 発表5 安部公房「棒」 第9回 発表6 藤枝静男「一家団欒」 第10回 発表7 半村良「箆笥」 第11回 発表8 筒井康隆「遠い座敷」 第12回 発表9 洪澤龍彦「ダイダロス」 第13回 発表10 高橋源一郎「連続テレビ小説ドラえもん」 第14回 発表11 笹野頼子「虚空人魚」 第15回 発表12 吉田知子「お供え」 定期試験
テキスト	講談社文芸文庫編『戦後短篇小説再発見 10 表現の冒険』(講談社) 池澤夏樹『マシマス・ギリの失脚』(新潮文庫)
参考文献	前田愛『文学テキスト入門』(ちくま学芸文庫)
評価方法	定期試験(60%) 発表内容および資料(20%) レポート(20%)
自己学習に関する指針	授業で扱う作品については、事前に必ず読んでおいてください。
履修上の指導・留意点	意見の違いは重要です。積極的にディスカッションに参加してください。 質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail に対応します。

授業科目	日本文学特殊講義						
担当教員	大坪亮介						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020610
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。) ○高等学校教諭(国語)一種免許状《教科に関する科目》 ・国文学(国文学史を含む。)						

授業の概要	日本古典文学の一大ジャンルともいべき軍記物語について、特に代表的な作品である『平家物語』と『太平記』を主たる対象としてテキストの読解を中心とした授業を行う。各作品の背景や多様な諸本の存在、さらには歴史との関わりといった事柄についても、隣接諸分野の知見を参照しつつ考察を加え、戦乱を活写した文学である軍記物語の特質を浮き彫りにしていく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・軍記物語のテキストを、その歴史的・文化的背景を視野に入れつつ理解する。 ・中世特有の表現や語法に親しみ、軍記物語についての基礎的な知識を身につける。
授業計画	第1回 『平家物語』の成立 第2回 『平家物語』の表現世界 第3回 『平家物語』の歴史観 第4回 『平家物語』の諸本生成 第5回 『愚管抄』の世界 第6回 『承久記』の世界 第7回 『太平記』の成立 第8回 『太平記』の表現世界 第9回 『太平記』の歴史観 第10回 『太平記』の諸本生成 第11回 軍記物語と宗教 第12回 軍記物語と芸能 第13回 『平家物語』と近代日本 第14回 『太平記』と近代日本 第15回 まとめ
テキスト	プリント配布。
参考文献	日下力『いくさ物語の世界』(岩波新書、2008年) 川合康編『平家物語を読む』(吉川弘文館、2008年) 市沢哲編『太平記を読む』(吉川弘文館、2008年) 大津雄一『『平家物語』の再誕』(NHKブックス、2013年)、兵藤裕己『太平記〈よみ〉の可能性』(講談社学術文庫、2005年)
評価方法	期末レポートによる。
自己学習に関する指針	授業後にはプリントの内容をよく整理し、分からなかった言葉などは各自調べておくこと。また、上記参考文献以外にも、関連する書籍を積極的に読破しようとする姿勢が望ましい。
履修上の指導・留意点	教科書は用いず、プリントを配布する。古典テキストの読解がメインの授業であることをじゅうぶんに理解した上で受講してほしい。

授業科目	文化人類学						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	必修	単位数	2	授業コード	M3020620
免許資格 関連事項							

授業の概要	文化研究の基礎を学び、異文化のとらえ方、フィールドワークの基礎を身に付ける。いくつかの身近なテーマを設定し、世界中の調査地から集められた多様な事例を比較しつつ、共通性と異質性を意識しながら、文化の特徴を理解していく。受講生は、各テーマについて異文化と比較しながら、日本や自分自身に重ね合わせた考察を行なう。また、グローバル化する世界を生きるなかで必要とされる、異文化を理解していくための知識と技能を身に付けることを目的とした講義を行なう。
授業の到達目標	(1) 文化を多角的にとらえられる視点が身に付く。 (2) 文化人類学の重要な調査方法であるフィールドワークの基礎が身に付き、自ら調査を行なえるようになる。 (3) 各テーマについて異文化と比較しながら、日本の身近な文化を考えられるようになる。 (4) グローバル化する社会のなかで、異文化に対する関心を深め、正しく接するための知識が身に付く。
授業計画	第1回 文化人類学と文化の定義について 第2回 異文化との出会い：文化人類学の歴史 第3回 異文化のとらえかた：文化相対主義 第4回 フィールドワークとは 第5回 フィールドワークの技法を学ぶ 第6回 フィールドワークを活用する 第7回 家族と親族の多様性 第8回 家族と親族を考える 第9回 変化する家族と親族 第10回 コミュニティと社会 第11回 宗教と信仰 第12回 儀礼・呪術と社会 第13回 贈り物と社会 第14回 贈与と社会関係 第15回 現代の文化人類学
テキスト	なし（適宜プリントを配布）
参考文献	奥野克巳・花淵馨也 共編 『文化人類学のレッスン—フィールドからの出発』 学陽書房
評価方法	課題シート 30% 課題レポート 20% 試験 50%
自己学習に関する指針	(1) 関心を持ったテーマについて、授業で紹介する参考文献を参考にしながら、文献を読んで、知識を深める。 (2) それぞれのテーマについて、新聞記事やインターネットなどを通じて情報を収集し、それらをもとに自分で分析しながら考える。
履修上の指導・留意点	授業では毎回課題シートの提出があるので、授業の内容をふまえて自らどう考えるか、また疑問点を見出すなど、主体的に考える姿勢で授業に参加すること。

授業科目	ジェンダーと文化						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020630
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>宗教、家族、仕事を主なテーマとし、世界各地の事例を比較しながら、ジェンダーの視点から考えることを目標とする。それぞれのテーマに関連する問題、その背景と問題解決への取り組みについて、日本との比較をしながら、世界各地の事例に基づいた講義を行う。映像や新聞記事などを活用することで、受講者が将来像を含め、自分と重ね合わせた考察を行なうこと、自分の意見をしっかりと持ち、それを伝えられるようになることを到達目標とする。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 世界の多様な事例を見ることで、ジェンダーについて意識し、考えられるようになる。 (2) テーマで扱う問題の背景と取り組みをきちんと理解し、それに対して自分の意見を持てるようになる。 (3) 授業で扱う問題について、将来像を含め、自分と重ね合わせて考える視点が身に付く。</p>
授業計画	<p>第1回 ジェンダーとは何か 第2回 ジェンダー研究の背景 第3回 ジェンダーの多様性を考える 第4回 イスラム教のジェンダー観 第5回 ワークショップ1：意見交換 第6回 ワークショップ2：口頭発表とまとめ 第7回 ヒンドゥー教のジェンダー観 第8回 仏教のジェンダー観 第9回 多様な家族の姿とジェンダー 第10回 近代家族の成立と女性 第11回 制度から考えるジェンダー 第12回 仕事とジェンダー観 第13回 家事労働とジェンダー 第14回 育児に見るジェンダー観 第15回 新しい働き方への取り組みと全体のまとめ 定期試験</p>
テキスト	<p>テキストは特に定めず、プリントを配布します。</p>
参考文献	<p>田中雅一・中谷文美（編）2005『ジェンダーで学ぶ文化人類学』世界思想社。 川島典子・西尾亜希子（編著）2012『アジアのなかのジェンダー：多様な現実をとらえ考える』世界思想社。</p>
評価方法	<p>課題シート30%、課題20%、試験50%、</p>
自己学習に関する指針	<p>(1) 新聞やニュースなどで取り上げられるジェンダー関係の記事などを参考に、現在の動きを知りながら、自ら考える。 (2) 授業内で紹介する参考文献を参考に、知識を深める。</p>
履修上の指導・留意点	<p>授業では毎回課題シートの提出があるので、授業の内容をふまえて自らどう考えるか、また疑問点を見出すなど、主体的に考える姿勢で授業に参加すること。</p>

授業科目	多文化共生論						
担当教員	増原 善之、塩谷 もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020640
免許資格 関連事項							

授業の概要	アジアをはじめとする異文化への理解を深めながら、多様な文化を持つ人びとと地域で共生する方法を学び、受講生が自ら考察することを目標とする。多文化共生論、異文化理解に関する講義で基礎を学び、外部講師による文化講座で異文化への理解を深め、山陰で生活する異文化の人々との意見交換を実施する。これらを通じて、地域に住む多様な人々が良好な関係を築き、それを維持するために重要なことについて、主体的に考えを深めていく。
授業の到達目標	(1) 偏見や先入観にとらわれることなく、多文化共生社会の現状と課題を正しく理解する。 (2) 多文化共生の観点から、今後の日本社会のあり方について自分自身の考えを述べることができる。 (3) 多文化共生社会の一員として、地域社会への自らの関わりを見出し、実践できるようになる。
授業計画	第1回 多文化共生とは 第2回 異なる文化に触れた経験から 第3回 「日本人」の境界 第4回 日本の中での多様性を考える 第5回 日本の難民受け入れ 第6回 日本で働くということ 第7回 島根県内の定住外国人 第8回 多文化共生と子どもたち 第9回 日本の移民政策 第10回 宗教と食について考える 第11回 自然災害と外国人 第12回 ことばに関する活動：日本語教室とやさしい日本語 第13回 地域社会の取り組み 第14回 異文化交流活動を考える 第15回 まとめ～多文化共生社会に向けて～
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	高城玲（編著）2017『大学生のための異文化・国際理解：差異と多様性への誘い』丸善出版 加賀美常美代（編著）2013『多文化共生論：多様性理解のためのヒントとレッスン』明石書店
評価方法	ワークシート（30%）、口頭発表課題（20%）、レポート課題（50%）
自己学習に関する指針	(1) 文献、インターネット、ニュースや新聞報道等を通じて、日常的に多文化共生や異文化について関心を持ち、知識を深める。 (2) 異文化交流活動等へ積極的に参加し、多文化共生について考える。
履修上の指導・留意点	授業時間外に、異文化交流活動等に参加をする可能性がある。

授業科目	アメリカ文化論						
担当教員	藤永康政						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020650
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・異文化理解 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・異文化理解						

授業の概要	<p>本講義では、現代のアメリカ社会や文化に巨大な影響を与えている公民権運動の歴史を学ぶことを通じ、アメリカ史ならびにアメリカ文化に関する理解を深めることを目的とする。授業では、マーティン・ルーサー・キングとマルコムXの生涯を主に取りあげる。彼ら二人はしばしば「黒人指導者」として対極に位置づけられているが、その実態は一般に思われているものと異なる。本授業では、戦後のアメリカ社会の変化のなかに彼ら二人の生涯を位置づけながら、このことを考察する。また、本講義での後半では、オバマ政権以後のアメリカで起きた変化を検討することを通じ、現在アメリカ社会に関するより深い知識と理解を得ることを目指す。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・アメリカ現代史の実像について理解を深め、アメリカ像の再構築をすすめる。 ・アメリカ現代史分野における個別研究の実例を通じて、アメリカ研究の研究方法を学ぶ。 ・既存の知識を捉え直せるような柔軟な思考力を養う。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 今日のアメリカ社会・文化の基礎知識 第3回 植民地期から南北戦争 第4回 デュボイス・ワシントン論争 第5回 公民権運動概史(1)ー20世紀後半のアメリカ社会の変化 第6回 公民権運動概史(2)ー長い公民権運動論と現代社会 第7回 モントゴメリー・バス・ボイコット運動の実像(1)ー運動の概略 第8回 モントゴメリー・バス・ボイコット運動の実像(2)ー公民権運動とジェンダー 第9回 『自由への大いなる歩み』を読む 第10回 ブラック・フェミニズムの視点 第11回 公民権運動の批判的検討 第12回 マルコムXの生涯と都市黒人ゲトー(1)ー北部都市黒人ゲトーの形成 第13回 マルコムXの生涯と都市黒人ゲトー(2)ーマルコムXと公民権運動 第14回 今日のアメリカ社会・文化の発展知識(1)ー公民権運動後のアメリカ 第15回 今日のアメリカ社会・文化の発展知識(2)ー2016年大統領選挙をどう見るか?</p>
テキスト	<p>上杉忍『アメリカ黒人の歴史』(中公新書) マーティン・ルーサー・キング『自由への大いなる歩みー非暴力で闘った黒人たち』(岩波新書、1959年) マルコムX『完訳マルコムX自伝』(中公文庫、2002年)</p>
参考文献	<p>授業中に適宜指示する。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・期末レポートに基づき、総合的見地から評価する。 ・レポートでは、授業内容の理解度と同時に、論述文作成能力も判断基準とする。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・上記テキストのうち、上杉忍『アメリカ黒人の歴史』(中公新書)は、授業前に一読することを強く奨めます。 ・ほかのテキストも、多くの図書館が所有しているものであり、レポート課題の必須文献とするので必ず読むこと。 ・授業で紹介した参考文献や資料は、復習とレポート作成に役立てること ・日頃からアメリカ発のニュースには強い関心を持つこと。授業のなかでも適宜触れることとなります。

履修上の 指導・留意点	<ul style="list-style-type: none">・集中講義につき、質問はメールで対応します。・3分の1以上の欠席があった場合、レポート提出を認めることはできません。
----------------	---

授業科目	イギリス文化論						
担当教員	吉中孝志						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020660
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・異文化理解 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・異文化理解						

授業の概要	英国初期近代のシェイクスピアとその前後の詩人たちが、如何に自分自身の名前や愛する人の名前を文学テキストの中に刻み込んだか、そしてその意義について考察することでイギリス文化の根幹にある特異性と普遍性を探求する。
授業の到達目標	・文学テキストを解読することによって、テキストとしての文化を分析する能力を養成する。イギリス文化の根幹にある詩、韻文文学を精読し、心理学、哲学、思想史学、歴史学、言語理論等を援用して、イギリス文化の特異性と人文学の研究対象に内在する普遍性を考察する。
授業計画	第1回 導入 イギリス文化と名前、個人主義について 第2回 序論 現代西洋文化に内在する不安感—ジョン・レノンの「ジュリア」— 第3～5回 さまざまな宮廷風恋愛の考察を通して現代の恋愛文化が発明された過程を探求する。 第3回 サー・フィリップ・シドニー 第4回 エドマンド・スペンサー その1 (三人のエリザベス) 第5回 エドマンド・スペンサー その2 (繰り返される名前) 第6～8回 初期資本主義が文学作品に与えた影響を分析することでイギリス文化の経済的側面を考察する。 第6回 ウィリアム・シェイクスピアの『ソネット集』 第7回 ウィリアム・シェイクスピアの『ロミオとジュリエット』 第8回 ウィリアム・シェイクスピアのその他の作品 第9～10回 宗教詩を分析することでイギリス宗教文化に内在する葛藤を考察する。 第9回 ジョン・ダンの人生と恋愛詩 第10回 ジョン・ダンの宗教詩 第11回 ベン・ジョンソンの詩を通してイギリス文化の死生観を探る。 第12～13回 イギリス文化における庭園 第12回 アンドリュー・マーヴェルの『庭』について 第13回 アンドリュー・マーヴェルの『庭を攻撃する草刈人』について 第14～15回 イギリス文化と聖書、キリスト教 第14回 ジョン・ミルトンの『失樂園』その1 (名付けるという行為) 第15回 ジョン・ミルトンの『失樂園』その2 (墮落と名前)
テキスト	『名前で読み解く英文学—シェイクスピアとその前後の詩人たち—』(広島大学出版会、平成24年)
参考文献	授業時に指示する。
評価方法	筆記試験もしくはレポートによる。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	異文化コミュニケーション論						
担当教員	浜田 幸絵						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020665
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・異文化理解 ○高等学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・異文化理解						

授業の概要	近年、人々は、かつてない規模で世界を移動し、異なる文化に触れています。また直接接触したことはなくても、一度も訪れたことのないような国やそこに生きる人々についての情報に、日常的に接しています。この授業では、異文化コミュニケーションをめぐる諸問題について考え、一つの物事を多面的にみる力を養います
授業の到達目標	1. 異文化コミュニケーションに関する基礎的な理論・概念について理解する。 2. 文化の多様性や異文化交流のもつ様々な側面について、体験的に理解したうえで、多面的に考え、説明することができる。 3. 他の学生と協力しながら勉強や議論を進めることができる。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 「文化」とは？ 第3回 「異文化」とは？ (1) —文化の違いについて— 第4回 「異文化」とは？ (2) —対立と理解— 第5回 多様な文化的背景をもったゲスト講師との交流(1)—自分の文化を意識する— 第6回 多様な文化的背景をもったゲスト講師との交流(2)—他者の文化を知る— 第7回 文化の多様性と異文化交流—考えをまとめよう— 第8回 異文化に出会うとき(1)—ステレオタイプについて— 第9回 異文化に出会うとき(2)—オリエンタリズム、オキシデンタリズム— 第10回 異文化交流と国際イベント(1)—オリンピックと万国博覧会— 第11回 異文化交流と国際イベント(2)—考えをまとめよう— 第12回 言語とコミュニケーション(1)—「コミュニケーション」とは？— 第13回 言語とコミュニケーション(2)—非言語コミュニケーションについて— 第14回 言語とコミュニケーション(3)—考えをまとめよう— 第15回 まとめ
テキスト	指定はしません。レジュメを配布します。
参考文献	青木保『異文化理解』（岩波書店、2001年） 池田理知子編『よくわかる異文化コミュニケーション』（ミネルヴァ書房、2010年） 河合優子編『交錯する多文化社会』（ナカニシヤ出版、2016年）
評価方法	学期末レポート（60%）、小課題（40%）
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	ヨーロッパ文化論 I (フランス)						
担当教員	金山富美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020670
免許資格 関連事項							

授業の概要	世界の政治経済の基盤を成し、日本人の生活習慣や娯楽にも大きな影響を与えてきたヨーロッパについて、その牽引車であるフランスに的を絞り、様々な分野における「フランス的なもの」を読み解くことを目標とする。歴史・思想・文学・芸術の基礎知識はもとより、社会制度や生活習慣など具体例も交えて紹介し、受講生がフランスの多様性と異質性に目を開き、その鏡に照らして日本文化を再発見できるように講義を進める。
授業の到達目標	(1) フランスの人々の生活・習慣、その基盤にある文化や精神について、基礎的知識を獲得する。 (2) 異なる文化の「表情」に触れ、そこにステレオタイプではない新しいものの見方を発見できる。 (3) フランスと自国の文化、国民性等に差異や共通点について考え、それを説明することができる。
授業計画	第1回 イン트로ダクション フランスの地理・風土、日本語になったフランス語・フランス語になった日本語 第2回 歴史と文化概観 (1) ガリア～中世～17世紀 第3回 歴史と文化概観 (2) 18世紀～19世紀 第4回 歴史と文化概観 (3) 20世紀～現在 第5回 日仏の文化交流 第6回 前回までのまとめの小テスト、フランス語のプロフィール (1) フランス語の生成 第7回 フランス語のプロフィール (2) フランスと英語の切っても切れない関係、フランス語の特徴 第8回 フランス文学とそこに表現されるもの (1) 童話・寓話 第9回 フランス文学とそこに表現されるもの (2) 近代小説 第10回 フランス文学とそこに表現されるもの (3) 現代の文学 第11回 衣生活、モードの世界 第12回 飲食の文化 第13回 教育 第14回 ライフスタイル (1) 祭日、冠婚葬祭、家族 第15回 ライフスタイル (2) 女性、市民生活、政治 定期試験
テキスト	プリントを配布する
参考文献	講義の中で紹介する
評価方法	毎回のレスポンス・シート (30%)、第6回目に行う小テスト (20%)、定期試験 (50%)
自己学習に関する指針	・ 配布資料を十分に理解し、必ず復習を行うこと。
履修上の指導・留意点	・ 毎回、講義終了の前に、短いレポート (レスポンス・シート) を課す。

授業科目	ヨーロッパ文化論Ⅱ (ドイツ)						
担当教員	上野敬子						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020680
免許資格 関連事項							

授業の概要	ドイツの生活事情に触れ、知識を得ることを通して、ドイツ語・ドイツ文化に対する興味を深め、さらに自らの文化との比較を通して、それぞれの文化の魅力を学ぶことを目標とする。授業では、ドイツの住まいや週末・休暇の過ごし方、ドイツの学校制度・大学生活、家庭での食事、スポーツ、環境問題など、生活の中の身近なテーマを取り上げて考察し、私たちの生活との違いについて話し合い、さらに、なぜ文化の違いが成り立っているのかを考えてみる。
授業の到達目標	ドイツ文化・ドイツ語の知識を習得するとともに、異文化理解に際しての精神的態度・認識を身につけます。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 ドイツの都市と自然 第3回 ドイツの住まい 第4回 交通事情 第5回 週末・休暇の過ごし方 第6回 学校制度と大学生活 第7回 カフェ・レストラン 第8回 家庭での食事 第9回 ビールとワイン 第10回 祝祭日とお祭り 第11回 スポーツ 第12回 芸術 第13回 文学 第14回 環境問題 第15回 生活習慣 — 日本との違い</p> <p>以上のテーマで講義をする予定ですが、参加する学生の皆さんの興味により、新たなテーマを加えることもあります。</p>
テキスト	プリントを配布します。
参考文献	適宜指示いたします
評価方法	定期試験(筆記:50%)と、出席・発表(又はレポート)による受講評価(平常点:50%)を総計して、総合的に評価します。
自己学習に関する指針	問題意識を持った主体的な取り組みを期待しています
履修上の指導・留意点	初回の授業は、出席・試験・などの方針について説明しますので、必ず出席してください

授業科目	アジア文化論 I (東南アジア)						
担当教員	塩谷もも						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020690
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>東南アジアを中心に、アジアの社会、文化に関する知識の基礎を身に付けることを目標とする。「自然環境」「宗教」「食」「住」「言語」「民族衣装」などをテーマにとりあげた講義を行なう。グローバル化が進行する中で、事例に基づいてアジア諸国と日本のつながりの現状についても考察していく。身に付けた知識に基づいて、自分とは異なる文化、宗教、価値観を持つ人びとと接する際に何が重要かを考える想像力、多角的な視点で物事を捉える力を修得する。</p>
授業の到達目標	<p>(1) 東南アジアの社会・文化的な特徴と基礎知識を身につけることができる。 (2) 自分と異なる文化、信仰、価値観を持つ人と共存について、主体的に考えられるようになる。 (3) 各国の事例を比較することで、多様性と共通性について知り、その視点を生かしながら、日本の社会・文化についても広い視野から考えられるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 アジアとは 第2回 自然環境と生業 第3回 国民国家の成立と民族集団 第4回 植民地からの独立と言語 第5回 多民族国家での言語 第6回 衣服とアイデンティティ 第7回 衣服と宗教 第8回 居住空間と社会関係 第9回 家と人々のつながり 第10回 宗教の重層性 第11回 混交する信仰体系 第12回 食から考える宗教 第13回 グローバル社会の中での食 第14回 ハラルビジネス 第15回 東南アジアと日本のつながり</p>
テキスト	テキストは特に定めず、適宜プリントを配布します。
参考文献	上智大学アジア文化研究所(編)『新版入門東南アジア研究』めこん。 東京外国語大学東南アジア課程(編)『東南アジアを知るための50章』明石書店。
評価方法	課題シート30%、レポート課題20%、試験50%
自己学習に関する指針	<p>(1) 関心を持ったテーマ、国について、授業で紹介する参考文献を参考にしながら、文献を読んで、知識を深める。 (2) それぞれのテーマについて、新聞記事やインターネットなどを通じて情報を収集し、それらをもとに自分で分析しながら考える。</p>
履修上の指導・留意点	授業では毎回課題シートの提出があるので、授業の内容をふまえて自らどう考えるか、また疑問点を見出すなど、主体的に考える姿勢で授業に参加すること。

授業科目	アジア文化論Ⅱ (東アジア)						
担当教員	内藤忠和						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020700
免許資格 関連事項							

授業の概要	東アジアを中心に、アジアの社会、文化に関する知識を習得し、異文化に対する理解を深め、自分とは異なる言語、文化、価値観を持つ人々と接する際に必要なことがらを体得することを目標とする。「文化」「言語」「文学」「社会」「交流」などをテーマとし、映像資料なども活用しながら講義を進める。東アジア諸国と日本との文化的、社会的関係性についても考察し、相互の影響関係や共通点・相違点について理解を深める。
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 東アジアの社会、文化に関する知識を得る。 2. 異文化理解を深める。 3. 日本と東アジア諸国との影響関係及び相互の共通点・相違点について考察し、理解を深める。
授業計画	第1回 ガイダンス 第2回 文化① 東アジアの宗教と倫理概説 第3回 文化② 中国語圏映画の世界 第4回 文化③ 流行音楽から見る中国語圏の現代文化 第5回 言語① 新語・流行語から見る文化交流 第6回 言語② 中国語と英語は本当に似ている？ 第7回 言語③ 「国語」と「普通話」と「華語」 第8回 文学① 中国古典入門 第9回 文学② 中国古典小説の世界 第10回 文学③ 中国語圏現代文学アラカルト 第11回 社会① 中国社会の恋愛・結婚 第12回 社会② 「反日」の歴史と現実 第13回 交流① 20世紀前半の「近代」受容 第14回 交流② 増田渉と魯迅 第15回 まとめ
テキスト	適宜配布します。
参考文献	適宜周知します。
評価方法	課題提出 (30%) 及び学期末レポート (70%)
自己学習に関する指針	受講生には一定時間調査・考察が必要な課題を出して授業時間外の学習を義務付けます。
履修上の指導・留意点	3分の1以上無断欠席した場合は「不可」となります、注意してください。

授業科目	アジアの歴史 (東南アジア)						
担当教員	増原 善之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	コース必修	単位数	2	授業コード	M3020710
免許資格 関連事項							

授業の概要	日本と東南アジアは歴史的に密接な関係を築いてきたにもかかわらず、私たち日本人の同地域に対する知識はとても限られている。本科目では東南アジアの通史を「広く浅く」学ぶのではなく、東南アジア社会の転換点となった重要なトピックを取り上げ、その歴史的意義を深く掘り下げていく。また、近現代においては日本との関係に重点を置き、グローバル化が進む世界において、東南アジアの人びととどのような関係を築いていくべきか、受講者とともに議論したい。
授業の到達目標	(1) 高校の世界史ではほとんど扱われなかった東南アジア史の基礎的知識を学ぶことができる。 (2) 私たちの目に映る現代東南アジアの社会や文化がどのようにして生み出されたのか、その歴史的背景について理解を深めることができる。 (3) 日本と東南アジアとの関係史を学ぶことで、今後、どのように東南アジアと向き合っていくべきか、自分なりの考えを持つことができる。
授業計画	第1回 ガイダンス～東南アジアを知っていますか～ 第2回 民族・言語・基層文化 第3回 東南アジアの古典国家 第4回 上座仏教の世界 第5回 交易の時代～世界の交易センターとしての東南アジア～ 第6回 東南アジアの植民地化 第7回 タイと日本～植民地にならなかった国の近代化～ 第8回 ナショナリズムと共産主義の台頭 第9回 アジア太平洋戦争と東南アジア～日本占領下にいた人びとの視点から～ 第10回 独立と国民統合 第11回 ベトナム戦争 第12回 日本が「難民」と出会ったとき 第13回 開発独裁・社会主義・民主化 第14回 アセアンの理想と現実 第15回 まとめ～これからの日本と東南アジア～
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	コメントシート(40%) および学期末試験(60%)に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業内容をより良く理解するために、授業中に紹介した参考文献やDVDなどを積極的に活用して知識を深めてほしい。
履修上の指導・留意点	「アジア文化研修」への参加を考えている学生は、本科目を履修することが望ましい。

授業科目	アジア文化研修計画						
担当教員	増原 善之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2・3 (隔年開講)	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3020720
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>「アジア文化研修」の履修予定者を対象とし、同研修の事前学習および準備を行うことを目的とする。おもな内容は(1) ラオスを理解するために欠かすことのできない基礎知識を学ぶこと、(2) 他の受講者と協力して、ホームステイ先で実施する文化交流活動・スポーツ交流活動等(以下「交流活動」)を企画し、その実現に向けて準備(練習)を行うこと、(3) ラオスの人びとと最低限の意思疎通をはかれるよう、初歩的なラオス語を学ぶことの3点である。</p>
授業の到達目標	<p>(1) ラオスに関する基礎知識を体系的に学ぶとともに、東南アジアの社会について理解を深めることができる。</p> <p>(2) 他の受講者と協力して「交流活動」の準備を行うことにより、企画力に加え協調性・積極性を伸ばすことができる。</p> <p>(3) 挨拶、数の数え方、身の回りにある物の名前など初歩的なラオス語が身につく。</p>
授業計画	<p>第1回 「アジア文化研修」の概要説明・今後の計画作成 第2回 ホームステイ先で実施する「交流活動」の内容・役割分担についての打ち合わせ 第3回 ラオスの基礎知識①(安全対策・保健衛生状況) 第4回 ラオスの基礎知識②(民族) 第5回 ラオスの基礎知識③(宗教) 第6回 ラオスの基礎知識④(文化) 第7回 ラオスの基礎知識⑤(歴史) 第8回 ラオスの基礎知識⑥(政治) 第9回 ラオスの基礎知識⑦(経済) 第10回 ラオスの基礎知識⑧(社会) 第11回 ラオスの基礎知識⑨(日本との関係) 第12回 ラオスの基礎知識⑩(経済援助およびNGO・NPOの活動) 第13回 ラオスの基礎知識⑪(諸外国との関係) 第14回 ラオスの基礎知識⑫(村の暮らし、エチケット) 第15回 渡航前最終確認</p> <p>上記の事前学習と並行して、ラオス語の学習および「交流活動」の準備(練習)を行う。</p>
テキスト	適宜プリントを配布する。
参考文献	必要に応じて紹介する。
評価方法	事前学習(40%)、交流活動の準備(40%)、ラオス語学習(20%)を総合的に評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業時間だけでラオス語を覚えることはできないので、復習を怠らないように。 ・ 「アジア文化研修」はお仕着せの見学旅行ではなく、参加者全員で作りに上げていくものであることを自覚し、事前学習および準備の段階から積極的・主体的に取り組んでほしい。
履修上の指導・留意点	・ 本科目を履修する者は「アジア文化研修」も必ず履修すること(いずれか1科目のみの履修は認められない)。

授業科目	アジア文化研修						
担当教員	増原 善之						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2・3 (隔年開講)	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020730
免許資格 関連事項							

授業の概要	「アジア文化研修計画」の既履修者を対象とし、東南アジアのラオスを訪れて人々の暮らしや文化に触れ、異文化を理論としてではなく、現地での体験を通して理解することを目的とする。農村でのホームステイに重点を置き、村人と生活を共にしながら、文化交流活動等を通して相互理解を試みる。さらに世界遺産ルアンパバーンにおいて博物館・仏教寺院等の見学や各種体験学習を通して、現地の人びとの暮らしや文化の多様性・奥深さについて理解を深める。
授業の到達目標	(1) ふだんなじみのない文化事象、宗教実践、生活様式なども、その社会的・歴史的背景を知れば、それらを受け入れることに大きな困難はないことを体験を通して理解する。 (2) 言葉や文化の違いを乗り越え、現地の人びとと意思疎通を図るなかで、異文化理解に不可欠な心構えとスキルを身につける。 (3) 海外へ視野を広げることで、新たな研究課題を発見し、学習意欲の一層の向上につなげることができる。
授業計画	・研修期間は、日本との往復を含めて 10 日間、そのうちラオス滞在は 7 泊 8 日となる予定である。ラオスにおける研修内容の概要は以下の通り。 (1) 農村でのホームステイ 農村の暮らしを体験 (農作業・家事手伝い)、文化交流活動、子供たちとのスポーツ交流など (2) ルアンパバーン市内見学および各種体験学習 国立博物館・仏教寺院・織物村見学、托鉢体験、象乗り体験、メコン川クルージングなど (3) ビエンチャン (首都) 市内見学 ・帰国後、研修内容およびその成果をまとめたレポートを作成し、報告会を開いて総括を行う。
テキスト	「アジア文化研修計画」において配布したプリントを適宜活用する。
参考文献	「アジア文化研修計画」において紹介した文献を適宜活用する。
評価方法	研修への取り組み (70%) および帰国後のレポート作成・報告会 (30%) に基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	・本研修はお仕着せの見学旅行ではなく、参加者全員で作りに上げていくものであることを自覚し、現地での諸活動に積極的・主体的に取り組んでほしい。
履修上の指導・留意点	・本科目を履修する者は「アジア文化研修計画」も必ず履修すること (いずれか 1 科目のみの履修は認められない)。 ・スケジュール・参加費用等の詳細が決まり次第、説明会を開いて参加者の公募を行う予定である。 ・本研修の参加人数は最大 15 名とする。応募者が多い場合は人数制限を行う。 ・旅費を含む参加費用は、参加者の個人負担とする。 ・本研修は海外情勢および受け入れ国の保健衛生状態等の理由でやむをえず中止になることがある。

授業科目	国際文化特殊講義						
担当教員	鹿野一厚						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020740
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>海外の諸文化について学外の研究者によって集中講義形式で行い、学内の専任教員とはまた違った観点からの講義を通して、海外の文化について視野を広げ、理解を深めることを目標とする。海外の文化や歴史に係わる研究内容について、より多くの学生が興味を持てるようにわかりやすく講義する。集中講義で学生の集中力が途切れないように、学生のワークショップやプレゼンテーションを取り入れ、双方向のコミュニケーションを図りながら授業を進行する。</p> <p>平成32年度は、対象としてアフリカ地域を取り上げる。日本から遠く離れたアフリカとそこに住む人びとについて理解するために、最新のアフリカ研究の知見を紹介しながら、文化だけでなく自然環境、歴史、社会についても広く解説してゆく予定である。</p>
授業の到達目標	<p>①アフリカの文化や自然・歴史・社会などに関する基礎的な知識を習得する。</p> <p>②アフリカの多様性と過去、そして困難と希望について理解し、それらから何かを学ぶことができる。</p> <p>③アフリカから学んだ様々なことを自己の言葉で説明することができる。</p>
授業計画	<p>(講義20時間、演習10時間)</p> <p>第1回 アフリカの多様性 国家と民族、生態環境と生業(1)</p> <p>第2回 アフリカの多様性 生態環境と生業(2)</p> <p>第3回 アフリカの多様性 演習</p> <p>第4回 アフリカの過去 人類の誕生から古王国まで</p> <p>第5回 アフリカの過去 奴隷交易、植民地支配</p> <p>第6回 アフリカの過去 植民地支配、そして独立</p> <p>第7回 アフリカの過去 演習</p> <p>第8回 アフリカの困難 政治的動乱と紛争(1)</p> <p>第9回 アフリカの困難 政治的動乱と紛争(2)</p> <p>第10回 アフリカの困難 演習</p> <p>第11回 アフリカの希望 経済の激動、紛争処理(1)</p> <p>第12回 アフリカの希望 紛争処理(2)</p> <p>第13回 アフリカの希望 演習</p> <p>第14回 アフリカの希望 演習</p> <p>第15回 おわりに</p> <p>定期試験</p>
テキスト	テキストはとくに使用しないが、毎回レジュメと資料を配付する。
参考文献	『アフリカ社会を学ぶ人のために』 松田素二編 2014年 世界思想社 『新書アフリカ史』 宮本正興・松田素二著 1997年 講談社現代新書 その他、授業中に随時紹介する。
評価方法	成績は、小レポート(50%)、期末試験(50%)によって総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	英語学概論 I						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020750
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学						

授業の概要	英語がどのようなしくみを持ち、どのような規則によって成立しているのか、またどのようにして運用されているのかを、音声・音韻・形態・統語・意味・語用の面から概観し、言語を分析的に捉える視点を学修し、英語への理解を深める。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代英語のしくみや英語を背後で支えている規則について、英語学の基本的知識を身に付けている。 ・言語を分析的に捉える視点を身に付けている。
授業計画	第1回 イン트로ダクション、英語の始まり 第2回 英語の歴史(1) 古期英語、中期英語 第3回 英語の歴史(2) 近代英語、英語の歴史の変遷のまとめ 第4回 形態論(1) 語のしくみ 第5回 形態論(2) 語形成 第6回 統語論(1) 生成文法 第7回 統語論(2) 機能的構文論：文の情報構造 第8回 統語論(3) 機能的構文論：視点 第9回 意味論(1) 語彙意味論：語の意味、意味関係、多義性 第10回 意味論(2) 語彙意味論：名詞の意味、動詞の意味 第11回 意味論(3) 認知意味論：カテゴリー化とプロトタイプ、メトニミー 第12回 意味論(4) 認知意味論：抽象概念とメタファー、事態の解釈 第13回 語用論(1) 発話のしくみ 第14回 語用論(2) 談話のしくみ 第15回 振り返りとまとめ 定期試験
テキスト	三原健一・高見健一（編著）『日英対照 英語学の基礎』（くろしお出版）
参考文献	西光義弘（編）『日英対照による英語学概論』（くろしお出版） 各分野の参考資料は、授業で適宜紹介する。
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	事前にテキストを読み、理解できたことと、よくわからなかったことを明確にしておいてください。
履修上の 指導・留意点	質問は、内容に応じて、授業中・研究室・e-mail のいずれかで対応します。

授業科目	英語学概論Ⅱ						
担当教員	田中芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020760
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	言語学と英語学について書かれたテキストを読みながらその内容を理解するとともに、関連する資料や用例をもとに英語とその関連分野について考察する。
授業の 到達目標	英語学の諸分野と関連諸科学の知見を概観し、英語の言語を多角的な視点から深く分析的に理解するための能力を身に付ける。言語の本質、談話分析、言語と脳、言語習得と言語学習、ジェスチャーと手話、書き言葉、言語の変種・差異、言語と文化、国際共通語としての英語、対照言語学、応用言語学をテーマとして取り上げる。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 言語の起源 第3回 動物の言語と人間の言語 第4回 語形成 第5回 談話分析 第6回 言語と脳 第7回 第1言語習得 第8回 第2言語習得と言語学習 第9回 ジェスチャーと手話 第10回 書き言葉としての英語 第11回 言語の地域別変種・差異 第12回 言語の社会的変種・差異 第13回 言語と文化 第14回 対照言語学：英語と日本語の対照研究 第15回 応用言語学：英語学と英語教育学との関連 定期試験
テキスト	George Yule (2016), The Study of Language. 6th ed. Cambridge University Press.
参考文献	寺澤芳雄（編）『英語学要語辞典』研究社. 荒木一雄（編）『英語学用語辞典』三省堂.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	英語学演習 I						
担当教員	時津 啓						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020770
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学						

授業の概要	ことばの使い方には人間の認知の仕方が深く関わっている。Wear と「着る」のように、英語と日本語の対応する語でも、意味の範囲が違うということはよくあるが、この授業では、英語や日本語のことばの意味の違いと認知の仕方が関わる様々な現象を学ぶ。特に、ことばの意味と典型例（プロトタイプ）との関わりや、比喻（メタファー、メトニミー）と多義性との関連を中心に扱う。また、授業内容に関連する課題について調査し、発表することで理解を深める。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ことばの意味と認知のしかたが関わる現象を理解できる。 ・日本語や英語の意味に関わる現象を分析できる。 ・分析した結果をわかりやすくまとめられる。
授業計画	第1回 はじめに 世界の立ち現れ方 第2回 プロトタイプ 第3回 抽象化とスキーマ 発表1 第4回 意味のネットワーク 第5回 メタファー 第6回 メトニミー 発表2 第7回 概念メタファー 第8回 方向性のメタファー 第9回 「色」とことば 発表3 第10回 意味変化 第11回 多義語 第12回 語から文へ 発表4 第13回 構文と意味 第14回 日英対照研究 第15回 文法化 発表5 期末レポート
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	『ファンダメンタル認知言語学』野村益寛著 ひつじ書房 『学びのエクササイズ 認知言語学』谷口一美著 ひつじ書房
評価方法	授業中のリアクションペーパー30%、発表 20%、レポート 50%で評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	英語学演習Ⅱ						
担当教員	田中 芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020780
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	社会言語学が扱う領域について書かれたテキストを読みながらその内容を理解するとともに、英米の小説、新聞・雑誌などの用例をもとに、英米の辞書やその他の資料を使用しながら、英語とその背景文化について具体的に考察する。
授業の 到達目標	英語の言語とその背景文化を多角的な視点から深く分析的に理解するための能力を身に付ける。社会言語学の視点から、英語の方言と標準語、アフリカ系アメリカ英語、言語使用域、スラング、タブー語、ジェンダー、英語の言語変化を、言語と文化に関する視点から、広告の英語、漫画の英語、日英語比較、ブランド名、犯罪・捜査の英語、医療語表現をテーマとして取り上げる。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 社会言語学：英語の方言 第3回 社会言語学：英語の標準語 第4回 社会言語学：アフリカ系アメリカ英語、ラテンアメリカ系英語など 第5回 社会言語学：英語の言語使用域 第6回 社会言語学：英語のスラングとジャーゴン 第7回 社会言語学：英語のタブー語と婉曲語法 第8回 社会言語学：言語とジェンダー 第9回 社会言語学：英語の統語変化・形態変化 第10回 社会言語学：英語の語彙変化・意味変化 第11回 言語と文化に関する事例研究・広告の英語、漫画の英語 第12回 言語と文化に関する事例研究・日英語比較と誤訳 第13回 言語と文化に関する事例研究・英語のブランド名と背景文化 第14回 言語と文化に関する事例研究・犯罪・捜査の英語表現と背景文化 第15回 言語と文化に関する事例研究・英語の医療語表現と背景文化 定期試験
テキスト	田中春美・田中幸子、『よくわかる社会言語学』ミネルヴァ書房 その他配布プリント
参考文献	岩田祐子・重光由加・村田泰美、『概説 社会言語学』ひつじ書房. 東 照二、『社会言語学入門 生きた言葉のおもしろさに迫る』研究社.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 40 点、定期試験 40 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	英語音声学						
担当教員	竹中 裕貴						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020790
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学						

授業の概要	英語音声学の知識を習得し、その実践を通して英語の発音指導などに生かせるようになることを目標とする。以下の授業計画に沿って、現代英語の言語音について、その基本的な特性を理解していく。また、授業中の発音練習や定期的な小テスト、そして中間・期末試験を通して、獲得した知識の定着をはかる。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・現代英語の発音の広がりについて幅広く理解する ・音声器官や言語音について基本的な知識を獲得する ・英語の母音ならびに子音について、その特性を理解する ・音節・アクセント・イントネーションなど、各レベルにおける規則を学習する
授業計画	第1回 授業解説・現代英語の発音 第2回 音声器官と音の分類・母音の分類 第3回 母音(1) 強母音・弱母音/短母音 第4回 母音(2) 長母音/二重母音/三重母音 第5回 母音(3) 弱母音/半母音 第6回 子音の分類・子音(1) 閉鎖音/摩擦音 第7回 子音(2) 破擦音/鼻音 第8回 子音(3) 側面音/半母音 第9回 前半授業まとめ & まとめテスト 第10回 音の連続(1) 子音の結合 第11回 音の連続(2) 脱落・同化 第12回 アクセント 第13回 イントネーション 第14回 音素 第15回 綴り字と発音 期末試験
テキスト	竹林滋・斉藤弘子(2014),『新装版 英語音声学入門』第9刷,大修館。
参考文献	授業中に適宜紹介,配布する。
評価方法	授業参加・・・10点(ディスカッションなどへの参加,授業に参加するのみでは得点獲得はなし) 小テスト・・・20点(授業の各セクションごとに小テストを行う) 中間試験・・・35点(前半の授業内容について試験を行う) 期末試験・・・35点(後半の授業内容について試験を行う) 以上,100点満点で,60点以上を合格とする。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指針・留意点	

授業科目	英文法 I						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020800
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	<p>これまでの英語学習で蓄積された文法知識を体系的に整理しながらさらに英語学的に深め、ことばの運用を背後で支える文法についての知識を確かなものにすることを目標とする。授業では、例文が示す様々な言語現象に対して「なぜ」を問い、その背後にある英語の意味上・統語上の規則性を探って考察し、文法分析の基本的な考え方や視点を身に付ける。文法項目を前篇と後編に分けてそれぞれを「英文法 I」と「英文法 II」で扱うので、全体を網羅するためにも、I、IIともに履修することが望ましい。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語を適確に運用するための文法知識を習得する。 ・英語の言語現象について、意味論・統語論のそれぞれの視点から分析し、整合性のある説明を行うことができる。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション 第2回 文の構造 第3回 文の種類 第4回 動詞 第5回 時制 第6回 相 第7回 法 第8回 否定 第9回 受動文 第10回 名詞 第11回 冠詞 第12回 名詞句と文構造の多様性 第13回 形容詞 第14回 副詞 第15回 授業の振り返りとまとめ 定期試験</p>
テキスト	Leech, G. and J. Svartvik (2002) A Communicative Grammar of English. 3rd ed., Routledge, New York.
参考文献	Hands, P. (ed.), Collins COBUILD English Grammar. 3rd ed. HarperCollins. 安藤貞雄, 『現代英文法講義』 開拓社.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	事前に、テキストの指定ページを必ず読んできてください。
履修上の指導・留意点	質問は、内容に応じて、授業中・研究室・e-mail のいずれかで対応します。

授業科目	英文法Ⅱ						
担当教員	田中 芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020810
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語学						

授業の概要	テキストから助動詞、準動詞、接続詞、前置詞、関係詞、文、話法、特殊構文、情報構造、談話文法、コロケーションについて書かれた部分を読んで正確に理解するとともに、関連する資料や用例をもとに、英文法について分析的に考察する。
授業の 到達目標	英文法の各項目について正確に理解し、説明できる力をつける。助動詞、準動詞（不定詞、分詞、動名詞）接続詞、前置詞、関係詞（関係代名詞、関係副詞）、文（疑問文、命令文）、話法（直接話法、間接話法）、特殊構文（倒置、強調、省略）、情報構造（旧情報と新情報）、談話文法、コロケーションをテーマとして取り上げる。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 助動詞 第3回 不定詞 第4回 分詞 第5回 動名詞 第6回 接続詞 第7回 前置詞 第8回 関係詞 第9回 疑問文 第10回 命令文 第11回 直接話法と間接話法 第12回 倒置・強調・省略 第13回 情報構造 第14回 談話文法 第15回 英語のコロケーション 定期試験
テキスト	Leech, G. and J. Svartvik (2003), A Communicative Grammar of English. 3rd ed. Taylor & Francis.
参考文献	Hands, P. (ed.), Collins COBUILD English Grammar. 3rd ed. HarperCollins. 安藤貞雄, 『現代英文法講義』 開拓社.
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail に対応します。

授業科目	英語学特殊講義						
担当教員	小原 真子						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020820
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語学						

授業の概要	英語の代表的な構文を取り上げて、英語の意味と文法の諸問題を概観する。前半は、ほぼ同じ意味内容を表すのに、違う形の文が使われる交替現象について概観する。能動文と受動文の交替、二重目的語構文と与格構文の交替など、中学や高校の英語の授業でも学んだことのある、なじみの深い交替現象について、2種類の違う文型にどのような違いがあるのか、またその関係について深く学ぶ。また、後半は英語と日本語で違いの見える結果構文などを取り上げ、構文研究を通じて英語・日本語それぞれの特徴について考察する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・英語の代表的な構文の特徴を理解している。 ・構文研究を通じて、英語・日本語それぞれの特徴を理解している。
授業計画	第1回 はじめに 動詞と文の要素 第2回 2種類の自動詞(1):スル動詞とナル動詞 第3回 2種類の自動詞(2):主語の位置とその証拠 第4回 能動文と受動文の交替(1):受動化のプロセス 第5回 能動文と受動文の交替(2):受動化できない他動詞 第6回 場所句交替(1):場所句交替の条件 第7回 場所句交替(2):2種類の構文と情報構造 第8回 二重目的語構文(1):二重目的語の条件 第9回 二重目的語構文(2):二重目的語と与格構文の意味の違い 第10回 移動と経路の表現(1):移動の要素と表現 第11回 移動と経路の表現(2):日本語と英語の移動表現 第12回 結果構文(1):結果構文の条件 第13回 結果構文(2):日本語と英語の結果構文 第14回 中間構文(1):中間構文の特徴 第15回 中間構文(2):中間構文の主語と動詞の条件 定期試験
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	『ファンダメンタル英語学演習』中島平三著 ひつじ書房 『日英対照 動詞の意味と構文』影山太郎編 大修館書店特
評価方法	授業中の課題40%, 定期試験60%で評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	英語コミュニケーション実践演習 I (中級)						
担当教員	Dixon Heather Marie						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020830
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	スピーキングとリスニングを中心とする授業。自信を持って英語で話せるように英語の独特なリズムや発音、そして発音記号を学修する。受講生はネイティブレベルの英語を聞き取れるようになるため、TOPIC TALK のリスニング練習を行う。そして、様々なテーマについて自分の考えや経験などを英語で表現できるように幅広いトピックに渡って、少人数のグループでスピーキングの練習を行う。
授業の到達目標	・受講生がネイティブレベルの英語になれること、そして様々なテーマに関して英語で自分の考えや経験について話すことを目的とする。
授業計画	第1回 授業の説明、自己紹介、TOPIC TALK #2 Food 第2回 TOPIC TALK #5 Music 発音記号の紹介 第3回 発音記号、リズムワークショップ 第4回 TOPIC TALK #9 Best Friends, 発音記号とリズムの関係 第5回 TOPIC TALK #12 Vacation, 発音記号 第6回 TOPIC TALK #13 School, 発音記号 第7回 TOPIC TALK #18 Shopping, 発音記号 第8回 TOPIC TALK #19 Health & Fitness, 発音記号 第9回 TOPIC TALK #21 Travel, 発音記号 第10回 TOPIC TALK #22 Books, Magazines & Newspapers, 発音記号 第11回 TOPIC TALK #24 Holidays, 発音記号 第12回 TOPIC TALK #25 Fears, 発音記号 第13回 TOPIC TALK #26 Dating, 発音記号 第14回 TOPIC TALK #28 Beliefs, 発音記号 第15回 TOPIC TALK #30 Opinions, 発音記号 定期試験(個人面接試験)
テキスト	TOPIC TALK (EFL PRESS)、リズム・発音についての自分が作成した資料
参考文献	特になし
評価方法	授業への取り組み姿勢(30点)、ペアワーク・グループワーク(20点)、定期試験(個人面接試験)(50点)
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問は、授業時間中で対応します。履修希望者が20名を超える場合、人数を制限することがあります。

授業科目	英語コミュニケーション実践演習Ⅱ（上級）						
担当教員	Lieske Carmella Lynn						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020840
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・英語コミュニケーション						

授業の概要	<p>実世界のトピックを使用しながら、英語の特にリスニングとスピーキングスキルを洗練し、異なる文化や言語の人々と円滑にコミュニケーションできる能力を身に付けることを目標とする。例えば、一人で海外旅行する場面における日常会話、会議における挨拶や議題の進め方、学びの場でのディスカッションの場面や家庭におけるパーティーでのやりとりなど、様々な場面を設定し、効率的かつ正確に、さらには多少のユーモアも交えながら情報を伝達するための英語力や態度を身に付ける。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の意見を英語で説明したり、違う意見に同意するか丁寧に反論すること。 ・情報が的確かを見極めること。 ・会話の基本構造を理解すること。 ・自分の意見に根拠を提示すること。
授業計画	<p>第1回 Orientation オリエンテーション</p> <p>第2回 Understanding others' attitudes toward English 他者のふるまいを理解する</p> <p>第3回 Understanding others' feelings about English communication 他者の気持ちを理解する</p> <p>第4回 Talking about travel, going to another country 旅行や外国に行くことについて話そう</p> <p>第5回 Talking about transportation around the world 世界中の交通手段について話そう</p> <p>第6回 Designing the perfect resort 理想的なリゾートを計画する</p> <p>第7回 Telling the world about your hometown (poster) 自分の出身地を紹介する (ポスター)</p> <p>第8回 Bright lights, big cities まばゆい光、大都市</p> <p>第9回 Overcoming health problems 健康の問題を解決する</p> <p>第10回 Role play ロールプレイ</p> <p>第11回 Going beyond the obvious: Communicating more deeply about hobbies and daily life 趣味や日常生活についてさらに深くコミュニケーションをとる</p> <p>第12回 Having the time of my life! 素晴らしい時間を過ごすこと</p> <p>第13回 Overcoming problems with critical thinking and communicative English 批判的な考えや英語でのコミュニケーションについての問題解決</p> <p>第14回 Using technology for communication コミュニケーションのためにテクノロジーを使う</p> <p>第15回 Telling the world about Japanese culture (PSA) 日本文化について話そう</p> <p>定期試験 Final discussion test 最終ディスカッションテスト</p>
テキスト	<p>Globe Trotters, ISBN 978-1-285-19750-0 By Carmella Lieske</p>

	National Geographic Learning/Cengage
参考文献	You will need to gather data from the Internet. Handouts will be given in class. インターネットでデータ収集の必要あり。プリントの配布あり。
評価方法	Public Service Announcement 20 points 連絡伝達に関する課題 Discussion test 20 points ディスカッションテスト Role play 15 points ロールプレイ
自己学習に関する指針	1 回の授業ごとに課題を出すので、毎回復習を兼ねて提出してもらおう。
履修上の指導・留意点	メールアドレスは最初の授業に配る。欠席する場合、できるかぎり事前に連絡をすること。

授業科目	パラグラフ・ライティング						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020850
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	topic sentence, supporting sentences, concluding sentence の3要素からなるパラグラフの論理構成について、モデル文の分析を通して各要素における適切な書き方を理解する。それを踏まえ、実際にパラグラフ・ライティングの演習を行ない、topic sentence で示された1つのideaに統一され、かつ、各文が意味的なつながりを持って1つのまとまりをなす、統一性と結束性のある英文が書けるようにする。	
授業の到達目標	英語によるエッセイ・ライティングの基礎として、説明文型パラグラフの書き方を習得することを目標とする。	
授業計画	第1回 イン트로ダクション—英語の文章構成における paragraph の機能的位置づけと、paragraph を成立させる3つの要素 第2回 モデル文の分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その1～topic sentence の導入、英文構成のための文法事項とともに 第3回 モデル文の分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その2～topic sentence のからの展開～supporting sentences、文法、punctuation 第4回 モデル文の分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その3～topic sentence からの展開、パラグラフ内の統一性・一貫性、concluding sentence 第5回 paragraph 展開パターンの整理と課題英作文演習ならびに English confirmation 第6回 展開パターン別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その1～手順型 第7回 展開パターン別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その2～積み重ね型 第8回 展開パターン別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その3～釣り合い型 第9回 内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その1～マニュアル、レシピ型 第10回 内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その2～議論提起型 第11回 内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その3～情景描写型 第12回 内容別モデル文分析と課題英作文演習ならびに English confirmation その4～物語型 第13回 応用1～課題演習ならびに English confirmation 展開パターンで書いてみる 第14回 応用2～課題演習ならびに English confirmation マニュアル・レシピ型、議論提起型で書いてみる 第15回 応用3～課題演習ならびに English confirmation 情景描写型、物語型で書いてみる レポート提出	
テキスト	プリント使用予定。	
参考文献	授業時に適宜紹介する。	
評価方法	毎回の課題と期末試験(レポート)の成績による。	

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	エッセイ・ライティング						
担当教員	Lange Kriss Alexander						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020860
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	<p>パラグラフ・ライティングの授業で説明文型パラグラフの書き方を習得したことを踏まえて、エッセイ・ライティングに必要な文章構成の技法を学び、英文構成法に則ってエッセイが書けるようになることを目標とする。模範となるエッセイやパラグラフを読み、英語での文章の書き方を学び、英文で客観的事実や自分の考えを正確に伝える能力を養う。語彙力の増強、文法面での補強なども行うことで、総合的に英語力を向上させる。</p>
授業の到達目標	<p>エッセイ・ライティングに必要な文章構成の技法を学び、英文構成法に則ってエッセイが書くことができるようになる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 Unit 1 日記・フリーライティング・作文形式 第3回 Unit 2 クラスメートのことを書こう 第4回 作文の訂正例と解説 第5回 Unit 3 外国人ゲストのインタビューとレポート 第6回 Unit 4 個人の経験について書こう 第7回 Unit 6 比較 第8回 Unit 7 物語を書こう 第9回 Unit 8 eメールの書き方 第10回 Unit 9 招待文と道案内 第11回 Unit 10 レストランのレビュー 第12回 Unit 11 ビジネスレターと礼状の書き方 第13回 Unit 12 自分の意見を述べる 第14回 ポートフォリオ 第15回 まとめ</p>
テキスト	<p>Write Away, Right Away 2e David Martin, EFL Press</p>
参考文献	なし
評価方法	<p>授業への取り組み姿勢・・・30点 ジャーナルライティング・・・20点 課題・・・50点</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	英語プレゼンテーション演習 I (基礎)						
担当教員	Lange Kriss Alexander						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020870
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	<p>プレゼンテーションを通して、「リスニング」「リーディング」「スピーキング」「ライティング」の英語4技能を総合的に向上させることを目標とする。同時に、英語を使って口頭で説明し、相手を説得するプレゼンテーション能力を向上させることを目指す。授業では、各自が決めたテーマについて情報収集して原稿を書き、パワーポイントを使ってスピーチを発表する。テーマは具体的には、世界や社会問題などに関するものとする。プレゼンテーションの準備段階では、個人指導の時間をとり、スピーチ内容の添削や発音などの指導を行うことで、英語4技能を修得する。</p>
授業の到達目標	<p>英語を使って口頭で説明し、相手を説得するプレゼンテーション能力を身に付けることができる。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 第2回 スピーチ1 (紹介と説明の仕方) に向けてその1～ 姿勢とアイコンタクトについて 第3回 スピーチ1 (紹介と説明の仕方) に向けてその2～出身地についてプレゼンテーションしよう 第4回 スピーチ2 (紹介と説明の仕方) に向けてその1～効果的なジェスチャーの使い方 第5回 スピーチ2 (紹介と説明の仕方) に向けてその2～お気に入りの場所をプレゼンテーションしよう 第6回 スピーチ3 (手順説明の仕方) に向けてその1～声の効果的な使い方 第7回 スピーチ3 (手順説明の仕方) に向けてその2～やり方・手順のプレゼンテーション 第8回 スピーチ4 (データ説明と比較の仕方) に向けてその1～パワーポイントについて 第9回 スピーチ4 (データ説明と比較の仕方) に向けてその2～データやグラフの効果的な示し方 第10回 スピーチ4 (データ説明と比較の仕方) に向けてその3～比較のプレゼンテーション 第11回 スピーチ5 (意見説明と説得の仕方) に向けてその1～イントロダクション 第12回 スピーチ5 (意見説明と説得の仕方) に向けてその2～本文と接続の仕方 第13回 スピーチ5 (意見説明と説得の仕方) に向けてその3～まとめの仕方 第14回 スピーチ5 (意見説明と説得の仕方) に向けてその4～ファイナルスピーチの準備1 第15回 スピーチ5 (意見説明と説得の仕方) に向けてその5～ファイナルスピーチの準備2</p>
テキスト	<p>SPEAKING OF SPEECH マクミラン・ランゲージハウス デービッド・ハリントン (著), チャールズ・ルポー (著)</p>
参考文献	なし
評価方法	<p>授業への取り組み姿勢・・・40点 発表の評価・・・60点</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	英語プレゼンテーション演習Ⅱ (発展)						
担当教員	Lieske Carmella Lynn						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020880
免許資格 関連事項	○中学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	<p>パワーポイントやポスター発表など、様々な媒体を用いたプレゼンテーションの種類、作成と発表方法を学び、それらを利用しながら英語によってプレゼンテーションする技術を身に付けることを目標とする。効果的なプレゼンテーションやコミュニケーション方法は国や文化によって異なる。これらの違いを分析することを通して明らかにし、様々な背景から来ている人々に向けて説得力のあるプレゼンテーションをする力を養う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・様々なプレゼンテーションの種類や発表法を理解すること。 ・発表の目的によって適切な表現を選ぶこと。 ・効果的な発表とは何かを分析すること。 ・単独またはペアまたはグループでのプレゼンテーションをできるようになること。
授業計画	<p>第1回 Orientation オリエンテーション 第2回 Example of impromptu presentation 即興のプレゼンテーションの例 第3回 One impromptu presentation, explaining content (Amazing Animals) so everyone Understands 1つの即興のプレゼンテーション、内容の説明 (素晴らしい動物)、皆の理解のために 第4回 Two impromptu presentations, showing content that doesn't distract (Bionics) 2つの即興のプレゼンテーション、発表の内容を損なわないやり方 (生物工学) 第5回 Pair presentations ペアでのプレゼンテーション 第6回 Two impromptu presentations, presentations to convince (Earth's Beginning) 2つの即興のプレゼンテーション、納得させるプレゼンテーション (地球の始まり) 第7回 Two impromptu presentations, presentations to convey information (Deep Sea Vents) 2つの即興のプレゼンテーション、情報を伝えるためのプレゼンテーション (海底の谷) 第8回 Two impromptu presentations, presentations to instruct (Culture and Hadza) 2つの即興のプレゼンテーション、教えるためのプレゼンテーション (文化とハザ民族) 第9回 Group presentations グループでのプレゼンテーション 第10回 Two impromptu presentations, presentations to tell stories (Survival) 2つの即興のプレゼンテーション、話をするためのプレゼンテーション (生存) 第11回 Two impromptu presentations, presentations to solve problems (Disappearing Languages) 2つの即興のプレゼンテーション、問題解決のプレゼンテーション (消えゆく言語) 第12回 Two impromptu presentations, presentations to report progress (Writing around the World) 2つの即興のプレゼンテーション、進行状況報告のプレゼンテーション (世界中で書く) 第13回 Poster presentations ポスタープレゼンテーション 第14回 Two impromptu presentations, not just PowerPoint 2つの即興のプレゼンテーション、パワーポイントだけではない 第15回 Two impromptu presentations, presentations to sell (Why Do People Read?) 2つの即興のプレゼンテーション、販売のプレゼンテーション (なぜ人は読むのか?) 定期試験 Final PowerPoint presentation 最終パワーポイントプレゼンテーション</p>
テキスト	<p>Reading Adventures 3 ISBN 978-0-8400-3039-9 By Carmella Lieske and Scott Menking National Geographic / Cengage Learning</p>

参考文献	You will need to gather data from the Internet. Handouts will be given in class. インターネットでデータ収集の必要あり。プリントの配布あり。
評価方法	Impromptu presentation about country/culture (from homework material) 10 points 国や文化に関する即席のプレゼンテーション (課題で準備した内容から) Final PowerPoint Presentation (定期試験) 20 points 最終パワーポイントプレゼンテーション Pair presentation
自己学習に関する指針	1回の授業ごとに課題を出すので、毎回復習を兼ねて提出してもらおう。
履修上の指導・留意点	メールアドレスは最初の授業に配る。欠席する場合、できるかぎり事前に連絡をすること。

授業科目	メディア英語 I (基礎)						
担当教員	田中 芳文						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020890
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	現代人が直面する健康問題を中心にした英文ニュース記事を中心に読みながら、英語読解と概要把握、ディクテーション、重要表現・構文を使った英作文、語彙力の確認などを行う。
授業の 到達目標	メディアの英語の文法、語法、構成上の特徴を理解し、要点を押さえながら英文ニュース記事を読む力を身に付ける。環境・日常生活・政治・経済・医療・言語・文化・科学技術・教育・労働・世界の諸地域などのテーマを題材として取り上げる。
授業計画	第1回 イン트로ダクション：メディア英語の特徴 第2回 環境 第3回 日常生活 第4回 政治・経済 第5回 医療 第6回 言語 第7回 文化 第8回 科学技術 第9回 教育 第10回 労働 第11回 世界の諸地域・アメリカ 第12回 世界の諸地域・ヨーロッパ 第13回 世界の諸地域・アジアとオセアニア 第14回 世界の諸地域・中東 第15回 世界の諸地域・アフリカ 定期試験
テキスト	田中芳文編著『やさしい英語ニュースで学ぶ 現代社会と健康』（講談社） その他の配布教材
参考文献	特になし
評価方法	平常点 30 点と定期試験 70 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業前に、テキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	メディア英語Ⅱ (発展)						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020900
免許資格 関連事項	○中学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭 (英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	<p>日本を含めた世界の今日的話題を扱った記事を読むことを通して、「英語を読む」から「英語で読む」への転換を図り、英語での情報収集能力を養うことを目標とする。授業では、英語の新聞、雑誌など活字メディアの記事を扱い、要点を押さえながらある程度の速度で読み通す力を養う。また、様々な語彙や英語表現を学び、それらを活用して記事の要約やコメントを英語でまとめるタスクを行う。このことを通して、英語の発信力と、世界情勢や現代を生きる私たちが直面している諸課題を自分に引きつけて考えようとする姿勢を培う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・世界情勢と人類が直面している重要課題について基本的知識を身に付けている。 ・英文記事をある程度の速度で要点を押さえながら読むことができる。 ・記事の要約や内容についての自分のコメントを英語でまとめることができる。
授業計画	第1回 インTRODクシヨN 第2回 地域紛争と世界 第3回 移民と帰属意識 第4回 イスラムと女性 第5回 語られはじめたジェンダー 第6回 最新の記事を読む ①: アメリカ・ヨーロッパ 第7回 銃と社会 第8回 仮想現実と社会 第9回 ネット環境と情報社会 第10回 現代日本の家族 第11回 最新の記事を読む ②: アジア・オセアニア 第12回 環境保護 第13回 農業政策と食糧問題 第14回 グローバル市場と労働問題 第15回 最新の記事を読む ③: 中東・アフリカ 定期試験
テキスト	Bruce Allen 他編著『英語で読む世界情勢と重要課題』(Different Perspectives) (金星堂)
参考文献	授業で適宜紹介する。
評価方法	小テスト 20 点、授業参加度 20 点、課題レポート 20 点、期末試験 40 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	事前にテキストを必ず読んできてください。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	メディア英語リスニング						
担当教員	マユーあき						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020910
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	<p>CNNが伝える世界各地からのレポートを聞くことにより、グローバル時代の様々な英語(Englises)を体験しながら英語の運用能力を高めるとともに、時々刻々と変化する世界情勢を英語音声から把握できる力を養う。授業では、CNNが伝えるストーリーについて部分的聴き取りや内容把握問題に取り組むことに加え、パラレル・リーディングやシャドーイングを行い、メディア英語のスピードへの対応力を養う。また、重要語彙や表現についても学び、英語運用能力を総合的に向上させる。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・グローバル言語として、世界で様々な英語が話されている現実を認識し、そのことを尊重する態度を身に付けている。 ・世界情勢についてのストーリーを聞いて、大体の筋を把握することができる。 ・メディア英語の重要語彙や表現について知識を習得し、活用できる。
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション：CNNニュース英語の特徴 第2回 CNNで話される様々な英語(Englises)の特徴と音声変化について 第3回 Unit 1 One-way Adventure 第4回 Unit 2 Finding a New Calling 第5回 Unit 3 Scary Vulnerability 第6回 Unit 4 3-D Shoes for Man's Best Friend 第7回 Unit 5 The Branding of a Tissue 第8回 Unit 6 Don't Mess with Charlotte 第9回 Unit 7 Slightly Off Balance 第10回 Unit 8 Way Off Balance 第11回 Unit 9 Alarming Scenario 第12回 Unit 10 Bittersweet Reunion 第13回 Unit 11 Seeking Rapport 第14回 Unit 12 Friendship in the Pipeline 第15回 授業のまとめと振り返り 定期試験</p>
テキスト	関西大学英语教育研究会編著『CNN：ビデオで見る世界のニュース(17)』(朝日出版)
参考文献	なし
評価方法	課題20点、小テスト(語彙と表現)30点、期末試験50点の合計100点で総合的に評価する。
自己学習に 関する指針	授業で行ったトレーニングを、できるだけ毎日、短時間でよいので継続して取り組んでください。
履修上の 指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業中・研究室・e-mailで対応します。

授業科目	アメリカ語学研修計画						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M1030010
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	<p>アメリカ合衆国ワシントン州にあるセントラルワシントン大学で行われる語学研修の事前研修を行い、参加する学生に十分な準備ができる機会を与える。アメリカで元気で過ごすために必要な情報を伝え、学生が研修中で交流できるようにプレゼンテーションの準備もさせる。</p>
授業の 到達目標	<p>授業テーマ：語学研修に参加する学生が一人ひとり、アメリカで有意義な時間を過ごせるため、そしてできる限りの英語学習と異文化交流ができるための準備。 到達目標：①自己紹介及びに個人の目標を英語で伝えるようになる、②グループに分かれてアメリカで発表するプレゼンテーションを完成させる、③研修に必要な知識を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション、グループ分け、役割決定 第2回 グループプレゼンテーションの内容決定 第3回 研修プログラム歴史と狙い 第4回 出国・入国審査、税関について 第5回 荷物について(預かり荷物、持ち込み荷物など) 第6回 一回目のプレゼンテーション練習 第7回 旅行代理店の説明 第8回 アメリカのお金(特に硬貨)、チップのルール 第9回 アメリカの日常生活やマナーについて 第10回 ワシントン州とエレンズバーグ市の概要 第11回 二回目のプレゼンテーション練習 第12回 セントラルワシントン大学の概要、寮の生活 第13回 アンダーソン・ヘイ(企業訪問先)の紹介 第14回 行先の気候、体調管理 第15回 グループプレゼンテーション、結団式</p>
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・自己紹介と個人の目標の発表 - 40% ・グループプレゼンテーション - 40% ・取り組む態度 - 20%
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	アメリカ語学研修						
担当教員	ダスティン・キッド						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	1・2	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1030020
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション ○高等学校教諭(英語)一種免許状《教科に関する科目》 ・英語コミュニケーション						

授業の概要	Language & Culture の授業(3時間/平日)受講、現地大学生との交流、地元主要産業の牧草会社訪問、学長・副学長などとの交流会、日本や島根、大学等を紹介するプレゼンテーションの実施など。その他、地元の美術館・博物館訪問、ドイツ村観光、牧場での乗馬、大リーグ観戦等を通して、アメリカ文化を体験する。
授業の 到達目標	・セントラルワシントン大学で、UESL が提供する約3週間の研修に参加する。語学・文化講座の受講、現地大学生との交流、企業訪問、文化体験などを通して、多文化社会アメリカについての理解を深めるとともに、英語でのコミュニケーション力の向上、および国際的視野の醸成を目的とする。 [到達目標] ①英語でのコミュニケーション能力を、授業の受講、現地での生活に十分なレベルまで向上させる。 ②アメリカでの学びや体験を説明できる。 ③主体的に英語学習に取り組み、異文化理解を深めようとする姿勢を身に付ける。
授業計画	第1回 オリエンテーション、自己紹介 第2回 英会話(好き嫌い、やってみたいこと)、ワシントン州の地理 第3回 英会話(買い物)、開拓時代のアメリカ 第4回 英会話(道の訪ね方)、エレンズバーグ市の歴史 第5回 英会話(趣味)、エレンズバーグ市の散策、歴史館訪問 第6回 英会話(スポーツ)、シアトル市の名所と歴史 第7回 英会話(将来の夢)、レーニア山の自然 第8回 英会話(家族について)、アメリカの原住民の歴史と文化 第9回 英会話(応援の仕方)、アメリカの野球 第10回 英会話(故郷紹介)、乗馬の必要知識 第11回 英会話(大学生の生活)、ロズリン市の歴史と文化 第12回 英会話(アメリカの礼儀)、キティタスバレーの現在企業、地元の企業訪問 第13回 英会話(理想の生活)、レヴェンワース市の歴史とドイツとの関係 第14回 英会話(アメリカの思い出)、ギンコ化石森の歴史 第15回 英会話(別れのスピーチ)、川下りの注意点 課題レポート提出・研修報告発表
テキスト	なし
参考文献	別途プリント配布
評価方法	事前研修への出席および事後のレポート提出と報告会実施: 30% (大学での担当者が評価) 現地での研修: 70% (UESL プログラム担当者・授業担当教員が、授業での学びやその他の研修への参加姿勢などを評価)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	「アメリカ語学研修計画」の受講も必要

授業科目	イギリス文学史						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020920
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学						

授業の概要	英国の歴史・社会・文化の動向の中で、英国における叙事詩、抒情詩、劇、散文、小説などのジャンルが、どの時代にどのように興り、発展していったか、その中で作品はどのように生まれ、文学史的にどのように位置づけられていくのか、具体的にいくつかの作品を取り上げ鑑賞しながら考察していく。
授業の 到達目標	・英文学における主要な詩・演劇・散文・小説の作品ならびに作者、また言語・形式について、基礎的な特色を知る。 ・英国における詩・演劇・散文・小説の成立と発展について、歴史の流れとともに整理できる。
授業計画	第1回 イン트로ダクション―「英語」の成立と歴史の中の文学 第2回 古英語・中英語の文学 第3回 ルネッサンスの詩と散文 第4回 イギリス・ルネッサンスの演劇 第5回 シェイクスピア 第6回 清教徒革命までの文学 第7回 王政復古期の文学 第8回 18世紀の詩と散文 第9回 小説の誕生 第10回 ロマン主義時代の文学 第11回 ヴィクトリア時代の詩と散文 第12回 ヴィクトリア時代の小説 第13回 第2次大戦までの詩と演劇 第14回 第2次大戦までの小説 第15回 戦後のイギリス文学 定期試験
テキスト	必要に応じてプリントを配布する。
参考文献	川崎寿彦『イギリス文学入門』研究社ほか、適宜授業で紹介する。
評価方法	期末試験(筆記試験もしくはレポート)、授業参加度(毎回のコメント・シート、小テストの成績、授業中の質問を勘案)の点数化により、合計100点満点で評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	アメリカ文学史						
担当教員	渡部 知美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020930
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語文学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英語文学						

授業の概要	現代に語り継がれる文学作品は、優れた英語表現の宝庫であり、人の心に強く訴える魅力を持っている。授業では、アメリカ文学の主要作品から抜粋した原文を読みながら、英語の力を伸ばすとともに、文学作品の鑑賞力を身に付ける。
授業の到達目標	アメリカ文学史の流れをたどりながら、各時代における代表的な作家や作品に触れ、それぞれの特質や時代背景を理解し、知識を深めることを目的とする。
授業計画	第1回 イン트로 第2回 植民地時代の詩 第3回 大覚醒時代の説教 第4回 「独立宣言書」 第5回 フランクリン自伝 第6回 ロマン主義の詩と散文Ⅰ(主として詩について) 第7回 ロマン主義の詩と散文Ⅱ(主として散文について) 第8回 中間まとめ 第9回 エドガー・アラン・ポーⅠ(小説) 第10回 エドガー・アラン・ポーⅡ(詩論) 第11回 19世紀前半のアメリカと文学 第12回 ヘンリー・デイヴィッド・ソロー 第13回 19世紀後半のアメリカと文学 第14回 ナサニエル・ホーソーンの短篇 第15回 アメリカンユーモア、リアリズム、地方色文学 定期試験
テキスト	『講義 アメリカ文学史』 渡辺 利雄 研究社
参考文献	The Art of Fiction, David Lodge 英宝社
評価方法	担当者は作品からの引用部分の全訳を提出及び質疑応答 30点。期末試験 70点。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	イギリスの文学と文化 I						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020940
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学						

授業の概要	イギリス文学史で通時的に概観した英文学作品のジャンルのうち、詩または劇を取り上げ、英詩や英国劇の鑑賞力を高めることを通して、英語文化を理解していくことを目標とする。授業ではこのジャンルの代表的な作品を取り上げて読み、英詩や英国の劇が生まれた歴史、英詩に用いられている技法が詩の表現において持つ効果など、英詩や英国の劇に関する基本的な知識を身に付けながら、作品を原書で味わい、英語と英語文化への理解を深める。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・詩、劇の台本としてのシェイクスピア作品の読み方を知ることを通して、詩劇または「聴く芝居」としてのイギリス・ルネッサンス演劇のあり方を理解し、鑑賞できる。 ・詩劇を鑑賞するのに必要な、英詩の詩形に関する知識を習得する。
授業計画	<p>テキストを参照しながら、指定箇所の英語を丹念に予習すること。</p> <p>第1回 「聴く芝居」に関するイントロダクション</p> <p>第2回 台詞における詩の形式と効果</p> <p>第3回 『リア王』 1幕、2幕を読む1 主人公の提示</p> <p>第4回 『リア王』 1幕、2幕を読む2 娘たち</p> <p>第5回 『リア王』 1幕、2幕を読む3 廷臣たち</p> <p>第6回 『リア王』 1幕、2幕を読む4 道化</p> <p>第7回 『リア王』 3幕を読む1 怒りから狂気へ</p> <p>第8回 『リア王』 3幕を読む2 狂気の展開と自己への気づきの兆候</p> <p>第9回 『リア王』 3幕を読む3 「怒り」から知る自己評価と他者評価</p> <p>第10回 『リア王』 4、5幕を読む1 グロスターと変装したエドガー</p> <p>第11回 『リア王』 4、5幕を読む2 エドガーの「悟り」</p> <p>第12回 『リア王』 4、5幕を読む3 愛する者への言葉</p> <p>第13回 『リア王』 4、5幕を読む4 コーディリアの「何もない」の意味</p> <p>第14回 『リア王』 4、5幕を読む5 「感じたことを語る」とは</p> <p>第15回 全体の読みのまとめ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	プリントならびに大場建治対訳・注解『リア王』 研究社
参考文献	松岡和子訳『リア王』 ちくま文庫、河合祥一郎『シェイクスピア—人生劇場の達人』 など
評価方法	期末試験(レポート)、授業参加度(毎回のコメント・シート、授業中の質問)の点数化により、合計100点満点で評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	イギリスの文学と文化Ⅱ						
担当教員	松浦雄二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020950
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学						

授業の概要	<p>散文・小説ジャンルの中から、代表的な作品を取り上げて読み、特に近代英国の市民社会における散文や小説がどのような形態で興り発展していったかなど、英国の散文・小説の基本的な知識を身に付けながら、作品を原書で味わい、英語と英語文化への理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>イギリス文学史で通時的に概観した英文学作品のジャンルのうち、主として散文・小説を取り上げ、作品の鑑賞力を高めることを通して、英語文化を理解していくことを目標とする。</p>
授業計画	<p>第1回 イン트로ダクション～イギリスにおける散文・小説について 第2回 フランシス・ベーコンについて紹介、第3～5回の授業では、作者が「人間が最もとらわれて来た」感情と呼ぶ事柄に関わる章を読み、作者の捉え方について考察する 第3回 フランシス・ベーコン『随筆集』から「真実について」講読(予習必須、演習含む) 第4回 フランシス・ベーコン『随筆集』から「妬みについて」講読(予習必須、演習含む) 第5回 フランシス・ベーコン『随筆集』から「愛について」講読(予習必須、演習含む) 第6回 サミュエル・リチャードソンについて紹介、第7～9回の授業で書簡体小説を読み、読者心理の操作技術に焦点を当てる 第7回 リチャードソン『パミラ』より手紙その1を講読(予習必須、演習含む) 第8回 リチャードソン『パミラ』より手紙その2を講読(予習必須、演習含む) 第9回 リチャードソン『パミラ』より手紙その3、4、5を講読(予習必須、演習含む) 第10回 ジェーン・オースティンについて紹介、第11～15回の授業で、特に話法に焦点を当てる、またこの作品における登場人物の描かれ方とリチャードソンのそれを比較する 第11回 オースティン『高慢と偏見』より抜粋、講読、ベネット家の人々(予習必須、演習含む) 第12回 オースティン『高慢と偏見』より抜粋、講読、ダーシーを中心に(予習必須、演習含む) 第13回 オースティン『高慢と偏見』より抜粋、講読、エリザベスを中心に(予習必須、演習含む) 第14回 リチャードソンとオースティンにおける登場人物の描かれ方 第15回 全体のまとめ 定期試験</p>
テキスト	<p>必要に応じてプリントを配布する。</p>
参考文献	<p>川口喬一『イギリス小説入門』(研究社)ほか、適宜紹介する。</p>
評価方法	<p>期末試験(70%)、授業参加度(毎回授業内容コメント・シート提出、30%)の点数化により合計100点満点で評価する。</p>
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	アメリカの文学と文化 I						
担当教員	藤吉知美						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020960
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学						

授業の概要	短編の名手として知られた作家たちの「人生と愛」をテーマにした作品を読み、精読と音読で原書の持つ味わいを知り、時代を超えて伝えられる文学作品の魅力に触れる。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・主に20世紀前半に書かれたアメリカ作家たちによる短編作品を読みながら、そこに表現されたアメリカ文化の特徴を理解する。 ・英語で作品を読むことで、各作家の作風や手法の違いを学ぶとともに、行間に隠された意味やテーマを考察し、読解力を磨く。また、作品の背景となる時代や社会の諸問題を考察し、アメリカ文化の理解を促す。
授業計画	第1回 導入 授業の進め方と評価方法、アメリカ文学作品における短編の重要性とその特徴。 第2回 The Gift of Magi by O. Henry 精読 第3回 The Gift of Magi by O. Henry 音読 第4回 The End of Something by Ernest Hemingway 精読 第5回 The End of Something by Ernest Hemingway 音読 第6回 The Strawberry Season by Erskine Caldwell 精読 第7回 The Strawberry Season by Erskine Caldwell 音読 第8回 A Rose for Emily by William Faulkner 精読(1) アメリカの南部社会 第9回 A Rose for Emily by William Faulkner 精読(2) 題名の意味するもの 第10回 A Rose for Emily by William Faulkner 音読(1) 語りの構造 第11回 A Rose for Emily by William Faulkner 音読(2) 時間の描かれ方 第12回 A Tree, A Rock, A Cloud by Carson McCullers 精読(1) 登場人物の配置 第13回 A Tree, A Rock, A Cloud by Carson McCullers 精読(2) 愛とは何か 第14回 A Tree, A Rock, A Cloud by Carson McCullers 音読 第15回 これまでの授業内容のまとめ 定期試験
テキスト	American Stories of Love and Life (愛の珠玉作品集) 朝日出版社
参考文献	プリントして配布する。
評価方法	テスト(80%)、レポート(20%)
自己学習に 関する指針	辞書を活用して予習すること。
履修上の 指導・留意点	授業への積極的な参加姿勢を評価します。

授業科目	アメリカの文学と文化Ⅱ						
担当教員	宮澤 文雄						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020970
免許資格 関連事項	○中学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学 ○高等学校教諭(英語) 一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学						

授業の概要	F. Scott Fitzgeraldの長篇小説The Great Gatsby(1925)を原文でおよそ毎回1章ずつ読みながら作品を分析するための読み方を学ぶ。また文学作品はそれ自体で自己完結したものではなく、ある特定の時代との関係のなかで生まれたものでもあるので、作品の歴史性およびアメリカ文化の特質についても学んでいく。
授業の到達目標	アメリカ小説の読解を通して、小説理解に欠かせない文学概念およびアメリカ文学の特徴について理解を深めながら、作品が生み出された時代の文化状況に関する基礎知識の獲得を目標とする。
授業計画	第1回 作家を読む：フィッツジェラルドという作家について 第2回 文化を読む：フィッツジェラルドの生きた時代背景および文化状況について 第3回 Chapter 1を読む 第4回 Chapter 2を読む 第5回 Chapter 3を読む 第6回 文化を読む：ジャズ、モータリゼーション、消費文化 第7回 Chapter 4を読む 第8回 Chapter 5を読む 第9回 Chapter 6を読む 第10回 文化を読む：アメリカとアルコール 第11回 Chapter 7を読む 第12回 Chapter 8を読む 第13回 Chapter 9を読む 第14回 応用編 映画The Great Gatsbyを読む 第15回 応用編 小説と映画の比較 定期試験
テキスト	F. Scott Fitzgerald. The Great Gatsby (Scribner, 1995) ISBN: 0-684-80152-3
参考文献	(1) Kirk Curnutt. The Cambridge Introduction to F. Scott Fitzgerald (Cambridge UP, 2007) (2) Horst H. Kruse. F. Scott Fitzgerald at Work: The Making of "The Great Gatsby" (U of Alabama, 2014) (3) 笹田直人ほか『概説アメリカ文化史』(ミネルヴァ書房、2002) (4) デイヴィッド・ロッジ『小説の技巧』(白水社、19
評価方法	定期試験(100%)
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	中国古典Ⅰ（基礎）						
担当教員	竹田健二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020980
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・漢文学 ○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教科に関する科目≫ ・漢文学						

授業の概要	<p>中国の古典（漢文）を自力で解釈し訓読することができるようになる上で最も重要な、漢字一字一字の意味と語順との理解を中心として、講読する。漢文を構成する一つ一つの漢字がその漢文においてどのような意味で用いられているか、また語順の規則に則った解釈をすることはどういうことかについて、授業の中で実際に漢和辞典を引きつつ、著名な故事成語・諸子百家の文章などの具体例に即しつつ理解を深める。</p>
授業の到達目標	<p>・漢和辞典を活用しながら、自力で白文を解釈し訓読できるようになることを目標に、段階を踏みつつ、漢文読解能力の基礎を養う。</p>
授業計画	<p>第1回 ガイダンス 「漢文」とは何か 第2回 漢文読解の基礎 漢字の基礎知識 第3回 漢文読解の基礎 漢語の構造その1（漢字の歴史・漢字の三要素） 第4回 漢文読解の基礎 漢語の構造その2（熟語の構成と語順のルール） 第5回 漢文読解の基礎 漢語の構造その3（漢和辞典の活用） 第6回 漢文読解の基礎 助字その1（「於」・「而」） 第7回 漢文読解の基礎 助字その2（「則」・「乃」・「即」） 第8回 漢文読解の基礎 助字その3（「与」・「也」・「矣」・「何」） 第9回 漢文読解の基礎 故事成語その1（「求劍刻舟」） 第10回 漢文読解の基礎 故事成語その2（「出藍」） 第11回 漢文読解の基礎 故事成語その3（「臥薪嘗胆」） 第12回 漢文読解の基礎 故事成語その4（「朝三暮四」） 第13回 諸子百家を読むその1（『論語』） 第14回 諸子百家を読むその2（『韓非子』） 第15回 諸子百家を読むその3（『墨子』・『老子』） 定期試験</p>
テキスト	<p>教科書は特に使用せず、適宜プリントを配布する。</p>
参考文献	<p>参考文献については随時紹介するが、高校時代の漢文学習で用いた参考書など、活用できるものは何でも活用すること。</p>
評価方法	<p>成績は、期末試験の成績によって評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>漢文の訓読の学習は、語学学習的な面が強い。時間と手間とを惜しまずに漢和辞典を引き、かつ文脈に即した解釈に心がけること。</p>
履修上の指導・留意点	<p>なし。</p>

授業科目	中国古典Ⅱ（発展）						
担当教員	竹田健二						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3020990
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・漢文学 ○高等学校教諭（国語）一種免許状《教科に関する科目》 ・漢文学						

授業の概要	<p>中国古典（漢文）を読解する力を養い、中国古代思想について理解を深めること、また文献の解釈をめぐって議論に参加し、展開することができるようになることを目的とし、古典として著名な『論語』の学而篇を演習形式で読み進める。</p> <p>授業の進め方については、履修者数にもよるが、予定としては以下の通り。</p> <p>(1) 予め適当な長さにテキストを分割し、分担範囲を定める。</p> <p>(2) 各分担範囲について、発表者を指名する。</p> <p>(3) 発表者は、本文・書き下し文・語釈・通釈などを記した発表資料を作成し、授業の冒頭で発表を行う。</p> <p>(4) 発表に対して、他の出席者は全員が質問者となり、質問を行う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・中国古典（漢文）を解釈することができる。 ・発表者として、自分の解釈をまとめ、分かりやすく発表することができる。また、質問者からの質問に対して適切に対応し、議論を深めることができる。 ・質問者として、発表者の解釈に対して疑問点を適切に質問し、発表者との議論を深めることができる。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス（『論語』概説、分担割り当てなど）</p> <p>第2回 第1章「子曰、「學而時習之、不亦説乎。～」</p> <p>第3回 第2章「有子曰、「其為人也孝弟而好犯上者、鮮矣。～」</p> <p>第4回 第3章「子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」</p> <p>第5回 第4章「曾子曰、「吾日三省吾身。為人謀而不忠乎。～」</p> <p>第6回 第5章「子曰、「道千乘之國、敬事而信、～」</p> <p>第7回 第6章「子曰、「弟子入則孝、出則弟、～」</p> <p>第8回 第7章「子夏曰、「賢賢易色、事父母能竭其力、～」</p> <p>第9回 第8章「子曰、「君子不重則不威、～」</p> <p>第10回 第9章「曾子曰、「慎終追遠、民德歸厚矣。」</p> <p>第11回 第10章「子禽問於子貢曰、「夫子至於是邦也、～」</p> <p>第12回 第11章「子曰、「父在、觀其志。～」</p> <p>第13回 第12章「有子曰、「禮之用、和為貴。～」</p> <p>第14回 第13章「有子曰、「信近於義、言可復也。～」</p> <p>第15回 第14章「子曰、「君子食無求飽、居無求安、～」</p> <p>定期試験</p>
テキスト	教科書は特に使用せず、適宜プリント（富山房『漢文大系』所収の安井衡『論語集説』）を配布する。
参考文献	<p>金谷治『論語』（岩波文庫）</p> <p>加地伸行『論語』（講談社学術文庫）</p> <p>吉川幸次郎『朝日古典選 論語』</p> <p>この他、高校時代の漢文学習で用いた参考書など、活用できるものは何でも活用すること。</p>
評価方法	成績は、指名されて行った発表や質問の内容に加えて、授業の中でいかに議論に参加したのかという点を重視し、試験の成績とあわせて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	「暗記する憶える」のことでなく、「考える」ことが重要である。時間と手間とを惜しまずに漢和辞典を引き、参考文献を活用しつつ、無理のない解釈を心がけること。また、考えたこと、疑問に感じたことを授業の中で積極的に発言し、議論に参加すること。

履修上の 指導・留意点	「中国古典Ⅰ（基礎）」の単位を修得した者のみ、「中国古典Ⅱ（発展）」の履修を認める。
----------------	--

授業科目	英米文学特殊講義						
担当教員	中井誠一						
科目分類	専門科目	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021000
免許資格 関連事項	○中学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学 ○高等学校教諭（英語）一種免許状《教科に関する科目》 ・英米文学						

授業の概要	19世紀から20世紀にかけて、モダニズム文学の先駆的手法や視点技法によって世界文学に影響を与えたアメリカ人作家 Henry James の、国際テーマを扱った小説 The American を読む。毎回、重要人物や事柄を中心に、時代状況を解説し、難解部分について議論しながら精読する。
授業の到達目標	・アメリカ文学作品の原文の精読と議論を通じて、英語読解力の増強と鑑賞力だけでなく、文化や現実認識の多角的視点の重要性を学んでいくことを目的とする。
授業計画	第1回 イン트로ダクション 第2回 Chapter I, II (Christopher Newman) 第3回 Chapter III, IV (Claire de Cintré) 第4回 Chapter V, VI (Benjamin Babcock) 第5回 Chapter VII, VIII (Valentin de Bellegarde) 第6回 Chapter IX, X (Courtship) 第7回 Chapter XI, XII (The Bellegardes) 第8回 Chapter XIII, XIV (Acceptance) 第9回 Chapter XV, XVI (Grand fête) 第10回 Chapter XVII, XVIII (Cancel of the engagement) 第11回 Chapter XIX, XX (Death of Valentin) 第12回 Chapter XXI, XXII (Reclusion) 第13回 Chapter XXIII, XXIV (Revenge) 第14回 Chapter XXV, XXVI (Conclusion) 第15回 The American の批評史概観、授業のまとめ 定期試験
テキスト	Henry James, The American (Norton Critical Edition)
参考文献	授業中に適宜配布する。
評価方法	期末試験、授業参加度（課題達成・発表等を勘案）の点数化により、合計100点満点で評価する。
自己学習に関する指針	事前にテキストの該当箇所をしっかりと読んで、問題点を整理して授業に臨んでください。
履修上の指導・留意点	第1回目に、発表の仕方を含めた授業の解説を行いますので、必ず出席してください。

【地域文化学科】 資格・免許科目

授業科目	国語科教育法 I						
担当教員	古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021070
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（国語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭（国語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	<p>国語科教育の歴史の変遷と構造を体系的に理解するとともに、授業構想の起点となる教材と学習者について理解を深めることを目的とする。本科目では特に「読むこと」領域を対象とし、教材分析と指導内容の設定の仕方、授業を構想・改善・評価するための学力評価の方法について理解を深めていく。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学習指導要領の目標・内容の変遷と系統性を把握し、現代的な授業の方向性を理解することができる。 ・文学的文章教材、説明的文章教材、古文・漢文教材を対象として、教材分析の方法を理解するとともに、実際の教材に即して指導内容を設定することができる。 ・学習者の記述や発話から学力を評価し、授業づくりに役立てる方法を理解することができる。
授業計画	<p>第1回 中学校学習指導要領の歴史の変遷—目標・内容を中心に—</p> <p>第2回 中学校学習指導要領にみる目標・内容の系統性—小学校からの系統性も視野に入れて—</p> <p>第3回 高等学校学習指導要領の歴史の変遷—科目編成・目標・内容を中心に—</p> <p>第4回 高等学校学習指導要領にみる目標・内容の系統性—中学校からの系統性も視野に入れて—</p> <p>第5回 国語教科書の歴史の変遷—各年代の教科書は指導要領をいかに具体化してきたか—</p> <p>第6回 現代的な授業の方向性と授業の基本用語—PISA 型読解力、アクティブラーニング—</p> <p>第7回 文学的文章指導の内容と教材研究の方法</p> <p>第8回 説明的文章指導の内容と教材研究の方法</p> <p>第9回 古文・漢文指導の内容と教材研究の方法</p> <p>第10回 学習者を看取り、授業を構想するための基礎理論</p> <p>第11回 学力評価の目的と枠組み—診断的、形成的、総括的評価—</p> <p>第12回 学習者研究①—学習者の初発の感想をどう評価し、授業構想につなげるか—</p> <p>第13回 学習者研究②—学力はどのように形成されるのか—</p> <p>第14回 学習者研究③—学習の成果をどう評価し、授業改善に役立てるか—</p> <p>第15回 テストを通じた学力評価 定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・山元隆春編著『教師教育講座第12巻 中等国語教育』協同出版、2014年 ・井上尚美『思考力育成への方略—メタ認知・自己学習・言語論理—〈増補新版〉』明治図書、2007年 ・浜本純逸監修『文学の授業づくりハンドブック第4巻 中・高等学校編』溪水社、2010年
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(50%)：学習指導要領、教材分析法、学力評価法の理解度を評価する。 ・レポート(50%)：授業記録に即して学力形成の過程と到達度を分析する力を評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・一回一回の授業の復習をしっかりと行ってください。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・国語の教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・本科目を履修した成果は「履修カルテ」にまとめ、授業で用いた資料は「学習ポートフォリオ」にと

	じておくこと。
--	---------

授業科目	国語科教育法Ⅱ						
担当教員	寺本 学						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021080
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p> <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p>						

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒と学習していくために必要なことは、目の前の生徒をどう理解していくかにかかっている。その教師としての基本姿勢・考え方を理解し、身に付けることができるようにする。 ・日々の授業で、生徒に継続的に実践させていくためには、まず、教師が実践し、教材に対する理解を深めたり、指導方法を工夫したりできなければならない。それを講義と演習によって理解していく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・国語科教師として、基本的に身につけておくべき考え方を理解することができる。 ・授業を実践するために必要な様々な技能(授業力)を理解し、身に付けることができる。
授業計画	<p>第1回 国語科授業を形成している要素(指導技術)</p> <p>第2回 国語科授業を形成している要素(教材研究、教材分析の技術)</p> <p>第3回 国語科授業の基本(音読の教材研究)</p> <p>第4回 国語科授業の実践(音読の模擬授業)</p> <p>第5回 国語科授業の基本(板書の教材研究)</p> <p>第6回 国語科授業の実践(板書の模擬授業)</p> <p>第7回 国語科授業の基本(スピーチの教材研究)</p> <p>第8回 国語科授業の実践(スピーチの模擬授業)</p> <p>第9回 国語科授業の基本(書写の教材研究)</p> <p>第10回 国語科授業の実践(書写の模擬授業)</p> <p>第11回 国語科授業を形成している要素(学習者理解と評価)</p> <p>第12回 年間指導計画と学習指導案の作成について</p> <p>第13回 学習指導案の作成の技術(定義と条件、形式)</p> <p>第14回 学習指導案と学習指導要領(目標設定と単元構成)</p> <p>第15回 学習指導案の具体例と分析</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版 ・中学校で使用される国語教科書(1、2、3年)光村図書出版、書写(1,2,3年)東京書籍
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・島根大学教育学部附属中学校、松江市立第三中学校、松江市立鹿島中学校で作成した「生徒の学習記録綴」 ・安居總子著(2013)『中学校・国語科 今、「国語」を問う—教師のプロフェッショナルリズム—』東洋館出版社 ・倉澤栄吉著(1987)『新訂 国語の教師 指導法の手引き』国土社
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(50%)：国語科授業に必要な教師の基本姿勢・考え方と、模擬授業を通して考えた指導技術・指導方法の工夫についての理解度を評価する。 ・レポート(50%)：毎回の講義の内容理解の程度、及び生徒の実態を踏まえた学習指導案の作成力を評価する。

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	国語科教育法Ⅲ						
担当教員	寺本 学						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021090
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p> <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p>						

授業の概要	<ul style="list-style-type: none"> ・ 授業作りの基本は、生徒理解から始まる。ここでは、具体的な授業実践の紹介と模擬授業を通して、学習の展開の仕方や身につけさせたい国語の力への理解を深めていく。 ・ 実際の教科書に採用されているさまざまな教材に触れ、その教材をどのように活用し生徒に提示していけば国語の力を付けていくことになるのかを、講義と演習を通して理解を深めていく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 国語科教師の基本姿勢をいかしながら、具体的な教材をもとに授業作りを演習する。 ・ 身に付けた技能をもとに教材化を工夫し、お互いに情報交換できる。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション・自己紹介によるコミュニケーション演習</p> <p>第2回 授業と学習指導案の改善</p> <p>第3回 学習者理解の在り方と方法(学習記録を活かして)</p> <p>第4回 単元学習の基本的な考え方と方法</p> <p>第5回 国語教育の学習材(機能と条件)</p> <p>第6回 生徒の実態に応じた手立て</p> <p>第7回 「話すこと・聞くこと」教師のスピーチの教材研究(授業に生きるスピーチのポイント)</p> <p>第8回 「話すこと・聞くこと」教師のスピーチ模擬授業(スピーチで育む力と評価)</p> <p>第9回 「読むこと」を中心とした授業の教材研究(過去の実践の紹介とねらう力)</p> <p>第10回 「読むこと」を中心とした模擬授業(実際の教材を使つての模擬授業)</p> <p>第11回 「書くこと」を中心とした授業の教材研究(過去の実践の紹介とねらう力)</p> <p>第12回 「書くこと」を中心とした模擬授業(実際の教材を使つての模擬授業)</p> <p>第13回 観察実習の留意点と課題(授業の見方)</p> <p>第14回 観察実習</p> <p>第15回 観察実習の考察と本実習に向けての課題</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・ 文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』東洋館出版社 ・ 文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』教育出版 ・ 中学校の国語科で使用されている教科書(1, 2, 3年) 光村図書出版
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 島根大学教育学部附属中学校、松江市立第三中学校、松江市立鹿島中学校で作成した「生徒の学習記録綴」 ・ 安居總子著(2013)『中学校・国語科 今、「国語」を問う—教師のプロフェッショナルリズム—』東洋館出版社 ・ 大村はま著(1994)『新編 教室をいきいきと』1巻, 2巻 ちくま学芸文庫
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 定期試験(50%) : 毎回の講義の内容理解の程度、学習者の実態を視野に入れた授業設計についての理解度を評価する。 ・ 模擬授業と観察実習(50%) : 教材研究の的確さと教材化の工夫、模擬授業と観察実習を通して考えた授業改善の視点についての理解度を評価する。

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	国語科教育法Ⅳ						
担当教員	古賀洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021100
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p> <p>○高等学校教諭(国語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p>						

授業の概要	教材分析から学習者主体の授業を構想するための指導方法を理解するとともに、それを取り入れた授業を展開する力を養うことを目的とする。本科目では、対話的な授業における教師の役割に注目し、発問と学習活動の効果的な組み立て方についての理解を深めていく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・各指導領域の基本的、先進的な指導方法を理解することができる。 ・指導案作成の手順を理解し、基本的、先進的な指導方法を取り入れた授業を構想することができる。 ・作成した指導案にもとづき、学習者主体の対話的な授業を展開することができる。
授業計画	<p>第1回 文学的文章教材の実践事例—「解釈の交流」を軸とした授業—</p> <p>第2回 説明的文章教材の実践事例—「クリティカル・リーディング」を取り入れた授業—</p> <p>第3回 「書くこと」領域の教材開発と実践事例—「インベンション指導」「看図作文」—</p> <p>第4回 「話すこと・聞くこと」領域の教材開発と実践事例—論理的コミュニケーションの育成—</p> <p>第5回 比べ読みの実践事例</p> <p>第6回 単元学習の理論と実践事例</p> <p>第7回 国語科授業にICTを導入することの意義と具体的な実践事例</p> <p>第8回 指導案作成の手順①—コマの授業の構想—</p> <p>第9回 指導案作成の手順②—単元全体の構想—</p> <p>第10回 模擬授業①—文学的文章教材—</p> <p>第11回 模擬授業②—説明的文章教材—</p> <p>第12回 模擬授業③—古文・漢文教材—</p> <p>第13回 模擬授業④—「書くこと」領域—</p> <p>第14回 模擬授業⑤—「話すこと・聞くこと」領域—</p> <p>第15回 模擬授業⑥—複数教材の活用—</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 国語編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 国語編』
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・日本国語教育学会編『豊かな言語活動が拓く 国語単元学習の創造 I 理論編』東洋館出版社、2010年 ・浜本純逸監修・田中宏幸編『ことばの授業づくりハンドブック 中学校・高等学校「書くこと」の学習指導—実践史をふまえて—』溪水社、2016年
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・定期試験(50%)：各領域の指導方法の理解度を評価する。 ・模擬授業(50%)：教材分析的確さと指導案の適切さ、模擬授業での対話的振る舞いを評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・模擬授業の計画には時間がかかります。授業時間外でも相談を受け付けますので、一緒に考えていきましょう。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校国語の教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・本科目を履修した成果は「履修カルテ」にまとめ、授業で用いた資料は「学習ポートフォリオ」に託しておくこと。

授業科目	英語科教育法 I						
担当教員	田中 芳文						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021110
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p> <p>○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p>						

授業の概要	学習指導要領の記述内容を理解したうえで、英語教育学が扱う諸分野について書かれたテキストの内容を理論的側面と教育実践的側面から考察する。
授業の到達目標	英語教員にとって必須とされる英語教育学の各分野について正確に理解する。英語教育の目的・目標、学習指導要領、学習者、英語教員、第2言語習得、英語教授法、コミュニケーション能力、音声指導、文字指導、5領域（聞く・読む・話す（やり取り・発表）・書く）指導、複数領域統合言語活動、文法指導、語彙・表現指導、異文化理解指導、小学校の英語教育、教材研究、ICTの活用、ALT等とのチームティーチング、測定・評価をテーマとして取り上げる。
授業計画	<p>第1回 英語教育の目的と目標（1）中学校学習指導要領</p> <p>第2回 英語教育の目的と目標（2）高等学校学習指導要領</p> <p>第3回 学習者の特性・習熟度について（学習者の要因）</p> <p>第4回 英語教員について（英語教師論）</p> <p>第5回 第2言語習得と英語教育</p> <p>第6回 英語教授法とコミュニケーション能力の育成</p> <p>第7回 音声の指導、文字の指導</p> <p>第8回 5領域（聞くこと、読むこと、話すこと（やり取り・発表）、書くこと）の指導</p> <p>第9回 複数の領域を統合した言語活動</p> <p>第10回 文法の指導</p> <p>第11回 語彙・表現の指導</p> <p>第12回 異文化理解に関する指導</p> <p>第13回 小学校の英語教育、小・中・高等学校を通じた英語教育</p> <p>第14回 教材研究、ICTの活用、ALT等とのチームティーチング</p> <p>第15回 測定と評価</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<p>望月昭彦 『新学習指導要領にもとづく英語科教育法』第3版（大修館書店）</p> <p>文部科学省 『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂出版）</p> <p>文部科学省 『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（開隆堂出版）</p> <p>その他英文配布教材</p>
参考文献	<p>H. Douglas Brown, Principles of Language Learning and Teaching. 6th ed. Pearson.</p> <p>H. Douglas Brown, Teaching by Principles. 4th ed. Pearson.</p>
評価方法	平常点 20 点、課題レポート 20 点、定期試験 60 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業前に、テキストの該当箇所と配布教材（英文）を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail で対応します。

授業科目	英語科教育法Ⅱ						
担当教員	猫田英伸						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021120
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 <p>○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕 						

授業の概要	<p>主に中学校の英語の授業で取り扱う言語活動を、学習者の学習レベルに応じてどのように組み立て、指導していくかについて理解することを目標とする。学習指導要領に示されている言語活動を各技能（リスニング、リーディング、スピーキング、ライティング）のメカニズムの観点から捉え直し、その効果的な指導方法について学ぶ。学習者（生徒）の言語材料に関する知識を、運用を前提とするコミュニケーション能力へとつなげていくための言語活動のあり方と、その中で求められる英語教員の役割について理解する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・学校教育場面を想定し、学習者の学習段階に応じて指導計画を立案する力を身に付ける。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 英語授業内の談話（教師と学習者のやりとり）</p> <p>第3回 英語授業内の談話の分析</p> <p>第4回 指導計画・評価計画（年間計画、単元計画、授業計画）</p> <p>第5回 1時間の授業の組み立て（ウォームアップ）</p> <p>第6回 1時間の授業の組み立て（導入）</p> <p>第7回 1時間の授業の組み立て（展開：聴解と読解、発問、説明）</p> <p>第8回 1時間の授業の組み立て（練習：機械的練習、有意味的練習、伝達練習）</p> <p>第9回 リスニングのメカニズム</p> <p>第10回 リーディングのメカニズム</p> <p>第11回 スピーキングのメカニズム</p> <p>第12回 ライティングのメカニズム</p> <p>第13回 単元の指導案と本時案の書き方（教材研究と指導目標・評価規準の設定について）</p> <p>第14回 単元の指導案と本時案の書き方（教材研究と単元の指導の流れについて）</p> <p>第15回 単元の指導案と本時案の書き方（教材研究とテストで用いる評価材開発について）</p> <p>定期試験</p>
テキスト	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 ・国立教育政策研究所『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 外国語】』 ・深澤清治 編著(2014)『教師教育講座 第16巻 中等英語教育』協同出版 ISBN 978-4-319-10686-8
参考文献	特になし
評価方法	定期試験（60%）、指導案作成課題（40%）
自己学習に関する指針	授業中の指示に従い、テキストの該当箇所を読んでくること。
履修上の指導・留意点	授業中、ペアや小グループで活動してもらうことがあります。

授業科目	英語科教育法Ⅲ						
担当教員	猫田英伸						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021130
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(英語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p> <p>○高等学校教諭(英語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p>						

授業の概要	<p>中学校の英語教員にとって必要な基本的な知識および指導技術を身に付け、実際に授業を行う力を養うことを目標とする。第1回から第9回までは受講者は1名ずつ英語の授業の各ステップを実際の中学校の教科書に基づいてマイクロティーチングの形で実践する。第10回以降では受講者はペアまたはグループになり、中学校の教科書のある単元を取り出して共同で単元の指導案と本時案の作成を行い、実際にほぼ1時間分の授業を通して実践する。この「やってみる」プロセスの中で、クラスルームイングリッシュの使い方、明瞭な指示の出し方、教室内の立ち位置、目線の配り方、指名の仕方などの実践的な技術を幅広く身に付ける。</p>
授業の到達目標	<p>・学校教育場面を想定し、実際に指導計画を立案して授業を実践する力を身に付ける。</p>
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション 第2回 マイクロティーチング(ウォームアップ: Classroom English) 前半: 受講者が1名ずつ実践 第3回 マイクロティーチング(ウォームアップ: 帯活動) 後半: 受講者が1名ずつ実践 第4回 マイクロティーチング(導入: Oral Introduction) 前半: 受講者が1名ずつ実践 第5回 マイクロティーチング(導入: Processing Instruction) 後半: 受講者が1名ずつ実践 第6回 マイクロティーチング(展開: 発問と説明) 前半: 受講者が1名ずつ実践 第7回 マイクロティーチング(展開: 聴解と読解の指導) 後半: 受講者が1名ずつ実践 第8回 マイクロティーチング(練習: 機械的練習と有意味的練習) 前半: 受講者が1名ずつ実践 第9回 マイクロティーチング(練習: 伝達練習) 後半: 受講者が1名ずつ実践 第10回 共同立案授業の計画(ペア・グループ活動: 教材研究、単元と本時の指導計画の立案) 第11回 共同立案授業の準備(ペア・グループ活動: 教材・教具開発、授業実践の練習) 第12回 模擬授業(1~2ペア・グループが実践: 中学1年生の入門期を想定した小学校での英語学習を踏まえた指導とその留意点) 第13回 模擬授業(1~2ペア・グループが実践: 中学1年生を想定した指導とその留意点) 第14回 模擬授業(1~2ペア・グループが実践: 中学2年生を想定した指導とその留意点) 第15回 模擬授業(1~2ペア・グループが実践: 中学3年生を想定した指導とその留意点)</p>
テキスト	<p>・文部科学省『中学校学習指導要領解説』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』 ・国立教育政策研究所『評価基準の作成、評価方法等の工夫改善のための参考資料【中学校 外国語】』 ・深澤清治 編著(2014)『教師教育講座 第16巻 中等英語教育』協同出版 ISBN 978-4-319-10686-8</p>
参考文献	特になし
評価方法	指導案作成課題(60%)、模擬授業(40%)
自己学習に関する指針	10分程度のマイクロティーチング(個人)や50分の模擬授業(ペア・小グループ)を準備のうえ、実演してもらいます。
履修上の指導・留意点	「英語科教育法Ⅱ」を履修していること。

授業科目	英語科教育法Ⅳ						
担当教員	田中 芳文						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021140
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p> <p>○高等学校教諭（英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育課程及び指導法に関する科目 〔各教科の指導法〕</p>						

授業の概要	学習指導要領の理解、教科用図書の比較分析、学習指導案の作成、教材作成、評価方法の理解、模擬授業を行う。
授業の到達目標	中学校と高等学校の英語教員にとって必要な基本的知識と指導技術を学び、実際に授業を行う実践力を身に付ける。学習指導要領、教科用図書研究、学習指導案作成、教材作成、評価方法、模擬授業をテーマとして取り上げる。
授業計画	<p>第1回 中学校学習指導要領 外国語編</p> <p>第2回 高等学校学習指導要領 外国語編・英語編</p> <p>第3回 教科用図書の分析・研究 読解指導の視点から</p> <p>第4回 教科用図書の分析・研究 語、連語及び慣用表現の指導の視点から</p> <p>第5回 教科用図書の分析・研究 文構造と文法事項の指導の視点から</p> <p>第6回 教科用図書の分析・研究 コミュニケーション指導の視点から</p> <p>第7回 教科用図書の分析・研究 言語活動の視点から</p> <p>第8回 学習指導案の作成 中学校「英語」</p> <p>第9回 学習指導案の作成 高等学校「コミュニケーション英語Ⅰ」「コミュニケーション英語Ⅱ」</p> <p>第10回 学習指導案の作成 高等学校「英語表現Ⅰ」「英語表現Ⅱ」</p> <p>第11回 教材の作成</p> <p>第12回 評価の方法</p> <p>第13回 模擬授業 復習と導入</p> <p>第14回 模擬授業 展開</p> <p>第15回 模擬授業 整理とまとめ</p>
テキスト	<p>文部科学省『中学校学習指導要領解説 外国語編』（開隆堂出版）</p> <p>文部科学省『高等学校学習指導要領解説 外国語編・英語編』（開隆堂出版）</p> <p>中学校教科用図書、高等学校教科用図書</p>
参考文献	授業中に紹介する。
評価方法	平常点 30 点、模擬授業 40 点、課題レポート 30 点の合計 100 点で総合的に評価する。
自己学習に関する指針	授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	質問は、その内容に応じて、授業時間中・研究室・e-mail に対応します。

授業科目	現代教職論						
担当教員	小柳 正司						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021010
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義等に関する科目 〔教職の意義及び教員の役割〕 〔教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）〕 〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕 <p>○高等学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義等に関する科目 〔教職の意義及び教員の役割〕 〔教員の職務内容（研修、服務及び身分保障等を含む）〕 〔進路選択に資する各種の機会の提供等〕 						

授業の概要	教員養成・研修の仕組みと教職関連の法令・制度について基礎知識を学ぶとともに、学校段階に応じた教師の役割、授業実践論、求められる教員像と教員の資質・能力等について、関係資料や事例等を通して学んでいく。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の意義、教員の役割と職務内容等について基礎的・基本的事項を理解する。 ・教員の専門力量について理解する。 ・教職への意欲を高め、適性を自覚する。
授業計画	<p>第1回 オリエンテーション</p> <p>第2回 教職の意義と教員の役割</p> <p>第3回 学校と教員の歴史——教師像の変遷</p> <p>第4回 教員養成のカリキュラム</p> <p>第5回 教師教育の制度</p> <p>第6回 教師教育制度の改革動向——変わりゆく社会の中での学校と教師</p> <p>第7回 教師に求められる資質と能力——教職のエートス</p> <p>第8回 教員の仕事と役割——「チーム学校」への対応</p> <p>第9回 教員の地位と身分</p> <p>第10回 教科指導と教師</p> <p>第11回 生徒指導と教師</p> <p>第12回 教員の研修</p> <p>第13回 教員社会と教師文化</p> <p>第14回 教師のライフコース</p> <p>第15回 教職への進路</p>
テキスト	適宜、プリントを使用する。
参考文献	<p>教育小六法</p> <p>秋田喜代美・佐藤学編 『新しい時代の教職入門 改訂版』 有斐閣 2015 年</p> <p>新井保幸、江口勇治 『教職論』 培風館</p> <p>その他は、授業内でそのつど指示する。</p>
評価方法	<p>課題レポート3回 (60%)</p> <p>授業レポート毎回 (40%)</p>
自己学習に関する指針	授業レポートでは毎回、授業終了時に授業内容の要点をまとめてもらいます。課題レポートは主に調べ学習の報告です。

履修上の 指導・留意点	授業ではパワーポイント（スライド）を使って説明をおこないます。板書はほとんどしませんので、各自でしっかりノートを取って、あとで内容を整理するようにしてください。
----------------	--

授業科目	教育原理						
担当教員	小柳 正司						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021020
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状<<教職に関する科目>></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕 <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状<<教職に関する科目>></p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育の理念並びに教育に関する歴史及び思想〕 						

授業の概要	<p>教育を広く人間と社会とのかかわりの中で捉えることを通して、教育の意義、理念と目的、及び今日的課題について考察を進める。内容的には、発達と教育の諸理論、子ども・青年像の変遷と現代教育の諸課題、学校と教育をめぐる近代とポスト近代、わが国と諸外国における現代教育改革の動向等について扱う。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育の本質、意義、理念と目的について理解する。 ・教育の歴史と思想の変遷を理解する。 ・教育という視点に立って人間のもつ可能性や多面性を発見する。 ・自己形成のこれまでの振り返り、自己認識をすすめ、これからのキャリアデザインを描く。
授業計画	<p>第1回 教育とは何か——語義から探る教育の深層</p> <p>第2回 形成と教育——人はなぜ教育を必要とするか</p> <p>第3回 文化と教育——人間の能力をどうとらえるか</p> <p>第4回 教育の原初形態——断絶と飛躍の教育</p> <p>第5回 学校のない教育——民衆の産育習俗の世界</p> <p>第6回 「子ども」の発見、「家族」の誕生</p> <p>第7回 近代学校の成立——見習修行から学校教育へ</p> <p>第8回 人間形成空間の変容——わが子の教育から人間一般の教育へ</p> <p>第9回 変貌する家族と家庭教育——新中間層の教育戦略</p> <p>第10回 教育と平等——教育による平等の実現</p> <p>第11回 教育の機会均等</p> <p>第12回 生涯学習と学校教育</p> <p>第13回 インクルーシブ教育の現状と課題</p> <p>第14回 人権教育をみつめる</p> <p>第15回 教育改革の動向とキャリア形成</p>
テキスト	小柳正司『教育原論の試み』あいり出版、を使用する。
参考文献	梅根悟『世界教育史』評論社
評価方法	<p>毎回の確認テスト(75%)</p> <p>課題レポート2回(25%)</p>
自己学習に関する指針	<p>毎回、授業開始時に前回授業の内容について確認テストをします。(10分程度)</p> <p>課題レポートでは、授業の内容を踏まえた小論文を作成してもらいます。(2回)</p>
履修上の指導・留意点	<p>授業ではパワーポイント(スライド)を使って説明をおこないます。板書はほとんどしませんので、各自でしっかりノートを取って、あとで内容を整理するようにしてください。</p>

授業科目	教育心理学						
担当教員	橋本由里 山田洋平						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021030
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童お酔い生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕</p> <p>○高等学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫</p> <p>・教育の基礎理論に関する科目 〔幼児、児童及び生徒の心身の発達及び学習の過程（障害のある幼児、児童お酔い生徒の心身の発達及び学習の過程を含む）〕</p>						

授業の概要	<p>発達、学習、記憶、動機づけ、学級集団の心理、教育評価など教育心理学の基本的事項について理解するとともに、教育現場における心理的諸問題について関心を深める。また、性格特性と適応、知能とコミュニケーションスキル、社会性と感情制御について理解を深め、現代の教育場面における問題行動とその対処法について考察する。</p>
授業の 到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 教育心理学の基礎知識を深めることができる。 2. 学級集団の心理や機能、人間関係について理解できる。 3. 教育現場での諸問題について関心を深め、考察ができる。
授業計画	<p>第1回 教育心理学とは（担当：橋本、山田）</p> <p>第2回 発達と学習のメカニズム（1）注意と認知機能の発達段階（担当：橋本、山田）</p> <p>第3回 発達と学習のメカニズム（2）学習理論、脳と神経系の発達（担当：橋本、山田）</p> <p>第4回 記憶 記憶のメカニズム（担当：橋本、山田）</p> <p>第5回 共同注意とコミュニケーション（担当：橋本、山田）</p> <p>第6回 性格特性と学校適応（担当：橋本、山田）</p> <p>第7回 学級集団（1）教師生徒関係、友人関係、学級雰囲気（担当：山田）</p> <p>第8回 学級集団（2）いじめ、不登校、引きこもり（担当：山田）</p> <p>第9回 社会性（1）向社会性、道徳性、自尊感情（担当：山田）</p> <p>第10回 社会性（2）社会性と情動知能の育成（担当：山田）</p> <p>第11回 知能 知能の諸理論、思考、創造性（担当：山田）</p> <p>第12回 教育評価 教育活動における評価の意味と方法（担当：山田）</p> <p>第13回 障害（1）障害のある児童及び生徒の心理教育アセスメント（担当：山田）</p> <p>第14回 障害（2）障害のある児童及び生徒の支援の方法（担当：山田）</p> <p>第15回 教育現場における諸問題（担当：山田）</p>
テキスト	中澤潤 編「よくわかる教育心理学」(2008) ミネルヴァ書房
参考文献	<p>森敏昭・青木多寿子・淵上克義（編）よくわかる学校教育心理学（2010）ミネルヴァ書房</p> <p>日本心理学会（監修）箱田裕司・遠藤利彦（編）本当のかしこさとは何か—感情知性（EI）を育む心理学—(2015) 誠信書房</p>
評価方法	<p>グループワーク（30%）、レポート（70%）の総合評価による。</p> <p>授業では、必要に応じてグループワークを行う。</p>
自己学習に 関する指針	・配布資料および記載された参考文献を読み、復習に役立てる。
履修上の 指導・留意点	・グループワークには積極的に参加すること。

授業科目	教育経営論						
担当教員	熊丸 真太郎						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021040
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（国語・英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）〕 <p>○高等学校教諭（国語・英語）一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育に関する社会的、制度的又は経営的事項（学校と地域との連携及び学校安全への対応を含む。）〕 						

授業の概要	<p>本授業科目では、学校が組織として求められる様々な経営課題について、受講者とともに議論する。具体的には、各回一つの学校や教員、生徒に関するトピックを取り上げ、それらが学校の教育目的の達成にどのようなつながりかを考えていく。そのことを通して、受講者がこれまで触れることの少なかった、学校の経営的側面の理解を促す。また、本授業科目では、学校教育が公教育として行われていることから、社会にとって学校が果たす使命と役割の重要性についても考えを深めることを目指す。</p>
授業の 到達目標	<p>本授業科目の到達目標は、受講者が「学校教育における、教育の目的を達成するための経営的営為の重要性を理解すること」である。</p> <p>本授業科目のテーマは、「公教育としての学校教育」であり、(1)学校が社会的使命を持った組織であること、(2)その一員である教員に求められること、(3)具体的な経営課題を取り上げる。受講者は、それらについて理解し、どのような特徴があるか説明できるようになることを目指す。</p>
授業計画	<p>第1回 学校は何のためにあるのか：教育基本法、学校教育法 第2回 学校では何が教えられるのか：学校教育法、学習指導要領 第3回 先生とは何者か：教育職員免許法、教育公務員特例法、地方公務員法 第4回 よい先生になるためには：教員の資質・能力、「学び続ける教師」 第5回 教えるだけが先生の仕事ではない：校務分掌 第6回 学校はどのような組織なのか：学校組織論 第7回 先生だけでは学校はうまくいかない：チームとしての学校 第8回 よい学校をどう作るか：学校評価、カリキュラム・マネジメント 第9回 いろいろな「生徒」がいる (1)：特別支援教育 第10回 いろいろな「生徒」がいる (2)：外国とのつながりのある生徒（日本語指導） 第11回 「生徒」が安心して学べるためには (1)：いじめ防止対策推進法（生徒指導） 第12回 「生徒」が安心して学べるためには (2)：学校の危機管理 第13回 なぜ学校と地域が連携するのか (1)：コミュニティ・スクール 第14回 なぜ学校と地域が連携するのか (2)：学校を核とした地域づくり 第15回 学校教育の限界を考える：学校がない世界はどのような世界か（総括討議）</p>
テキスト	特になし
参考文献	岡本徹・佐々木司（編著）『現代の教育制度と経営』ミネルヴァ書房、2016年。
評価方法	小レポート（75点）、授業中の議論への貢献（25点）
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	教育課程論						
担当教員	山根 俊喜						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021050
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)] <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育の基礎理論に関する科目 〔教育課程の意義及び編成の方法(カリキュラム・マネジメントを含む。)] 						

授業の概要	教育課程の意義、近代学校における教育課程の歴史、現代の教育課程開発の動き、教育課程の編成原理、類型、現行の教育課程(学習指導要領を中心とする)の基本的考え方と特徴と改革動向、そして学校での教育課程編成の課題とカリキュラム・マネジメントについて概説する。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育課程の意義を、日本の教育課程史や諸外国の教育課程との比較を通じて理解する。 ・教育課程の意義を、現代的教育課題への対応という点から理解する。 ・教育課程編成の理論と方法、教育課程のマネジメントについて理解する。 ・現代の中等教育における教育課程の課題と改革方向について理解する。
授業計画	<p>第1回 教育課程の意義および教育課程研究の意味</p> <p>第2回 教育課程の編成原理：分化と統合、学力と人格、生活と科学、個別化と協同化</p> <p>第3回 教育課程の諸類型(1)：教科カリキュラムと経験カリキュラム</p> <p>第4回 教育課程の諸類型(2)：隠れたカリキュラム／履修主義と修得主義／羅生門的アプローチと工学的アプローチ</p> <p>第5回 教育課程の評価とカリキュラム・マネジメント</p> <p>第6回 教育課程の歴史(1)：教科カリキュラムの成立</p> <p>第7回 教育課程の歴史(2)：経験カリキュラムの主張：コア・カリキュラム、合科学習、クロスカリキュラー的テーマ、総合的学習</p> <p>第8回 教育課程の歴史(3)：戦前日本の教育課程</p> <p>第9回 教育課程の歴史(4)：戦後日本の教育課程：学習指導要領の展開を中心に(1968まで)</p> <p>第10回 教育課程の歴史(5)： 同上 (1998まで)</p> <p>第11回 現行日本の教育課程(1)：知識基盤社会と生きる力、確かな学力</p> <p>第12回 現行日本の教育課程(2)：コンピテンシー・ベースの教育課程改革</p> <p>第13回 教育課程と教育環境－学校建築・教室・学級編成・教授組織・教具と施設－</p> <p>第14回 教科外のカリキュラム－教科外の諸活動の教育課程化の意味－</p> <p>第15回 学校を基盤とした教育課程－変容する社会と学校をつなぐ</p> <p>定期試験</p>
テキスト	田中耕治・水原克敏・三石初雄・西岡加名恵『新しい時代の教育課程 第3版』2011、有斐閣
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・文部科学省『中学校学習指導要領』 ・文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領』 ・文部科学省『高等学校学習指導要領解説 総則編』
評価方法	レポート(40点)、期末試験(60点)
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	特別支援教育論						
担当教員	内山仁志、西村健一						
科目分類	資格・免許	授業時間	15	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3021055
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目</p> <p>○高等学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育の基礎理論に関する科目</p>						

授業の概要	特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒の理解をするとともに、特別支援教育における教育課程及び具体的な支援の方法を学ぶ。また、母国語や貧困の問題等により特別の教育的ニーズのある幼児、児童及び生徒の把握や支援についても理解をする。
授業の 到達目標	通常の学級にも在籍している発達障害や軽度知的障害をはじめとする様々な障害等により特別の支援を必要とする幼児、児童及び生徒が授業において学習活動に参加している実感・達成感をもちながら学び、生きる力を身に付けていくことができるよう、幼児、児童及び生徒の学習上又は生活上の困難を理解し、個別の教育的ニーズに対して、他の教員や関係機関と連携しながら組織的に対応していくために必要な知識や支援方法を理解する。
授業計画	<p>第1回 特別支援の対象となる幼児、児童及び生徒の理解と教育システムの概要(担当：内山)</p> <p>第2回 視覚障害・聴覚障害・知的障害・肢体不自由・病弱等の障害児・者の生理・心理・病理(担当：内山)</p> <p>第3回 発達障害及び重複障害児・者の生理・心理・病理(担当：内山)</p> <p>第4回 障害はないが特別な教育的ニーズのある児童生徒の実態とその支援及び課題(担当：内山)</p> <p>第5回 教育現場における特別支援教育の支援の実態について(担当：西村)</p> <p>第6回 「通級における指導」と「自立活動」について(担当：西村)</p> <p>第7回 「個別の指導計画」及び「個別の教育支援計画」の運用と実際(担当：西村)</p> <p>第8回 地域におけるチーム学校の考え方と実際について(担当：西村)</p> <p>定期試験</p>
テキスト	授業中、適宜印刷資料等を配布する。
参考文献	<p>特別支援学校幼稚部教育要領、特別支援学校小学部・中学部学習指導要領、特別支援学校高等部学習指導要領</p> <p>(文部科学省HP http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/tokushi/1284518.htm)</p> <p>特別支援学校学習指導要領解説（自立活動編・総則編）</p> <p>(文部科学省HP http://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/new-cs/youryou/1278527.htm)</p>
評価方法	毎回提出の授業レポート(40点)、期末課題(60点)
自己学習に 関する指針	毎回提出の授業レポート(40点)、期末課題(60点)
履修上の 指導・留意点	

授業科目	道徳の理論と指導法						
担当教員	塩津 英樹						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021065
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法						

授業の概要	本科目は、道徳教育に関する理論、歴史、制度、学習指導要領、中学校の発達段階を踏まえた指導法などについて理解を深め、実際に中学校で「特別の教科 道徳」の授業を構想できるようになることを目標とする。グローバル化する現代社会においては、“様々な価値観の存在を認め、互いに尊重し合うこと”のできる資質能力の育成が、これまで以上に重視されている。授業では、このような資質能力の育成に向けて有効な道徳の授業の在り方について講義する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・道徳の意義、道徳教育の歴史、学習指導要領、子供の道徳性の発達について理解する。 ・教育活動全体を通じた道徳教育の指導の在り方と道徳科の指導方法について理解し、教材研究と学習指導案の作成を通じて、実際に道徳の授業を構想することができる。
授業計画	第1回 「道徳」とは何か 第2回 日本における道徳教育の歴史 第3回 西洋における道徳教育の歴史 第4回 学習指導要領について 第5回 子供の道徳性の発達 第6回 教育活動全体を通じた指導の在り方と指導計画 第7回 道徳科の指導方法(1) インカルケーション、価値の明確化 第8回 道徳科の指導方法(2) モラルジレンマ、自我関与が中心の学習 第9回 道徳科の指導方法(3) 問題解決的な学習、体験的な学習 第10回 道徳教育の課題(1) いじめ問題と道徳教育 第11回 道徳教育の課題(2) 情報モラル教育 第12回 教材研究と授業設計 第13回 道徳科の学習評価の在り方 第14回 学習指導案の作成 第15回 模擬授業 定期試験
テキスト	文部科学省『中学校学習指導要領』(平成29年3月) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別の教科 道徳編』(平成29年7月)
参考文献	渡邊満・山口圭介・山口意友(編)『新教科「道徳」の理論と実践』玉川大学出版部、2017年。
評価方法	受講態度(10%)、学習指導案の提出(30%)、定期試験(60%)などに基づいて総合的に評価する。
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	特別活動及び総合的な学習の時間の指導法						
担当教員	一盛真						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修		単位数	2	授業コード	M3021155
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法						

授業の概要	<p>この授業では、中等教育における総合的な学習の時間と特別活動について講義する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の目的と意義について歴史的経緯を含めて概説し、これを計画、実施していく上で必要なカリキュラム上の留意点、及び指導過程を構想と実施のために必要な知識、技能や留意点について講義する。 ・特別活動の目的や意義について概説し、これを計画、実施していく上で必要なカリキュラム上の留意点、及び指導過程を構想と実施のために必要な知識、技能や留意点について講義する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・総合的な学習の時間の目的と意義を理解し、その授業を計画を立案、実施、評価できる力を養う。 ・特別活動の目的と意義を理解し、その授業を計画、実施、評価する力を養う。
授業計画	第1回 総合的な学習の時間の意義と目的—歴史的検討を踏まえて— 第2回 総合的な学習の時間の目標と内容、獲得が期待される資質・能力 第3回 総合的な学習の時間の指導計画—他の領域、各教科との関連を踏まえて— 第4回 総合的な学習の時間の指導過程(1)—主題や教材をどう構想するか— 第5回 総合的な学習の時間の指導過程(2)—主体的、対話的で深い学びを目指して— 第6回 総合的な学習の時間の教育評価 第7回 特別活動の意義と目的、目標と内容 第8回 学校のカリキュラムにおける特別活動の位置 第9回 中等教育における学級活動、ホームルーム活動とその指導過程 第10回 生徒会活動、クラブ活動の目標と計画、及びその指導過程 第11回 学校行事の目標と計画、及びその指導過程 第12回 学校行事計画の実際—入学式・卒業式(国旗・国歌の取扱を含む)を事例に— 第13回 特別活動における学習評価、教育評価および指導の改善 第14回 特別活動の生活指導・ガイダンス機能について—集団活動を通じた自治能力の形成— 第15回 特別活動の実施体制と—学校内外の関係者との連携と協力 定期試験
テキスト	一盛真『特別活動論』(講義初日に配布する。)総合的な学習の時間に関してはテキストを指定しない。
参考文献	文部科学省『中学校学習指導要領解説 特別活動編』、同『同 総合的な学習の時間編』
評価方法	平常点30点、定期試験70点
自己学習に関する指針	
履修上の指導・留意点	

授業科目	教育方法学						
担当教員	時津 啓、山根 俊喜、深見 俊崇						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021160
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						

授業の概要	教授・学習論の歴史と基礎理論、及びコンピテンシー・ベースのカリキュラム・授業開発とアクティブラーニングといった今日的課題の意義を明らかにした上で、教育方法学の基本的課題である、教育目標論、教材・教具論(ICTなど教授メディアの活用、情報モラルを含む生徒の情報活用能力育成に資する指導法を含む)、学習形態論と指導過程論、教育評価論について講義し、学習指導案の作成能力とこれを実施する上で留意すべきことに関する理解を形成する。
授業の 到達目標	・これからの時代を生きる生徒達に必要な学力(資質・能力=コンピテンシー)を形成する為に必要な、教育の方法・技術、教授メディアの活用に関する基礎的な知識を身につけ、広い意味での「授業」を構想し実施するための基礎的な能力を獲得する。 ・教育におけるICTの活用方法を理解し、情報モラルを含む生徒の情報活用能力育成に資する指導法を理解する。
授業計画	第1回 教授・学習の原理と構造1ーレイネス、動機付け、直感の原理など(担当:深見) 第2回 教授・学習の原理と構造2ー自発性の原理、興味の原理、個性化の原理など(担当:深見) 第3回 教授・学習の形態と様式(担当:深見) 第4回 情報機器の活用とマルチメディア教育(担当:深見) 第5回 情報機器の活用とコンピュータを利用した学習(担当:深見) 第6回 情報機器の活用と教師の働きかけーメディア教育における教材利用(担当:時津) 第7回 生徒による主体的メディア利用ーイギリスの教育実践の分析(担当:時津) 第8回 生徒によるメディア(SNS等)利用と情報モラルの育成ー中学校の授業を中心に(担当:時津) 第9回 コンピテンシー(資質・能力)ベースの授業づくり:授業の逆引き設計と学習指導案(担当:山根) 第10回 教育目標論(1):内容的側面からー(担当:山根) 第11回 教育目標論(2):能力(行動)的側面からー(担当:山根) 第12回 教育評価論(1):評価基準と目標準拠評価ー(担当:山根) 第13回 教育評価論(2):形成的評価と授業改善ー(担当:山根) 第14回 教材・教具(教授メディア)論:教材・教具の意義と役割(担当:山根) 第15回 まとめー授業における教師の役割(担当:山根) 定期試験
テキスト	深澤広明編『教育方法技術論』協同出版、2014 その他、毎回関連するレジュメと資料を配付する
参考文献	田中耕治他『新しい時代の教育方法』有斐閣、2012 田中耕治編『よくわかる授業論』ミネルヴァ書房、2007 佐藤学『教育方法学』岩波書店、1996 稲垣忠・鈴木克明『授業設計マニュアルVer.2』北大路書房、2015 R.M.ガニエ他『インストラクショナルデザインの原理』北大路書房、2007 ウィギンズ&マクタイ、西岡加名恵『理解をもたらすカリキュラム設計:逆引き設計の理論と方法』日本標準、2012 文部科学省『中学校学習指導要領』(平成29年3月告示) 文部科学省『中学校学習指導要領解説 総則編』(平
評価方法	期末試験60%とレポート40%

自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	生徒・進路指導の理論と方法						
担当教員	時津 啓、山根 俊喜、深見 俊崇						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態		選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021170
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・道徳、総合的な学習の時間等の指導法及び生徒指導、教育相談等に関する科目						

授業の概要	現代の教育における生徒・進路指導に関し広く解説を行う。生徒・進路指導に関連する基礎的な理論から実際に教育現場で起きている問題まで、多様な視点で教育及び生徒・進路指導を捉え、理解を深めることを目的とする。また、実例を多く示し、グループでのプレゼンテーションやロールプレイ等の実践的な学びも取り入れる。
授業の 到達目標	1. 生徒・進路指導に関する基礎的な理論、生徒・進路指導に関わる教育の諸問題について、その内容や背景、原因、検討すべき課題を指摘できる。 2. 生徒・進路指導に関わる教育の諸問題について、心理学的な観点を含む複数の観点に基づき自らの意見を述べるができる。 3. 生徒・進路指導に関わる教育の諸問題について関心を持ち、生徒・進路指導に関連して新しく生じる問題を積極的に知ろうとする態度を持つ。
授業計画	第1回 生徒指導の基本的な考え方(担当:竹内) 第2回 一次支援、二次支援、三次支援とは(担当:竹内) 第3回 特別支援教育と生徒指導の必要性(担当:竹内) 第4回 いじめの実態と対応(担当:竹内) 第5回 不登校の実態と対応(担当:竹内) 第6回 子どもたちのネット問題と対応(担当:竹内) 第7回 ロールプレイで学ぶ生徒指導と解説(担当:竹内) 第8回 まとめ～生徒指導の今後のあり方の検討(担当:竹内) 第9回 進路指導の基本的な考え方(担当:坂柳) 第10回 進路指導の基礎理論(担当:坂柳) 第11回 個人理解の意義と方法(担当:坂柳) 第12回 進路情報の意義と活用方法(担当:坂柳) 第13回 啓発的経験の意義と実践方法(担当:坂柳) 第14回 キャリア・カウンセリングの意義と実践方法(担当:坂柳) 第15回 まとめ～進路指導の今後のあり方の検討(担当:坂柳) 定期試験
テキスト	竹内和雄著「スマホやネットが苦手でも指導で迷わない! スマホ時代に対応する生徒指導・教育相談」(ほんの森出版)
参考文献	文部科学省 生徒指導提要 出版社教育図書
評価方法	成績評価は、 ①提出物(レポートの内容等) ②グループ発表への貢献度及びその内容 ③学期末試験 などを総合化して評価する。
自己学習に 関する指針	
履修上の 指導・留意点	

授業科目	教育相談						
担当教員	川中淳子						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021180
免許資格 関連事項	<p>○中学校教諭(国語・英語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法〕</p> <p>○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状<<教職に関する科目>> ・生徒指導、教育相談及び進路指導等に関する科目 〔教育相談(カウンセリングに関する基礎的な知識を含む。)の理論及び方法〕</p>						

授業の概要	<p>本授業は教員による概説と、それに関する論文講読や実践的学習により構成される。主なテーマは学校現場における個別の支援が必要な状態を知ることと、それらへの対応である。実践力をつけるために、カウンセリングのロールプレイをはじめとした様々な実践演習や、架空事例の検討会を予定している。</p>
授業の到達目標	<p>[到達目標]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・生徒達の心の諸問題に対する配慮や関わり、及び、保護者への対応のありかたについて、各自が主体的に考えられるようになる ・子ども達が抱える様々な困難を、具体的に説明できる ・カウンセリングの実際を知り、基本技術を身につける <p>[テーマ]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・まず、不登校、いじめ、発達障がい、虐待、生きづらさなど、児童生徒への個別の支援が必要な状態を知る。次に、それらへの対応としてカウンセリングをはじめとした生徒達への様々な支援、保護者への対応、他機関との連携を学ぶ。
授業計画	<p>第1回 ガイダンス(本講義の目的と概要説明。全受講生の自己紹介を含む)</p> <p>第2回 学校体験の振り返りから心の諸問題を考える</p> <p>第3回 子どもを取り巻く家庭・学校・地域の諸問題</p> <p>第4回 子どものこころの諸問題の理解(1) 不登校、いじめ</p> <p>第5回 子どものこころの諸問題の理解(2) 発達障がい</p> <p>第6回 子どものこころの諸問題の理解(3) 虐待、生きづらさ</p> <p>第7回 傾聴の演習(1) 傾聴の姿勢</p> <p>第8回 傾聴の演習(2) 非言語的コミュニケーションと言語的コミュニケーション(実践を含む)</p> <p>第9回 カウンセリングの基礎知識</p> <p>第10回 カウンセリングの技法(ロールプレイを含む)</p> <p>第11回 保護者への対応</p> <p>第12回 各受講生自身の教育観の振り返り -コンセンサス実習を通して-</p> <p>第13回 スクールカウンセリング事例(架空事例の検討)</p> <p>第14回 様々な支援と他機関との連携</p> <p>第15回 まとめ これからの時代に求められる教育相談 定期試験</p>
テキスト	適宜、プリントを配布する。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・「光とともに」全15巻、別巻 2001 戸部けいこ 秋田書店(発達障害) ・「凍りついた瞳」(1996)、「新 凍りついた瞳」(1998)、「続 凍りついた瞳」(2003) いずれも集英社 ささや ななえ(著)、椎名 篤子(著)(児童虐待) ・映画「レインマン」1988 アメリカ(発達障害) ・映画「蠅の王」1963 イギリス(子どもたちの対人関係) <p>他にも随時紹介します。</p>

評価方法	<ul style="list-style-type: none">・ 出席が 70%以下の者には評価を与えない・ 毎回の授業での取り組み 50%、期末試験 50%
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none">・ 上記の参考文献や授業中に紹介する参考文献を、積極的に読むことが望ましい。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none">・ 実践を多く取り入れるので、授業は受け身的な姿勢ではなく主体的に取り組むこと。

授業科目	教育実習事前事後指導						
担当教員	小柳 正司、古賀 洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3021190
免許資格 関連事項	○中学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習 ○高等学校教諭（国語・英語）一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習						

授業の概要	事前指導では、教育実習の意義と心得、教科担当教員としての心得を学ぶとともに、教材研究と指導案作成の方法を最終確認する。事後指導では、実習で得られた知見をまとめた報告書を作成し、口頭発表を行う。このことを通して、教育実習の学びを整理すると同時に、教員としての自己の課題を認識していく。
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教育実習の意義と心得、教科担当教員としての心得を理解することができる。 ・教育実習における自己の学びを整理するとともに、教員としての自己の課題を認識することができる。
授業計画	(事前指導) 第1回 教育実習の意義 第2回 教育実習の心得(教職員や生徒への接し方やマナー、実習中の生活全般についても含む) 第3回 各教科担当教員としての心得 第4回 教材研究の方法 第5回 学習指導案作成方法の最終確認 (事後指導) 第6回 教育実習体験の整理 第7回 教育実習内容の整理と自己評価(教職実践演習に向けた課題の明確化) 第8回 教育実習のまとめ
テキスト	「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」
参考文献	
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート(50%)：教育実習の意義と心得、教科担当教員としての心得を理解できているか否かを評価する。 ・報告書(50%)：教育実習の学びを整理すると同時に、教員としての自己の課題を認識しているか否かを評価する。
自己学習に 関する指針	・「自分にとって実習をどのような場にしたいか」「どのような教員になりたいのか」を授業外でも問い続けてください。
履修上の 指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・本科目を履修した成果を「履修カルテ」に記入し、授業で用いた資料等を「学習ポートフォリオ」としておくこと。

授業科目	教育実習 I						
担当教員	小柳 正司、古賀 洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	80	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021200
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状≪教職に関する科目≫ ・教育実習						

授業の概要	<p>教育実習は、教育実践の現場に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。教育実習 I では、生徒との関わりや指導教員の振る舞いの観察を通して、教職の服務や意義、心得を再確認する。また、指導教員から指導技術を学び、徹底した学習者研究と教材研究を通して授業を構想・実践する力を養う。</p>
授業の 到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・教職の服務や意義、心得を理解することができる。 ・生徒との関わりを通して、その実態を把握することができる。 ・指導教員の授業を観察・記録し、生徒の実態に応じた指導技術を学ぶことができる。 ・学習指導要領や生徒の実態、学んだ指導技術を踏まえて指導案を作成し、授業を実践することができる。
授業計画	<p>中学校免許の志望者は中学校にて、高校免許の志望者は高校にて 8 時間×5 日間×2 週間の実習を行う。以上を通して、特に次の内容について体験的、総合的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教職の服務、心得、意義 ・教師としての生徒との関わり方 ・授業実践の観察と記録の仕方 ・生徒の実態に応じた授業作りのあり方と指導技術 ・学習指導要領、生徒の実態、指導技術を踏まえた学習指導案の作成の仕方 ・学習指導案にもとづく授業の実践力 ・生徒との対話を通じた即興的な授業の展開力
テキスト	「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」
参考文献	特になし
評価方法	<p>実習中の出勤状況や勤務態度、実習に対する意欲などを考慮し、実習録などの資料及び実習校からの成績評価と大学の授業を担当する専任教員の成績評価を総合して評価する。</p>
自己学習に 関する指針	<p>教育実習が良いものとなるかどうかは、皆さんの意欲と事前準備にかかっています。時間をかけて、授業作りに取り組んでください。</p>
履修上の 指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・実習の成果は「履修カルテ」にまとめ、作成した指導案等は「学習ポートフォリオ」にとじておくこと。 ・実習に行く条件は次の 5 点です。①三年次までに特定の科目を一定数取得していること、②実習の前年度に松江市立湖南中学校と松江商業高校の授業観察に参加していること、③「教育実習事前事後指導」を履修していること、④学期毎に「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」を提出していること、⑤卒業後教員として働くことを志望していること。

授業科目	教育実習Ⅱ						
担当教員	小柳 正司、古賀 洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	80	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021210
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語) 一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>教育実習は、教育実践の現場に関わることを通して、教育者としての愛情と使命感を深め、将来教員になるうえでの能力や適性を考えるとともに課題を自覚する機会である。教育実習Ⅱでは、教育実習Ⅰで学んだ生徒の実態把握力、授業構想・展開力を高めると同時に、教育実習校の学校経営方針や特色ある教育活動について理解を深め、学級担任としての学級経営や生徒指導を実践できるようになることを目的とする。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・生徒の実態把握力や授業構想・展開力を高めることができる。 ・実習校の学校経営方針や特色ある教育活動について理解することができる。 ・学校全体で教育活動にあたるための、同僚教師との協同性を高めることができる。 ・学級担任としての学級経営や生徒指導のあり方を理解し、実践することができる。
授業計画	<p>中学校免許の志望者は中学校で、高校免許の志望者は高校で、双方の免許を志望する者は「教育実習Ⅰ」とは異なる校種で8時間×5日間×2週間の実習を行う。「教育実習Ⅰ」の内容に加えて、特に次の内容について体験的、総合的に学習する。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・教育実習校の学校経営方針や特色ある教育活動のあり方 ・学校全体で教育活動にあたるための同僚教師との協同性 ・学級担任としての学級経営のあり方 ・学級担任としての生徒指導のあり方
テキスト	「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」
参考文献	
評価方法	<p>実習中の出勤状況や勤務態度、実習に対する意欲などを考慮し、実習録などの資料及び実習校からの成績評価と大学の授業を担当する専任教員の成績評価を総合して評価する。</p>
自己学習に関する指針	<p>教育実習が良いものとなるかどうかは、皆さんの意欲と事前準備にかかっています。時間をかけて授業作りに取り組んでください。</p>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・中学校の教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・実習の成果は「履修カルテ」にまとめ、作成した指導案等は「学習ポートフォリオ」にとじておくこと。 ・実習に行く条件は次の5点です。①三次次までに特定の科目を一定数取得していること、②実習の前年度に松江市立湖南中学校と松江商業高校の授業観察に参加していること、③「教育実習事前事後指導」「教育実習Ⅰ」を履修していること、④学期毎に「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」を提出していること、⑤卒業後教員として働くことを志望していること。

授業科目	教職実践演習(中・高)						
担当教員	小柳 正司、古賀 洋一						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021220
免許資格 関連事項	○中学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習 ○高等学校教諭(国語・英語)一種免許状《教職に関する科目》 ・教育実習						

授業の概要	<p>本科目の目的は次の二点である。一つ目は、各々が教育実習での学びを振り返り、課題を抽出し、改善の方向性を探るなかで、教師の専門的力量を補完することである。いま一つは、これから教師として生きていくうえでの「理想の教師像」を確立し、残された学生生活に向けた思いを新たにすることである。授業は各々の学びの振り返りを中心とした個人作業と、討論やブレインストーミング、模擬授業を中心とした協同作業とを織り交ぜながら進めていく。このことによって、教師として生きていくうえで欠かせない協同性、受容性をも育んでいく。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・「生徒との関わり」「学級経営」「同僚教師との関わり」の観点から教育実習での学びを振り返り、課題を抽出するとともに、改善の方向性を明確にすることができる。 ・実習での授業実践の課題を発見し、指導案を修正するとともに、授業を実践することができる。 ・これまでの学びの内容を整理し、「理想の教師像」を確立することができる。
授業計画	<p>第1回 教育実習の課題の振り返り 第2回 「生徒との関わり」に関する体験の共有 第3回 「生徒との関わり」に関する改善策の検討 第4回 「学級経営」に関する体験の共有 第5回 「学級経営」に関する改善策の検討 第6回 「同僚教師との関わり」に関する体験の共有と改善策の検討 第7回 自身の授業実践の振り返りと課題の発見 第8回 学習者の実態の捉え直し 第9回 教材の再分析 第10回 実践事例の収集・共有 第11回 指導案の修正 第12回 修正指導案にもとづく模擬授業①—国語— 第13回 修正指導案にもとづく模擬授業②—英語— 第14回 今後の課題と改善の方向性の整理 第15回 「理想の教師像」の確立</p>
テキスト	「履修カルテ」「学習ポートフォリオ」「教職課程ハンドブック」「教育実習の手引き」、実習で収集・作成した諸資料
参考文献	特になし
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ワークシート、修正指導案(50%)：教育実習で生じた課題に応じて改善の方向性を明確化したり、指導案を修正したりできているかどうかを評価する。 ・レポート(50%)：自身のこれまでの学びと改善の方向性を整理し、理想の教師像を明確に持つことができているかどうかを評価する。
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・実習の課題をどうすれば改善できるのか、自分が理想とする教師とは何なのかを授業外でも問い続けてください。 ・教育書を自主的に読んでください。さらに考えが深まります。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・教員免許を取得しようと考えている人は必修です。 ・学習の成果は「履修カルテ」にまとめ、作成した修正指導案は「学習ポートフォリオ」にとじておくこと。 ・「教育実習事前事後指導」「教育実習」を履修していることが履修の条件です。

授業科目	図書館サービス概論						
担当教員	大野浩ほか						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021230
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	日本の公共図書館を中心に、図書館サービスについて、歴史的経緯をたどりながら概説する。関連の深い複写サービスにおける著作権や地域資料の重要性についても講じる。また、島根県立図書館を会場に実習を行う。
授業の 到達目標	図書館サービスの意義、特質、方法、種類等について、理論と実際を理解すること。 ・ 図書館サービスにはどのようなものがあるか理解する。 ・ 複写サービスにおける著作権について理解する。 ・ 地域資料の種類や重要性について理解する。 ・ 図書館協力について理解する。
授業計画	第1回 講義 図書館サービスの意義 第2回 講義 図書館サービスの実際 第3回 講義 資料提供サービス1 第4回 講義 資料提供サービス2 第5回 講義 課題解決支援サービス 第6回 講義 利用対象者別サービス 第7回 講義 図書館施設、集会・文化活動と広報 第8回 講義 図書館サービスと著作権1 第9回 講義 図書館サービスと著作権2 第10回 講義 地域資料1 第11回 講義 地域資料2 第12回 講義 図書館協力 第13回 講義 まとめ、課題と展望 第14～15回 実習(約180分) 会場：島根県立図書館(グループ作業)
テキスト	必要に応じてプリントを配布。
参考文献	特になし
評価方法	レポートによる。ただし、講義3回以上欠席、実習欠席の者は評価しない。
自己学習に 関する指針	図書館はどれも同じようであるが、それぞれ違いがあります。まずは、いくつも図書館へ行ってみましょう。
履修上の 指導・留意点	実習は授業時間外に行う。(補講期間、または土日等を予定)

授業科目	図書館制度・経営論						
担当教員	石井大輔						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021240
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館の組織運営と経営の基本的知識を習得することを目標とする。図書館制度を支える各種法律(憲法、地方自治法、地方教育行政法、教育基本法、社会教育法、図書館法等)、関連する領域の法律(著作権法、個人情報保護法等)、国及び地方公共団体の図書館政策について解説するとともに、図書館経営に関わるヒト・モノ・カネの問題について、職員の人事・配置、施設等の経営資源、サービス計画、予算の確保、調査と評価、管理形態等について解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・組織の運営、経営の基本的知識を修得する。 ・他人に「図書館経営とは何か」について説明できるようになる。 ・図書館を取り巻く法制度について理解する。
授業計画	<p>第1回 公共図書館の役割と図書館経営</p> <p>第2回 図書館業務・サービスの評価</p> <p>第3回 図書館の管理形態の多様化</p> <p>第4回 図書館のモノの要素(資料、施設・設備計画)</p> <p>第5回 図書館のヒトの要素(組織・職員、館長の役割)</p> <p>第6回 図書館のカネの要素(サービス計画と予算の確保)</p> <p>第7回 図書館に関する法制度(1): 公立図書館と関連法①(地方自治法と図書館)</p> <p>第8回 図書館に関する法制度(2): 公立図書館と関連法②(地方教育行政法と図書館)</p> <p>第9回 図書館に関する法制度(3): 学校図書館と関連法①(教育基本法と学校教育法)</p> <p>第10回 図書館に関する法制度(4): 学校図書館と関連法②(学校図書館法)</p> <p>第11回 図書館に関する法制度(5): 大学図書館と関連法(大学設置基準と図書館)</p> <p>第12回 図書館サービス関連法規(1): 個人情報保護法</p> <p>第13回 図書館サービス関連法規(2): 著作権法①(著作権法概説)</p> <p>第14回 図書館サービス関連法規(3): 著作権法②(著作権法と図書館)</p> <p>第15回 まとめと展望</p>
テキスト	なし
参考文献	授業時に随時紹介する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回の課題・レポート(60%)、試験(40%)を行う。 ・上記に加え、授業への参加(質問、感想等)については適宜加点する。
自己学習に関する指針	居住している市町村および隣接している自治体の図書館のホームページ、行政広報(『〇〇市だより』等)に掲載されている図書館についてのさまざまな情報を読み、その図書館がどのような活動をしているのか、住民に対しどのようなサービスを提供しようとしているのかについて常に関心を払うことが重要です。
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。

授業科目	情報サービス特論						
担当教員	石井大輔 木内公一郎						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	4	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021250
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館に関する各科目で学んだ内容を発展的に学習し、理解を深めることを目的とする。情報サービスに関わる様々な事柄の中から興味を持った研究主題を見つけ、見つけた研究主題について先行研究を調査し、自分なりの考察を加え、研究成果について ICT を用いたプレゼンテーションを行う。図書館に関する科目の基礎的な知識とともに、問題発見力、調査力、自分の考えを的確に他者に伝えるための表現力を養成する。研究主題により 2 クラスに分け、2 名の教員により指導を行う。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報サービスに関わるさまざまな事柄から、興味を持った研究主題を見つける。 ・見つけた研究主題について、専攻研究を調査し、自分なりの考察を加えることができるようになる。 ・研究成果について、ICT を用いたプレゼンテーションができるようになる。
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション：本科目の進め方について、グループ分け</p> <p>第 2 回 情報サービスの現状と課題</p> <p>第 3 回 研究の計画（1）：研究主題の決定、先行研究の調査</p> <p>第 4 回 研究の計画（2）：仮設の提示</p> <p>第 5 回 着手報告</p> <p>第 6 回 研究の実行（1）：調べる</p> <p>第 7 回 研究の実行（2）：整理する</p> <p>第 8 回 研究の実行（3）：まとめる</p> <p>第 9 回 中間報告：点検評価</p> <p>第 10 回 研究の実行（4）：改善する</p> <p>第 11 回 研究の実行（5）：実行する</p> <p>第 12 回 最終報告（1）：前半グループ</p> <p>第 13 回 最終報告（2）：後半グループ</p> <p>第 14 回 研究の評価：振り返る</p> <p>第 15 回 情報サービスの課題と展望</p>
テキスト	なし
参考文献	授業で随時紹介する。
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・研究報告書（50%）、プレゼンテーション（50%）を課す。 ・上記に加え、授業への参加（質問、感想等）については適宜加点する。
自己学習に関する指針	図書館が展開する情報サービスについて日頃から興味を持っておくことが必要です。冊子体資料のみならず、インターネットなども活用して、日常的な情報収集を心がけましょう。
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。

授業科目	図書館実習						
担当教員	石井大輔 木内公一郎						
科目分類	資格・免許	授業時間	60	配当年次	3	配当期	通年
授業形態	実習	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021260
免許資格 関連事項							

授業の概要	<p>図書館に関する科目で得た知識・技術をもとにして、事前・事後学習の指導を受けつつ公立図書館業務を経験することを目的とする。実習先では、図書館における直接サービス（閲覧・貸出、レファレンス、児童サービス等）および間接サービス（資料整理・管理等）を総合的に実習する。受講者は、担当教員の指導の下、実習先の選定、依頼、実習、報告書の作成、成果発表を行う。司書資格取得見込みの者の中から、希望者のみが履修する。本科目は通年科目であり、事前・事後学習 20 時間（4～7 月、10・11 月）、実習 40 時間（8・9 月）で実施する。</p>
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・図書館における情報の収集、処理、提供に関する業務の実際を理解する。 ・上記図書館業務の実務能力を修得する。 ・現場における実習活動を通じて職業意識を高めるための体験をし、図書館専門職のあり方を考える。
授業計画	<p>第 1 回 オリエンテーション：実習の概要と予定 第 2 回 事前調査（1）：実習希望図書館の見学 第 3 回 事前調査（2）：実習希望図書館の調査研究① 第 4 回 事前調査（3）：実習希望図書館の調査研究② 第 5 回 調査報告 第 6 回 事前調査（4）：図書館サービスに関する文献調査 第 7 回 事前調査（5）：図書館サービスに関する文献紹介① 第 8 回 事前調査（6）：図書館サービスに関する文献紹介② 第 9 回 実習先の選定と決定（1）実習先の選定 第 10 回 実習先の選定と決定（2）実習先との打ち合わせ 第 11 回 実習先の選定と決定（3）実習計画書 第 12 回 直前オリエンテーション 第 13 回 受入図書館での実習（40 時間） 第 14 回 成果報告 第 15 回 事後指導、まとめ</p>
テキスト	なし
参考文献	授業内で随時紹介する。
評価方法	<p>公立図書館において、原則として 2 週間程度（40 時間）の実習を行い、かつ、大学での事前・事後の授業に出席し、所定の要件を満たした者に単位が与えられる。受講生から提出された事前調査票、実習日誌、実習報告書、および実習先から提出された実習評価により評価する。評価の内訳は、事前・事後学習課題（30%）、実習評価報告書（70%）となる。</p>
自己学習に関する指針	<p>実習先の図書館だけでなく、その図書館が所在する地域について知識を持つことが必要です。基本的な情報は自治体の広報誌や Web サイトを参照して学ぶようにしてください。</p>
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・履修者の選考を行う。履修希望者は、前年度 1 月に実施（予定）の事前説明会に必ず出席すること。 ・実習先は、原則として島根県内の公立図書館を予定するが、具体的な実習先については実習予定者の希望や諸条件を考慮して決定する。なお、受講生が実習受入先一覧にない図書館（例えば、自身の出身道府県の図書館）での実習を希望する場合、担当教員の指導のもとに、受講生本人が直接実習希望先と交渉し内諾を得ることが必要となる。

授業科目	情報資源概論						
担当教員	石井大輔						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021270
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館が扱う各種情報資源の歴史、出版文化と制度、図書館コレクションの構築、その他図書館業務に必要な情報資源の知識の基礎を理解することを目標とする。有形出版物としての印刷資料・非印刷資料、及び無形出版物としてのネットワーク情報資源からなる図書館情報資源について、類型と特質、コレクション構築（選択、収集、整理、保存、評価）、コレクション構築と図書館の自由、図書館業務に必要な情報資源に関する知識等の基本を解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・ 図書館におけるさまざまな情報資源の特徴を理解する。 ・ 図書館におけるコレクション構築のプロセスを理解する。 ・ 上記をふまえて、図書館における各種の条件（利用者ニーズ、地域課題、収集方針等）から適切な情報資源を選択できるようになる。
授業計画	<p>第1回 記録情報メディアの発達史</p> <p>第2回 印刷資料、非印刷資料の類型と特質</p> <p>第3回 図書館情報資源の種類と特質①（図書）</p> <p>第4回 図書館情報資源の種類と特質②（逐次刊行物）</p> <p>第5回 図書館情報資源の種類と特質③（ファイル資料、マイクロ資料）</p> <p>第6回 図書館情報資源の種類と特質④（視聴覚資料）</p> <p>第7回 図書館情報資源の種類と特質⑤（視覚障害者用資料）</p> <p>第8回 図書館情報資源の種類と特質⑥（電子資料、ネットワーク情報資源）</p> <p>第9回 図書館情報資源の種類と特質⑦（地域資料、政府刊行物等）</p> <p>第10回 コレクション形成の理論</p> <p>第11回 コレクション形成のプロセス①（計画・選択）</p> <p>第12回 コレクション形成のプロセス②（収集・整理・保存）</p> <p>第13回 コレクション形成のプロセス③（評価・再編）</p> <p>第14回 情報資源の生産と流通</p> <p>第15回 まとめと展望</p>
テキスト	平野英俊 編著『図書館情報資源概論』樹村房、2012年 2,000円+税 ※出版状況等により、改訂された場合には最新の版を用いる可能性がある。
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・ 志保田務、山本順一監修著『資料・メディア総論：図書館資料論・専門資料論・資料特論の統合化 第2版』学芸図書、2007年 2,200円+税 ・ 『図書館情報学用語辞典 第4版』丸善、2013年 3,800円+税
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ 複数回の課題・レポート（60%）、試験（40%）を行う。 ・ 上記に加え、授業への参加（質問、感想等）については適宜加点する。
自己学習に関する指針	日常的に図書館を訪れて、どのような情報資源が図書館に受け入れられているのかについて注意を払うことが必要です。
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。

授業科目	情報資源組織論						
担当教員	石井大輔						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M3021280
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	図書館における情報資源組織の意義および情報資源組織に用いる各種ツールの役割について理解することを目標とする。印刷資料・非印刷資料・電子資料とネットワーク情報資源からなる図書館情報資源の組織化の理論と技術について、書誌コントロール、書誌記述法、主題組織法（分類法、件名法）、メタデータ、各種 MARC、書誌ユーティリティ、書誌データの活用法等を解説する。
授業の到達目標	<ul style="list-style-type: none"> ・情報資源組織の役割を理解する。 ・情報資源組織に用いる各種ツールの役割について理解する。 ・他人に「情報資源組織はなぜ必要か」について、説明できるようになる。
授業計画	<p>第1回 情報資源組織の意義と理論</p> <p>第2回 書誌コントロールと標準化</p> <p>第3回 書誌記述法、主要な書誌記述規則</p> <p>第4回 日本目録規則 (NCR) ①: NCR 概説</p> <p>第5回 日本目録規則 (NCR) ②: NCR の運用</p> <p>第6回 主題分析の意義と考え方、主題分析と索引法 (主要な統制語彙)</p> <p>第7回 基本件名表目標 (BSH)</p> <p>第8回 主題分析と分類法、主要な分類法</p> <p>第9回 日本十進分類法 (NDC) ①: NDC 概説</p> <p>第10回 日本十進分類法 (NDC) ②: NDC の運用</p> <p>第11回 書誌情報の作成と流通 (MARC、書誌ユーティリティ)</p> <p>第12回 書誌情報の提供 (OPAC の管理と運用)</p> <p>第13回 ネットワーク情報資源の組織化とメタデータ</p> <p>第14回 多様な情報資源の組織化 (地域資料、行政資料等)</p> <p>第15回 非コントロール情報と人々の情報行動および図書館の対応</p>
テキスト	<p>1) 榎本裕希子、石井大輔、名城邦孝『情報資源組織論』学文社、2012年 1,800円+税</p> <p>2) 『日本十進分類法 (新訂10版)』日本図書館協会、2014年 6,500円+税</p> <p>※1) 2) は、ともに必ず購入すること。</p> <p>※2) は、演習科目 (情報資源組織演習 I) でも使用する。</p> <p>※出版状況等により、改訂された場合には最新の版を用いる可能性がある。</p>
参考文献	<ul style="list-style-type: none"> ・『日本目録規則 2018年版』日本図書館協会、2018年 ・『日本目録規則 1987年版改訂3版』日本図書館協会、2006年 ・『日本十進分類法 (新訂9版)』日本図書館協会、1995年 ・『基本件名標目表 (第4版)』日本図書館協会、1999年 <p>以上は、図書館には必ず常備されているはずなので、適宜実際に手にとって参照すること。</p>
評価方法	<ul style="list-style-type: none"> ・複数回の課題・レポート (60%)、試験 (40%) を行う。 ・上記に加え、授業への参加 (質問、感想等) については適宜加点する。
自己学習に関する指針	日頃、図書館を訪れて情報資源の組織化がどのように行われているのかに注目することが必要です。
履修上の指導・留意点	司書資格を取得するために必要な科目です。本科目は、演習科目 (情報資源組織演習 I・II) に対する講義科目となります。

授業科目	情報資源組織演習 I						
担当教員	原田由紀子						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	春学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3021290
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	<p>情報資源の組織化は、コレクションすることから利用者へ提供するまでの業務のもととなる。図書館で提供する情報資源は、印刷資料、非印刷資料、電子資料、ネットワーク情報源などがある。これらがどのように体系化されているかを知ることで、利用者を意識した配架や情報提供につながる。</p> <p>本演習では、NDC10 版を使った主題分析と分類作業によって理論と技術を具体的に演習する。また、科学絵本を用いた主題分析も試みる。</p>
授業の到達目標	<ol style="list-style-type: none"> 1. 情報資源の主題を読み取ることができること 2. 現場における組織化の持つ意義を考えること 3. 辞書を使いこなすようにNDC10 版を引くことができること
授業計画	<p>第1回 講義 NDC10 版の使い方：本表と関連索引</p> <p>第2回 講義・演習 主題分析について：書誌分類と書架分類</p> <p>第3回 講義・演習 各類の概要と構成：分類記号の付与</p> <p>第4回 講義・演習 主題分析と統制語彙の適用</p> <p>第5回 講義・演習 主題分析演習：科学絵本を使って</p> <p>第6回 講義・演習 補助表と分類規定</p> <p>第7回 講義・演習 分類作業の実際 ①NDC 1 類</p> <p>第8回 講義・演習 分類作業の実際 ②NDC 2 類</p> <p>第9回 講義・演習 分類作業の実際 ③NDC 7 類</p> <p>第10回 講義・演習 分類作業の実際 ④NDC 8・9 類</p> <p>第11回 講義・演習 分類作業の実際 ⑤NDC 3 類-1</p> <p>第12回 講義・演習 分類作業の実際 ⑤NDC 3 類-2</p> <p>第13回 講義・演習 分類作業の実際 ⑥NDC 4・5 類</p> <p>第14回 講義・演習 分類作業の実際 ⑦NDC 6・0 類</p> <p>第15回 講義 メタデータについて</p>
テキスト	もり きよし原編『日本十進分類法 新訂 10 版』日本図書館協会, 2014 年, 6500 円
参考文献	宮沢厚雄著『分類法キイノート』樹村房, 2015 年, 1500 円 その他必要に応じてプリントなどを配付
評価方法	<p>筆記試験 (60%), 演習課題等 (30%), 受講態度 (10%)</p> <p>演習課題については、科学絵本を用いた主題分析で、自分なりの根拠を示した分析ができたか、また分類記号を付与をする手順が理解できているか、を観点に数値化する。</p> <p>受講態度とは、課題提出状況および Can-do シート (習得度にかかる自己評価表に記した疑問事項に対する解決に取り組んだかが観点) を元に数値化する。</p>
自己学習に関する指針	<ul style="list-style-type: none"> ・日常生活の中にある様々な「分類」について関心を持ち、図書館や書店、小売店舗等のレイアウトに目を向けること。 ・授業で扱った情報資源や初めて知った言葉については、複数館の OPAC で比較したり、辞書で引いたり等、積極的に調べること。
履修上の指導・留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・テキストは授業開始時に箱から出して机の上に準備すること。 ・テキストを忘れた場合は欠席とする。 ・無記名の提出物については未提出とみなす。 ・欠席は原則事前連絡とする。

授業科目	情報資源組織演習Ⅱ						
担当教員	北井由香						
科目分類	資格・免許	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	演習	選択/必修	選択	単位数	1	授業コード	M3021300
免許資格 関連事項	○司書資格						

授業の概要	講義科目である「情報資源組織論」を踏まえ、情報資源の書誌的情報を記録する記述目録法について演習を行う。
授業の到達目標	・目録の意義・構成を理解した上で、情報資源から記述に必要な情報源を探し、目録規則に沿って図書 の目録作成ができるようになる
授業計画	第1回 講義 情報資源組織化の意義と目的 第2回 演習 目録規則に基づく目録作成について 第3回 演習 書誌データの作成（タイトル、責任表示） 第4回 演習 書誌データの作成（版表示、出版・頒布） 第5回 演習 書誌データの作成（形態） 第6回 講義 書誌階層と書誌単位 第7回 演習 書誌データの作成（シリーズ） 第8回 演習 書誌データの作成（注記、標準番号・入手条件） 第9回 演習 書誌データの作成（標目） 第10回 講義 英米目録規則について 第11回 演習 書誌データの作成（タイトル、責任表示、版表示、出版・頒布） 第12回 演習 書誌データの作成（形態、シリーズ） 第13回 講義 コンピュータ目録について 第14回 演習 書誌データの作成 第15回 演習 まとめ
テキスト	プリントを配布する
参考文献	・『日本目録規則 1987 年版改訂 3 版』日本図書館協会、2006 年 ・『英米目録規則第 2 版 日本語版』日本図書館協会、1995 年 ・榎本裕希子、石井大輔、名城邦孝『情報資源組織論』学文社、2012 年 ・『情報資源組織演習 新訂版』（JLA 図書館情報学テキストシリーズⅢ10）日本図書館協会、2016 年 ・『情報資源組織演習』（現代図書館情報学シリーズ 10）樹村房、2013 年
評価方法	課題提出（20%）、各時間に行う小テスト（20%）、試験（60%）を総合して評価する。
自己学習に関する指針	日頃から図書館を利用する中で、情報資源の目録がどのように整理されているのかを確認して、自分なりに考察すると良いでしょう。授業で習った内容が図書館の現場でどのように活用されているのかに注目してください。
履修上の指導・留意点	演習科目は、毎回の課題をクリアして実践を積み重ねていくことが必要です。生じた疑問は放置せず、必ず次の授業までには解決するように心がけてください。

授業科目	学校図書館論						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	春学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020020
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>教師が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館の教育的意義や経営など全般的事項について理解することを目標とする。学校図書館の理念と教育的意義、学校図書館の発展と課題、教育行政と学校図書館、学校図書館の経営（人、施設、資料、予算、評価等）、司書教諭の役割と校内の協力体制と研修、学校図書館メディアの選択と管理、提供、学校図書館活動、図書館の相互協力とネットワーク等について解説する。</p>
授業の到達目標	<p>学校教育と学校図書館の関係、組織、サービス、人的資源などを広範囲にわたる学校図書館の課題を理解することができるようになる。(知識)</p> <p>学校教育における学校図書館のあるべき姿を理解し、司書教諭として学校図書館運営の中核を担う意識が醸成されるようになる。(態度)</p>
授業計画	<p>第1回 学校教育と学校図書館：学校図書館の目的と役割について説明する。</p> <p>第2回 学校図書館の歴史1：学校図書館の概念と機能形成のはじまりを説明する。</p> <p>第3回 学校図書館の歴史2：昭和前期から戦後の法制化までを説明する。</p> <p>第4回 教育行政と学校図書館経営：教育行政と学校図書館との関係について説明する。</p> <p>第5回 学校図書館職員と経営組織：司書教諭と学校司書の役割と組織について説明する。</p> <p>第6回 学校図書館メディア：メディアの類別と収集、組織化について説明する。</p> <p>第7回 学校図書館の設備と会計：学校図書館基準を基に設備と会計について説明する。</p> <p>第8回 学校図書館の教育活動：学校図書館が行うべき教育活動について説明する。</p> <p>第9回 学校図書館経営計画：経営計画の立案について説明する。</p> <p>第10回 学校図書館活動の実際1：学校図書館活動を行う際の留意点と意義を説明する。</p> <p>第11回 学校図書館活動の実際2：資料提供活動の目的と方法を説明する。</p> <p>第12回 学校図書館活動の実際3：情報提供活動と広報活動について説明する。</p> <p>第13回 学校図書館活動の実際4：行事・集会活動とネットワークについて説明する。</p> <p>第14回 学校図書館の評価と改善：評価の必要性和、評価の方法について説明する。</p> <p>第15回 まとめ：学校経営における司書教諭の役割と職責を説明する。</p>
テキスト	司書教諭・学校司書のための学校図書館必携 理論と実践 改訂版（全国学校図書館協議会監修 悠光堂 2017）
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	授業中の課題（40%）、レポート（60%）
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。

授業科目	学校図書館メディアの構成						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	2	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020040
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学校図書館メディアの構成に関する理解及び実務能力の育成を目標とする。学校図書館メディアの種類と特性、学校図書館メディアの選択と構成、学校図書館メディアの組織化（分類の意義と機能、日本十進分類法等の解説、件名標目表の解説、目録の意義と機能、日本目録規則の解説、目録の機械化）など、多様な学習環境と学校図書館メディアの配置等について解説するとともに、主要単元毎にケースメソッドを導入し、知識の応用と実践能力の育成を図る。</p>
授業の到達目標	<p>学校図書館メディアの全体像を理解するとともに、メディアの収集から利用までの実務を理解することができるようになる。(知識) さらに学校図書館メディアに関する知識と技術が身につく、学校図書館の現場で実践できるようになる。(技能)</p>
授業計画	<p>第1回 学校図書館メディアの意義：学校教育におけるメディアのはたらきを解説する。 第2回 メディア構成の要点：メディアを構築していくプロセスについて解説する。 第3回 メディア構成の知識と技術：司書教諭に必要とされる役割と知識について解説する。 第4回 学校図書館メディアの種類：印刷、視聴覚、電子資料などの各メディアについて解説する。 第5回 印刷・視聴覚メディアの選択と収集：選書のための方法と情報源を解説し、ケースメソッドによる演習を行う。 第6回 電子メディア利用の環境整備：コンピュータシステム、ネットワーク環境について解説する。 第7回 コレクション形成の意義：学校図書館コレクションの意義と形成のあり方について解説する。 第8回 コレクション形成の実際：コレクション形成の実務とケースメソッドによる演習を行う。 第9回 コレクション評価の手法：評価の基準とその方法について解説する。 第10回 メディアへの物理的アクセス支援：印刷、ファイル資料、電子メディアの取り扱いについて学ぶ。 第11回 メディアへの知的アクセス支援：メディアへアクセスする方法としてコンピュータ目録を中心に解説する。 第12回 分類法を用いたメディアの組織化：主題組織法、特に日本十進分類法を中心に解説する。 第13回 目録法を用いたメディアの組織化：日本目録規則、メタデータについて解説する。 第14回 件名法を用いたメディアの組織化：基本件名標目法を中心に解説する。 第15回 学校図書館メディアの構成における課題：学校教育への貢献と司書教諭、学校司書の協働について解説し、まとめとしてケースメソッドによる演習を行う。</p>
テキスト	小田光宏『学校図書館メディアの構成』樹村房, 2016(司書教諭テキストシリーズII 2)
参考文献	授業中に指示する。
評価方法	筆記試験(60%)、授業中の課題および演習(40%)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。

授業科目	学習指導と学校図書館						
担当教員	木内公一郎						
科目分類	専門発展	授業時間	30	配当年次	3	配当期	秋学期
授業形態	講義	選択/必修	選択	単位数	2	授業コード	M1020030
免許資格 関連事項	○司書教諭免許状						

授業の概要	<p>受講者が学校図書館活用教育を展開するために必要な知識・技能として、学習指導における学校図書館メディア活用について理解することを目標とする。教育課程と学校図書館、発達段階に応じた学校図書館メディアの選択、児童生徒の学校図書館メディア活用能力の育成、学習過程における学校図書館メディア活用の実際、学習指導における学校図書館の活用、情報サービス（レファレンスサービス等）など、教員への支援と働きかけ等について解説する。</p>
授業の到達目標	<p>受講生は以下の項目ができるようになる。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. 学校図書館に求められている読書センター、学習・情報センターとしての機能のうち、学習・情報センターの機能についての基本的理解。(知識) 2. 学校図書館が児童生徒の情報活用能力を育む役割を持つことを踏まえ、情報活用能力の育成について理論として理解する。(知識) 3. 情報活用能力の育成の内容と方法を理解し、実践できるようになる。(技能) 4. 情報教育を担う司書教諭の役割を自覚できるようになる。(態度)
授業計画	<p>第1回 教育課程と学校図書館：学校図書館と学習指導の展開の関わりを説明する。 第2回 学校図書館メディアの特徴：発達段階を踏まえ、どのような特徴があるかを説明する。 第3回 学校図書館メディア活用能力育成(1)：メディア活用能力の意義と目的について説明する。第 4回 学校図書館メディア活用能力育成(2)：児童生徒のメディア活用能力育成の内容を説明する。 第5回 学校図書館メディア活用能力育成(3)：メディア活用能力育成の指導方法を説明する。 第6回 学校図書館メディア活用能力育成(4)：メディア活用能力育成の計画と作成手順を説明する。 第7回 学校図書館メディア活用能力育成(5)：メディア活用能力育成教育の評価と改善を説明する。 第8回 学校図書館メディア活用の実際：学習過程と図書館メディアの関わりを説明する。 第9回 学習指導における学校図書館の活用(1)：科における学校図書館の活用を説明する。 第10回 学習指導における学校図書館の活用(2)：総合的学習の時間における学校図書館の活用を説明する。 第11回 学校図書館における情報サービス(1)：情報サービスの意義と情報サービスの実際 第12回 学校図書館における情報サービス(2)：児童生徒に対する情報サービスについて説明する。 第13回 学校図書館における情報サービス(3)：教職員に対する情報サービスと教育活動への支援について説明する。 第14回 教師への支援と働きかけ：学校図書館と教職員との関わり方を説明する。 第15回 まとめ：いままでの授業を踏まえ、メディア教育を進める上での司書教諭のあり方を議論する。</p>
テキスト	齋藤泰則『学習指導と学校図書館』樹村房, 2016(司書教諭テキストシリーズII 3)
参考文献	授業中に指示する
評価方法	レポート(70%) 授業中の演習課題(30%)
自己学習に関する指針	・授業中に紹介した参考文献を、積極的に読むこと。・予習としてテキストの該当箇所を読んでおくこと。
履修上の指導・留意点	質問はいつでも受け付けます。E-mail, オフィスアワーを十分に活用してください。またリアクションペーパーを毎回配布しますので、質問や意見を積極的に書いてください。